

元総社蒼海遺跡群(23)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

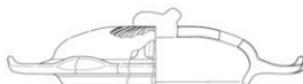
2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群(23)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



青磁　酒会蓋盞（13世紀～14世紀）
24 地点W-5号溝出土

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる廻橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（23）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関する遺構の検出はかねませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの堅穴式住居跡を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
團長 依田 三次郎

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(23)発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市元総社町 1833 番 1 号ほか 2 箕
群馬県前橋市元総社町 1922 番ほか 2 箕

遺　　跡　　コ　　一　　ド　　20 A 130-23

発　　掘　　調　　査　　期　　間　　平成 20 年 11 月 4 日～平成 21 年 1 月 4 日

整　　理　　・　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　　平成 21 年 1 月 13 日～平成 21 年 3 月 12 日

発　　掘　　・　整　　理　　担　　当　　者　　日沖剛史・水谷貴之・向出博之（有限会社毛野考古学研究所）

4. 本遺跡に関わる遺構測量に関しては、高木義明・黒岩拓也（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
5. 本書の編集は日沖・和久拓照（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆は I を山下誠信（前橋市教育委員会）、他を日沖が担当した。
6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】石倉稔夫・一場友香里・神山早苗・金子稚加・川嶋祥子・小松川早苗・佐藤　修・佐藤安男
椎原京子・高野　繁・田辺　昇・角田宇三郎・庭山悟正・橋元裕児・船戸　登・牧野完一
森山恵子・山崎一男・綿貫瑛一

【整理作業】一場友香里・桜沢美枝・武士久美子・伴場りく

7. 発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
8. 以下の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
秋本太郎・飯森康弘・石守　晃・上野尚美・大西雅広・小川卓也・小野正敏・折館伸二・黒澤照弘
坂口　一・佐々木清貴・清水　豊・早田　勉・都木真澄・高橋　敦・高林真人・中島直樹・中村岳彦
藤原良祐・松元美由紀・三浦京子・山口逸弘・元総社町自治会・株式会社測研・株式会社歴史の杜
山下工業株式会社・カネコハウス有限会社・株式会社スカイサーブエイ

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺、カマド等を 1/30 縮尺で表現することを基本として掲載し、挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1 ~ 1 / 6 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とはほぼ同縮尺である。

3. 遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。



灰釉



煤

4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H : 古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡　W : 溝跡　D : 土坑　P : ピット　SX : 性格不明遺構

5. 遺構及び土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財團法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

6. 船来陶磁器の分類については『元総社蒼海遺跡群 (21)』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団を参照されたし。

目 次

口絵写真

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 調査に至る経緯.....	1	6 遺構外出土遺物.....	21
II 遺跡の位置と環境.....	2	VI 24地点.....	50
1 地理的環境.....	2	1 24地点概要.....	50
2 歴史的環境.....	3	2 性格不明遺構.....	53
III 調査方針と経過.....	9	3 土坑.....	53
1 調査方針.....	9	4 溝.....	56
2 調査経過.....	9	5 ピット.....	58
IV 標準堆積土層.....	10	6 遺構外出土遺物.....	60
V 23地点.....	11	VII 25・26地点.....	95
1 23地点概要.....	11	1 25・26地点概要.....	95
2 壊穴住居跡.....	11	2 トレンチ.....	96
3 土坑.....	19		
4 溝.....	19	写真図版	
5 ピット.....	21	抄録	
		奥付	

図版目次

Fig. 1 調査区域圖.....	1	Fig. 38 23地点出土遺物⑦.....	43
Fig. 2 元郷社蒼海遺跡群位置圖.....	2	Fig. 39 23地点出土遺物⑧.....	44
Fig. 3 遺跡分布圖.....	3	Fig. 40 24地点地盤図.....	51
Fig. 4 蒼海城柵囲り図.....	6	Fig. 41 S-X-1 土坑.....	60
Fig. 5 蒼海城周辺の中世城壁分布図.....	8	Fig. 42 D-2号土坑.....	61
Fig. 6 標準堆積土層.....	10	Fig. 43 D-7号土坑.....	62
Fig. 7 23地点柱体図.....	13	Fig. 44 D-8号土坑.....	63
Fig. 8 H-1号住居跡.....	22	Fig. 45 D-16・17・20・24号土坑.....	63
Fig. 9 H-2号住居跡.....	23	Fig. 46 D-16・17・20号土坑.....	64
Fig. 10 H-3号住居跡.....	24	Fig. 47 D-26号土坑.....	64
Fig. 11 H-4・7号住居跡.....	24	Fig. 48 W-1号溝.....	65
Fig. 12 H-5・6号住居跡.....	25	Fig. 49 W-1号溝（土層説明）.....	66
Fig. 13 H-6号住居跡カマド.....	26	Fig. 50 W-2号溝.....	67
Fig. 14 H-8号住居跡.....	26	Fig. 51 W-4号溝.....	68
Fig. 15 H-8号住居跡鉢穴.....	27	Fig. 52 W-5号溝①.....	69
Fig. 16 H-9号住居跡.....	27	Fig. 53 W-5号溝②.....	70
Fig. 17 H-10号住居跡.....	28	Fig. 54 W-5号溝③.....	71
Fig. 18 H-11号住居跡.....	29	Fig. 55 W-5号溝④.....	72
Fig. 19 H-12・14号住居跡.....	29	Fig. 56 W-6号溝.....	73
Fig. 20 H-12号住居跡カマド.....	30	Fig. 57 W-6号溝（土層説明）.....	74
Fig. 21 H-13号住居跡.....	30	Fig. 58 W-7号溝.....	74
Fig. 22 H-15号住居跡.....	30	Fig. 59 24地点ピット配置図①.....	75
Fig. 23 H-16号住居跡.....	31	Fig. 60 24地点ピット配置図②.....	76
Fig. 24 H-17号住居跡.....	32	Fig. 61 24地点ピット配置図③.....	77
Fig. 25 H-18号住居跡.....	32	Fig. 62 24地点出土遺物①.....	78
Fig. 26 H-19号住居跡.....	32	Fig. 63 24地点出土遺物②.....	79
Fig. 27 W-1号溝.....	33	Fig. 64 24地点出土遺物③.....	80
Fig. 28 W-1号溝（土層説明）.....	34	Fig. 65 24地点出土遺物④.....	81
Fig. 29 W-2号溝.....	35	Fig. 66 24地点出土遺物⑤.....	82
Fig. 30 W-3号溝.....	36	Fig. 67 24地点出土遺物⑥.....	83
Fig. 31 W-4号溝.....	36	Fig. 68 24地点出土遺物⑦.....	84
Fig. 32 23地点出土遺物①.....	37	Fig. 69 24地点出土遺物⑧.....	85
Fig. 33 23地点出土遺物②.....	38	Fig. 70 24地点出土遺物⑨.....	86
Fig. 34 23地点出土遺物③.....	39	Fig. 71 現地地形図と縄張り図における調査地点.....	96
Fig. 35 23地点出土遺物④.....	40	Fig. 72 25・26地点全體図、1号トレンチ断面図.....	97
Fig. 36 23地点出土遺物⑤.....	41	Fig. 73 2号トレンチ断面図.....	98
Fig. 37 23地点出土遺物⑥.....	42	Fig. 74 25・26地点出土遺物.....	98

表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	5	Tab. 13	24地点ピット一覧表②	59
Tab. 2	23地点土坑一覧表	19	Tab. 14	24地点ピット一覧表③	60
Tab. 3	23地点ピット一覧表	21	Tab. 15	24地点出土遺物観察表①	87
Tab. 4	23地点出土遺物観察表①	45	Tab. 16	24地点出土遺物観察表②	88
Tab. 5	23地点出土遺物観察表②	46	Tab. 17	24地点出土遺物観察表③	89
Tab. 6	23地点出土遺物観察表③	47	Tab. 18	24地点出土遺物観察表④	90
Tab. 7	23地点出土遺物観察表④	48	Tab. 19	24地点出土遺物観察表⑤	91
Tab. 8	23地点出土遺物観察表⑤	49	Tab. 20	24地点出土遺物観察表⑥	92
Tab. 9	23地点出土遺物観察表⑥	50	Tab. 21	24地点出土遺物観察表⑦	93
Tab. 10	24地点土坑一覧表①	55	Tab. 22	24地点出土遺物観察表⑧	94
Tab. 11	24地点土坑一覧表②	56	Tab. 23	24地点出土遺物観察表⑨	95
Tab. 12	24地点ピット一覧表①	58	Tab. 24	25・26地点出土遺物観察表	98

写真図版目次

P.L. 1 (23 地点)	23 地点出土遺物③		W-6 号溝工具確認状態	
遺跡遠景	P.L. 9 (23 地点)		W-6 号溝土層断面	
遺跡全景	23 地点出土遺物④		W-6 号溝土層断面	
P.L. 2 (23 地点)	P.L. 10 (23 地点)		D-7 号土坑全景	
H-1 号住居跡全景	23 地点出土遺物⑤		D-8 号土坑全景	
H-1 号住居跡新・旧カマド全景	P.L. 11 (23 地点)		D-8 号土坑下位土層断面	
H-2 号住居跡全景	23 地点出土遺物⑥		P.L. 18 (24 地点)	
H-2 号住居跡カマド全景	P.L. 12 (24 地点)		24 地点出土遺物①	
H-3 号住居跡全景	遺跡遠景		P.L. 19 (24 地点)	
H-5・6 号住居跡全景	遺跡全景		24 地点出土遺物②	
H-5 号住居跡カマド全景	P.L. 13 (24 地点)		P.L. 20 (24 地点)	
H-6 号住居跡カマド全景	遺跡全景		24 地点出土遺物③	
P.L. 3 (22 地点)	SX-1 号性格不明遺跡全景		P.L. 21 (24 地点)	
H-7 号住居跡全景	SX-1 号性格不明遺跡緑釉陶器		24 地点出土遺物④	
H-7 号住居跡収出土状態近景	出土状態近景		P.L. 22 (24 地点)	
H-8 号住居跡全景	W-4・8 号溝全景		24 地点出土遺物⑤	
H-8 号住居跡遺物出土状態近景	W-4 号溝遺物出土状態		P.L. 23 (24 地点)	
H-9 号住居跡全景	P.L. 14 (24 地点)		24 地点出土遺物⑥	
H-13 号住居跡全景	W-1・2 号土坑層断面		P.L. 24 (24 地点)	
H-10 号住居跡全景	W-1 号溝・D-2 号土坑層断面		24 地点出土遺物⑦	
H-10 号住居跡カマド全景	W-1 号溝上層断面		P.L. 25 (24 地点)	
P.L. 4 (22 地点)	W-1 号溝層断面		24 地点出土遺物⑧	
H-12 号住居跡全景	W-5 号溝全景		P.L. 26 (25・26 地点)	
H-12 号住居跡カマド全景	W-5 号溝状態		遺跡遠景	
H-14 号住居跡全景	W-5 号溝状態		1号トレンチ (W-1 号溝) 全景	
H-17 号住居跡全景	W-5 号溝層断面		1号トレンチ (W-1 号溝) 土層断面	
H-15 号住居跡全景	W-5 号溝遺物出土状態		1号トレンチ 遺物 (木箱) 出土状態	
H-15 号住居跡カマド全景	W-5 号溝遺物出土状態		1号トレンチ 遺物 (木材) 出土状態近景	
H-16 号住居跡全景	W-5 号溝遺物出土状態		P.L. 27 (25・26 地点)	
H-16 号住居跡カマド全景	W-5 号溝遺物出土状態		1号トレンチ 遺物 (木材) 出土状態	
P.L. 5 (23 地点)	W-5 号溝遺物出土状態		1号トレンチ 遺物 (木材) 出土状態近景	
H-18 号住居跡全景	W-5 号溝上層 (焼化)		1号トレンチ (W-1 号溝) 全景	
H-19 号住居跡全景	出土状態近景		1号トレンチ (W-1 号溝) 土層断面	
W-1 号溝土層断面	P.L. 16 (24 地点)		調査風景	
W-1 号溝遺物出土状態	W-5 号溝古都茶壺出土状態近景		1号トレンチ (W-1 号溝) 出土遺物	
W-2 号溝土層断面	W-5 号溝白磁出土状態近景			
W-2 号溝全景	W-5 号溝青磁出土状態近景			
W-2 号溝出土状態	W-5 号溝白磁出土状態近景			
P.L. 6 (23 地点)	W-5 号溝標本鉢出土状態近景			
23 地点出土遺物①	W-5 号溝・D-7 号土坑層断面			
P.L. 7 (23 地点)	W-5 号溝・D-8 号土坑層断面			
23 地点出土遺物②	W-5 号溝・D-26 号土坑層断面			
P.L. 8 (23 地点)	P.L. 17 (24 地点)			
	W-6 号溝全景			

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年9月5日付けで、前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受けて、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成20年10月27日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した、調査団は民間調査機関である、有限会社毛野考古学研究所取締役 長井正欣と11月4日付けで業務委託契約を締結し、11月4日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称は元総社蒼海遺跡群（23）とした。遺跡コードは20 A 130-23とし、20…年度、A 130…元総社蒼海遺跡群、23は個別遺跡番号とした。

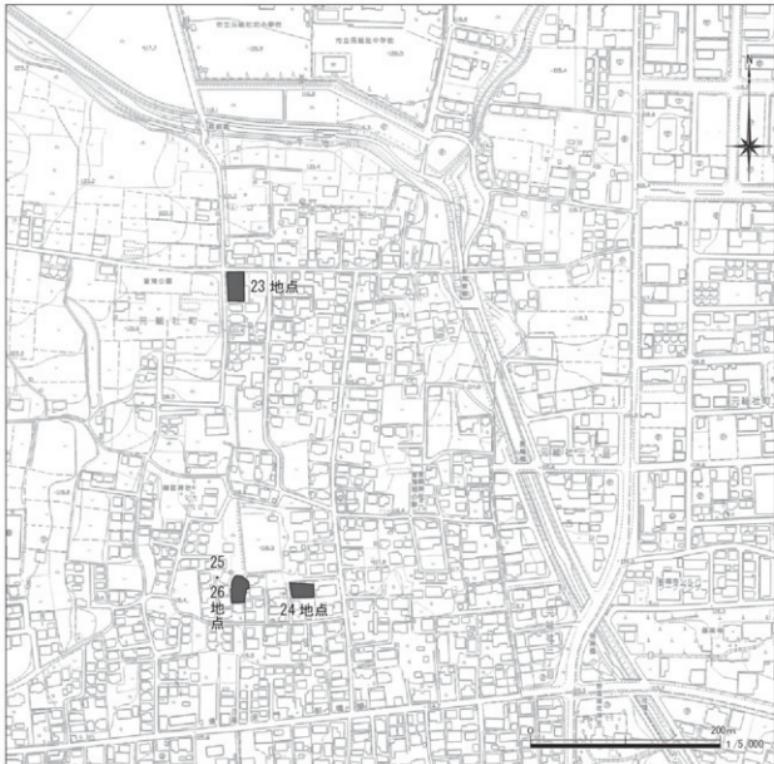


Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図 52-1・52-3』1/2,500 を50%縮小）

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境 (Fig. 2)

元総社蒼海遺跡群が立地する前橋市は、群馬県の中央からやや南東寄りに位置し、北の渋川市・富士見村、東の桐生市・伊勢崎市、西の高崎市・吉岡町・棟東村、南の玉村町と境を接し、周囲を見わたすと北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に棟名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。市域の西側には、棟名山麓を源とする幾つもの小河川を集め利根川が南流しており、同河川を中心として数々の文化が栄えている。利根川の現流路は15世紀後半頃に定まったものとされており、それ以前は、前橋市大手町の北側で現流路から逸れて、南東流していたことが確認されている。なお、旧利根川の流路は、現在の広瀬川に一致するものとされている。

元総社蒼海遺跡群は、前橋市の西端に位置し、遺跡の西2.4kmには群馬県庁、南南東1.9kmには関越自動車道前橋インターが立地している。また、地形的な要因を加味すると本遺跡周辺は、棟名山麓より広がる相馬ヶ原扇状地の末端部にあたる。なお、相馬ヶ原扇状地は、棟名山の陣場岩屑などに起因するものとされており、その範囲は棟名山南東麓の大部分にわたる。陣場岩屑などれば、As-Yp（浅間板鼻黄色軽石：13,000～14,000年前降下；yb p）とAs-Sr（浅間白系軽石：18,000年前降下）の間に起きていることが発掘調査等で解明されていることから、相馬ヶ原扇状地の形成も両軽石降下間に言えよう。扇状地の形成は河川の流路にも影響を及ぼし、扇状地形が開ける方向へ河川も流下する状況が窺える。本遺跡周辺にも棟名山麓より南東流する染谷川・牛池川・八幡川等の河川が見られ、遺跡の占地に影響を与えていた。元総社蒼海遺跡群は、染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地しており、同じ台地上には代表的な遺跡として上野国府・国分僧寺・国分尼寺・蒼海城等の痕跡が捉えられている。

現在、元総社蒼海遺跡の周辺は上野国府や蒼海城の地割りが残っており、特に蒼海城に関しては、土塁や埋没した堀の痕跡を部分的に見ることができる。

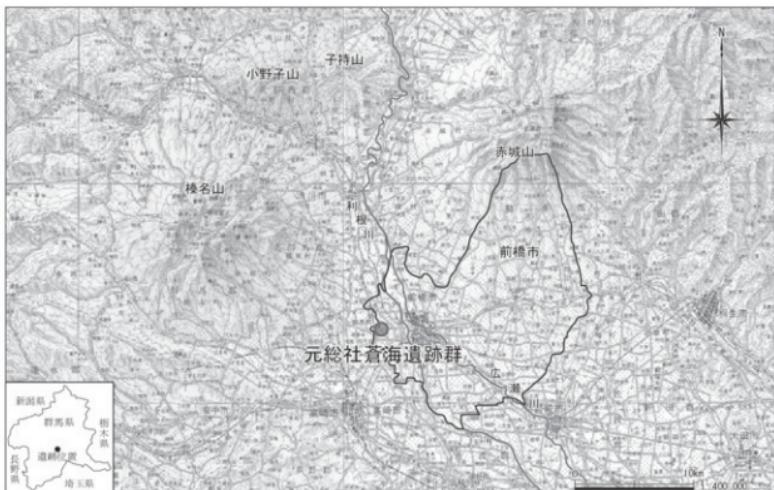


Fig. 2 元総社蒼海遺跡群位置図 (国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小)

2 歴史的環境 (Fig. 3・4・5, Tab. 1)

本遺跡が立地する元総社周辺は、古くから上野国府・国分僧寺・国分尼寺・山王庵寺等が建立され、群馬県内において中枢をなす地域として広く知られている。また、中世になると上野国府の地割りを利用して造られたとされる蒼海城の存在も周知であろう。このような状況から、本遺跡周辺は奈良・平安時代及び中世の遺跡等が目立つ地域となっているが、周辺遺跡を見わたすと、人々が残した痕跡が縄文時代より連續と続いている状況を窺うことができる。ここでは、各時代ごとの遺跡の分布状況について概観してみたいと思う。

縄文時代の遺跡は、牛池川と染谷川に挟まれた微高地に集中する傾向にあり、前期後半及び中期後半の集落が近年の開発と共に確認されつつある。同台地上では元総社小見遺跡【35】で諸磯b式期・加曾利E3式期の住居跡が検出されているのを始め、元総社蒼海遺跡群【13】【28】で諸磯c式期の住居跡が確認されており、床面から板状土偶の出土も認められている。このように元総社周辺の遺跡からは、前期後半・中期後半における集落・遺物の確認が多いように思われるが、近年調査が行われた元総社北川遺跡【25】で、A s-C痕土層下の河道から晩期の注口土器が出土し、元総社蒼海遺跡群【9】【38】では該期の堅穴住居跡も検出されている。なお、元総社周辺において草創期～前期前半の集落等は確認されていない。これは、浅間總社輕石（A s-S j : 11,000年前）降下以後に本地域の地形を改变させた度重なる洪水（總社砂層）によるものと推測されよう。

弥生時代の遺跡数は極めて少ない状況にあり、確認された遺構のほとんどは後期の樽式期にあたるものである。該期の住居跡は、桜ヶ丘遺跡【2】・下東西遺跡【4】・上野国分僧寺・尼寺中間地城【27】・日高遺跡【60】で確認されている。このうち、日高遺跡では浅間C軽石（A s-C : 3世紀後半～4世紀初頭）下の水田跡が検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田として捉えられている。弥生時代後期以外確認は先述したとおり希少で、遺構に伴わないものの元総社北川遺跡【25】で竜見町式の壺が出土している。

古墳時代になると遺跡数は増大の傾向をたどる。利根川右岸には遠見山古墳【11】を始めとして、壬山古墳【32】・稲荷山古墳【23】・總社二子山古墳【6】・愛宕山古墳【10】・宝塔山古墳【13】・蛇穴山古墳【12】が築造され、このうち稲荷山古墳を除く古墳は總社古墳群に属するものである。なお、宝塔山古墳の石棺と蛇穴山古墳の石室に見られる石造技術は、約900 m南西に建立された山王庵寺【18】の石造物と同系統の技術であることから、これらの古墳は仏教色の強いものとされている。集落は縄文時代と同様で、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に多く分布しているが、前期～中期の住居跡は散見されるほどで、後期からの集落増加が目立つ地域と言えよう。集落に伴う畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、總社甲稻荷塚大道西IV遺跡【30】・總社閑泉明神北遺跡【38】・元総社西川遺跡【33】で畠跡・元総社北川遺跡【25】・總社閑泉明神北遺跡・總社閑泉明神北遺跡V【38】・元総社明神遺跡I～III【50】・元総社寺田遺跡I～III【51】で水田跡が確認されている。

奈良・平安時代の元総社は、上野国府・国分僧寺【61】・国分尼寺【62】が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと変化を遂げていく。現在、上野国府の範囲・建物については不明瞭な部分が多いものの、元総社蒼海遺跡群【7】(9)【10】【38】・閑泉橋遺跡【39】で東西方向、元総社明神遺跡【50】で南北方向の大構が確認されており、国府域における北及び東外郭線が推定されることとなった。国府域推定域内には、元総社宅地遺跡【41】・元総社寺田遺跡【51】・元総社小学校校庭遺跡【53】など国府関連の様相を示す遺跡が確認されており、元総社宅地遺跡・元総社小学校校庭遺跡では掘立柱建物跡、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」などが書かれた墨書き土器や人形の出土が確認されている。なお、本遺跡である元総社蒼海遺跡群【23】【1】も国府域推定範囲内に位置し、南北方向へ直線的に延びる平安時代の大構が確認されており、国府との関連性が指摘されている。国分僧寺・国分尼寺は必然的に上野国府周辺に置かれており、国分僧寺については昭和55年より本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・堀などが捉えられている。国分尼寺に関しては、昭和44・45年にトレント調査が行われたことにより伽藍配置の推測が可能となり、この結果を基に前橋市埋蔵文化財発掘調査團

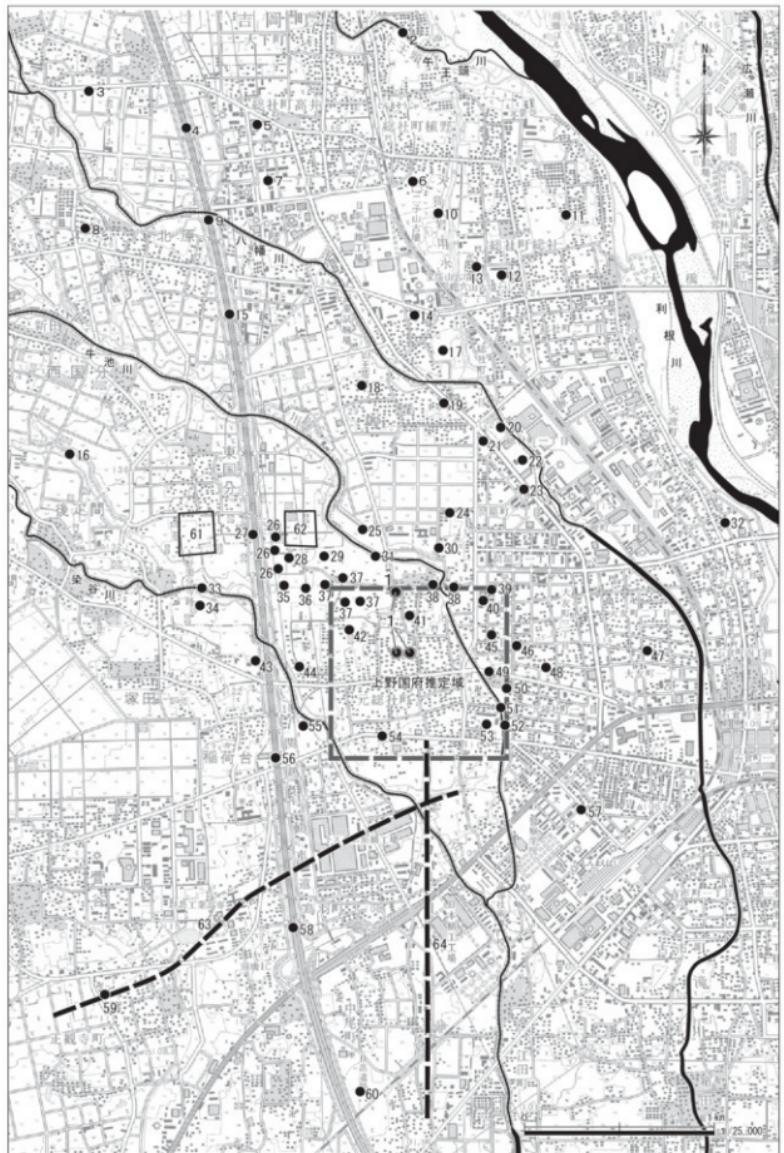


Fig. 3 遺跡分布図 (国土地理院発行『前橋』1/25,000)

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		調査	弥生	古墳	奈良・平安	中世			調査	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社蓄南遺跡群 (23)			●	●	●		31	元総社小見内Ⅳ遺跡		●	●	●	●
2	桜ヶ丘遺跡		●					32	元総社蓄海遺跡群 (12)		●	●	●	●
	總社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡			●				33	王山古墳		●			
3	清里南部遺跡群・Ⅲ	●		●	●	●		34	元総社西川遺跡		●	●	●	●
4	下東西遺跡	●	●	●	●	●		35	元総社小見遺跡		●			
5	中島遺跡			●	●			36	元総社小見田遺跡		●	●	●	●
6	總社・子山古墳			●				37	元総社草作Ⅳ遺跡		●	●	●	●
7	楠木遺跡・Ⅱ遺跡			●	●			38	元総社小見内IV遺跡		●	●	●	●
8	熊野谷遺跡	●		●	●	●		39	元総社小見内IX・X遺跡		●	●	●	●
	熊野谷II・Ⅲ遺跡			●	●	●		40	元総社小見内IX・X遺跡		●	●	●	●
9	北原遺跡	●		●	●			41	元総社佐野地遺跡I～23		●	●	●	●
10	愛宕山古墳		●	●	●			42	星作遺跡		●	●	●	●
11	達見山古墳		●	●	●			43	塙田村東遺跡		●	●	●	●
12	蛇穴山古墳		●	●	●			44	元総社蓄海遺跡群 (8)		●			
13	宝塔山古墳		●					45	星牧遺跡・Ⅱ遺跡		●	●	●	●
14	村東遺跡			●	●	●		46	堀越II遺跡		●	●	●	●
15	国分殿遺跡		●	●	●	●		47	大友宅地部遺跡		●	●	●	●
	国分殿II遺跡		●	●	●	●		48	堀越遺跡		●	●	●	●
16	後定間遺跡I～III		●	●	●	●		49	大友屋敷II・Ⅲ遺跡		●	●	●	●
17	大屋敷遺跡I～VI	●	●	●	●	●		50	元総社明神II遺跡I～7		●	●	●	●
18	山王殿遺跡		●	●	●			51	元総社寺田遺跡I～III		●	●	●	●
19	昌楽寺向山遺跡・Ⅱ遺跡			●				52	寺田遺跡		●	●	●	●
20	産業道向山東遺跡	●		●				53	元総社小学校校庭遺跡		●	●	●	●
21	産業道向山西遺跡	●		●				54	天神遺跡・II遺跡		●	●	●	●
22	稻荷保田東遺跡		●	●	●			55	弘勲遺跡・II遺跡		●	●	●	●
23	稲荷山古墳		●	●	●			56	鳥羽遺跡		●	●	●	●
24	總社甲賀坂大道西遺跡		●	●	●	●		57	元総社福葉遺跡		●	●	●	●
	總社甲賀坂大道西II遺跡		●	●	●	●		58	中尾遺跡		●	●	●	●
25	總社閑泉明神北IV遺跡・ 元総社牛池川遺跡・ 元総社小見内V遺跡	●	●	●	●	●		59	正親寺遺跡I～IV		●	●	●	●
26	元総社小見II遺跡	●	●	●	●	●		60	日高遺跡		●	●	●	●
	元総社小見IV・V遺跡		●	●	●	●		61	上野国分寺跡		●	●	●	●
	元総社小見VI・VII遺跡		●	●	●	●		62	上野国分寺跡		●	●	●	●
27	上野国分僧寺・尼寺中間 地域	●	●	●	●	●		63	東山道 (推定)		●	●	●	●
28	元総社蓄南遺跡群 (13)	●	●	●	●	●		64	日高道 (推定)		●	●	●	●
29	元総社小見内VI遺跡	●	●	●	●	●								
	元総社蓄南遺跡群 (1) (5)		●	●	●	●								
30	總社甲賀坂大道西III遺 跡		●	●	●									
	總社閑泉明神北III遺 跡		●	●	●									
	總社甲賀坂大道西IV遺 跡			●										

* 本表の遺跡番号は本文・Fig. 3 の「遺跡分布図」の番号と一致している。

が、平成 12 年に寺域確認調査を行っている。この調査の結果、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構を捉えるに至っている。なお、上野国府・国分僧寺・国分尼寺に連関する遺構も周辺で確認されている。上野国分僧寺・尼寺中間地域 [27] で、大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されているのを始めとして、鳥羽遺跡 [56] で神社遺構、中尾遺跡 [58] で工房跡が見られ、周辺地域における調査の重要性を再認識させられるものと言えよう。また、東山道 (国府ルート) [63]・日高道 [64] の存在も明らかになりつつあり、当時の交通事情や流通を知る貴重な手がかりになるものと考えられる。

一方、公的な建物以外である一般的な集落を概観すると、やはり牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地してくるが、国府推定域の中心部における分布は疎くなっている。これは、当然ながら国府城と居住域の区分けがな

されていたことを示すものであろう。このような衛星的な集落は古墳時代の集落分布と比べるとさらに多く、確認された集落のほとんどで、8～11世紀代の堅穴住居跡が所狭しと重複する状況を顕著に見ることができる。無数に分布する集落遺跡に対し、本遺跡周辺の生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡【25】・元総社甲種荷塚大道西Ⅲ遺跡【30】などで確認されている島跡に留まっている。水田跡は、本遺跡より南へ2.3kmほど離れた日高遺跡【60】で確認されている。

中世の元総社には、上野国府の地割を利用して蒼海城が築かれる。蒼海城は牛池川と染谷川に挟まれた径1,200m程の範囲を網張りとする広大な面積を要する城で、千葉介常胤によって鎌倉時代に築かれたと言われている。千葉介常胤については「上毛伝説雑記拾遺」の「総社記」に記されており、「長元元戌辰年（1028年）六月、上総介平忠常下総国より引移らる。其の嫡子下総介常重、其の長子千葉介常胤、此の時城鎮護の為めに、五智の如来を城の四方に教寺堂を建立有つて安置す。」とある。

時は下つて、蒼海城は永亨元年（1429年）に総社長尾氏によって修築を受けることとなる。なお、蒼海城の修築は、長尾景行によって行われたとされているが、景行の子である長尾忠房（賢昌）によるものとの説もある。長尾忠房は上野国府の地割を利用して築かれた蒼海城を居住には不便であると判断し石倉城を築いて移り住んだが、その石倉城は利根川に崩落してしまったため、再び蒼海城へ戻ることとなったとされている。以後、守護で



Fig. 4 蒼海城網張り図（山崎 一 1978『群馬県古氏城址の研究 上巻』より 1/10,000）

ある上杉氏とともに総社長尾氏は守護代として栄えるが、長尾顕方の時、勃興してきた北条氏綱に服属し、さらには長尾顕方の跡を継いだ長尾顕景は箕輪城主長野信業と厩橋城主長野方業に攻められ、長野氏に屈服したようである。永禄九年（1566年）には、主力を石倉城へ移していたものの、一部は蒼海城に残っていたこともあり武田信玄に攻略されることとなる。

天正十八年（1590年）小田原城が落とされ、関東地方は徳川家康の支配下に置かれることになるが、その時蒼海城に諏訪頼忠が入り、城の北東部に長屋を構えて居住したとされている。そこで、諏訪頼忠は頼永を授かるが、諏訪頼永はその後先祖の地である信濃高島城へ移ることとなる。慶長六年（1601年）には、諏訪頼永に変わり秋元長朝が蒼海に入るが、蒼海城は荒廃していたためであろうか、植野に総社城を築城し移り住んだとされる。なお、総社城の築城までは時間を要したため、秋元長朝は蒼海城の東に位置する八日市場城を仮の地として身を置くこととなったようである。秋元長朝が総社城へ移った後は、蒼海城は城としての役割を終え魔城を迎えることとなる。

蒼海城関連の遺構は本遺跡【1】と元総社蒼海遺跡群（1）【29】・（5）【29】・（6）【37】、元総社小見内Ⅵ遺跡【37】で確認されている。このうち、本遺跡で新旧の2時期にわたる堀、元総社蒼海遺跡群（6）で南北方向に走行する上端幅11mの堀が検出されている。なお、蒼海城周辺で確認されている中世城館の分布はFig. 5に示してある。

参考文献

- 山崎 一 ほか 1979 『日本城郭大系 第4巻 茨城・栃木・群馬』 株式会社新人物往来社
近藤義雄 1986 『図説・前橋の歴史 群馬県の歴史シリーズ①』 あかぎ出版
群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史 通史編3 中世』 群馬県
山崎 一 1978 『群馬県古城墨塗の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
前橋市編さん委員会 1971 『前橋市史 第一巻』 前橋市
秋本太郎 ほか 2008 『史跡箕輪城跡Ⅶ』 高崎市教育委員会
早田 勉 ほか 2008 『更新世の地形発達史と遺跡群の形成』 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会
群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編1 原始古代1』 群馬県
大崎和久 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群（6）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
坂口 一 ほか 2007 『総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
櫻井和哉 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（16）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
阿久澤真一 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（13）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
長谷川一郎 ほか 2001 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
長谷川一郎 ほか 2003 『元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅沢克典 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（15）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
近藤雅順 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群（2）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅沢克典 ほか 2007 『元総社蒼海遺跡群（12）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
近藤雅順 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（14）・元総社蒼海遺跡群（19）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
金子正人 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（17）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

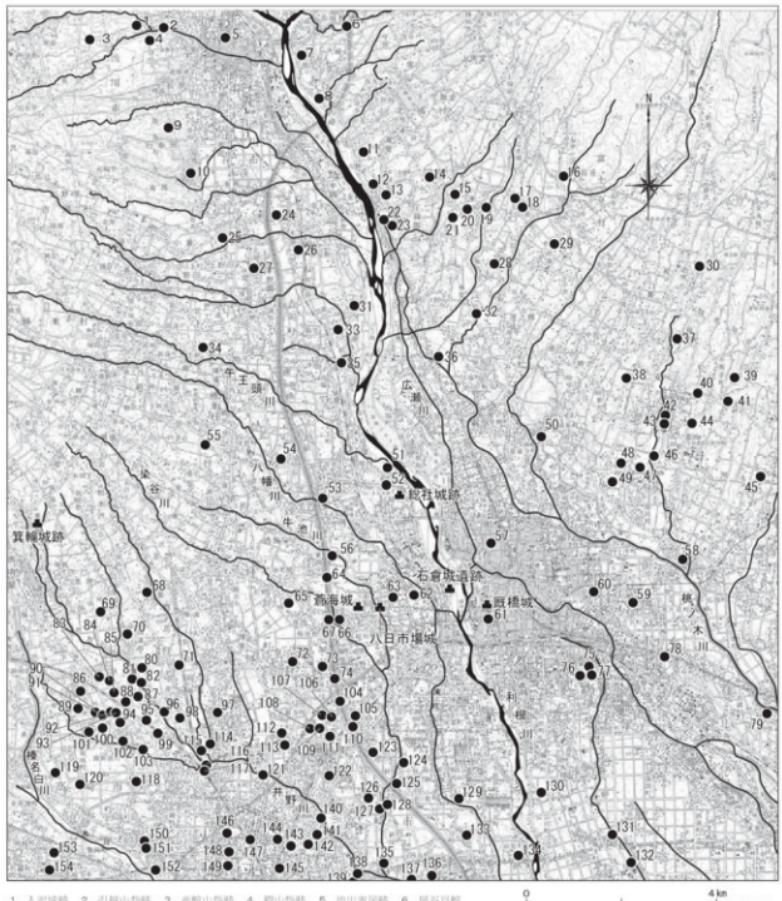


Fig. 5 葦海城周辺の中世城館分布図（国土地理院発行『前橋』・『榛名山』1/50,000を50%縮小）

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路用地で、調査総面積は1,313 m²である。調査区は4つの地点に分かれており、23・24・25・26地点と名称が付されている。各地区は近接しているわけではなく、場所によって遺跡の性格が大きく異なることも想定されたことから、混乱等を避けるため、遺構名称は各地点ごとに付けることとした。また、離れた地点の調査を同時並行で調査することは困難と判断し、24地点、25・26地点、23地点の順に調査を進めた。調査区に被せる方眼は2000年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている4mごとの方眼(日本測地系)を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へX:184、X:185、X:186…、北から南へY:129、Y:130、Y:131…、と設定した。本遺跡23地点のX:185、Y:130の公共座標は以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群 (23) 23地点 測点 X:185 Y:130

日本測地系: X = 43480.000 Y = -71460.000 世界測地系: X = 43834.9055 Y = -71751.7606

調査方法は、基本的に表土除去→遺構確認→遺構検出→断面観察→遺構完掘の順に行い、測量及び写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて随時行っている。表土除去は0.45バックホーで遺構確認面である総社砂層ないしローム漸移層上面まで掘り下げるとした。なお、23地点においては、浅間C軽石混土層がローム漸移層上で確認できたものの、同層での遺構確認は困難を極めると判断したため、ローム漸移層まで掘り下げる運びとなった。遺構確認はジョレンを使用して行い、浅間C軽石が混ざる古墳時代から平安時代の黒褐色土と浅間B軽石が混ざる中世の黒褐色土の確認に努めた。確認された遺構は基本的に移植ゴテを使用して掘り下げたが、24地点の堀に限り、壁面・底面付近及び遺物集中部分を除きスコップを使用した。例外として、25・26地点は民家に囲われ、表土除去による残土搬出が不可能であることから、重機を使用した部分的なトレンチ調査で対応することとした。遺構の検出過程では、ベルトないし半截により遺構の埋没状況を確認し、出土遺物は可能な限りトータルステーションで出土位置及び標高を記録した後に取り上げを行った。

検出された遺構の記録保存は、平面・断面測量及び写真撮影で対応している。遺構図面は平面・断面図とも基本1/20縮尺で作成し、いずれもトータルステーションで測量している。遺構写真は、35mm白黒・35mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として600万画素相当のデジタルカメラも利用した。また、23地点・24地点の完掘後はラジコンヘリコプターによる空撮も行っている。

2 調査経過

現地での発掘調査は平成20年11月4日から平成21年1月20日まで、整理業務は平成21年1月13日～同年3月12日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

平成20年11月4日：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。**11月5日**：23地点の表土除去開始。**11月6日**：発掘補助員動員。遺構確認・検出作業を開始。**11月20日**：蒼海城の新段階の堀とともに古段階の堀も確認。**12月10日**：23地点の調査と併行して25・26地点の調査を開始。**12月24日**：24・25・26地点の調査を終了し、空撮を実施。**12月25日**：24・25・26地点の撤収を行うとともに発掘器材を23地点へ搬入。平成21年1月5日：23地点の表土除去開始。**1月6日**：発掘補助員動員。**1月8日**：蒼海城閻連の南北方向へ走行する堀を確認。**1月13日**：出土遺物の洗浄・注記・接合を開始。**1月16日**：23地点の調査を終了し、空撮を実施。**1月19日**：発掘器材の撤収。**1月20日**：プレハブ・簡易トイレを撤収し、現地調査終了。**1月21日**：図面修正・写真整理開始。**1月30日**：遺構原稿執筆及び遺物実測開始。**2月12日**：遺物・遺構トレース開始。**2月16日**：版組み。**2月26日**：入稿・校正。**3月6日**：印刷・製本。**3月12日**：報告書納品。

IV 標準堆積土層

本跡は先述のとおり、23・24・25・26 地点と調査区が分かれた状態にある。このうち、24・25・26 地点は隣接もしくは近い位置に設定されているが、23 地点に関しては、24・25・26 地点から北へ 320 mほど離れた位置にある。全ての地点とも染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地し、掘り下げていくと、A s - S j 以降に堆積したとされる総社砂層を確認することができる。この総社砂層は 24 地点で遺構確認面となっているが、23 地点では同層上にローム漸移層・A s - C 混土の堆積が見られる。なお、23 地点においては A s - C 混土層を遺構確認面とすべきであるが、遺構の重複が激しいことからローム漸移層上面を確認面としている。25・26 地点はトレンチ調査で対応しているが、検出した部分は全て蒼海城の堀底であったため、基本層序は堀底で A s - Y P を確認したに留まっている。

総社砂層の下には、部分的にではあるが黒色の泥炭層が 1～3 層確認でき、泥炭層の最下層には A s - S j の混入が見られる。A s - S j 下には A s - Y P が良好な状態で堆積している。

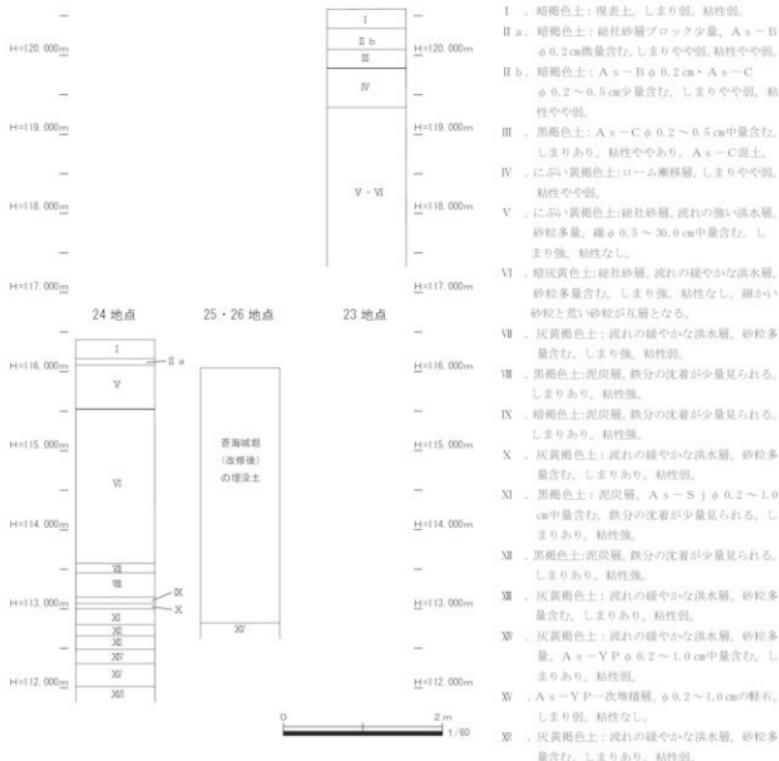


Fig. 6 標準堆積土層

V 23 地点

1 23 地点概要 (Fig. 7, P.L. 1)

23 地点の調査では、堅穴住居跡 20 軒・土坑 9 基・溝 6 条・ピット 25 基が検出されている。堅穴住居跡の時期は古墳時代末と平安時代に大別でき、古墳時代末の住居跡は H-2・3・7・8・10・16 号住居跡で、平安時代の住居跡は H-1・5・6・11・12・15・18 号住居跡である。なお、H-4・9・13・14・17・19・20 号住居跡に関しては、住居跡の遺存状態が不良であり、なおかつ出土遺物も散見されなかつたことから帰属時期を捉えるに至らなかつた。土坑は調査を進めた結果、D-1・2 号土坑が井戸、D-5 号土坑が倒木痕であることが捉えられている。なお、D-1 号土坑は、埋没土上位に現代の遺物が混入し、D-2 号土坑の埋没土中には A s-B の混入が見られる。溝は W-1 号溝が蒼海城に開通する堀と考えられ、宝篋印塔や 14 世紀後半に比定される青磁の碗が出土している。また、W-1 号溝は、蒼海城本丸（新段階）西側を南北方向に走行する堀の延長線上に位置している（Fig. 4 参照）。W-2 号溝は、東西方向に走行する溝で W-1 号溝との関連性を窺わせるものである。埋没土中からは 14 世紀～15 世紀代の軟質陶器片が出土している。その他、W-3・4 号溝が A s-B 降下以降と推測されるものである。W-5・6 号溝の詳細時期は不明である。

2 堅穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig. 8、P.L. 2／遺物：Fig. 32、Tab. 4、P.L. 6）

位置：X：185・186、Y：135・136 グリッド。**主軸方位：**N-86° - W。**重複：**H-6・9 号住居跡、W-1・3 号溝、D-8・9 号土坑と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-6 号住居跡より新しく、D-8・9 号土坑・W-1・3 号溝より古い。H-9 号住居跡との新旧関係は不明。**形状：**隅丸方形形状を呈する。**規模：**4.50 m × 3.45 m。**残存深度：**0.53 m。**面積：**(15.53) m²。**床面の状態：**比較的平坦で、しまりは弱い。住居跡中央から北東寄りに 1.48 m × 1.43 m、深さ 0.46 m の楕円形状を呈する土坑が確認されている。**カマド：**カマドの据え替えが行われており、新旧二つのカマドが確認されている。旧カマドは、住居跡東壁の南端に設置されており、全長 1.15 m・最大幅 0.50 m・主軸方位 N-60° - W を測る。断面形状は「U」字状で、埋没土には A s-C・ローム粒・焼土・灰を含む暗褐色土を主体とした土により埋められている。また、住居の壁面を構築するために粘土でカマドを塞いでいる。新カマドは、住居跡南東コーナーに設けられており、全長 0.99 m・最大幅 0.48 m・主軸方位 N-50° - W を測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・ローム粒・焼土・白色粘土を含む暗褐色を主体とした土で埋没している。袖・焚き口部分は残存していない。**貯蔵穴：**旧カマド南西に 0.61 m × 0.61 m、深さ 0.30 m の円形状を呈する貯蔵穴が存在する。A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土により埋没している。本貯蔵穴は、カマドとの位置関係から、旧カマドに伴うものと想定される。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**確認されていない。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**埋没土中より須恵器碗が出土している。**時期：**10 世紀後半と想定される。

H-2号住居跡（遺構：Fig. 9、P.L. 2／遺物：Fig. 32、Tab. 4、P.L. 6）

位置：X：185・186、Y：129 グリッド。**主軸方位：**N-65° - E。**重複：**H-16 号住居跡、W-4 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-16 号住居跡、W-4 号溝より古い。**形状：**方形ないし長方形形状を呈するものと推測される。**規模：**1 m × 2.77 m。**残存深度：**0.43 m。**面積：**~ m²。**床面の状態：**カマド周辺がやや陥る状態にあり、比較的しまる。**カマド：**全長 1.50 m・最大幅 0.52 m・燃焼部幅 0.67 m・

主軸方位 N-68° - E を測る。断面形状は「U」字状で、埋没土には A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土により埋没しており、最下層には灰層が残る。袖は白色粘土を使用して構築されており、焚き口は床面よりやや窪む状態にある。**貯藏穴**：確認されていない。**柱穴**：推定範囲内に 1 基のピットが確認されている。規模は 0.27 m × 0.23 m、深さ 0.34 m を測り、楕円形状を呈する。**掘り方**：住居跡西側は W-4 号溝との重複で確認されなかったものの、東側で A s - C とローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土が確認されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド正面付近の床面上に集中して土師器壺・甕、須恵器壺が出土している。**時期**：7世紀前半と想定される。

H-3号住居跡（遺構：Fig. 10、P.L. 2 / 遺物：Fig. 32、Tab. 4、P.L. 6）

位置：X : 187・188、Y : 136 グリッド。**主軸方位**：N-77° - E。**重複**：W-3号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-3号溝より古い。**形状**：隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推測される。規模：4.40 m × (3.12) m。**残存深度**：0.46 m。**面積**：(13.73) m²。**床面の状態**：平坦で、全体的に硬くしまる。住居跡中央から北西より 1.06 m × 0.75 m、深さ 0.16 m の浅い窪みが見られる。**カマド**：確認されていないが、住居跡検出範囲の南東端で埋没土中に焼土が混入する状況が捉えられていることから、同部分の東側にカマドが設置されているものと推測される。**貯藏穴**：確認されていない。**柱穴**：推定範囲内に 2 基のピットが確認されている。規模は P-1 が 0.41 m × 0.40 m、深さ 0.50 m、P-2 が 0.31 m × 0.28 m、深さ 0.50 m を測り、いずれも平面円形状を呈する。**掘り方**：A s - C・ロームブロックを含み、しまりを有する暗褐色土で構築されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面上に散在する状態で床面上に集中して土師器壺、須恵器壺が出土している。**時期**：7世紀後半と想定される。

H-4号住居跡（遺構：Fig. 11）

位置：X : 187・188、Y : 129 グリッド。**主軸方位**：N-86° - W。**重複**：倒木痕と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、倒木痕より古い。**形状**：方形ないし長方形を呈するものと推測される。規模：(3.25) m × (1.43) m。**残存深度**：0.39 m。住居跡南側における壁面の立ち上がりは確認できなかった。**面積**：(4.65) m²。**床面の状態**：平坦で、全体的にややしまる。**カマド**：確認されていない。**貯藏穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：確認されなかった。**遺構埋没状態**：A s - C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られなかった。**時期**：不明。

H-5号住居跡（遺構：Fig. 12、P.L. 2 / 遺物：Fig. 32・33、Tab. 4・5、P.L. 6・7）

位置：X : 185・186、Y : 134・135 グリッド。**主軸方位**：N-84° - E。**重複**：H-6・15号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-6・15号住居跡より新しい。**形状**：方形を呈するものと想定される。規模：(3.75) m × 3.59 m。**残存深度**：0.28 m。**面積**：(13.46) m²。**床面の状態**：住居跡東側がやや窪むものの比較的平坦で、全体的にややしまる。**カマド**：住居跡の南東コーナーに設置されており、全長 1.20 m・最大幅 0.48 m・燃焼部幅 0.40 m・主軸方位 N-43° - W を測る。断面形状は「U」字状で、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没しており、最下層には灰層が残る。袖は芯材の縦に白色粘土を被せて構築されている。天井部の芯材には古代の平瓦が使用されている。焚き口は床面よりやや窪む状態にある。**貯藏穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ローム粒・炭化粒を含む暗

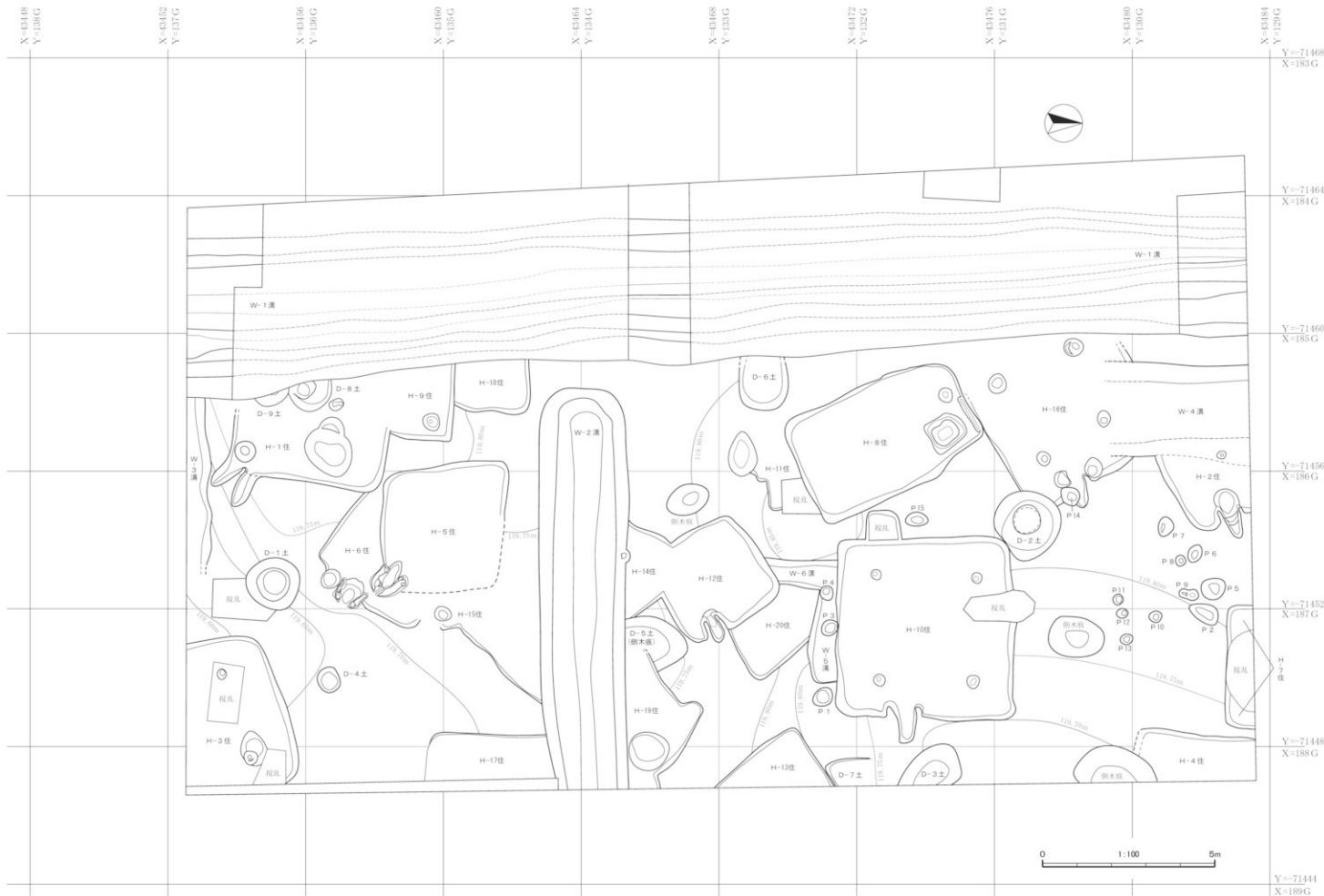


Fig. 7 23 地点全体図

褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内部・正面付近の床面直上に集中しており、須恵器壺・碗、灰釉陶器碗、羽釜、土釜が出土している。また、カマドの構築材に古代の平瓦を使用している。時期：11世紀前半と想定される。

H-6号住居跡（遺構：Fig. 12・13、P.L. 2／遺物：Fig. 34・35、Tab. 5・6、P.L. 7・8）

位置：X：186・187、Y：135 グリッド。主軸方位：N-52°-W。重複：H-1・5・15号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-1・5号住居跡より古い。H-15号住居跡との新旧関係は不明である。形状：方形状を呈するものと想定される。規模：(3.75) m × 3.59 m。残存深度：0.28 m。面積：(13.46) m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。カマド：住居跡南東壁に設置されており、全長 0.89 m・最大幅 0.64 m・燃焼部幅 0.58 m・主軸方位 N-44°-W を測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・焼土・炭化粒・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は芯材の縦・古代の平瓦に白色粘土を被せて構築されている。焚き口は床面よりやや窪む状態にある。貯蔵穴：カマド南西脇で確認されており、0.61 m × 0.52 m、深さ 0.24 m の円形状を呈する。埋没土には A s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土が含まれる。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内部・周辺の床面直上から多量の須恵器壺・碗が出土している。また、カマドの構築材に古代の平瓦を使用している。時期：10世紀前半と想定される。

H-7号住居跡（遺構：Fig. 11、P.L. 3／遺物：Fig. 35、Tab. 6、P.L. 8）

位置：X：186・187、Y：129 グリッド。主軸方位：N-88°-W。重複：擾乱土坑と重複し、住居跡の大半は壊されている。規模：3.57 m × (0.84) m。残存深度：0.37 m。面積：(3.00) m²。床面の状態：住居跡中央に向けてやや床面は低くなり、多少の凸凹が見られる。全体的にややしまる。カマド：検出範囲内では確認されていないが、東壁付近の埋没土中に白色粘土の混入が認められることから、東壁に設置されている可能性が高いものと想定される。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：住居跡南西コーナー付近の床面直上から須恵器小型壺と底面に孔が穿たれた土師器壺が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-8号住居跡（遺構：Fig. 14・15、P.L. 3／遺物：Fig. 35、Tab. 6、P.L. 8）

位置：X：185・186、Y：131・132 グリッド。主軸方位：N-65°-E。重複：H-11・16号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-11・16号住居跡より古い。形状：長方形を呈する。規模：5.23 m × 3.30 m。残存深度：0.22 m。面積：17.26 m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。北西壁の東半では壁周溝と想定される溝が確認されている。カマド：明確な確認はなされなかったが、北西壁南側周辺の埋没土中に焼土粒・灰・白色粘土が混入することから、同部分にカマドが設置されていた可能性が高いものと想定される。貯蔵穴：住居跡北東コーナー付近で確認されており、規模は 0.76 m × 0.62 m、深さ 0.59 m を測る。平面長方形、断面逆台形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土で埋没している。また、貯蔵穴の周りには幅 5～18 cm 程度のテラスが確認されており、貯蔵穴蓋の設置痕と想定される。柱穴：推定範囲内に 1 基のビット (P-1) が確認されている。規模は 0.45 m × 0.41 m、深さ 0.51 m を測り、梢円形状を呈する。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土

状態：埋没土中から土師器坏・壺、赤色顔料の塊が出土している。時期：7世紀前半と想定される。

H-9号住居跡（遺構：Fig. 16、P.L. 3／遺物：Fig. 36、Tab. 6、P.L. 8）

位置：X：185、Y：134・135 グリッド。**主軸方位：**N-83° - W。**重複：**H-1・18号住居跡、W-1号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-18号住居跡より新しく、W-1号溝より古い。H-1号住居跡との新旧関係は不明。**形状：**方形ないし長方形を呈するものと推測される。**規模：**-m×(2.11)m。**残存深度：**0.18 m。**面積：**-m²。**床面の状態：**多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。**カマド：**確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**推定範囲内に1基のピット（P-1）が確認されている。規模は0.54 m×0.50 mを測る。平面形状は橢円形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没している。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**埋没土中から須恵器碗が出土している。時期：10世紀後半と想定される。

H-10号住居跡（遺構：Fig. 17、P.L. 3／遺物：Fig. 36、Tab. 6・7、P.L. 9）

位置：X：186・187、Y：130～132 グリッド。**主軸方位：**N-88° - E。**重複：**W-5・6号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**規模：**5.31 m×5.19 m。**残存深度：**0.23 m。**面積：**27.56 m²。**床面の状態：**比較的平坦で、しまる。**カマド：**住居跡の東壁中央のやや南寄りに設置されており、全長1.23 m・最大幅0.67 m・燃焼部幅0.41 m・主軸方位N-90°を測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は白色粘土を使用して構築されており、焚き口は床面よりやや竪む状態にある。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**推定範囲内に4基のピットが確認されている。各ピットの規模はP-1が0.31 m×0.30 m、深さ0.40 m、P-2が0.39 m×0.36 m、深さ0.40 m、P-3が0.30 m×0.29 m、深さ0.40 m、P-4が0.35 m×0.33 m、深さ0.60 mを測る。平面形態はいずれのピットも円形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。柱痕の痕跡は確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマド内部、カマド南脇の床面上に集中して土師器坏・壺、須恵器坏・壺が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-11号住居跡（遺構：Fig. 18／遺物：Fig. 36、Tab. 7、P.L. 9）

位置：X：186、Y：132 グリッド。**主軸方位：**N-84° - E。**重複：**H-8号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡はH-8号住居跡より新しい。**規模：**-m×-m。**残存深度：**0.19 m。**面積：**-m²。**床面の状態：**掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。**カマド：**住居跡の東壁に付設される。カマドも掘り方のみの検出となっており、全長0.86 m・主軸方位N-90°を測る。掘り方の断面形状は「U」字状で、焼土化した煙道の壁面が良好な状態で確認されている。煙道に僅かに残る暗褐色の埋没土にはA s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土の混入が見られる。**貯蔵穴：**カマドの南脇で確認されており、規模は1.29 m×0.89 m深さ0.54 mを測り、橢円形状を呈する。また、貯蔵穴の壁面及び底面には、灰色の粘土が薄く貼られている状況が捉えられている。埋没土は暗褐色を主体とした土で、A s-C・ローム粒・白色粘土粒が含まれ、多量の土器が出土している。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**貼床は断面で僅かに残存しており、A s-C・ローム粒を含み、硬くしまる。貼床の下はA s-C・ローム粒・炭化粒・白色粘土を含む暗褐色を主体とした土により埋められている。**遺構埋没状態：**不明。**遺物出土状態：**貯蔵穴内から須恵器坏・壺が多量に出土している。時期：10世紀前半と想定される。

H-12号住居跡（遺構：Fig.19・20、P.L. 4／遺物：Fig.37、Tab. 7、P.L. 9）

位置：X：186・187、Y：132・133 グリッド。**主軸方位：**N-56°-E。**重複：**H-14・20号住居跡、W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-14・20号住居跡より新しい。W-6号溝との新旧関係は不明。規模：3.17 m × 3.10 m。残存深度：0.28 m。面積：9.83 m²。床面の状態：比較的平坦である。カマド：住居跡北東壁中央から南寄りに設置されており、全長0.97 m・最大幅0.39 m・燃焼部幅0.20 m・主軸方位N-60°-Eを測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は白色粘土を使用して構築されており、焼き口は床面よりやや陥る状態にある。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマド内部より土器師甕が出土している。**時期：**8世紀代と想定される。

H-13号住居跡（遺構：Fig.21、P.L. 3）

位置：X：187・188、Y：132 グリッド。**主軸方位：**N-44°-E。**重複：**なし。**規模：**(2.83) m × (2.00) m。残存深度：0.09 m。面積：(5.66) m²。床面の状態：平坦である。カマド：検出範囲内では確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**不明。

H-14号住居跡（遺構：Fig.19、P.L. 4）

位置：X:186、Y:133 グリッド。**主軸方位：**N-61°-E。**重複：**H-12号住居跡、W-2号溝、D-5号土坑（倒木痕）と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-12号住居跡、W-2号溝、D-5号土坑より古い。**規模：**(1.78) m × (1.76) m。残存深度：0.22 m。面積：(3.13) m²。床面の状態：比較的平坦である。カマド：検出範囲内では確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**不明。

H-15号住居跡（遺構：Fig.22、P.L. 4／遺物：Fig.37、Tab. 7・8、P.L. 10）

位置：X：187、Y：134 グリッド。**主軸方位：**N-45°-W。**重複：**H-5・6号住居跡、W-2号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-5号住居跡、W-2号溝より古い。H-6号住居跡との新旧関係は不明。規模：(3.05) m × -m。残存深度：0.17 m。面積：-m²。床面の状態：壁面付近の床面はやや高い。全体的には比較的平坦で、全体的にややしまる。**カマド：**住居跡南東壁に付設されているが、重複が激しいことから、左袖一部の検出に留まっている。規模は全長0.52 m・主軸方位N-30°-Wを測る。袖の構築には白色の粘土が使用されている。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**推定範囲内において1基のビット(P-1)が確認されている。規模は0.50 m × 0.42 m、深さ0.17 mを測り、平面形状は梢円形状を呈する。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマドの周辺から須恵器碗、カマドの構築材として使われたと推測される古代の丸瓦・平瓦が出土している。**時期：**10世紀前半と想定される。

H-16号住居跡（遺構：Fig.23、P.L. 4／遺物：Fig.37・38、Tab. 8、P.L. 10）

位置：X：185・186、Y：129～131 グリッド。**主軸方位：**N-55°-E。**重複：**H-2・8号住居跡、D-2

号土坑、W-1・4号溝、P-14と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-2・8号住居跡より新しく、D-2号土坑、W-1・4号溝、P-14よりも古い。規模：(5.41) m×5.11 m。残存深度：0.40 m。面積：(27.65) m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的の平坦である。カマド：P-14により壊されているが、住居跡北東壁中央から南寄りに設置されており、全長1.24 m・最大幅0.70 m・燃焼部幅0.48 m・主軸方位N-58°-Eを測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・ローム粒・焼土・灰を含む暗褐色土を主体とした土により埋没しており、埋没土の下位では灰を多量に含む層が認められる。袖は白色粘土を使用して構築されている。なお、右袖部分には構築材の縫を引き抜いたと推測される不整形な小ピット(P-6)が認められる。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に6基のピットが確認されており、このうちP-1～P-4は配列から柱穴と想定される。各ピットの規模はP-1が0.31 m×0.30 m、深さ0.40 m、P-2が0.39 m×0.36 m、深さ0.40 m、P-3が0.30 m×0.29 m、深さ0.40 m、P-4が0.35 m×0.33 m、深さ0.60 m、P-5が0.59 m×0.50 m、深さ不明、P-6が0.53 m×0.49 m、深さ0.19 mを測る。なお、柱穴(P-1～P-4)の埋没土は暗褐色を呈し、A s-C・ローム粒が含まれる。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面上に散在する状態で土師器壺・甕・須恵器甕が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-17号住居跡（遺構：Fig. 24、P.L. 4）

位置：X：187・188、Y：134・135グリッド。主軸方位：N-89°-E。重複：W-2号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はW-2号溝より古い。規模：(3.63) m×(1.72) m。残存深度：0.28 m。面積：(27.65) m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的の平坦である。カマド：検出範囲内では確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

H-18号住居跡（遺構：Fig. 25、P.L. 5／遺物：Fig. 38、Tab. 8、P.L. 11）

位置：X：185、Y：134グリッド。主軸方位：N-55°-E。重複：H-9号住居跡、W-1号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-9号住居跡、W-1号溝より新しい。規模：(2.21) m×(1.59) m。残存深度：0.50 m。面積：(3.51) m²。床面の状態：比較的の平坦である。カマド：H-9号住居跡に切られる部分の壁面（東壁）及び床面が焼土化していることから、同部分にカマドが付設されていたものと想定される。また、同部分の埋没土には焼土及び白色粘土が混ざる。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面上に散在する状態で灰釉陶器碗・須恵器碗・羽釜・古代の丸瓦が出土している。古代の丸瓦に関しては、カマドの構築材として利用されていたものと推測される。時期：10世紀前半と想定される。

H-19号住居跡（遺構：Fig. 26、P.L. 5）

位置：X：187・188、Y：133グリッド。主軸方位：N-50°-E。重複：W-2号溝、D-5号土坑（倒木痕）、擾乱土坑2基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はW-2号溝より古く、D-5号土坑より新しい。規模：(2.40) m×(1.81) m。残存深度：0.09 m。面積：(4.34) m²。床面の状態：掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。北東壁付近で1.17 m×1.17 m、深さ34 mの土坑（D-1）が確認されている。カマド：検

出範囲内では確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

H-20号住居跡（遺構：P.L. 5）

位置：X：187、Y：132 グリッド。主軸方位：N-60° - E。重複：H-12号住居跡、W-5・6号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-12号住居跡より古い。W-5・6号溝との新旧関係は不明。規模：(2.94)m × (1.67) m。残存深度：0.07 m。面積：(4.91) nf。床面の状態：掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。カマド：検出範囲内では確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

3 土坑（遺構：Fig. 7、Tab. 2、P.L. 1）

23地点において土坑は9基確認されている。調査の結果、D-1・2号土坑は井戸、D-5号土坑は倒木痕であることが判明している。D-1号土坑の埋没土上位では現代遺物の混入が見られるが、下位では見られない。現代遺物は井戸が埋没することで窪地と姿を変えた段階で投棄されたものと考えられる。各土坑の計測値等はTab. 2に示してある。

Tab. 2 23地点土坑一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-1号土坑	X:186 Y:136	1.55 × 1.49	1.38以上	円形	上位に現代遺物	井戸。理段土にA s - B混入。下位には現代遺物は見られない。
D-2号土坑	X:186 Y:130	1.92 × 1.86	0.75以上	不整円形	-	井戸。理段土にA s - B混入。H-16号住居跡と重複し、本土坑が新しい。
D-3号土坑	X:188 Y:131	- × 1.22	0.45	楕円形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。
D-4号土坑	X:187 Y:135	0.72 × 0.61	0.44	楕円形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。
D-5号土坑	X:187 Y:133	(1.81) × 1.51	0.62	不整椭円形	-	倒木痕。H-14・19号住居跡・W-2号溝と重複し、本土坑はH-19号住居跡・W-2号溝より古く、H-14号住居跡より新しい。
D-6号土坑	X:185 Y:133	(1.58) × 1.41	0.26	圓丸方形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。W-1号溝と重複し、本土坑はW-1号溝より古い。
D-7号土坑	X:188 Y:132	(1.15) × (0.81)	0.12	不整長方形	-	A s - C・ローム粒・礫土粒・炭化粒を含む暗褐色土で埋没。
D-8号土坑	X:185 Y:135	1.29 × (0.86)	-	円形？	-	A s - B・總社砂層を含む暗褐色土で埋没。H-1号住居跡・D-9号土坑・W-1号溝と重複し、本土坑はD-9号土坑・W-1号溝より古く、H-1号住居跡より新しい。
D-9号土坑	X:185 Y:136	1.62 × (0.30)	-	楕円形？	-	A s - B・總社砂層を含む暗褐色土で埋没。H-1号住居跡・D-8号土坑・W-1号溝と重複し、本土坑はW-1号溝より古く、H-1号住居跡・D-8号土坑より新しい。

4 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 27・28、P.L. 5／遺物 Fig. 39、Tab. 8、P.L. 11）

位置：X：183～185、Y：129～136 グリッド。主軸方位：N-3° - W。重複：H-1・9・16・18号住居跡、D-6・8・9号土坑・W-3号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はいずれの遺構よりも新しい。規模：上端幅 (4.87) ～ (5.65) m、下端幅 0.22 ～ 0.53 m。断面形状：逆台形状を呈するが、西側でテラス面を有する。残存深度：2.64 m。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・ローム粒・總社砂層ブロックを含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。埋没土の下位では西側からの埋没が目立つが、中位から上位にかけては東側からの埋没

が目立つ状態にある。また、総社砂層のブロックに風化現象が見られないことから、人為的な埋没と想定される。埋没土の21層では、堀西壁の立ち上がりからの連続性が窺えることから、堀の重複（作り直し）も推測される。遺物出土状態：埋没土の下位から青磁碗・宝鏡印塔の相輪部が出土している。時期：青磁碗の時期から14世紀後半以降に帰属するものと想定される。備考：蒼海城関連の堀と想定される。W-1号溝は蒼海城新段階における本丸西側を南北方向に走る堀の延長線上に位置するものである（Fig. 4参照）。

W-2号溝（遺構：Fig. 29、P.L. 5／遺物 Fig. 39、Tab. 8・9、P.L. 11）

位置：X：185～188、Y：133～134 グリッド。主軸方位：N-89°～E。重複：H-14・15・17・19号住居跡・D-5号土坑と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はいざれの遺構よりも新しい。規模：上端幅2.04～2.63 m、下端幅0.40～0.91 m。断面形状：逆台形状を呈する。残存深度：1.20 m。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色を主体とした土により埋没している。埋没土の観察では北側からの埋没が目立ち、ロームブロックに風化現象が見られないことから、人為的な埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土の中から上位で軟質陶器の内耳鍋・鉢及び骨が出土している。時期：軟質陶器の時期から14世紀～15世紀以降に帰属するものと想定される。備考：蒼海城関連の堀と想定される。本溝を西へ延長させると、W-1号溝とほぼ直交する状態にある。

W-3号溝（遺構：Fig. 30／遺物 Fig. 39、Tab. 9、P.L. 11）

位置：X：185～188、Y：136 グリッド。主軸方位：N-88°～E。重複：H-1・3号住居跡・W-1号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はW-1号溝より古く、H-1・3号住居跡より新しい。規模：上端幅0.53～1.24 m、下端幅0.24～0.66 m。断面形状：皿状を呈するものと想定される。残存深度：0.43 m。底面の状態：細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土の中から須恵器碗が出土している。時期：10世紀前半に比定される須恵器碗が出土しているものの、埋没土中にA s-Bが混入することから、A s-B降下以降（1108年以降）と想定される。備考：性格不明。

W-4号溝（遺構：Fig. 31）

位置：X：185、Y：129・130 グリッド。主軸方位：N-0°。重複：H-2・16号住居跡と重複する。埋没土層の観察から、本溝はH-2・16号住居跡より新しい。規模：上端幅2.69～3.12 m、下端幅1.60～2.81 m。断面形状：皿状を呈する。残存深度：0.41 m。底面の状態：細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土中にA s-Bが混入することから、A s-B降下以降（1108年以降）と想定される。備考：性格不明。

W-5号溝（遺構：Fig. 7）

位置：X：186・187、Y：132 グリッド。主軸方位：N-80°～W。重複：H-10・20号住居跡、W-6号溝、P-3・4と重複するが、新旧関係は不明。規模：上端幅0.51～0.81 m、下端幅0.41～0.69 m。断面形状：皿状を呈する。残存深度：0.11 m。底面の状態：細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。備考：性格不明。

W-6号溝（遺構；Fig. 7）

位置：X : 186、Y : 132 グリッド。主輪方位：N-86° - E。重複：H-10・12・20号住跡、W-5号溝と重複するが、新旧関係は不明。規模：上端幅 0.70 ~ 0.87 m、下端幅 0.39 ~ 0.65 m。断面形状：皿状を呈する。残存深度：0.08 m。底面の状態：細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。備考：性格不明。

5 ピット（遺構；Fig. 7、Tab. 3）

23 地点においてピットは15基確認されている。このうちの10基は調査区北側に集中するが、掘立柱建物跡等の配列は窺えない。各ピットの計測値等は Tab. 3 に示してある。

Tab. 3 23地点ピット一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-1	X : 187 Y : 132	0.61 × 0.50	0.25	椭円形	-	暗褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-2	X : 186・187 Y : 129	0.92 × 0.55	0.15	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒・白色粘土混入。
P-3	X : 187 Y : 132	0.51 × 0.43	0.15	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-4	X : 186 Y : 132	0.52 × 0.37	0.18	椭円形	-	暗褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-5	X : 186 Y : 129	0.71 × 0.63	0.13	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-6	X : 186 Y : 129	0.55 × 0.39	0.02	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-7	X : 186 Y : 129	0.59 × 0.45	0.43	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-8	X : 186 Y : 129	0.31 × 0.29	0.07	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-9	X : 186 Y : 129	0.57 × 0.33	0.15	不規則円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-10	X : 187 Y : 130	0.37 × 0.33	0.07	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-11	X : 186 Y : 130	0.31 × 0.31	0.21	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-12	X : 186・187 Y : 130	0.34 × 0.28	0.15	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-13	X : 187 Y : 130	0.37 × 0.31	0.11	椭円形	-	黒褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-14	X : 186 Y : 130	0.55 × 0.51	0.28	椭円形	-	暗褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。
P-15	X : 186 Y : 131	0.66 × 0.41	0.34	椭円形	-	暗褐色の埋没土に A s-C・ローム粒混入。

6 遺構外出土遺物（遺物；Fig. 39、Tab. 9、P.L. 11）

遺構外出土遺物として、8点の遺物を提示した。このうち1～5は7世紀から8世紀代に帰属するもので、本地点で確認された住跡の時期に伴うものである。6は古代の瓦であるが、H-5・6号住跡での類例を見ると、カマドの構築材として平安時代の住跡に再利用されたものと推測できよう。7・8は白磁で7は皿、8は碗である。これらの遺物はW-1・2号溝と同様に蒼海城に関連するものと想定される。

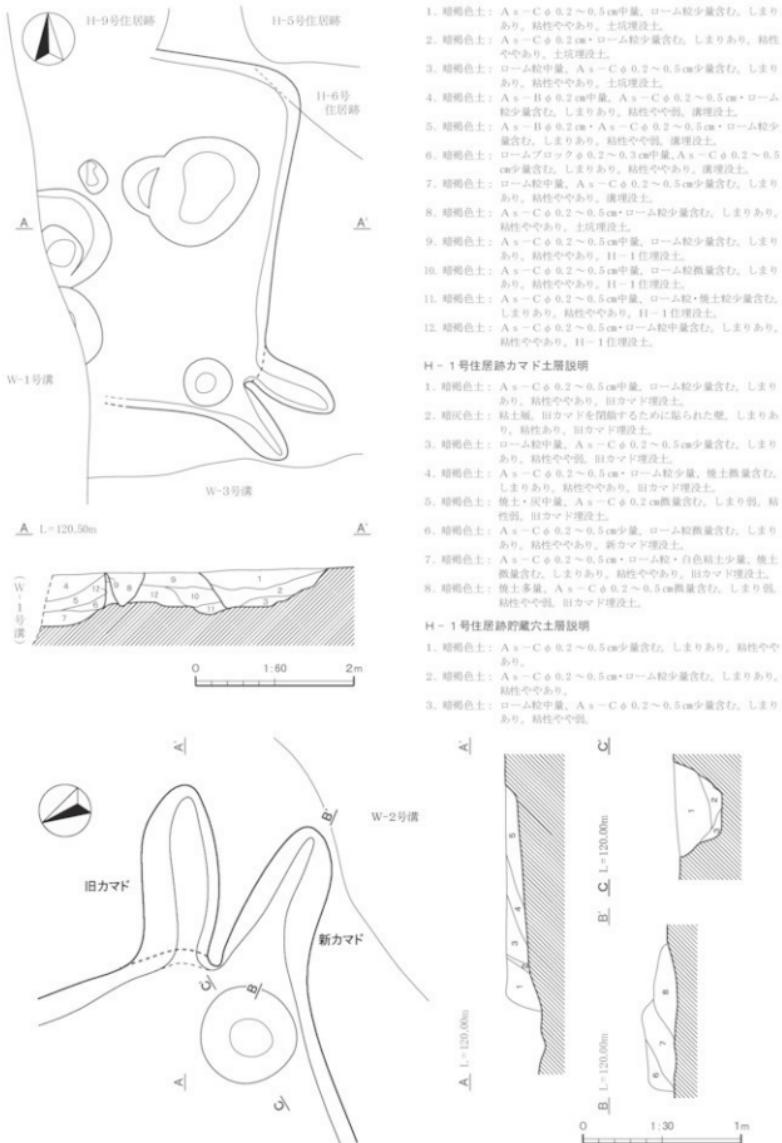
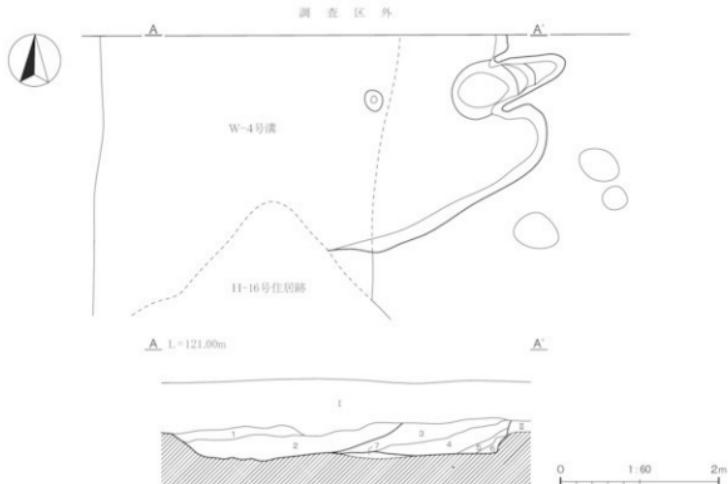
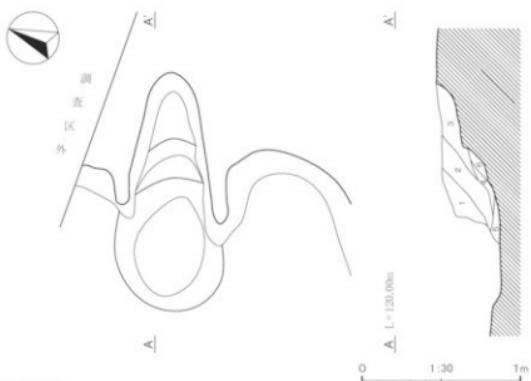


Fig. 8 H-1号住居跡



H-2号住居跡土層説明

1. 雜褐色土: $A s - B \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ 中量, $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒・純土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-4窓埋没土。
2. 雜褐色土: $A s - B \phi 0.2 cm$, $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒少含む。しまりあり。粘性やや弱。W-4窓埋没土。
3. 雜褐色土: $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 雜褐色土: $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5. 雜褐色土: $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒・純土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
6. 雜褐色土: ローム粒中量, $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ 少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
7. 雜褐色土: $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ ローム粒中量含む。しまり強。粘性やや弱。堅床。



H-2号住居跡カマド土層説明

1. 雜褐色土: 白色粘土 $\phi 0.5 cm$ 中量, $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ 純土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 雜褐色土: 純土・白色粘土 $\phi 0.5 cm$ 中量, $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ 炭化粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 雜褐色土: $A s - C \phi 0.2 \sim 0.5 cm$ 純土・炭化粒・白色粘土 $\phi 0.5 cm$ 少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黒褐色土: ローム粒中量, $A s - C \phi 0.2 cm$ 純土・炭化粒・灰少含む。しまり弱。粘性やや弱。
5. 黒褐色土: 灰多量, ローム粒・純土少量含む。しまり弱。粘性やや弱。

Fig. 9 H-2号住居跡

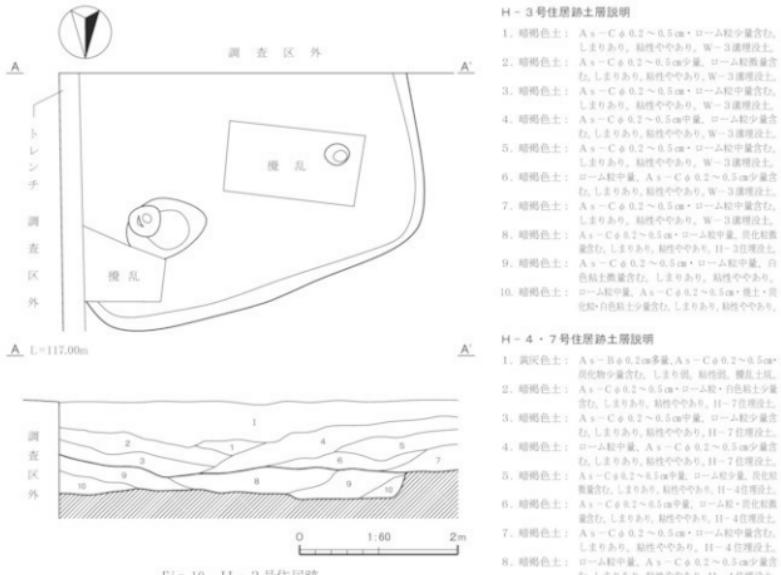


Fig. 10 H-3号住居跡

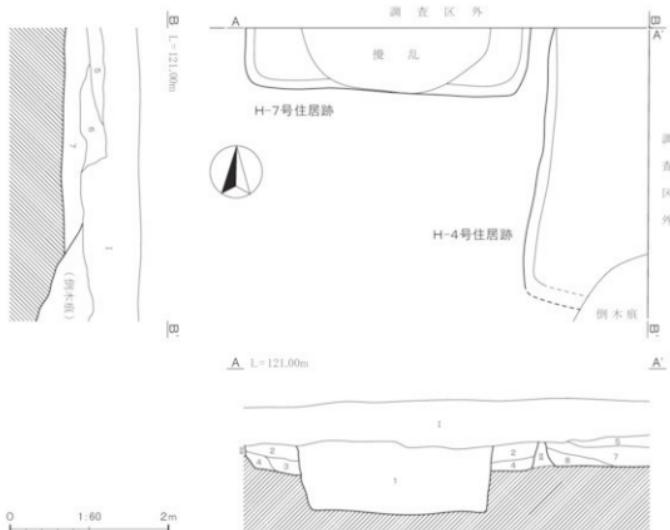
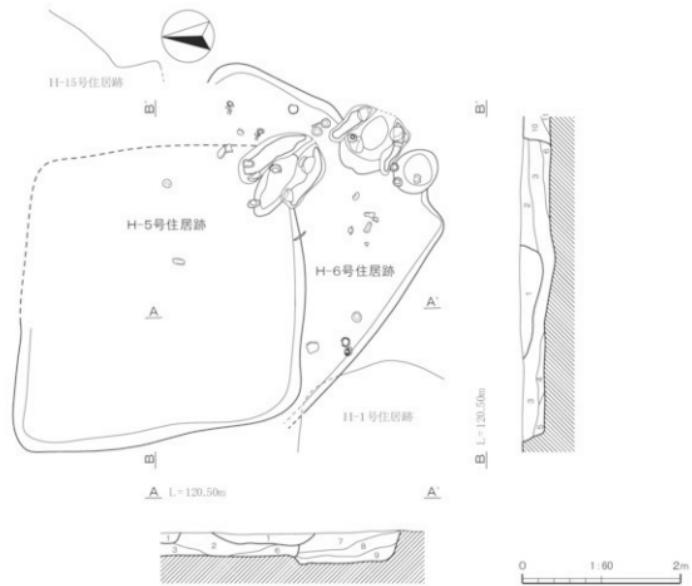


Fig. 11 H-4・7号住居跡

**H-5・6号住居跡土層説明**

- 暗褐色土：A s - B ϕ 0.2 cm多量含む。しまり弱。粘性弱。土坑埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量。堆土・炭化粧造含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm。ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm。ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量。炭化粧造含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。

- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒・炭化粧造少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-5住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-6住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-6住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-6住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量。炭化粧造含む。しまりあり。粘性やや弱。H-6住埋没土。
- 暗褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量。ローム粒少量。炭化粧造含む。しまりあり。粘性やや弱。H-15住埋没土。

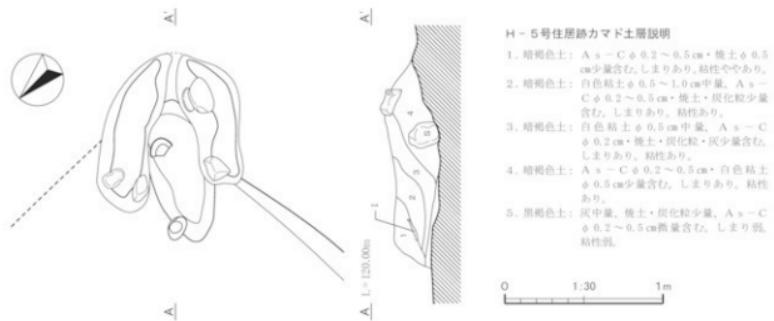


Fig. 12 H-5・6号住居跡

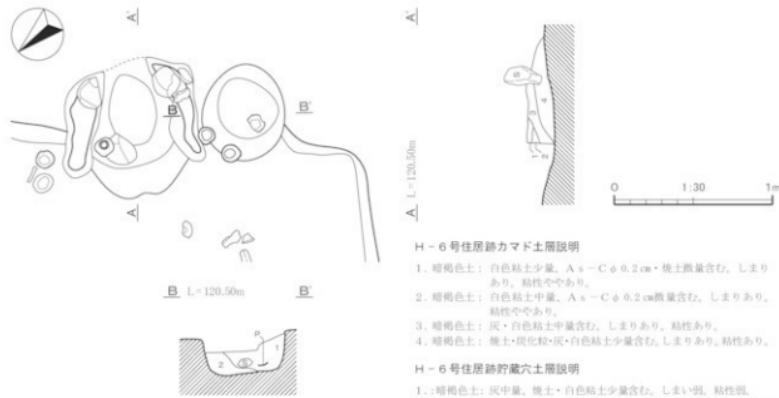


Fig. 13 H-6号住居跡カマド

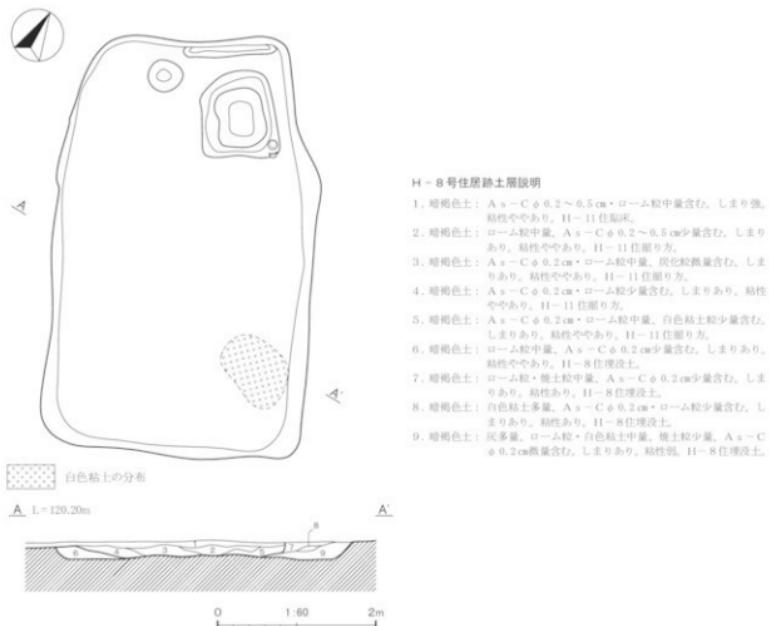
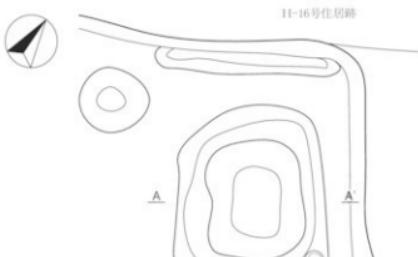


Fig. 14 H-8号住居跡



A L=120.00m A'

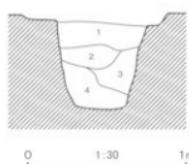
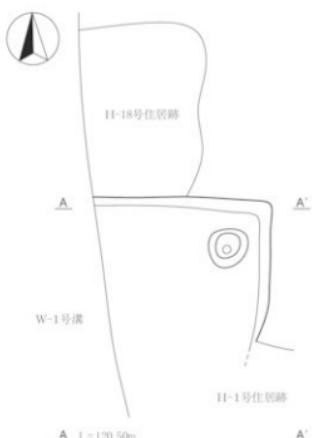


Fig. 15 H-8号住居跡貯蔵穴



A L=120.50m A'

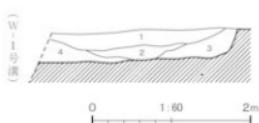


Fig. 16 H-9号住居跡

H-8号住居跡貯蔵穴土層説明

1. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量含む。しまり弱。粘性ややあり。
2. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
3. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまり弱。粘性やや弱。
4. 粘褐色土：ローム粒少量。A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm微量含む。しまり弱。粘性弱。

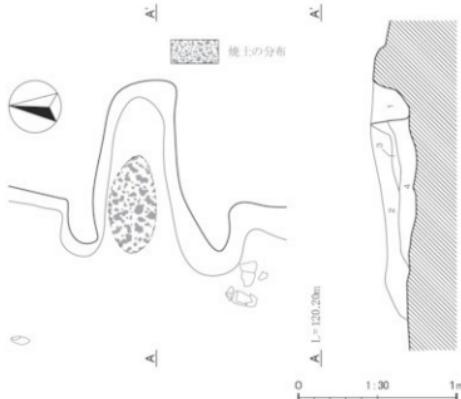
H-9号住居跡土層説明

1. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 粘褐色土：ローム粒中量。A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 粘褐色土：A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5cm ローム粒中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。



H-10号住居跡土層説明

1. 喻褐色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量, ローム粒・鐵・鐵土・炭化粧少含む。しまりあり, 粘性ややあり。
2. 喻褐色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒中量含む。しまりあり, 粘性ややあり。
3. 喻褐色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒中量, 鐵化和微量含む。しまりあり, 粘性ややあり。
4. 喻褐色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒中量含む。しまりあり, 粘性ややあり。
5. 喻褐色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒少量含む。しまりあり, 粘性ややあり。
6. 喻褐色土: ローム粒中量, 鐵土少量含む。しまりあり, 粘性ややあり。



H-10号住居跡カマド土層説明

1. 喻褐色土: $A_s - B \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$, $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 鐵土・鐵少含む。しまりあり, 粘性やや弱い, ピットの痕観。
2. 喻褐色土: ローム粒・白色粘土・中量, $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 鐵土中量含む。しまりあり, 粘性ややあり。
3. 喻褐色土: 鐵土多量, $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒少含む。しまりあり, 粘性ややあり。
4. 喻褐色土: 灰中量, $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 鐵土・白色粘土少含む。しまりあり, 粘性ややあり。

Fig. 17 H-10号住居跡

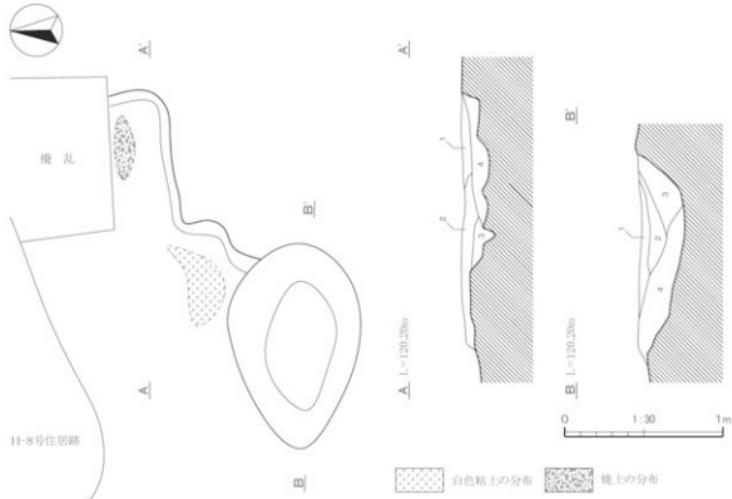


Fig. 18 H-11号住居跡

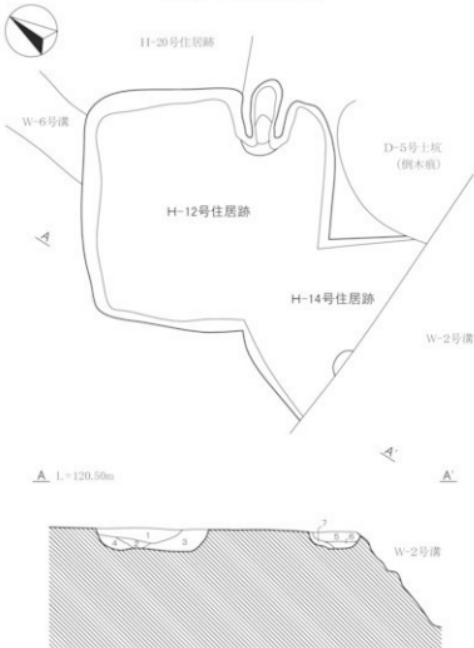


Fig. 19 H-12・14号住居跡

H-11号住居跡カマド土層説明

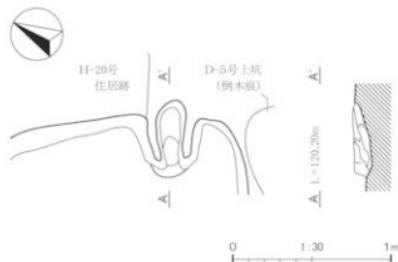
1. 基褐色土：燒土・白色粘土少量・炭化物・灰少量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 基褐色土：ローム粒・燒土・灰中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少額含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒・燒土少額含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 基褐色土：ローム粒中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少額含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-11号住居跡貯藏穴土層説明

1. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・少額含む。しまりあり。粘性やややあり。
3. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒少額・白色粘土少額含む。しまりあり。粘性やややあり。
4. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・白色粘土少額含む。しまりあり。粘性やややあり。

H-12・14号住居跡土層説明

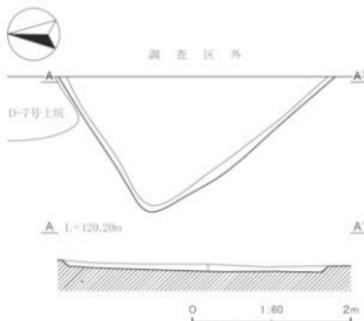
1. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・少額含む。しまりあり。粘性ややあり。H-12住居段土。
2. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒少額含む。しまりあり。粘性ややあり。H-12住居段土。
3. 基褐色土：ローム粒多量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少額含む。しまりあり。粘性やややあり。H-12住居段土。
4. 基褐色土：A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒少額含む。しまりあり。粘性ややあり。H-14住居段土。
5. 基褐色土：ローム粒中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少額含む。しまりあり。粘性やややあり。H-14住居段土。
6. 基褐色土：ローム粒少量。A s - C ϕ 0.2cm少額含む。しまりあり。粘性ややあり。H-14住居段土。
7. 基褐色土：ローム粒中量。A s - C ϕ 0.2cm少額含む。しまりあり。粘性ややあり。H-14住居段土。



H-12号住跡カマド土層説明

1. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・礫土・灰・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 培育色土: 稲土多量、灰中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・礫土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

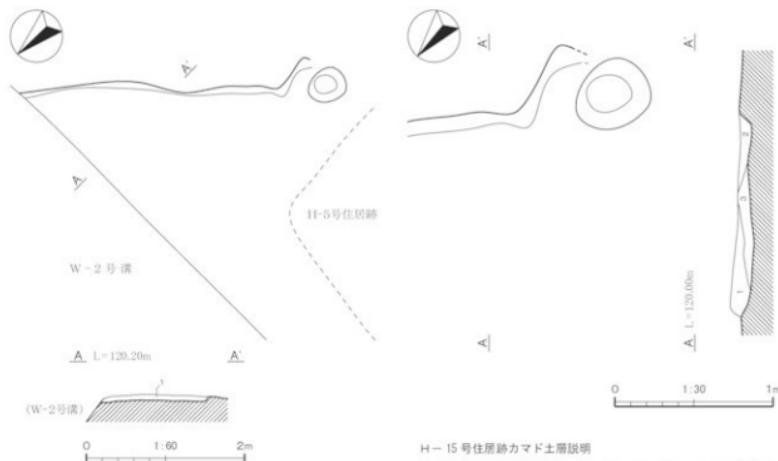
Fig. 20 H-12号住跡カマド



H-13号住跡カマド土層説明

1. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 21 H-13号住跡



H-15号住跡カマド土層説明

1. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-15号住跡カマド土層説明

1. 培育色土: 白色粘土中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・礫土少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・礫土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 培育色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・礫土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 22 H-15号住跡

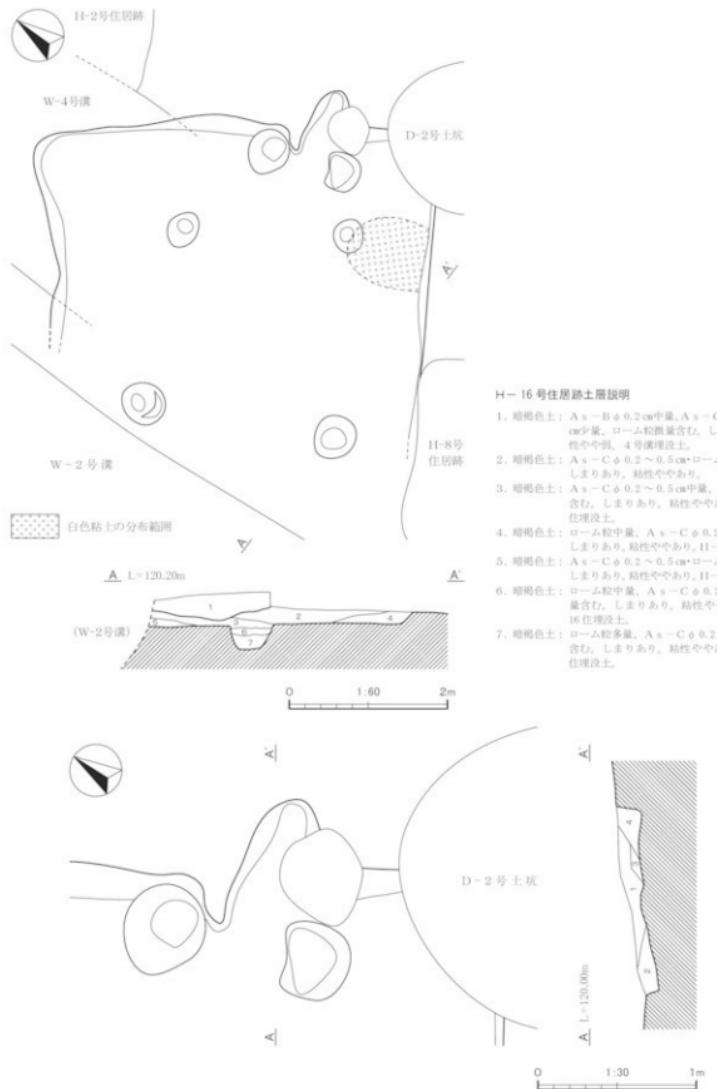


Fig. 23 H-16号住居跡

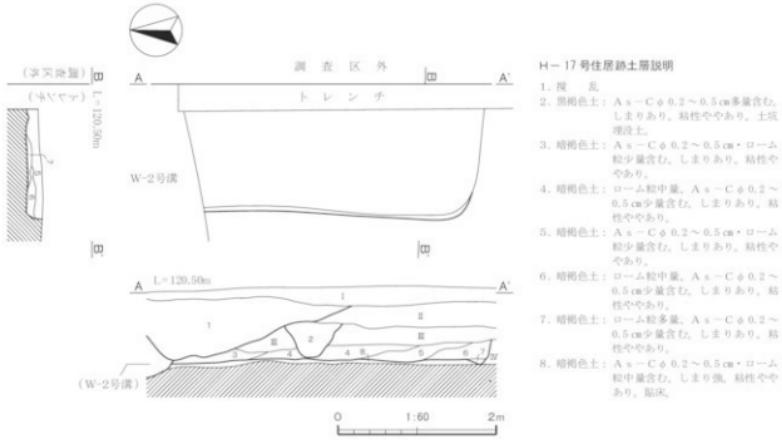


Fig. 24 H-17号住居跡

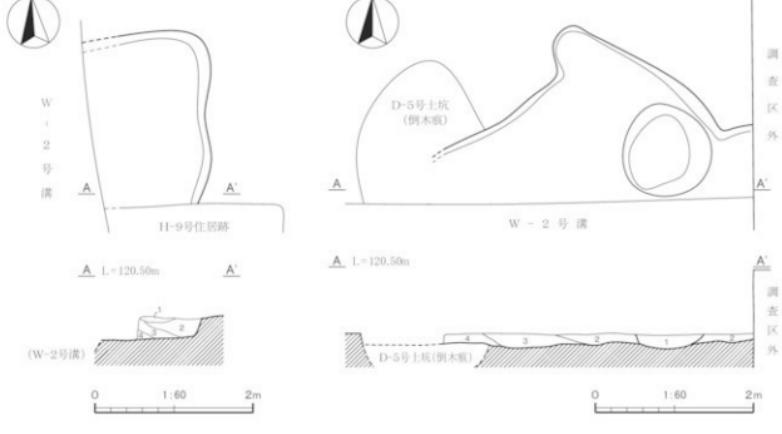


Fig. 25 H-18号住居跡

Fig. 26 H-19号住居跡

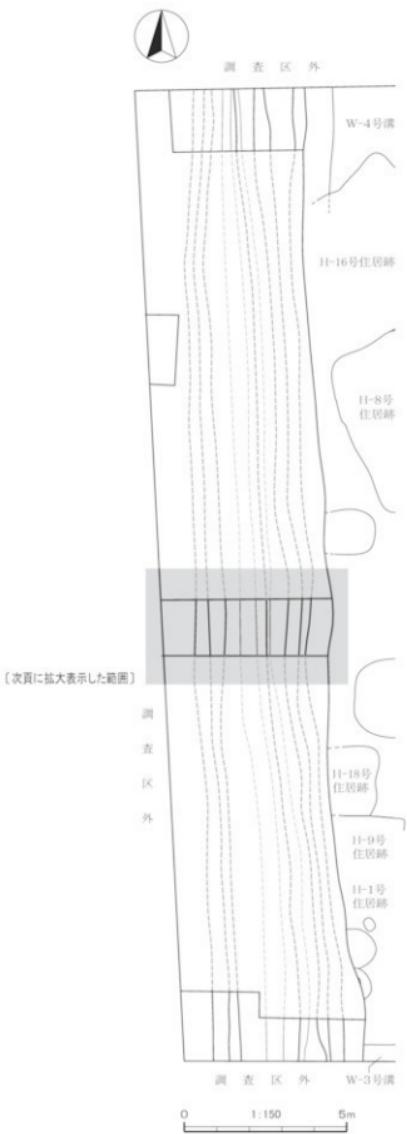
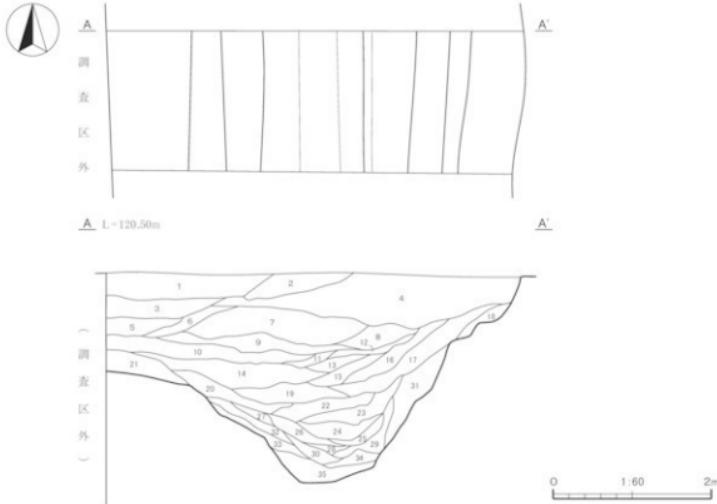


Fig. 27 W-1号溝



W-1号溝土層説明

1. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量。炭化鉄微少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量。小量の0.5cm・炭化鉄微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム少量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5
cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 基岩土：ローム粒中量。A - B ϕ 0.2 cm中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量。ローム粒中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 cm・ローム粒少含む。
しまりあり。粘性ややあり。
11. 基岩土：ローム粒中量。A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 cm少
量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒中量。A - C ϕ 0.2 cm少
量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量。A - B
 ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少含む。しまりあり。
粘性ややあり。
14. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm・A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少含む。しまりあり。
粘性ややあり。
15. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm・A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少含む。炭化鉄微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
16. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm・A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少含む。しまりあり。
粘性ややあり。
17. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 20.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量。A - B ϕ 0.2 cm微量含
む。しまりあり。粘性ややあり。
18. 基岩土：ローム粒多量。A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5
cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量。A - B ϕ 0.2 cm微量含
む。しまりあり。粘性ややあり。
20. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量。ローム粒少
量。A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
21. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少含む。しまりあり。
22. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm多量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒少
量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
26. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性や
やあり。
27. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm・A - C ϕ 0.2 cm・ロ
ーム粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
28. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 5.0 cm・ローム粒少量含
む。しまりあり。粘性ややあり。
29. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 30.0 cm中量。A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性
ややあり。
30. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少含む。絶粒砂層ブ
ロック(白) ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量。しまりあり。粘性ややあり。
31. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 2.0 cm微量含む。
A - C ϕ 0.2 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
32. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・A - B ϕ 0.2 cm・ロ
ーム粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
33. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 cm中量。A - C ϕ 0.2 cm
・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
34. 基岩土：絶粒砂層ブロック(白) ϕ 0.5 ~ 3.0 cm多量。A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少含む。しまりあり。粘性ややあり。
35. 基岩土：小塊の0.5 ~ 1.0 cm多量。絶粒砂層ブロック(白)
 ϕ 0.5 ~ 2.0 cm中量。A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm微量含む。
しまり強。粘性99%。

Fig. 28 W-1号溝（土層説明）

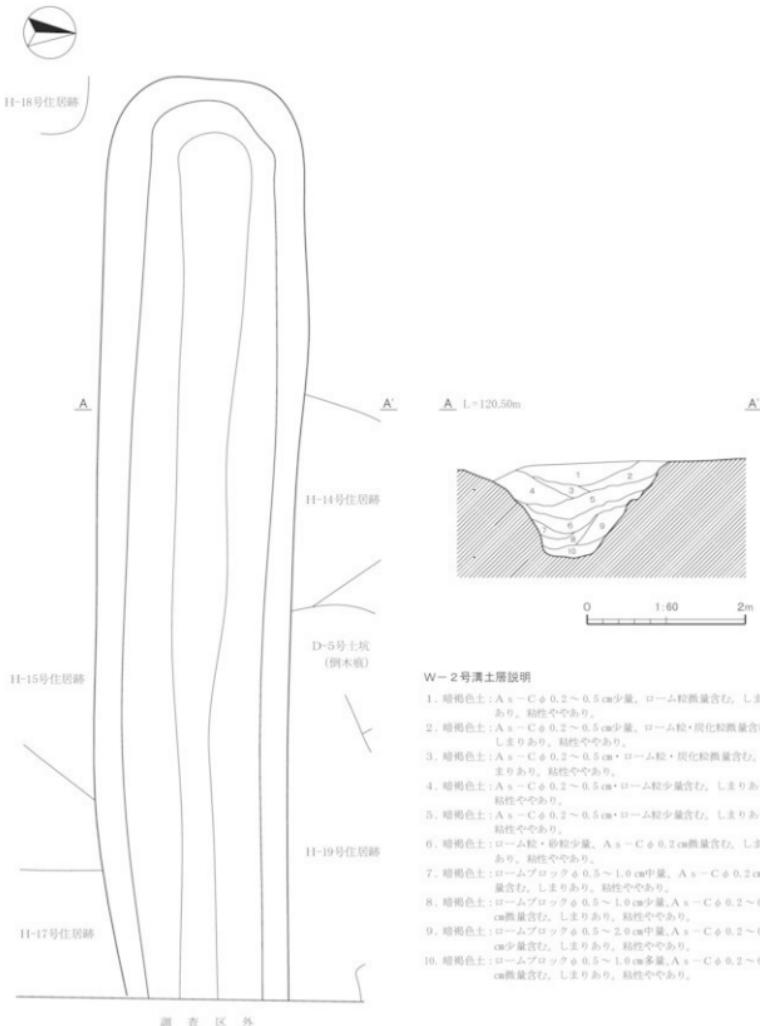


Fig. 29 W-2号溝

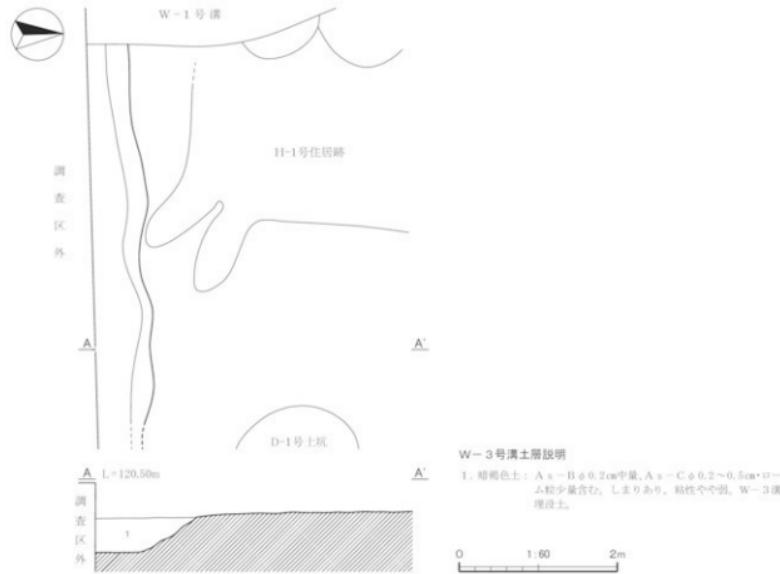


Fig. 30 W-3号溝

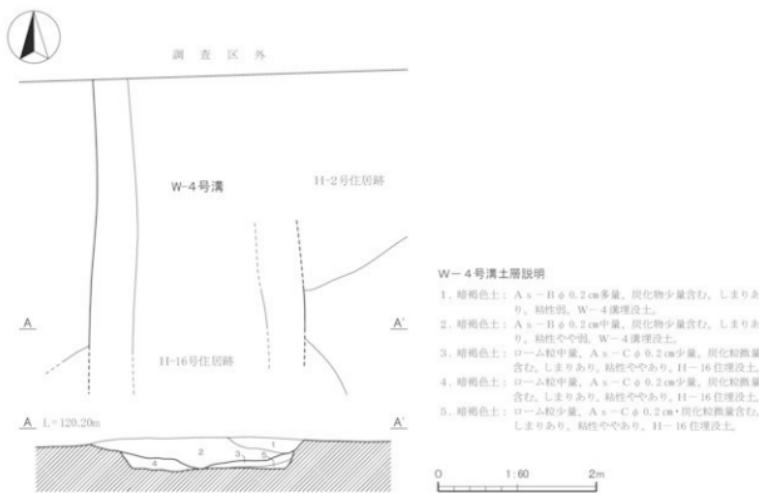


Fig. 31 W-4号溝

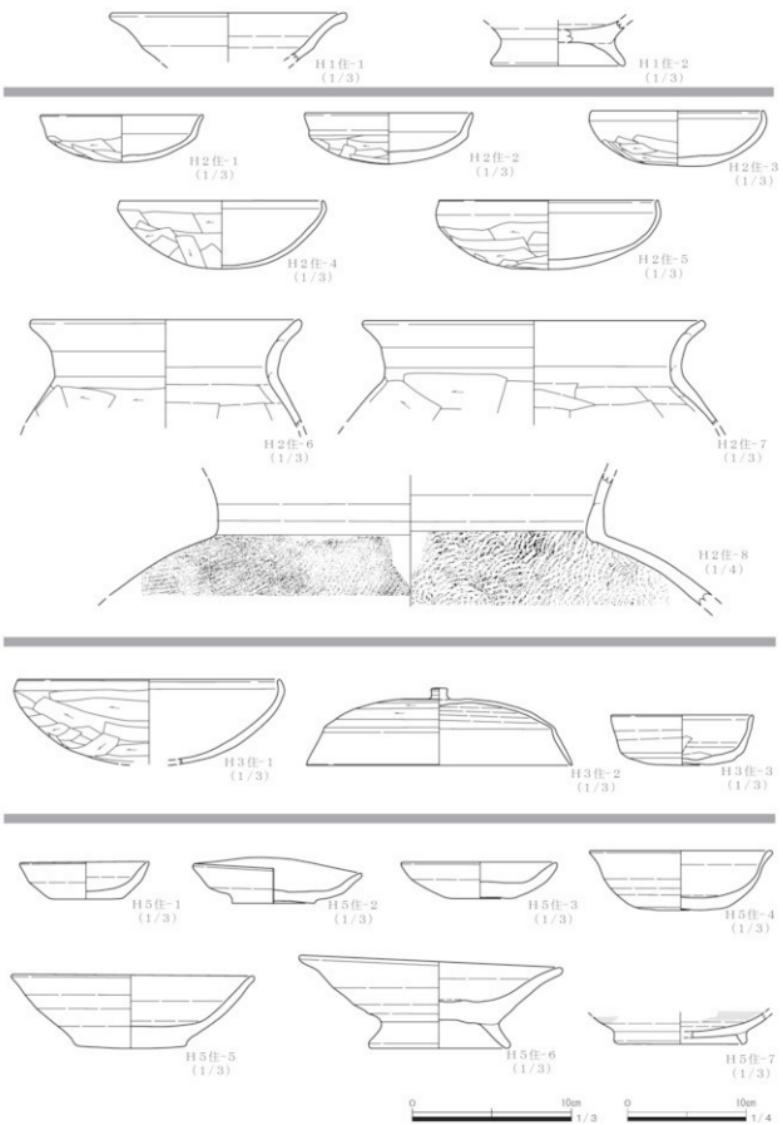


Fig. 32 23 地点出土遺物①

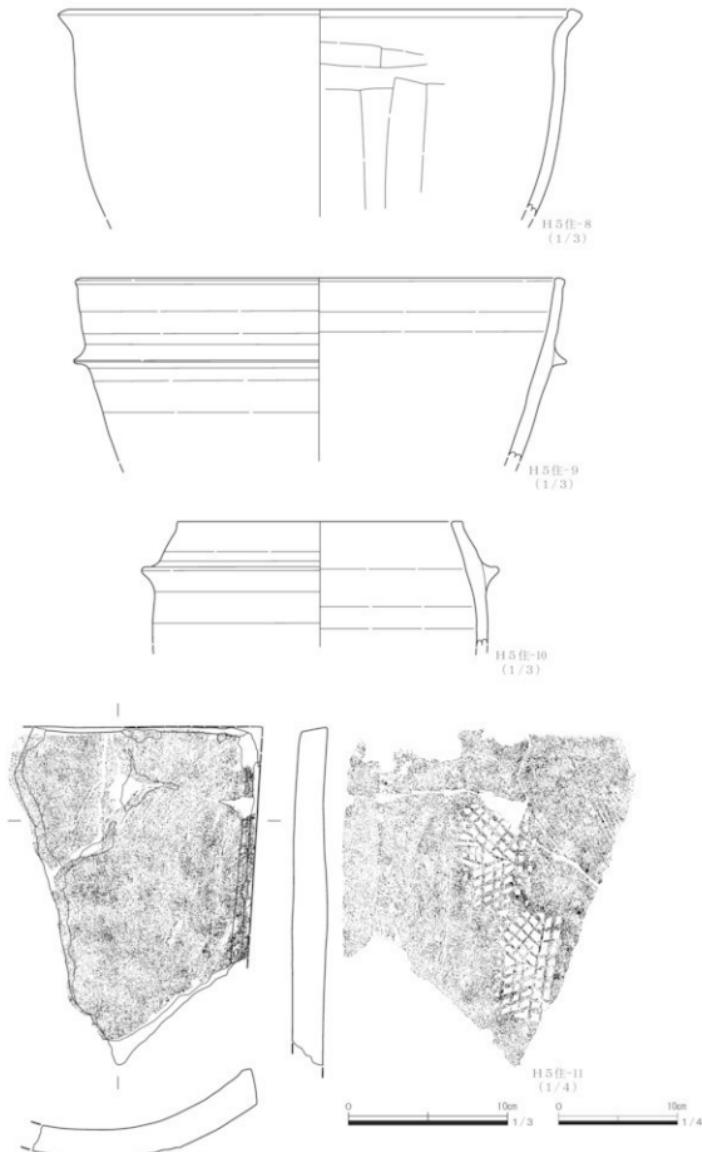


Fig. 33 23 地点出土遺物②



Fig. 34 23 地点出土遺物③

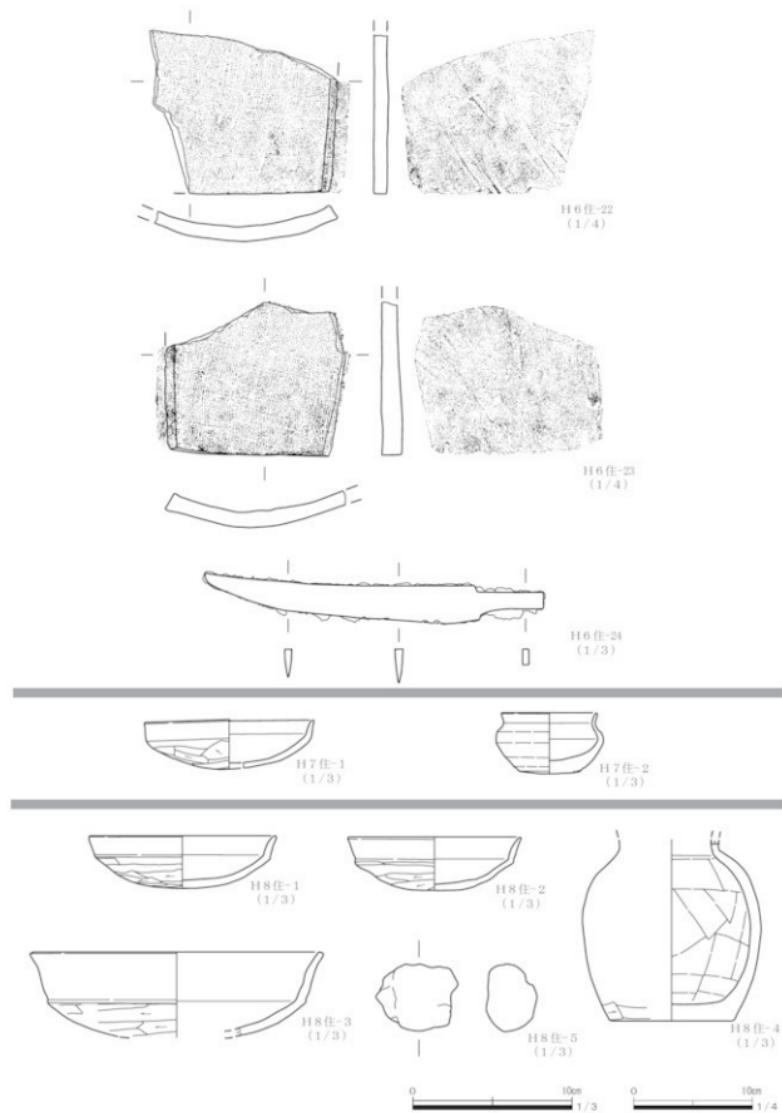


Fig. 35 23 地点出土遗物④

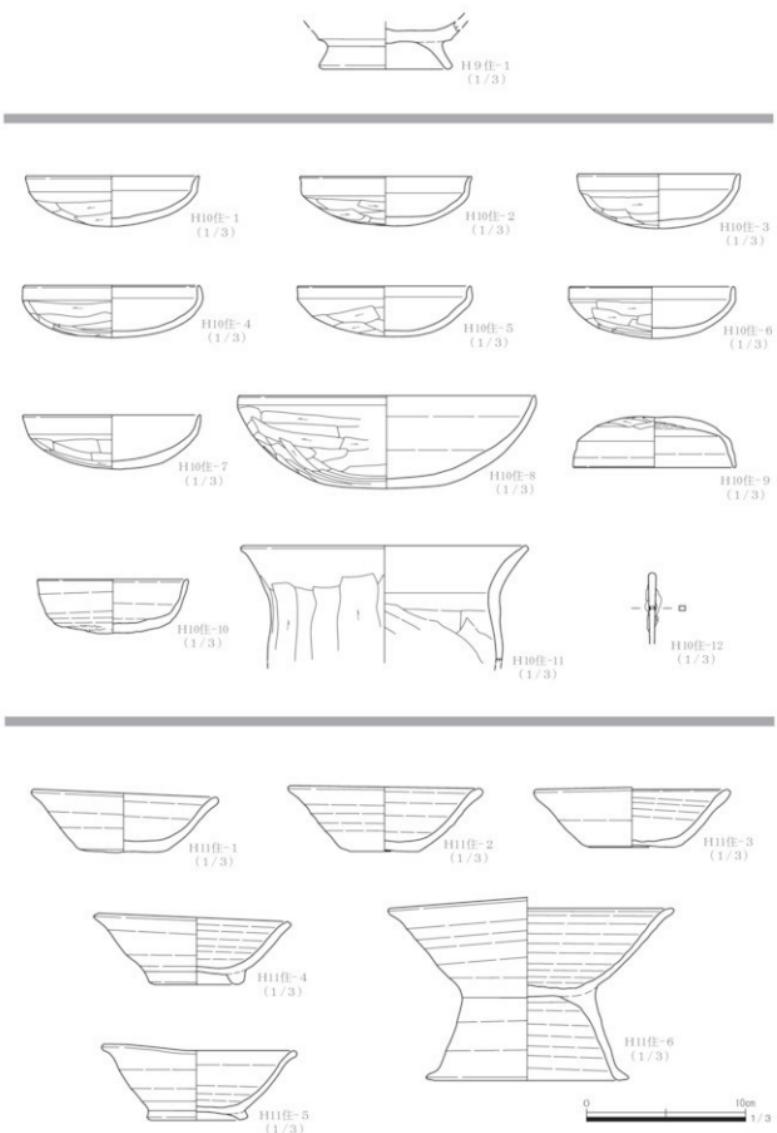


Fig. 36 23 地点出土遺物⑤

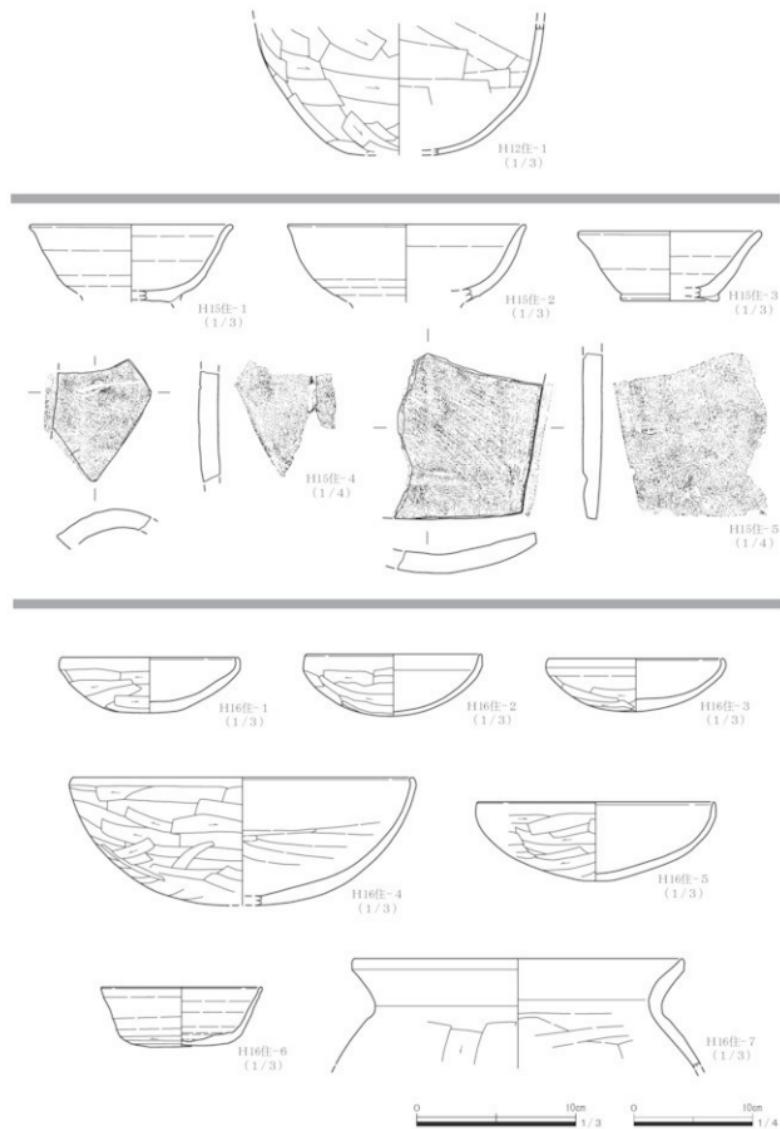


Fig. 37 23 地点出土遗物⑥

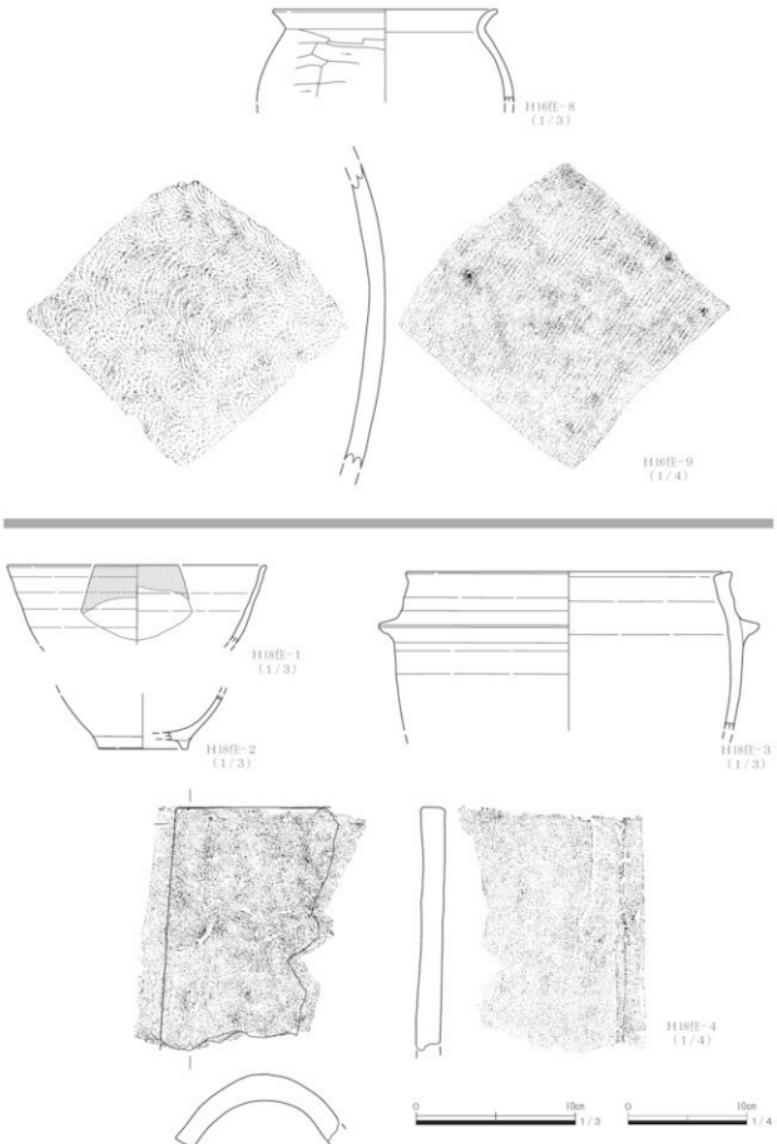


Fig. 38 23 地点出土遺物⑦

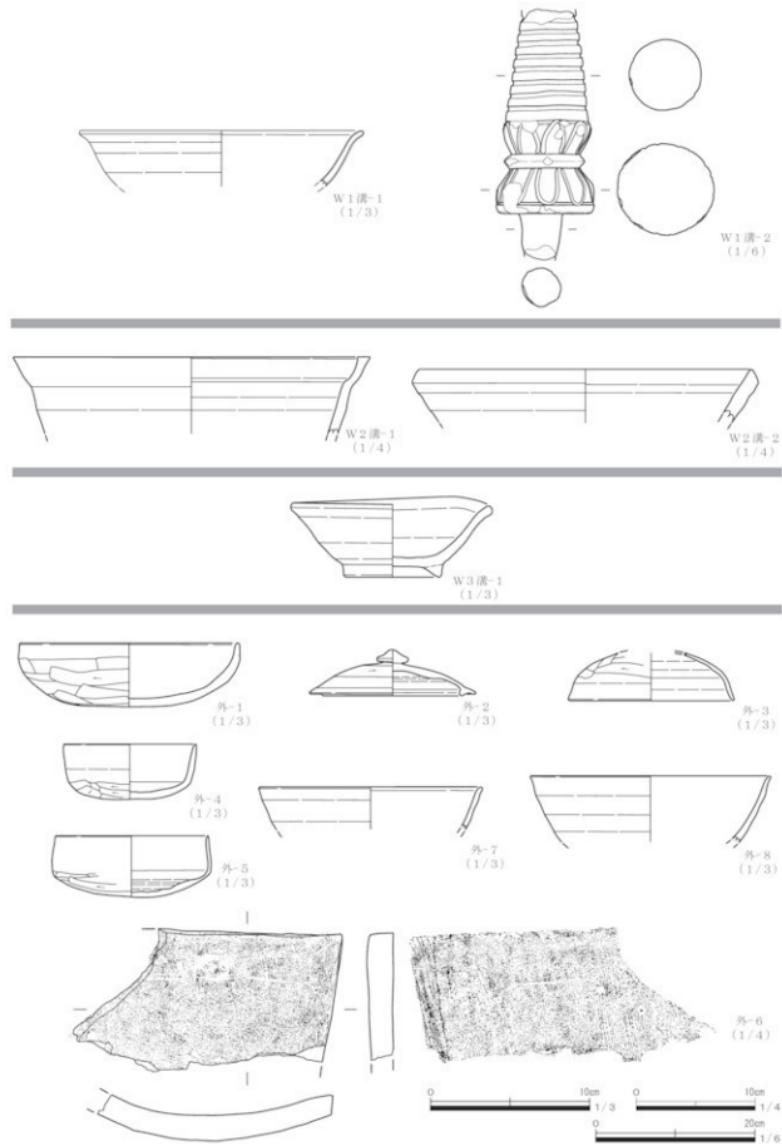


Fig. 39 23 地点出土遺物⑤

Tab. 4 23 地点出土遺物観察表①

H-1号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径(14.6) 底径 — 器高 —	①焼成 ②に赤い褐色 ③白色粒・角閃石・繊維 ④口縁部～体部1/6	外面 軸轆整形、 内面 軸轆整形。	
2	須恵器 碗	口径 — 底径(8.2) 器高 —	①焼成 ②に赤い褐色 ③白色粒・角閃石・繊維 ④体部～蓋台部1/2	外面 軸轆整形、底部回転糸切り。 内面 軸轆整形。	

H-2号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径 10.2 底径 — 器高 3.0	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石・雲母 ④7/8	外面 口縁部横擴で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
2	土師器 环	口径 10.5 底径 — 器高 3.2	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石 ③/5	外面 口縁部横擴で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
3	土師器 环	口径 10.8 底径 — 器高 3.5	①普通 ②褐 ③角閃石・雲母 ③/4	外面 口縁部横擴で、体部上位撫で、体部下位～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
4	土師器 环	口径(12.8) 底径 — 器高 4.3	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石・雲母 ④2/3	外面 口縁部横擴で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
5	土師器 环	口径(13.8) 底径 — 器高 4.4	①普通 ②褐 ③角閃石・雲母 ③/5	外面 口縁部横擴で、体部上位撫で、体部下位～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
6	土師器 甕	口径 16.8 底径 — 器高 —	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位残存	外面 口縁部横擴で、胴部上位削り。 内面 口縁部横擴で、胴部上位削で。	
7	土師器 甕	口径 21.3 底径 — 器高 —	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位2/3	外面 口縁部横擴で、胴部上位削り。 内面 口縁部横擴で、胴部上位削で。	
8	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①深元 ②灰 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部下位～胴部上位1/8	外面 軸轆整形、胴部平打き。 内面 軸轆整形、青海波文。	

H-3号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径(16.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②に赤い褐色 ③白色粒・角閃石 ④1/3	外面 口縁部横擴で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削で。	
2	須恵器 蓋	口径 16.7 縫合 1.0 器高 4.9	①深元 ②灰 ③白色粒・黑色粒 ④1/3	外面 軸轆整形、天井部右回転削り。 内面 軸轆整形。	
3	須恵器 环	口径 8.9 底径 6.8 器高 3.2	①深元 ②灰 ③白色粒・繊維 ④口縁部下位～胴部上位	外面 軸轆整形、底部回転糸切り後削で。 内面 軸轆整形、底部削で。	

H-5号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 8.1 底径 4.6 器高 2.4	①酸化 ②褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～一部欠損	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
2	須恵器 环	口径 10.5 底径 5.2 器高 2.9	①酸化 ②褐 ③白色粒 ④口縁部～一部欠損	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
3	須恵器 环	口径 9.7 底径 4.5 器高 2.3	①酸化氣味 ②橙～灰黃色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部～一部欠損	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
4	須恵器 环	口径(11.4) 底径 5.8 器高 3.8	①深元 ②黒褐 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
5	須恵器 环	口径 15.2 底径 7.0 器高 4.7	①酸化氣味 ②に赤い褐色～黒褐 ③白色粒・黒色粒 ④口 縁部～一部欠損	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	

Tab. 5 23 地点出土遺物観察表②

H-5号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
6	須恵器 瓢	口径 16.5 底径 8.6 器高 5.9	①酸化 ②明赤褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸縦型形、底部回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
7	灰釉陶器 瓢	口径 一 底径 (7.8) 器高 一	①還元 ②灰白 ③白色粒 ④体部下位～高台部 1/4	外面 軸縦型形、底部回転糸切り。 内面 軸縦型形。 釉は薄掛け。	
8	須恵器 土釜	口径 (31.6) 底径 一 器高 一	①酸化気味 ②黒褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～脚部上位 1/5	外面 錫面光沢調無明瞭。 内面 口縁部～脚部強眞で。	
9	須恵器 羽釜	口径 (30.0) 底径 一 器高 一	①酸化気味 ②灰褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～脚部上位 1/5	外面 軸縦型形。 内面 軸縦型形、脚部強眞で。	
10	須恵器 羽釜	口径 (18.0) 底径 一 器高 一	①酸化 ②灰褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～脚部上位 1/5	外面 軸縦型形。 内面 軸縦型形。	
11	瓦 平瓦	厚さ 3.0	①還元 ②明褐色 ③白色粒 ④広端部右側	背面 細切り痕、布目痕、鉛撫で、端端部面取り。 凸面 格子目きみ、鉛撫で。侧面 鉛撫で。狭端部 鉛撫で。	

H-6号住居跡③

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 12.2 底径 6.0 器高 4.2	①酸化気味 ②にほい黄褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
2	須恵器 环	口径 12.1 底径 5.1 器高 4.6	①酸化気味 ②にほい黄褐色 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
3	須恵器 环	口径 11.8 底径 5.8 器高 4.5	①還元 ②暗褐色 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
4	須恵器 环	口径 11.5 底径 6.2 器高 4.0	①還元 ②灰～灰黃褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④ほぼ完形	外面 軸縦型形、底部左回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
5	須恵器 环	口径 10.9 底径 5.7 器高 4.2	①酸化気味 ②灰黃褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④口縁部一欠損	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
6	須恵器 环	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.1	①酸化気味 ②にほい黄褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④7/8	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
7	須恵器 环	口径 11.5 底径 5.8 器高 3.6	①酸化気味 ②にほい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石・雲母 ④3/4	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
8	須恵器 环	口径 14.0 底径 5.6 器高 6.4	①酸化気味 ②黒褐色 ③白色粒・雲母 ④5/6	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
9	須恵器 瓢	口径 11.8 底径 5.3 器高 4.8	①酸化気味 ②にほい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
10	須恵器 瓢	口径 11.1 底径 6.0 器高 4.3	①酸化気味 ②灰～灰黃褐色 ③白色粒・角閃石・雲母・繩 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
11	須恵器 瓢	口径 12.0 底径 6.2 器高 4.8	①酸化気味 ②にほい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石・雲母 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
12	須恵器 瓢	口径 11.6 底径 5.4 器高 4.9	①酸化気味 ②灰～灰黃褐色 ③白色粒・雲母・繩 ④ほぼ完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
13	須恵器 瓢	口径 12.0 底径 4.9 器高 4.8	①酸化気味 ②黒褐色～にほい黄褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
14	須恵器 瓢	口径 12.0 底径 5.2 器高 4.9	①酸化気味 ②にほい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石・雲母 ④ほぼ完形	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
15	須恵器 瓢	口径 12.1 底径 5.8 器高 5.2	①還元 ②灰 ③白色粒・右英・繩 ④9/10	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	
16	須恵器 瓢	口径 12.5 底径 5.6 器高 5.0	①還元 ②灰 ③白色粒・右英・繩 ④3/4	外面 軸縦型形、底部右回転糸切り。 内面 軸縦型形。	

Tab. 6 23 地点出土遺物観察表③

H-6号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
17	須恵器 瓢	口径 12.0 底径 6.0 器高 4.8	①醸化気味 ②にぶい黄褐色 灰 ③白色粒・繩 ④7/8	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
18	須恵器 瓢	口径 11.7 底径 5.6 器高 4.3	①醸化気味 ②黄灰～暗灰 ③白色粒・石英・繩 ④3/5	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
19	須恵器 瓢	口径 (12.0) 底径 5.3 器高 4.6	①醸化気味 ②灰～にぶい灰 ③白色粒・角閃石・繩 ④2/3	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
20	須恵器 瓢	口径 (11.8) 底径 5.4 器高 5.0	①深元 ②黄灰～暗灰 ③白色粒・角閃石・石英・繩 ④3/5	外面 軸轆整形、底部回転撲で。 内面 軸轆整形。	
21	須恵器 羽釜	口径 (18.8) 底径 一 器高 一	①深元 ②灰白～暗灰黃 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～脚部中位 1/5	外面 軸轆整形。 内面 軸轆整形。	
22	瓦 平瓦	厚さ 1.4	①深元 ②褐 ③白色粒 ④抉端部右侧	前面 布目庄痕。凸面 斜縫位施撲で。側面 施撲で。 後端部 摘撲で。	
23	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①深元 ②褐 ③白色粒 ④抉端部左侧	前面 布目庄痕。凸面 斜縫位施撲で。側面 施撲で。 後端部 摘撲で。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
24	鉄製品 刀子	長さ 21.4 両部長 17.5 幅 2.15 厚さ 0.5 基部長 3.9 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 79.7 g			

H-7号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坪	口径 10.6 底径 一 器高 3.2	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石・雲母 ④完形	外面 口縁部横撲で、体部上位撲で、体部～底部鉛削り。底部中央に焼成前の円孔、径 1.4 cm。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	
2	須恵器 小形壺	口径 6.0 底径 3.9 器高 3.9	①深元 ②灰白～灰 ③白色粒・黒色粒 ④4/5	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り撲で。 内面 軸轆整形。	

H-8号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坪	口径 11.8 底径 一 器高 3.4	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④7/8	外面 口縁部横撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	
2	土師器 坪	口径 (10.8) 底径 一 器高 3.4	①普通 ②褐～明褐 ③白色粒・角閃石 ④1/2	外面 口縁部横撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	
3	土師器 坪	口径 (18.0) 底径 一 器高 一	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④2/5	外面 口縁部横撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部横撲で、体部～底部鉛削り。	
4	土師器 盆	口径 一 底径 一 器高 一	①普通 ②にぶい黄褐色～明黄褐色 ③白色粒・雲母 ④7/8	外面 頭部～脚部表面が荒れ調整不分明瞭、脚部下位～底部鉛削り。 内面 頭部～底部鉛削り。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
5	土玉	長さ 4.2 幅 4.7 厚さ 3.0 重さ 67.6 g	赤色顔料の塊		

H-9号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 瓢	口径 7.9 底径 一 器高 3.2	①深元 ②にぶい褐～明赤褐色 ③角閃石・雲母 ④完形 ④体部下位～高台部 7/8	外面 口縁部横撲で、体部上位撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	

H-10号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坪	口径 10.8 底径 一 器高 3.2	①普通 ②褐～明赤褐色 ③角閃石・雲母 ④完形	外面 口縁部横撲で、体部上位撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	
2	土師器 坪	口径 10.8 底径 一 器高 3.1	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 口縁部横撲で、体部～底部鉛削り。 内面 口縁部～体部横撲で、底部撲で。	

Tab. 7 23 地点出土遺物観察表④

H- 10号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	土師器 环	口径 10.2 底径 - 器高 3.5	①普通 ②灰 ③白色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
4	土師器 环	口径 11.0 底径 - 器高 3.3	①普通 ②明赤 ③角閃石 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
5	土師器 环	口径 10.9 底径 - 器高 3.2	①普通 ②にぶい橙 ③角閃石 ④ほぼ完形	外面 口縁部横撫で、体部上位撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
6	土師器 环	口径 10.3 底径 - 器高 3.3	①普通 ②灰 ③角閃石 ④5/6	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
7	土師器 环	口径 11.2 底径 - 器高 3.4	①普通 ②灰 ③角閃石 ④4/5	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
8	土師器 环	口径 (18.6) 底径 - 器高 5.6	①普通 ②明赤 ③白色粒・纏 ④1/4	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
9	須恵器 盖	口径 10.2 横幅 3.2	①還元 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面 軸輪形容、天井部手持ち鉗削り。 内面 軸輪形容。	
10	須恵器 环	口径 9.4 底径 - 器高 3.4	①還元 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④5/6	外面 軸輪形容、底部右回転鋸切り。 内面 軸輪形容。	
11	土師器 甕	口径 (17.8) 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・ 石英 ④口縁部～胴部上位 1/2	外面 口縁部横撫で、胴部削り。 内面 口縁部横撫で、胴部削り。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
12	食器品 剤	保存長 4.6 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 3.8 g			

H- 11号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 11.5 底径 5.6 器高 4.0	①還元 ②灰灰～にぶい黄 ③白色粒・雲母 ④ほぼ完形	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
2	須恵器 环	口径 11.9 底径 4.4 器高 4.2	①還元 ②灰黄～にぶい黄 ③白色粒・角閃石 ④完形	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
3	須恵器 环	口径 (12.1) 底径 5.8 器高 3.8	①還元 ②灰灰～黄 ③白色粒・雲母 ④3/5	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
4	須恵器 碗	口径 11.9 底径 5.2 器高 4.5	①還元 ②灰灰～灰黄 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
5	須恵器 碗	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.8	①酸化気味 ②にぶい橙～灰 ③白色粒・纏 ④4/5	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
6	須恵器 碗	口径 (17.9) 底径 11.6 器高 11.6	①酸化気味 ②にぶい橙～灰 ③白色粒・纏 ④3/4	外面 軸輪形容、底部回転撫で。	

H- 12号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②灰 ③角閃石・纏 ④胴部中位～底部 3/5	外面 脇部～底部削り。 内面 脇部～底部撫で。	

H- 15号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 (12.6) 底径 - 器高 -	①酸化 ②にぶい黄～にぶい 黄 ③白色粒 ④口縁部～底部 1/2	外面 軸輪形容、底部右回転糸切り。 内面 軸輪形容。	
2	須恵器 碗	口径 (15.0) 底径 - 器高 -	①酸化 ②にぶい黄 ③褐色粒 ④口縁部～底部下位 1/4	外面 軸輪形容。 内面 軸輪形容。	

Tab. 8 23 地点出土遺物観察表⑤

H-15号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 碗	口径(11.2) 底径(6.0) 器高 4.4	①酸化 ②にぶい橙～にぶい黄 黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④1/8	外面 軸轆整形。 内面 軸轆整形。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 1.6	①澤元 ②黄褐色 ③白色粒 ④側端部	背面 布目圧痕。 凸面 壁位捺撫で、縦気あり。側面 紋撫で。	
5	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①澤元 ②灰白 ③白色粒・繩 ④狭端部右側	背面 細切り板、布目圧痕、側端部捺撫で。 凸面 檻位捺撫で。側面 紋撫で。狭端部 紋撫で。	

H-16号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 11.1 底径 一 器高 3.5	①普通 ②橙 ③褐色粒・繩 ④白色粒・角閃石 ⑤ほぼ完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
2	土師器 壺	口径 11.0 底径 一 器高 3.9	①普通 ②橙 ③褐色粒・繩 ④2/3	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
3	土師器 壺	口径(11.0) 底径 一 器高 3.4	①普通 ②橙 ③褐色粒・繩 ④白色粒・角閃石 ⑤2/5	外面 口縁部横撫で、体部上部撫で、体部～底部削り削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
4	土師器 壺	口径 21.6 底径 一 器高 8.1	①普通 ②橙 ③繩 ④3/4	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り削り。 内面 口縁部横撫で、体部削り削り、底部撫で。	
5	土師器 壺	口径(14.9) 底径 一 器高 5.0	①普通 ②橙 ③白色粒・角閃石・雲母・繩 ④2/5	外面 口縁部横撫で、体部～底部削り削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
6	須恵器 壺	口径 10.0 底径 4.0 器高 3.8	①澤元 ②灰～黃灰 ③白色粒 ④3/4	外面 軸轆整形。底部右側転削り後右回転削り。 内面 軸轆整形。	
7	土師器 甕	口径(29.7)	①普通 ②にぶい黒 ③白色粒・片岩・繩 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面 口縁部横撫で、胴部削り削り。 内面 口縁部横撫で、胴部削り削り。	
8	土師器 甕	口径(14.0) 底径 一 器高 一	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面 口縁部横撫で、胴部削り削り。 内面 口縁部横撫で、胴部削り削り。	
9	須恵器 甕	口径 一 底径 一 器高 一	①澤元 ②灰 ③白色粒・繩 ④胴部中位破片	外面 脊部平行印き。 内面 青海波文。	

H-18号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰陶器 碗	口径(16.4) 底径 一 器高 一	①澤元 ②灰白 ③白色粒 ④口縁部～胴部破片	外面 軸轆型形。 内面 軸轆型形。 縫は溝掛け。	
2	須恵器 碗	口径 一 底径(5.6) 器高 一	①澤元 ②にぶい黄 ③白色粒・雲母 ④胴部～胴部上位 1/4	外面 軸轆型形。 内面 軸轆型形。	
3	須恵器 羽釜	口径(20.4)	①酸化 ②明褐 ③白色粒・雲母 ④口縁部～胴部上位 1/2	外面 軸轆型形。 内面 軸轆型形。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 2.2	①澤元 ②黒褐色 ③白色粒・繩 ④狭端部左側	背面 布目圧痕。凸面 縦位捺撫で。側面 路撫で。 狭端部 紋撫で。	

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 碗	口径(17.7) 底径 一 器高 一	①澤元 ②オリーブ灰 ④口縁部破片	外面 軸轆型形。 内面 軸轆型形。	D 1類 14世紀後半
番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴			
2	石製品	宝塚印押	相輪部、宝珠部は欠損。残存長 31.8 重さ 3600 g		備考

Tab. 9 23 地点出土遺物観察表⑥

W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 内耳鉢	口径(30.0) 底径 — 高さ —	①普通 ②にいは赤褐色、黒褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/12	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	
2	土器 鉢	口径(28.0) 底径 — 高さ —	①普通 ②灰褐色 ③白色粒・雲母 ④口縁部～胴部上位 1/12	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 12.5 底径 5.9 高さ 5.1	①酸化気味 ②にいは黄褐色～ 褐色 ③白色粒・褐色粒・繊維 ④4/5	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	

造構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径 13.7 底径 7.8 高さ 4.0	①普通 ②褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④7/8	外面 口縁部横擴で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部擴張。	
2	須恵器 直	口径 8.8 底径 2.0 高さ 2.9	①還元 ②灰白 ③白色粒・繊維 ④3/5	外面 輪縁整形、天井部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
3	須恵器 蓋	口径 (10.3) 底径 — 高さ —	①還元 ②灰白 ③白色粒 ④口縁部～天井部 1/4	外面 輪縁整形、天井部手持ち箇削り。 内面 輪縁整形。	
4	須恵器 环	口径 (8.3) 底径 — 高さ 3.5	①還元 ②にいは黄褐色 ③白色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部手持ち箇削り。 内面 輪縁整形。	
5	須恵器 环	口径 (9.6) 底径 — 高さ 3.9	①還元 ②灰白 ③白色粒・角閃石 ④2/5	外面 輪縁整形、底部手持ち箇削り。 内面 輪縁整形。	
6	瓦 平瓦	厚さ 2.2	①還元 ②灰白 ③白色粒 ④広端部右側	凹面 布目压痕、側端部鋸削で。 凸面 繩目状压痕、表面は荒 れている。 側面 鋸削で。 広端部 鋸削で。	
7	白磁 皿	口径 (14.0) 底径 — 高さ —	①還元 ②灰白 ④口縁部破片	輪縁整形。	B群
8	白磁 碗	口径 (15.0) 底径 — 高さ —	①還元 ②灰白 ④口縁部破片	輪縁整形。	B群

VI 24 地点

1 24 地点概要 (Fig. 40, P.L. 12・13)

24 地点の調査では、性格不明造構 1 基・土坑 24 基・溝 7 条・ピット 76 基が検出されており、上野国府及び蒼海城関連と想定される造構を主とした地点である。性格不明造構である S X - 1 は 7 世紀代に帰属するものと考えられる造構で、埋没土の状態等から堅穴住居跡の掘り方が僅かに残存したものと想定されるものである。土坑は調査を進めた結果、D - 2・7・9・14・22 号土坑は井戸であることが判明している。なお、D - 7 号土坑は、『元総社蒼海遺跡群 (21)』27 地点（以下、27 地点）における D - 4 号土坑と同一造構である。D - 2 号土坑は、掘削を途中であきらめている井戸で W - 1 号溝が埋没した後に掘られている。本遺跡での井戸は、硬くしまる総社砂層が基盤層となっているためか、総社砂層部分は算盤球状に掘り込む傾向が見られる。D - 2 号土坑でも、算盤球状に掘り込もうとしてみたところ、W - 1 号溝の埋没土に当たってしまったことから掘削を断念したものと考えられよう。また、D - 2 号土坑を除く他の井戸では、埋没土上位に近世以降の陶磁器片が混入する状態が認められている。しかし、下位で該期の遺物は見られないことから、一概にも近世以降の造構とはいえ

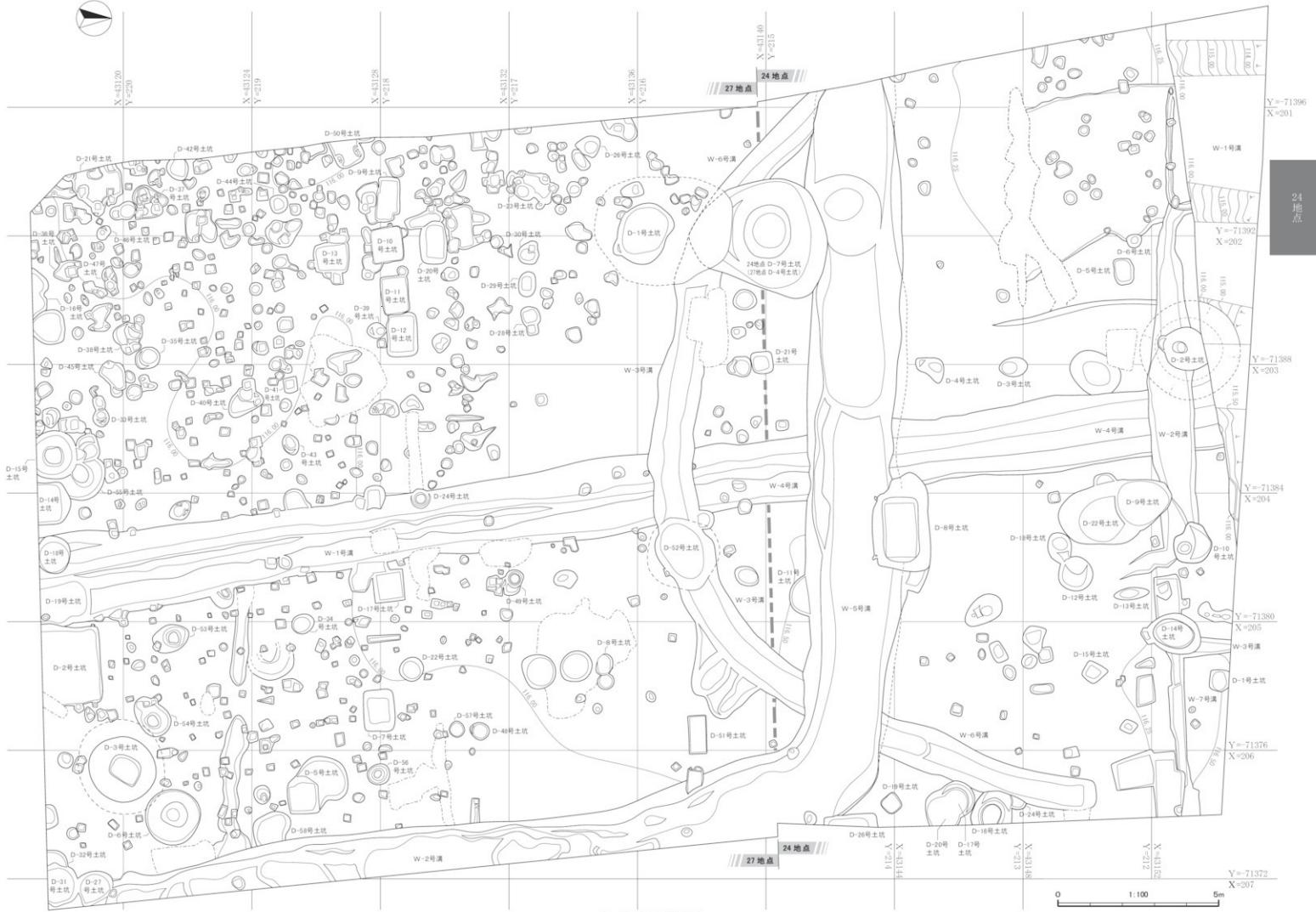


Fig. 40 24地点全图

ないものと言えよう。その他、注目すべき土坑としてD-8号土坑が挙げられる。本土坑は、W-5号溝と重複し、調査段階でW-5号溝よりも新しい遺構として捉えていたが、出土遺物と埋没土層の状況を再確認したところ、同時期に存在していた可能性があり得るものと認識を改めている。なお、D-8号土坑は平面長方形状を呈する土坑であるが、コーナー部分に杭の打ち込み痕が確認されている。D-23・25号土坑は整理調査段階で欠番としている。溝は時期不明なものを除くと、大きく平安時代・15世紀後半・15世紀後半以降の3時期に分類することができる。平安時代に帰属するものはW-4号溝で、南北方向へ直線的に走行するものである。同溝も27地点のW-1号溝と同一遺構で、長距離にわたり直線的に走行することから上野国府との関連性が指摘されるものである。15世紀後半に比定される溝はW-5号溝で同溝も27地点W-2号溝からの継続である。同溝については蒼海城古段階の堀と認識しており、埋没土層から多量のカワラケ・貿易陶磁・在地陶器・古瀬戸等が出土するとともに、炭化材・焼けた土壁の混入が見られる。溝からの炭化材・焼けた土壁の出土は、郭内の建物が火災にあったことを示すもので、焼け落ちて不要となった建物の材や家財道具を土壌とともに堀に埋めた状況が捉えられている。15世紀後半以降の溝はW-1号溝とW-6号溝(27地点W-3号溝)で、蒼海城新段階の堀と考えられる。W-1号溝は現在の地形から描かれた網張り図(山崎 1978)と一致する溝で、網張り図では本丸と二の丸を区切る堀とされている。また、W-6号溝は弧状に走行する溝で、丸馬出の可能性を有するものである。W-1号溝との位置関係を見ると、交わることはなくW-1号溝の手前13m程で立ち上がっている。

2 性格不明遺構

SX-1 (遺構: Fig. 41, P.L. 13 / 遺物: Fig. 62, Tab. 15, P.L. 18)

位置: X: 200 ~ 202, Y: 211・212 グリッド。主軸方位: 不明。重複: D-6号土坑・W-1・2号溝、ビット23基と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、D-6号土坑・W-1・2号溝より古い。ビットとの新旧関係は不明。形状: 不整長方形状を呈する。規模: (5.10)m × 4.78 m。残存深度: 0.14 m。面積: (24.38) m²。床面の状態: 細かい凸凹が顕著に見られる。また、本遺構北端では「L」字状に曲がる上端幅0.15 ~ 0.27 m、下端幅0.03 ~ 0.15 m、残存深度0.11 mを測る溝が見られ、さらに溝の中にビット(P-1~4)が等間隔に並ぶ状態が確認されている。この状況から、住居跡の重複も考えられる。遺構埋没状態: 総社砂屑ブロックを含む暗褐色を主体とした土による人が埋没と想定される。また、部分的にではあるが、焼土・炭化粒の混入も見られる。遺物出土状態: 埋没土中より土師器壺・甕・須恵器蓋の出土が見られる。時期: 7世紀前半の遺物を主とするが、7世紀後半に比定されるものと想定される遺物も混ざる。備考: 性格不明遺構としたが、堅穴住居跡の掘り方が部分的ないし重複した状態の可能性が考えられる。

3 土坑 (遺構: Tab. 10・11)

24地点において土坑は26基確認されている。調査の結果、D-2・7・9・14・22号土坑は井戸であることが判明している。また、D-8号土坑など蒼海城との関連性を有する土坑も見られることから、数基について詳細な事実記載を行うこととした。それ以外の土坑に関しては、計測値等をTab. 10に示してある。

D-2号土坑 (遺構: Fig. 42, Tab. 10, P.L. 14 / 遺物: Fig. 70, Tab. 22, P.L. 25)

位置: X: 202・203, Y: 211・212 グリッド。重複: W-1・2・4号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本土坑は重複する全ての遺構より新しい。平面形態: 円形状を呈する。規模: 確認面(1.71)m × 1.35 m。最大径(3.11)m × (3.07)m。断面形態: 上位円筒状、中～下位算盤球状。残存深度: 2.32 m。底面の状態:

緩やかに中央へ向けて傾斜し、凸凹は少ない。遺構埋没状態：焼土粒・炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。埋没土の中位よりやや下では薄い焼土層が見られる。遺物出土状態：埋没土中より白磁端反碗・馬骨等が出土している。時期：W-1号溝より新しい遺構であることから、15世紀後半以降と想定される。備考：掘削を途中であきらめた井戸跡。当時、総社砂層の硬い土質を想定して、断面算盤球状を呈する井戸を掘ったところ、井戸北側の堆積土はW-1号溝の埋没土であったことから、地耐力不足と判断し、掘削を断念したものと推測される。

D-7号土坑（遺構：Fig. 43、Tab. 11、P.L. 16・17／遺物：Fig. 70、Tab. 22、P.L. 25）

位置：X : 214・215、Y : 201・202 グリッド。重複：W-5・6号溝・『元総社蒼海遺跡（21）』27 地点D-1号土坑と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。平面形態：不整梢円形状を呈する。規模：4.30 m × 3.57 m。断面形態：ロート状を呈する。残存深度：(4.21) m。底面の状態：不明。遺構埋没状態：埋没土の上位では近世以降の遺物出土が目立つが、中位以下には総社砂層ブロックが多量に含まれる。本遺構は井戸跡であるが、この埋没状況は地下式坑の埋没状況と類似していることから、D-2号土坑で見られるような断面算盤球状の掘り込みがあったことが推測される。埋没土中に入る多量の総社砂層ブロックは、断面算盤球状のオーバーハングしている部分が崩落したものであろう。遺物出土状態：埋没土上位では、近世以降の陶器器が多量に出土している。これは井戸が崩落して窪地と姿を変えたため、遺構の性格もこれとともに変わりゴミ捨て場として機能したものと考えられる。総社砂層を多量に含む崩落土以下からは、常滑陶器大甕や木材等の出土が見られる。時期：15世紀後半以降と想定される。備考：土坑として調査を行ったが、調査の結果井戸跡であることが判明。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点D-4号土坑と同一遺構。

D-8号土坑（遺構：Fig. 44、Tab. 11、P.L. 16・17／遺物：Fig. 70、Tab. 22・23、P.L. 25）

位置：X : 203・204、Y : 213・214 グリッド。重複：W-4・5号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本土坑はW-4号溝より新しい。なお、現地調査の段階で、埋没土層の観察から本土坑はW-5号溝よりも新しいものと判断したが、整理調査段階で出土遺物の詳細な観察や埋没土層の再解釈を行った結果、W-5号溝と同一時期に機能していた（一連の遺構である）可能性が高いものと認識を変更するに至っている。平面形態：隅丸長方形形状を呈する。規模：3.07 m × 1.77 m。断面形態：箱状を呈する。残存深度：2.66 m。底面の状態：比較的平坦。遺構埋没状態：焼土・炭化物・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。埋没土層のほとんどは南側からの流入となっており、炭化材や焼土化した土壁が混入する。遺物出土状態：埋没土中より青磁・白磁・古瀬戸鉢・常滑大甕・カワラケ・獸骨等の出土が見られる。時期：出土したカワラケから15世紀後半と想定される。備考：土坑南壁の両コーナーに直径7cmのピットが見られる。同ピットは掘り方が見られないなどの状況から杭の打ち込み痕と想定される。

D-16号土坑（遺構：Fig. 45・46、Tab. 11）

位置：X : 206、Y : 213 グリッド。重複：D-24号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-6号溝より古い。D-24号土坑との新旧関係は不明。平面形態：梢円形状を呈するものと推測される。規模：(0.61) m × 0.55 m。断面形態：逆台形状を呈するものと想定される。残存深度：0.53 m。底面の状態：全体的に端部が6cmほど壁周溝状に窪み、中央部は盛り上がる。壁周溝状の窪みは、桶等の設置痕か？ 遺構埋没状態：焼土粒・炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-6号溝構築以前。備考：性格不明。

D-17号土坑（遺構：Fig. 45・46、Tab. 11）

位置：X : 206、Y : 213 グリッド。重複：D-20号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はD-20号土坑より新しく、W-6号溝より古い。平面形態：梢円形状を呈するものと想定される。規模：1.30 m × 1.12 m。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.41 m。底面の状態：多少の凸凹は見られるが、比較的なだらかな状態である。北西側に幅狭で低いテラスを有する。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-6号溝構築以前。備考：性格不明。

D-20号土坑（遺構：Fig. 45・46、Tab. 11）

位置：X : 206、Y : 213 グリッド。重複：D-17号土坑と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はD-17号土坑より古い。平面形態：円形状ないし梢円形状を呈するものと推測される。規模：(1.09) m × (1.01) m。断面形態：不明。残存深度：0.40 m。底面の状態：多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。遺構埋没状態：炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-6号溝構築以前。備考：性格不明。

D-24号土坑（遺構：Fig. 45、Tab. 11）

位置：X : 206、Y : 212・213 グリッド。重複：D-16号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-6号溝より古い。D-16号土坑との新旧関係は不明。平面形態：円形状ないし梢円形状を呈するものと推測される。規模：(0.44) m × (0.37) m。断面形態：逆台形状を呈する。残存深度：0.47 m。底面の状態：多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-6号溝構築以前。備考：性格不明。

D-26号土坑（遺構：Fig. 47、Tab. 11、P.L. 16）

位置：X : 206、Y : 214 グリッド。重複：W-5号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-5号溝より新しい。平面形態：方形ないし長方形を呈するものと推測される。規模：1.65 m × (0.42) m。断面形態：逆台形状を呈するものと推測される。残存深度：(1.66) m。底面の状態：底面までの検出ができなかつたため不明。遺構埋没状態：焼土粒・炭化粒・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。また、埋没土の流入は北側及び南側の両方から行われている。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：15世紀後半以降。備考：性格不明。D-8号土坑と形状等は近似するものの、W-5号溝との明確な切り合い関係が確認できていることと、埋没土の流入状況に違いが見られる等から、本土坑はD-8号土坑とは異なる性格と想定される。

Tab. 10 24 地点土坑一覧表①

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-1号土坑	X : 205 Y : 211	0.67 × (0.60)	0.12	不整長方形	—	総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-2号土坑	X : 202・203 Y : 211・212	(1.71) × 1.35	2.32	梢円形 白磁器反転 馬齒等	—	振りかけの井戸。人為埋没。W-1・2・4号溝と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。15世紀後半以降。
D-3号土坑	X : 202・203 Y : 212・213	0.89 × 0.60	0.47	梢円形	—	小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-4号土坑	X : 202・203 Y : 213	0.93 × 0.61	0.42	不整形	—	砂粒・小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-5号土坑	X : 202 Y : 212	0.81 × 0.61	0.11	楕丸長方形	—	小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-6号土坑	X : 201・202 Y : 212	0.47 × 0.41	0.27	梢円形	—	SX-1と重複し、本土坑はSX-1より新しい。小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。

Tab. 11 24 地点土坑一覧表②

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-7号土坑	X:201・202 Y:214・215	4.30 × 3.57	4.21以上	楕円形	近世以降陶器器・常滑大甕・木材	上位が崩落した井戸。上位人為埋没、下位自然埋没。W-5・6号溝・『元総社蒼海遺跡群(21)』27地点D-1号土坑と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。15世紀と重複。『元総社蒼海遺跡群(21)』27地点D-4号土坑と同一遺構。
D-8号土坑	X:203・204 Y:213・214	3.07 × 1.77	2.66	楕丸長方形	青磁・白磁 古瀬戸鉢部 ・常滑大甕 ・カワラケ ・歯骨等	人為埋没。W-5号溝と同時期に機能し、同遺構と一連であると想定。W-4号溝と重複し、本土坑はW-4号溝より新しい。15世紀後半。
D-9号土坑	X:203・204 Y:211・212	1.57 × 1.35	1.74以上	楕円形	近世以降陶器器・青磁盤	井戸。D-22号土坑・W-2号溝と重複し、本土坑はW-2号溝より新しい。D-22号土坑との新旧関係は不明。崩落の危険性から上の位の調査で終了。繩・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-10号土坑	X:204 Y:211	1.27 × 1.19	0.17	楕円形	-	W-2号溝と重複し、本土坑はW-2号溝より新しい。少綴・炭化物・総社砂層ブロックを含む暗褐色土、黒褐色土で埋没。
D-11号土坑	X:204 Y:214	1.25 × (0.52)	0.76	楕円形?	-	W-3号溝と重複し、本土坑はW-5号溝より古い。総社砂層ブロックを含む暗褐色土で埋没。
D-12号土坑	X:204 Y:212	1.07 × 1.07	1.20	円形	-	D-18・22号土坑と重複するが、新旧関係は不明。少綴・総社砂層ブロックを含む灰白色土・黒褐色土で埋没。
D-13号土坑	X:204 Y:212	1.09 × 0.37	0.27	楕円形	-	砂鉄・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-14号土坑	X:204・205 Y:211・212	1.81 × 1.25	1.88以上	楕円形	近世以降陶器器	井戸跡と想定。W-3・7号溝と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。崩落の危険性から上位の調査で終了。少綴・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-15号土坑	X:205 Y:212	0.73 × 0.69	0.42	不整形方	-	少綴・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-16号土坑	X:206 Y:213	(0.61) × 0.55	0.53	楕円形?	-	D-21号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はW-6号溝より古い。D-24号土坑との新旧関係は不明。底面部は崩壊状況に僅か。埴等の設置痕か?
D-17号土坑	X:206 Y:213	1.30 × 1.12	0.41	楕円形?	-	D-20号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はD-20号土坑より新しく、W-6号溝より古い。北西側に幅狭で低いテラス。
D-18号土坑	X:204 Y:212	0.95 × 0.73	0.49	楕円形	-	D-12号土坑と重複するが、新旧関係は不明。少綴・総社砂層ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土で埋没。
D-19号土坑	X:206 Y:213・214	0.58 × 0.55	0.55	楕丸方形	-	総社砂層ブロックを含む暗褐色土で埋没。
D-20号土坑	X:206 Y:213	(1.09) × (1.01)	0.40	円形?	-	D-17号土坑と重複し、本土坑はD-17号土坑より古い。
D-21号土坑	X:202・203 Y:214・215	0.68 × 0.66	0.43	楕丸方形	-	焼土・少綴・炭化物・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-22号土坑	X:204 Y:212	1.38 × 1.35	1.43以上	楕円形	近世以降陶器器	井戸跡と想定。D-9・12号土坑と重複するが、新旧関係は不明。崩落の危険性から上位の調査で終了。埴土・少綴・炭化物・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-23号土坑						矢 留
D-24号土坑	X:206 Y:212・213	(0.44) × (0.37)	0.47	円形?	-	D-16号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はW-6号溝より古い。D-16号土坑との新旧関係は不明。
D-25号土坑						矢 留
D-26号土坑	X:206 Y:214	1.65 × (0.42)	1.66以上	方形?	-	W-5号溝と重複し、本土坑はW-5号溝より新しい。15世紀後半以降。



詳細記述を行っている土坑

4 溝

W-1号溝（遺構: Fig. 48・49、P.L. 14）

位置: X: 200 ~ 204、Y: 211 グリッド。主軸方位: N-82° - E。重複: SX-1・D-2号土坑・W-4号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝はSX-1・W-4号溝より新しく、D-2号土坑より古い。規模: 上端幅 (3.25) m。本堀は蒼海城縄張り図 (Fig. 4) で示されている新段階の蒼海城本丸と二の丸間を東西方向に走行する堀と想定されるもので、縄張り図を基に計測すると上端幅は 10 m 程あるものと推測される。断面形態: 堀底までの検出に至らなかったため不明。壁面は堀底へ向けて約 40° の斜度で直線的に落ち込んでいく。残存深度: < (2.71) m。底面の状態: 検出が及んでいないため不明。遺構埋没状態: 総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロック・A-s-Y P を含む暗褐色ないし灰黃褐色の土による人為埋没と想定される。総社砂層ブロックに風化現象が見られないことや、検出した堀面（総社砂層）よりさらに下で見られる黒色粘質土やA-s-Y P が埋没土中に混入することから土壠の土を埋め戻したものと推測される。また、検出部分東端で確認した埋没土には

総社砂層ブロックの混入が多く見られることから、掘り残しの土橋が付近に存在する可能性も指摘される。遺物出土状態：遺物の出土は見られないが、同一遺構である 25・26 地点の W-1 号溝の底から木器の椀が出土している。時期：15 世紀後半～17 世紀前半と想定される。備考：蒼海城新段階の堀と想定される。25・26 地点 W-1 号溝と同一遺構。

W-2 号溝（遺構：Fig. 50、P.L. 14）

位置：X : 201 ~ 204、Y : 211 グリッド。主軸方位：N-88° - E。重複：S X-1・D-2・9・10 号土坑・W-4 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は S X-1・W-4 号溝より新しく、D-2・9・10 号土坑より古い。規模：上端幅 0.43 ~ 1.42 m。下端幅 0.18 ~ 1.18 m。断面形態：西側では皿状を呈するが、東側では箱状を呈する。残存深度：0.49 m。底面の状態：比較的凸凹は少なく、検出部分の東及び西端の標高が高い。中央に向かうにつれ標高を減ずる。遺構埋没状態：小縫・総社砂層ブロックを含む暗褐色ないし黒褐色の土により埋没している。流水等の痕跡は見られない。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

W-3 号溝（遺構：Fig. 40）

位置：X : 205、Y : 211 グリッド。主軸方位：N-1° - W。重複：D-14 号土坑・W-7 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は D-14 号土坑より古い。W-7 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 0.40 ~ 0.58 m、下端幅 0.16 ~ 0.32 m。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.29 m。底面の状態：南から北へ向けて標高を減ずる。表面はやや凹凸する。遺構埋没状態：総社砂層ブロック暗褐色の土により埋没している。流水等の痕跡は見られない。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

W-4 号溝（遺構：Fig. 51、P.L. 13 / 遺物：Fig. 62、Tab. 15、P.L. 18）

位置：X : 203、Y : 211 ~ 214 グリッド。主軸方位：N-8° - W。重複：D-2・8 号土坑・W-1・2・5 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は重複する全ての遺構より古い。規模：上端幅 2.35 ~ 1.85 m、下端幅 0.55 ~ 0.30 m。断面形態：皿状を呈し、東半に低いテラス面を有する。残存深度：0.42 m。底面の状態：凹凸は少ない。鉄分の沈着が見られる。遺構埋没状態：埋没土の状態から本溝は 2 時期に分類することができ、W-4 a 溝、W-4 b 溝と名称を付してあり、断面形状で見られるテラス以下を W-4 b 溝、テラス以上を W-4 a 溝としている。W-4 b 溝の下位は砂粒・小縫・鉄分を多く含む暗褐色を主体とした土により埋没している。この状況は、比較的強い水流によって埋没したことを示すものである。W-4 b 溝は総社砂層ブロック・小縫を含む黒褐色土により埋没している。遺物出土状態：W-1 b 溝からは 10 世紀～11 世紀代の須恵器壺・碗・灰釉陶器皿、古代の丸瓦が出土している。W-4 a 溝からは火打ち金が出土している。時期：W-4 a 溝は 11 世紀以降、W-4 b 溝が 10 ~ 11 世紀代と想定される。備考：出土遺物の時期や長距離にわたり直線的に走行することなどから、上野国府に関連する遺構である可能性が高いものである。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-1 号溝と同一遺構。

W-5 号溝（遺構：Fig. 52 ~ 55、P.L. 14 ~ 16 / 遺物：Fig. 62 ~ 69、Tab. 15 ~ 22、P.L. 18 ~ 24）

位置：X : 200 ~ 206、Y : 213・214 グリッド。主軸方位：東西方向 N-89° - W、南北方向 N-64° - W。重複：D-7・8・11・26 号土坑・W-4・6 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は D-11 号土坑・W-4 号溝より新しく、D-7・26 号土坑・W-6 号溝より古い。なお、D-8 号土坑との新旧関係については、現地調査の段階で、埋没土層の観察から本溝は D-8 号土坑より古いものと判断したが、整理調査段階で出土遺物の詳細な観察や埋没土層の再解釈を行った結果、D-8 号土坑と同一時期に機能していた（一連の遺構である）

可能性が高いものと認識を改めるに至っている。規模：上端幅 2.45 ~ 3.30 m、下端幅 1.46 ~ 2.25 m。断面形態：南及び西壁は底面に向けて直線的に落ち込むが、北壁は底面に向けてオーバーハングする傾向にある。残存深度：1.80 m。底面の状態：調査区内における東西端の標高が高く、中央やや西寄りが窪む。また、掘削時の作業単位を表すものと推測される低い段差が確認されている。遺構埋没状態：最下位は総社砂層の風化による白灰色の自然埋没で、それ以上は A s - B・焼土・小礫・炭化物・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む暗褐色・黒褐色・黄褐色の土による人為埋没と想定される。なお、埋没土の流入は南側から行われており、総社砂層ブロックに風化現象が見られないことから、土壌の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より貿易陶磁（青磁・白磁・染付・褐釉陶器・天目茶碗）・古瀬戸（鉢・茶壺）・常滑（大皿）・在地土器（火鉢・擂鉢）・カワラケ・石製品（鉢・茶臼・石臼・板碑）・銅製品（古錢等）が出土しており、ほとんどの遺物に二次焼成痕が見られる。時期：カワラケの時期から 15 世紀後半と想定される。備考：蒼海城古段階の堀と想定される。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-2 号溝と同一遺構。

W-6 号溝（遺構：Fig. 56・57、P.L. 13・17 / 遺物：Fig. 70、Tab. 22、P.L. 25）

位置：X : 200・201・205・206、Y : 212 ~ 214 グリッド。主軸方位：平面形態が半円状（弧状）を呈するため不明。重複：D-7・16・17・24 号土坑・W-5 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は D-16・17・24 号土坑より新しく、D-7 号土坑より古い。規模：上端幅 1.00 ~ 1.38 m、下端幅 0.36 ~ 0.74 m。断面形態：逆台形状を呈する。残存深度：1.15 m。底面の状態：北から南に向けて標高を現ずる。掘削時の作業単位を表すものと推測される低い段差が確認されている。また、壁面には掘削時の工具痕が残存している。遺構埋没状態：基本的に総社砂層ブロックを含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。W-5 号溝と重複する部分に限り、埋没土中には焼土・炭化物・黒色粘質土ブロックが混ざる。総社砂層ブロックに風化現象が見られないことから土壌の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より常滑大甕が出土している。時期：15 世紀後半～17 世紀前半と想定される。備考：蒼海城新段階の堀と想定され、半円形状（弧状）の平面形態や W-1 号溝との位置関係から丸馬出の可能性を有するものである。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-3 号溝と同一遺構。

W-7 号溝（遺構：Fig. 58）

位置：X : 204 ~ 206、Y : 211 グリッド。主軸方位：N -86° - E。重複：D-14 号土坑・W-3 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は D-14 号土坑より古い。W-3 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 0.31 ~ 0.84 m、下端幅 0.20 ~ 0.68 m。断面形態：「U」字状を呈する。残存深度：0.33 m。底面の状態：多少の段差が見られる。遺構埋没状態：小礫を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

5 ピット（遺構：Fig. 59 ~ 61、Tab. 12・13・14）

24 地点においてピットは 76 基確認されているが、掘立柱建物跡等の配列は捉えられていない。各ピットの計測値等は Tab. に示してある。

Tab. 12 24 地点ピット一覧表①

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-1	X : 200 Y : 211	0.24 × 0.16	0.15	梢円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-2	X : 201 Y : 211	0.27 × 0.21	0.13	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。

Tab. 13 24 地点ピット一覧表^②

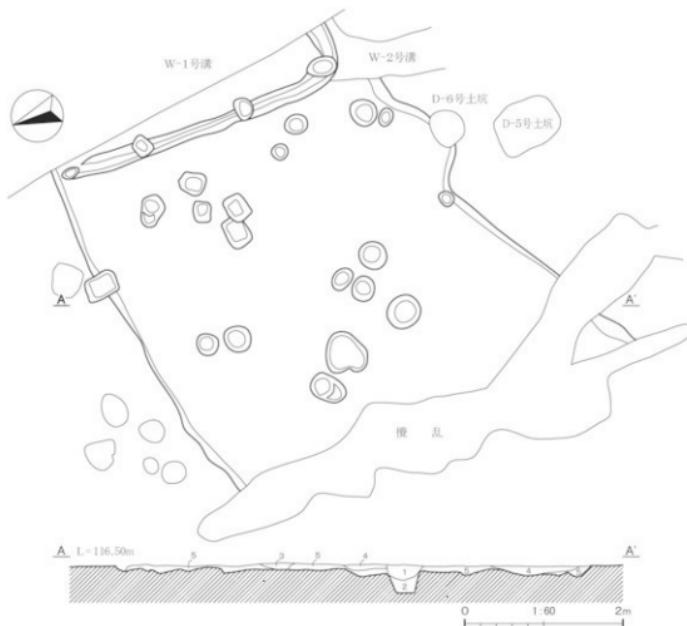
構成名	グリット	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P- 3 X : 201 Y : 211		0.30 × 0.22	0.10	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 4 X : 201 Y : 211		0.39 × 0.24	0.14	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 5 X : 201 Y : 211		0.29 × 0.25	0.53	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 6 X : 201 Y : 212		0.20 × 0.20	0.31	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 7 X : 201 Y : 211・212		0.32 × 0.29	0.38	楕円長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 8 X : 201 Y : 212		0.42 × 0.32	0.33	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P- 9 X : 201 Y : 212		0.25 × 0.23	0.22	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-10 X : 201 Y : 212		0.33 × 0.28	0.21	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-11 X : 201 Y : 212		0.41 × 0.30	0.19	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-12 X : 201 Y : 211・212		0.36 × 0.33	0.24	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-13 X : 201 Y : 212		0.24 × 0.17	0.22	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-14 X : 200 Y : 212		0.41 × 0.39	0.42	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-15 X : 200 Y : 212		0.41 × 0.31	0.23	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-16 X : 201 Y : 212		0.27 × 0.19	—	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-17 X : 201 Y : 212		0.33 × 0.29	0.01	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-18 X : 200 Y : 212		0.21 × 0.15	—	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-19 X : 201 Y : 212		0.21 × 0.18	0.03	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-20 X : 201 Y : 212		0.39 × 0.34	0.44	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-21 X : 201 Y : 212		0.31 × 0.23	0.30	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-22 X : 201 Y : 212		0.31 × 0.28	0.12	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-23 X : 201 Y : 212		0.43 × 0.40	0.21	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-24 X : 201 Y : 212		0.27 × 0.27	0.27	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-25 X : 201 Y : 212		0.34 × 0.32	0.31	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-26 X : 200 Y : 212		0.43 × 0.31	—	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-27 X : 201 Y : 212		0.41 × 0.37	—	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-28 X : 200 Y : 212		0.33 × 0.29	0.42	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-29 X : 200 Y : 212		0.29 × 0.18	0.03	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-30 X : 200 Y : 212		0.31 × 0.27	0.29	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-31 X : 200 Y : 212		0.69 × 0.47	—	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-32 X : 201 Y : 212		0.58 × 0.51	0.01	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-33 X : 201 Y : 212		0.47 × 0.32	0.18	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・後土粒・小礫混入。
P-34 X : 202 Y : 213		0.41 × 0.39	0.42	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・後土粒混入。
P-35 X : 202 Y : 213		0.25 × 0.29	0.39	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-36 X : 200 Y : 213		0.27 × 0.25	0.11	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-37 X : 200 Y : 213・214		0.51 × 0.23	0.30	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-38 X : 200 Y : 213		0.33 × 0.25	0.19	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-39 X : 201 Y : 213		0.36 × 0.35	0.34	楕丸丸形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化粒混入。
P-40 X : 201 Y : 213		0.27 × 0.25	0.24	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・後土粒混入。
P-41 X : 201 Y : 213		0.45 × 0.39	0.20	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-42 X : 203 Y : 214		0.39 × 0.32	0.67	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-43 X : 203 Y : 211		0.22 × 0.21	0.18	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-44 X : 204 Y : 211		0.20 × 0.19	0.14	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-45 X : 204 Y : 211		0.32 × 0.28	0.21	不整形方	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-46 X : 204 Y : 211・212		0.33 × 0.23	0.14	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-47 X : 203・204 Y : 212		0.37 × 0.33	0.10	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-48 X : 203 Y : 212		0.21 × 0.19	0.13	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-49 X : 204 Y : 211		0.28 × 0.15	0.32	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-50 X : 204 Y : 211		0.11 × 0.09	0.44	不整形長方形?	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-51 X : 205 Y : 211		0.17 × 0.15	0.08	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-52 X : 205 Y : 211		0.29 × 0.25	0.03	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-53 X : 205 Y : 211・212		0.62 × 0.32	0.09	楕丸二角形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-54 X : 205 Y : 211・212		0.95 × 0.58	0.04	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化粒混入。
P-55 X : 205 Y : 212		0.45 × 0.39	0.12	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-56 X : 205 Y : 211		0.35 × 0.25	0.42	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-57 X : 205 Y : 212		0.17 × 0.10	0.12	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・軽石 (A s - B?) 混入。
P-58 X : 205 Y : 212		0.16 × 0.10	0.33	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・軽石 (A s - B?) 混入。
P-59 X : 206 Y : 212		0.30 × 0.29	0.22	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-60 X : 205・206 Y : 212		0.47 × 0.33	0.31	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-61 X : 205 Y : 212		0.73 × 0.31	0.26	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫・炭化粒混入。
P-62 X : 205 Y : 212		0.47 × 0.41	0.18	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-63 X : 205 Y : 212		0.79 × 0.63	0.30	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-64 X : 205 Y : 212・213		0.45 × 0.45	0.39	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-65 X : 205 Y : 212		0.19 × 0.17	0.16	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-66 X : 205・206 Y : 213		0.29 × 0.29	0.28	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。
P-67 X : 205 Y : 213		0.51 × 0.39	0.25	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-68 X : 205 Y : 213		0.69 × 0.43	0.40	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-69 X : 205 Y : 213		0.28 × 0.19	0.14	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-70 X : 204・205 Y : 213		1.29 × 0.81	0.61	椭円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。

Tab. 14 24 地点ピット一覧表③

遺構名	グリット	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-71 X: 205 Y: 213	0.37 × 0.28	0.18	長方形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック混入。	
P-72 X: 205 Y: 213	0.31 × 0.25	0.23	橢円形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック混入。	
P-73 X: 205 Y: 213	0.38 × 0.35	0.33	方形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック混入。	
P-74 X: 205 Y: 213	0.23 × 0.23	0.24	方形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック・小罐混入。	
P-75 X: 205 Y: 213	0.28 × 0.27	0.19	方形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック・小罐混入。	
P-76 X: 205 Y: 214	0.23 × 0.22	0.56	方形	—	黒褐色の埋没土に織社砂層ブロック混入。	

6 遺構外出土遺物 (遺物: Fig. 70, Tab. 23, P.L. 25)

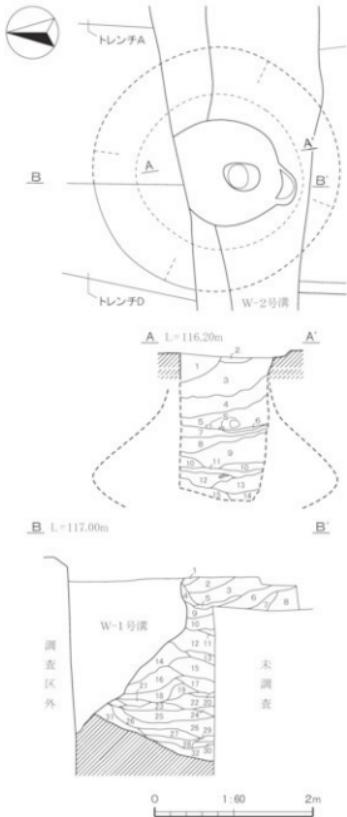
遺構外出土遺物として、1点の遺物を提示した。同遺物は青磁の皿で、内面に蓮弁文が施される舶来品である。このような舶来品の磁器はD-8号土坑・W-5号溝から多数出土しており、蒼海城を改修するにあたり投棄されたものと推測される。



S X - 1 土層説明

1. 黒褐色土：織社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット埋没土。
2. 黒褐色土：小粒φ 0.5 cm・織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量化む。しまりあり。粘性ややあり。ビット埋没土。
3. 黒褐色土：織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 粘褐色土：織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土：織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
6. 黑褐色土：他土粒・粘化鉱・織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土：粘化鉱・織社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 二点黒褐色土：織社砂層ブロック（黄）φ 0.5～3.0 cm多量含む。しまりあり。粘性やや弱。

Fig. 41 SX - 1



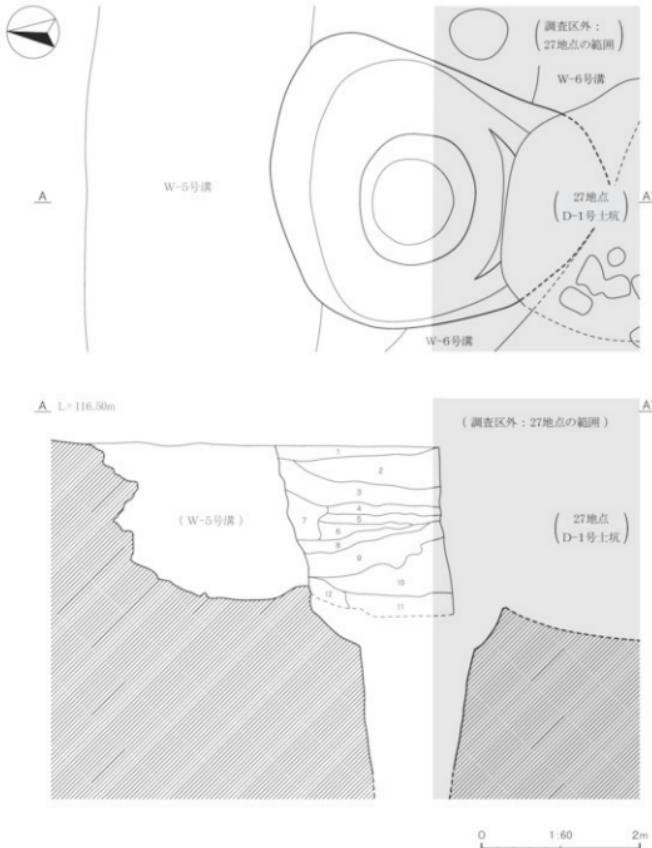
D-2号土坑土层说明 (A-A')

1. 黒褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあります。
 2. 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量。小礫少量含む。しまりややあります。粘性ややあります。
 3. 黒褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 4. 黑褐色土：灰化土・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 5. 黑褐色土：灰化土・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 6. 褐色土：灰土・炭化物多量含む。しまりややあります。粘性ややあります。
 7. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少微量、炭化物微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 8. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm・中量。炭化物・総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~2.0 cm・少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 9. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・微量、他土粒・灰化物微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 10. 黑褐色土：灰化土・総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 11. 黑褐色土：堆土・灰化物中量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 12. 黑褐色土：灰化土・総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 13. 黑褐色土：小礫・総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあります。粘性ややあります。
 14. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白）中量含む。しまりややあります。粘性ややあります。
 15. 灰褐色土：灰化土・総社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5 cm・総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5 cm・微量含む。しまりあります。粘性ややあります。
 16. 灰白色土：総社砂層ブロック（白）多量。黑色結晶土ブロック少微量含む。しまりあります。粘性ややあります。

D-2号土坑土層說明 (B-B')

1. 暗褐色土： 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 粘りあり、 黏性ややあり。
 2. 黑褐色土： 白色解石 $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 黏りあり、 黏性ややあり。
 3. 黑褐色土： 細粒砂層ブロック(黒) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量、 廃酸化鉄を含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 4. 黑褐色土： 廃化鉄、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 5. 暗褐色土： 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\sim 2.0\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 6. 黑褐色土： 小繊維 $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 少量、 細粒砂層ブロック(黒) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 7. 黑褐色土： 小繊維 $\phi = 0.5\text{ cm}$ 中量、 細粒砂層ブロック(黒) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 8. 黑褐色土： 細粒砂層ブロック(黒) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 9. 黑褐色土： 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 粘りあり、 黏性ややあり。
 10. 黑褐色土： 廃化鉄、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 11. 暗褐色土： 士壌プロフリクス $\phi = 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 、 廃化物中量含む。 しまりあり。 黏りややあり。
 12. 黑褐色土： 士壌土、 廃化鉄、 細粒砂層ブロック(白) $\phi = 0.5\text{ cm}$ 量含む。 しまりあり。 黏りややあり。

23. 黑褐色土： 塗化物 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
24. 黑褐色土： 塗化物 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
25. 黑褐色土： 塗化物 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 0.5 cm多量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
26. 暗褐色土： 塗化物 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 0.5 cm多量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
27. 黄褐色土： 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 3.0 cm多量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
28. 黑褐色土： 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 2.0 cm中量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
29. 黑褐色土： 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 2.0 cm中量、塗化物少量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
30. 黄褐色土： 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm多量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
31. 黑褐色土： 地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 30.0 cm多量含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。
32. 暗褐色土： 地被砂層ブロック（黄） φ 0.5 ~ 5.0 cm、地被砂層ブロック（白） φ 0.5 ~ 0.5 cm少々含む。しまりあり、粘性のやわらぎ。



D-7号土坑土層説明

1. 黒褐色土；純土粒・炭化物・純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やであり。D-7号土坑埋没土。
2. 喜鶴色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～3.0cm・純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5～1.0cm少量。黒色粘土ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やであり。D-7号土坑埋没土。
3. 黒褐色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～2.0cm中量。炭化物・純 ϕ 0.5～10.0cm・純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5～1.0cm微量含む。しまりあり。粘性やであり。D-7号土坑埋没土。
4. 黑褐色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～3.0cm多量。炭化物微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-7号土坑埋没土。
5. 黑褐色土；純土粒・炭化物・純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～1.0cm・純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややであり。D-7号土坑埋没土。
6. 喜鶴色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～10.0cm多量含む。しまり弱。粘性弱。D-7号土坑埋没土。
7. 黒褐色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～30.0cm多量含む。しまり弱。粘性弱。D-7号土坑埋没土。
8. 黒褐色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～1.0cm中量。純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5cm少量。炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-7号土坑埋没土。
9. 喜鶴色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～10.0cm中量。純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5cm・純 ϕ 0.5～5.0cm少量含む。しまり弱。粘性ややや。D-7号土坑埋没土。
10. 喜鶴色土；純社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5～20.0cm多量。純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5～3.0cm少量含む。しまり弱。粘性ややや。D-7号土坑埋没土。
11. にじ測定土；純社砂層ブロック（黄）多量含む。しまり弱。粘性弱。大規模な塑性の崩壊。D-7号土坑埋没土。
12. 黒褐色土；純社砂層ブロック（白） ϕ 0.5～3.0cm微量含む。しまりあり。粘性ややや。D-7号土坑埋没土。

Fig. 43 D-7号土坑



D-8号土坑土層説明

1. 黒褐色土：総社砂利ブロック（黄）中量。根土・小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。木根根。
2. 黄褐色土：総社砂利ブロック（黄）多量含む。しまり強。粘性弱。土成理没土。
3. 黒褐色土：根土・小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土成理没土。
4. 黑褐色土：軽石多量。根土・炭化物中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
5. 黑褐色土：軽石・根土・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
6. 黑褐色土：軽石・炭化物・総社砂利ブロック（白）中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
7. 黑褐色土：根土・炭化物・総社砂利ブロック（黄）中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
8. 黑褐色土：炭化物中量。総社砂利ブロック（白）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
9. 黑褐色土：根土・炭化物・総社砂利ブロック（白）中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
10. 黑褐色土：炭化物少量。根土少量。総社砂利ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
11. 黑褐色土：総社砂利ブロック（黄）中量。根土少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
12. 黑褐色土：炭化物多量。根土中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
13. 灰白色土：炭化物・総社砂利ブロック（白）中量含む。しまりややあり。粘性なし。D-8号土坑埋没土。
14. 黑褐色土：小礫多量含む。しまりなし。粘性ややあり。D-8号土坑埋没土。
15. 灰白色土：総社砂利ブロック（白）多量含む。しまりややあり。粘性なし。D-8号土坑埋没土。

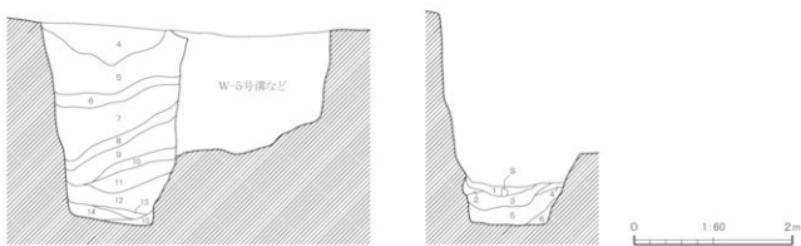


Fig. 44 D-8号土坑

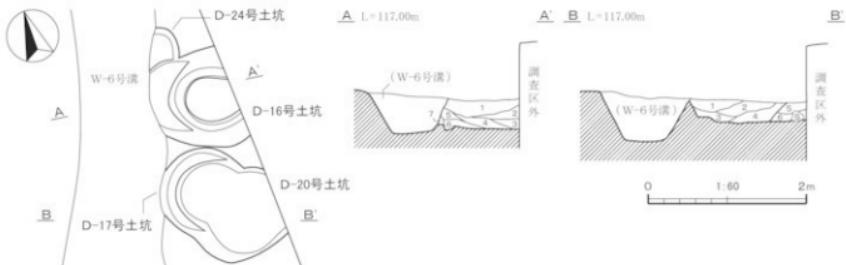


Fig. 45 D-16・17・20・24号土坑

D-16号土坑土層説明 (A-A')

- 黒褐色土：幾土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。
- 黒褐色土：幾土粒・炭化物・総社砂層含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号土坑埋没土。

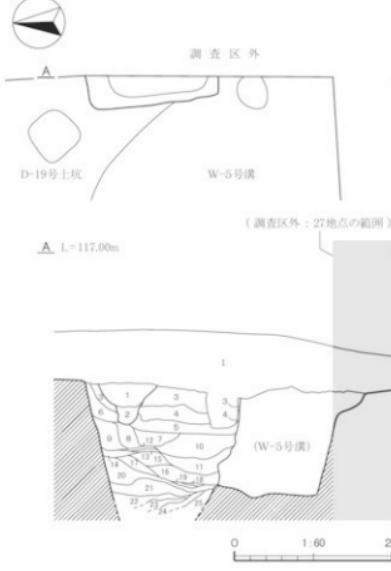


Fig. 46 D-16・17・20号土坑 (土層説明)

D-17・20号土坑土層説明 (B-B')

- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-17号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-17号土坑埋没土。
- 黒褐色土：砂粒・総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりやや。粘性やや。D-17号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまり強。粘性ややあり。D-17号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化物・総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-20号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-20号土坑埋没土。

D-26号土坑土層説明

- 一二深褐色土：骨・植物骨層ブロック（黄）多量含む。しまり強。粘性なし。土坑埋没土。
- 一二深褐色土：総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりあり。粘性なし。土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量、炭化物少量、他土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。D-26号土坑埋没土。
- 暗褐色土：総社砂層ブロック（黄）多量、他土・炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化物・総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化物・総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化砂層ブロック（黄）中量、他土微量含む。しまりやや。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：炭化砂層ブロック（黄）中量、他土微量含む。しまりやや。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量、他土微量含む。しまりなし。粘性ややあり。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量、炭化物微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 暗褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 暗褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりなし。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 暗褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量、他土微量含む。D-26号土坑埋没土。
- 暗褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量、他土微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：小粒・総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：土粒微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。
- 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりやや。粘性やや。D-26号土坑埋没土。

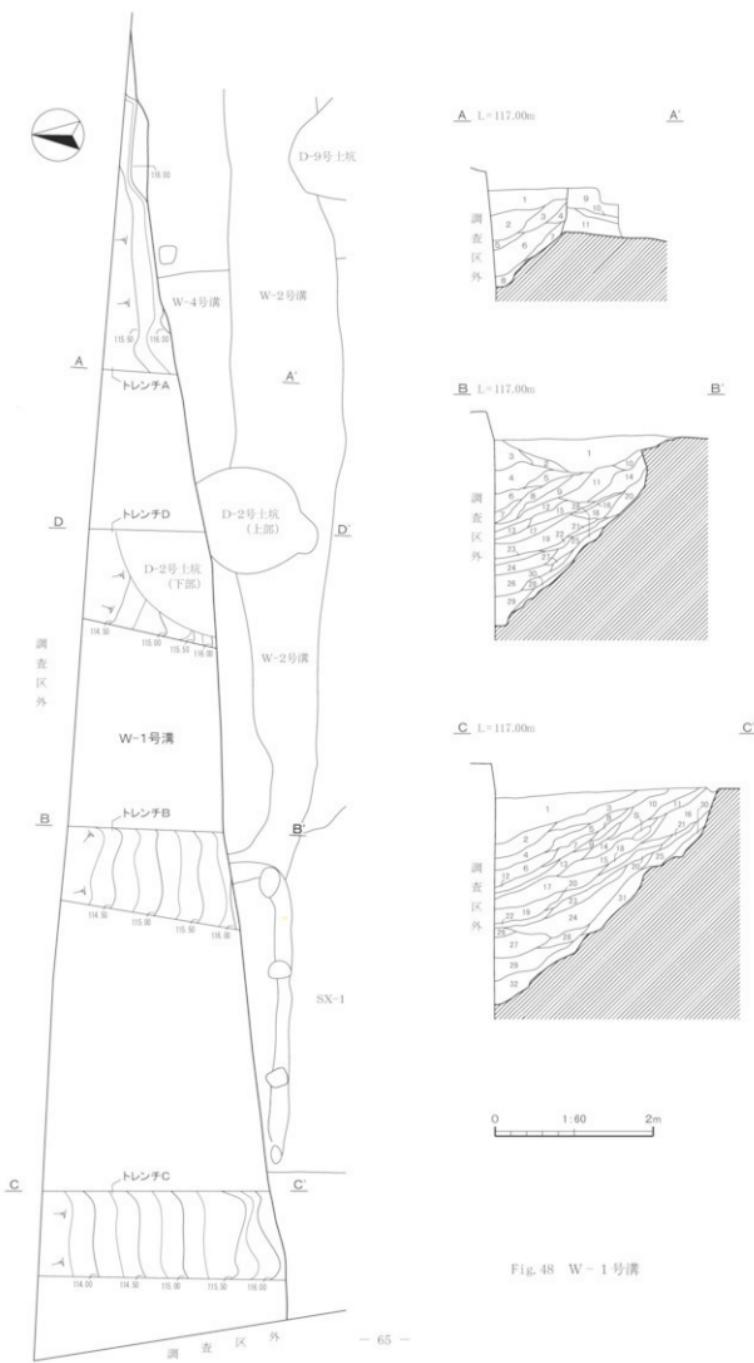


Fig. 48 W-1号溝

W-1号溝土層説明（Aトレンチ）

1. 黄褐色土：絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5 ~ 1.0cm 黒色粘土土+ゴック
 ϕ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

2. 黄褐色土：絶粒砂層+ゴック（黄） ϕ 0.5cm 絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5 ~ 1.0cm 黑色粘土土+ゴック ϕ 0.5 ~ 1.0cm 黃色粘土土+ゴック ϕ 0.5 ~ 1.0cm 少量含む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

3. 白土色土：絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5 ~ 1.0cm 黑色粘土土+ゴック
 ϕ 0.5cm中量。絶粒砂層+ゴック（黄） ϕ 0.5 cm少量化む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

4. 黄褐色土：絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5cm多量。黑色粘土土+ゴック
(黄) ϕ 0.5cm 黑色粘土土+ゴック ϕ 0.5 cm少量化む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

5. 带褐色土：絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5cm 黑色粘土土+ゴック（白） ϕ 0.5cm少量化む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

6. 淡土色土：絶粒砂層+ゴック（白） ϕ 0.5cm 黑色粘土土+ゴック ϕ 0.5cm少量化む。しまりあり。粘性弱。W-1号圃場液浸土。

7. 喀褐色土：小礫 ϕ 0.5cm + 絶粒砂層+ゴック（黄） ϕ 0.5cm少量化む。しまりあり。粘性やや弱。W-1号圃場液浸土。

8. 仁川実験土：小礫 ϕ 0.5 ~ 1.0cm 絶粒砂層+ゴック（黄） ϕ 0.5 ~ 1.0cm
ca量含む。しまりあり。粘性なし。W-1号圃場液浸土。

9. 喀褐色土：白土石群 ϕ 0.2cm以上 黑色粘土土+ゴック。しまりあり。粘性や
ややあり。W-2号圃場液浸土。

10. 喀褐色土：白土石群 ϕ 0.2cm以上含む。しまりあり。粘性あり。W-2号圃場液浸土。

11. 带褐色土：小礫 ϕ 0.5cm + 絶粒砂層+ゴック（黄） ϕ 0.5cm少量化む。
しまりあり。粘性やや弱。W-4号圃場液浸土。

W-1号溝土層説明（Bトレンチ）

1. 喜褐色土：小穂の長さ5mm未溝部ブロッフ（茎）約5.0cm×1.0cm、根状茎部ブロッフ（白）約5.0cm×1.0cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 2. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm×2.0cm少量露出。しまありあり、葉軸や小乳。
 3. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（黒）約5.0~5.5cm少額露出。しまありあり、葉軸や小乳。
 4. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（黒）約5.0~5.5cm少額露出。しまありあり、葉軸や小乳。
 5. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm×2.0cm少量露出。しまありあり、葉軸や小乳。
 6. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 7. 喜褐色土；総社砂砾ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 8. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 9. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 10. 黑褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 11. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎砂砾部ブロッフ（白）約6.0~6.5cm×2.0cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 12. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、総社砂砾部ブロッフ（黒）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 13. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 14. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎砂砾部ブロッフ（白）約6.0~6.5cm×1.0cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 15. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 16. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 17. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 18. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 19. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 20. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 21. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎砂砾部ブロッフ（白）約6.0~6.5cm×1.0cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 22. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎砂砾部ブロッフ（白）約6.0~6.5cm×1.0cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 23. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎砂砾部ブロッフ（白）約6.0~6.5cm、葉色濃度含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 24. 喜褐色土；黑色粘土部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 25. 喜褐色土；黑色粘土部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎含む。しまありあり、葉軸や小乳。
 26. 喜褐色土；総社砂砾部ブロッフ（白）約5.0~5.5cm中茎含む。しまありあり、葉軸や小乳。

27. 黄褐色地： 細粒砂質土ブロック（白） ϕ 0.5~2.0cm多量、 粗粒砂質土ロック（黒） ϕ 0.5~1.0cm 黑色粗粒質土ブロック ϕ 0.5~1.0cm少量含む、 しりあり、 粘性。

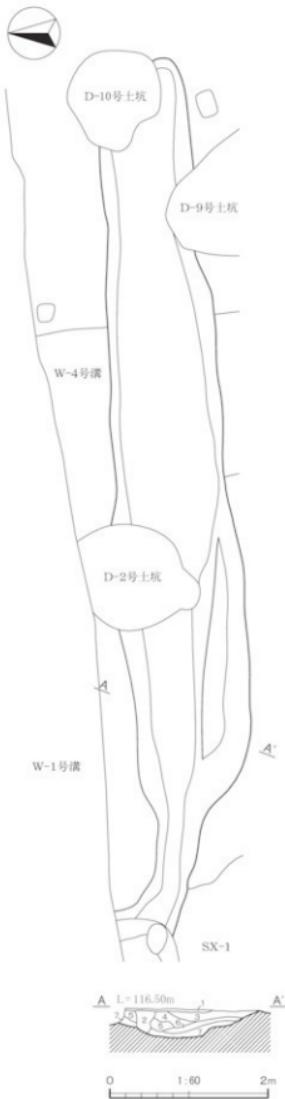
28. 黄褐帶地： 細粒砂質土ブロック（白） ϕ 0.5cm、 粗粒砂質土ブロック（白） ϕ 0.5cm
黑色粗粒質土ブロック ϕ 0.5cm含む、 しりあり、 粘性や強粘性。

29. 黄褐帶地： 細粒砂質土ロック（白） ϕ 0.5cm、 黑色粗粒質土ロック ϕ 0.5~0.6cm少量含む、 しりあり、 粘性や強粘性。

30. 灰白色地： 細粒砂質土ブロック（白） ϕ 0.5cm多量含む、 しりあり、 粘性や強粘性。

W-1号溝土層説明 (Cトレンチ)

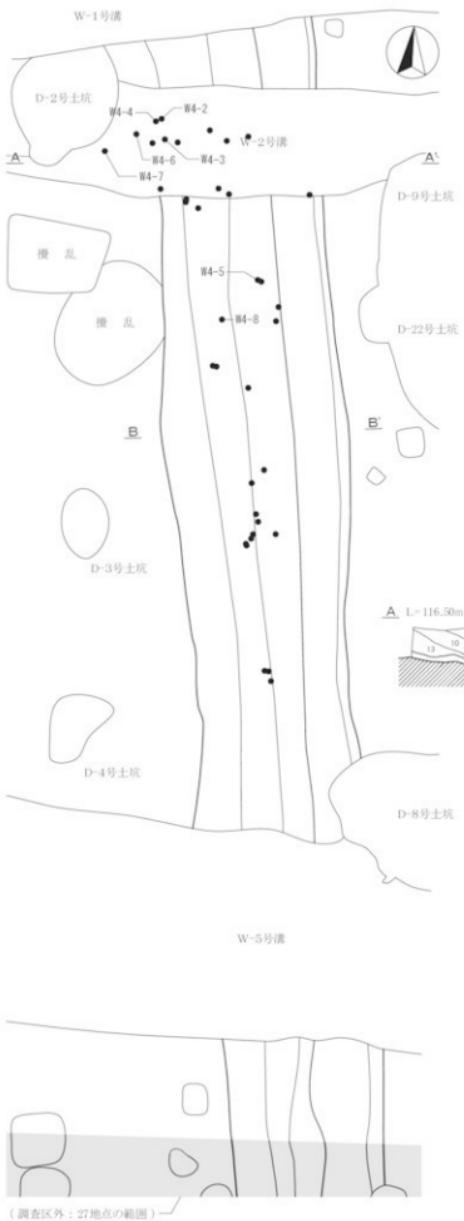
Fig. 49. W=1号機（主回路説明）



W-2号土坑土層説明

1. 灰黃褐色土：絶粒砂層ブロック（白） $\phi 0.5\text{ cm}$ 多量。黒色粘質土ブロック $\phi 0.5\text{ cm}$ 微量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土：小礫 $\phi 0.5\text{ cm}$ ・絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5\text{ cm}$ 中量。絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5\text{ cm}$ 中量。絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黑褐色土：絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ ・白色軽石 $\phi 0.2\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5\text{ cm}$ ・絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 少量。白色軽石 $\phi 0.2\text{ cm}$ 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5\text{ cm}$ ・絶粒砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ ・白色軽石 $\phi 0.2\text{ cm}$ 微量含む。しまり強。粘性ややあり。

Fig. 50 W-2号溝



W-4号溝土層説明 (A-A')

1. 黒褐色土：炭化物・鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・結社・砂質プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

2. 増褐色土：白細粒 $\phi 0.5cm$ 等、鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、W-2 強度適度。

3. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・白細粒 $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

4. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5cm$ 程、鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・白色粗粒 $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

5. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5cm$ 程、鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・白色粗粒 $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

6. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程、白細粒 $\phi 0.5cm$ 等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

7. 黑褐色土：灰岩・結社鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

8. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・白色粗粒 $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

9. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ ・白色粗粒 $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

10. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

11. 黑褐色土：泥炭 $\phi 0.5cm$ 程等含む。鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

12. 黑褐色土：結社鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

13. 黑褐色土：結社鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

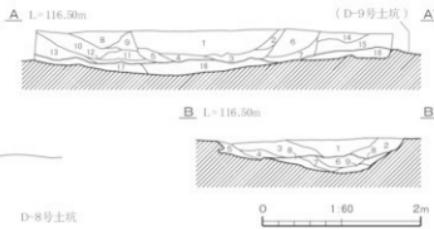
14. 黑褐色土：鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

15. 黑褐色土：小礫 $\phi 0.5cm$ 程、結社鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 程等含む。しまりあり、粘性の少ない、W-2 強度適度。

16. 雖褐色土：砂砾・小礫 $\phi 0.5cm$ 多量。しまりあり、粘性なし。数次の沈降現象。W-4 強度適度。

17. 雖褐色土： $\phi 0.5cm$ 程等含む。鉱物鉱物プロック（黄） $\phi 0.5cm$ 少量含む。W-0.5 強度適度。細粒の少なからず、含む。W-4 強度適度。

18. 云々黑褐色土：砂砾・小礫 $\phi 0.5cm$ 多量含む。しまりあり、粘性なし。数次の沈降現象。W-4 強度適度。



W-4号溝土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚、総栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
重ね植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 2. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5~1.0kg/m³)
中量植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 3. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚、栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
少量植え、植穴入りなし、W-4 週間後土干
しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 4. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
中量植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 5. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
少量植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 6. 黒褐色土：小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
中量植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 7. 黒褐色土：中量植え、小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
重ね植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 8. 黒褐色土：中量植え、小鉢約 0.5cm 厚栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
重ね植え、しまりあり、植穴入りなし、W-4 週間後土干
 9. 暗褐色土：小鉢約 0.5~1.0cm 厚、栽培土量約 20kg (約 0.5kg/m³)
中量植え、しまりなし、植穴入りなし、W-4 週間後土干

Fig. 51 W-4号溝

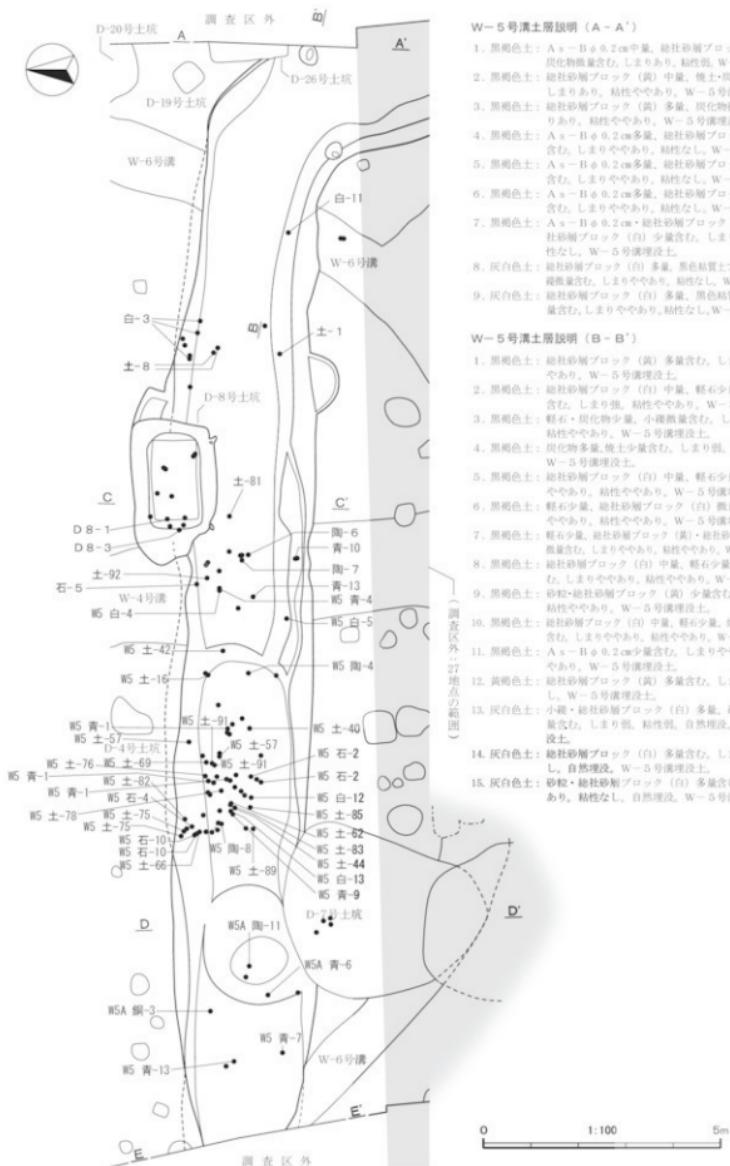


Fig. 52 W-5号溝(1)

W-5号溝土層説明 (A - A')

1. 黒褐色土: A + B の 2 cm 中量。緑色砂層ブロック (黄) 少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性弱。W-5号溝埋没土。
2. 黒褐色土: 緑色砂層ブロック (黄) 中量、焼成物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

3. 黒褐色土: 緑色砂層ブロック (黄) 多量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

4. 黒褐色土: A + B の 2 cm 多量、緑色砂層ブロック (黄) 少量含む。しまりややあり。粘性なし。W-5号溝埋没土。

5. 黒褐色土: A + B の 2 cm 多量、緑色砂層ブロック (黄) 稍量含む。

6. 黒褐色土: A + B の 2 cm 多量、緑色砂層ブロック (黄) 少量含む。しまりややあり。粘性なし。W-5号溝埋没土。

7. 黒褐色土: A + B の 2 cm 多量、緑色砂層ブロック (白) 中量、緑色砂層ブロック (白) 少量含む。しまりややあり。粘性なし。W-5号溝埋没土。

8. 灰白色土: 細粒砂層ブロック (白) 多量、黑色粘土質ブロック少量。小礫微量含む。しまりややあり。粘性なし。W-5号溝埋没土。

9. 灰白色土: 細粒砂層ブロック (白) 多量、黑色粘土質ブロック微量含む。しまりややあり。粘性なし。W-5号溝埋没土。

W-5号溝土層説明 (B - B')

1. 黒褐色土: 緑色砂層ブロック (黄) 多量含む。しまり強。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

2. 黒褐色土: 緑色砂層ブロック (白) 中量、軽石少量、炭化物微量含む。しまり強。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

3. 黒褐色土: 軽石・炭化物微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

4. 黒褐色土: 軽石多量、燒成土少量含む。しまり弱。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

5. 黑褐色土: 細粒砂層ブロック (白) 中量、軽石少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

6. 黑褐色土: 軽石少量、細粒砂層ブロック (白) 無量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

7. 黑褐色土: 軽石少量、緑色砂層ブロック (黄)・緑色砂層ブロック (白) 無量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

8. 黑褐色土: 細粒砂層ブロック (白) 中量、軽石少量、炭化物微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

9. 黑褐色土: 細粒砂層ブロック (白) 少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

10. 黑褐色土: 細粒砂層ブロック (白) 中量、輕石少量。燒成土・炭化物微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

11. 黑褐色土: A + B の 2 cm 少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。

12. 黑褐色土: 細粒砂層ブロック (白) 多量含む。しまり弱。粘性なし。W-5号溝埋没土。

13. 灰白色土: 小石・緑色砂層ブロック (白) 多量。砂石・炭化物少微量含む。しまり強。粘性弱。自然埋没。W-5号溝埋没土。

14. 灰白色土: 細粒砂層ブロック (白) 多量含む。しまり弱。粘性なし。自然埋没。W-5号溝埋没土。

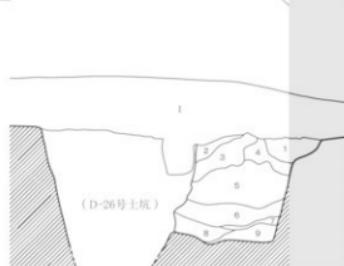
15. 灰白色土: 砂石・緑色砂層ブロック (白) 多量含む。しまりややあり。粘性なし。自然埋没。W-5号溝埋没土。

W-5号溝土層試明 (C-C')

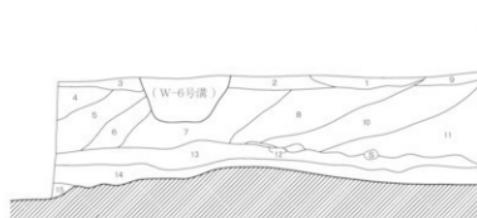
1. 黒褐色土；総社砂層ブロック（黄）中量、維土・小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。木根根。
2. 黄褐色土；総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまり強。粘性弱。土成性土。
3. 黒褐色土；維土・炭化物中量。小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土成性土。
4. 黒褐色土；維土・炭化物中量。燒土少量。総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
5. 黑褐色土；燒土・輕石・炭化物中量。小礫少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
6. 黑褐色土；燒土・小礫・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
7. 黑褐色土；燒土・炭化物・総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまり

- ややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
8. 黑褐色土；燒土・炭化物中量含む。しまり強。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
 9. 黑褐色土；燒土・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
 10. 黑褐色土；燒土・炭化物多量。小礫中量。総社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性ややかり。W-5号溝埋没土。
 11. 黑褐色土；燒土・炭化物中量。総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
 12. 黑褐色土；炭化物中量。総社砂層ブロック（白）少量化含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝埋没土。
 13. 墓褐色土；燒土・炭化物多量。総社砂層ブロック（白）中量含む。し

A L=117.00m (調査区外; 27地点の範囲) ——



B L=117.00m



C L=117.00m



D L=117.00m

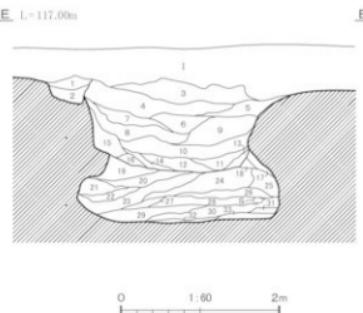
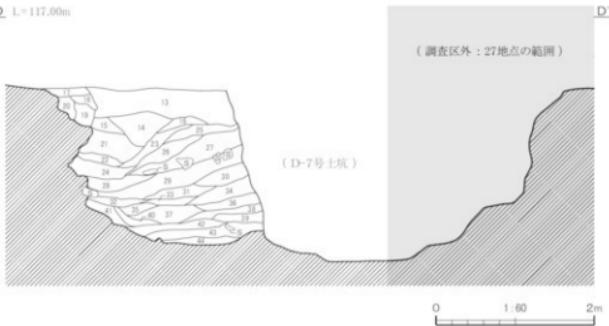


Fig. 53 W-5号溝②



W-5号溝土層説明 (D-D')

1. 黒褐色土：堆土・荒化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 2. 黒褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~1.5cm 中量。黒色粘土層をブロックで ϕ 0.5~1.0~1.5cm 厚。D - 7号土理処理。
 3. 黒褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~2.0cm 中量。荒化土・雜土 ϕ 0.5~10.0cm 総社砂層ブロックで ϕ 0.5~1.0~2.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 4. 黒褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~3.0cm 多量。荒化土量含む。しまりあり。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 5. 黑褐色土：堆土・荒化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~1.0cm 総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0~1.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 6. 喰褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~10.0cm 多量含む。しまり弱。粘性弱。D - 7号土理処理。
 7. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0~20.0cm 多量含む。しまり弱。粘性弱。D - 7号土理処理。
 8. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0~1.0cm 中量。総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5cm 少量。荒化土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 9. 喰褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~10.0cm 中量。雑土 ϕ 0.5~5.0cm 総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5cm 少量含む。しまり弱。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 10. 喰褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1~20.0cm 多量。総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1~3.0cm 少量含む。しまり弱。粘性ややあり。D - 7号土理処理。
 11. にごり泥質土：総社砂層ブロック（黒） 多量含む。しまり弱。粘性弱。大根模様の構造。D - 7号土理処理。
 12. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1~3.0cm 中量含む。しまりあり。粘性やや弱り。D - 7号土理処理。
 13. 黑褐色土：堆土・小粒 ϕ 0.5~1cm 少量・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1.0cm 総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 14. 黑褐色土：堆土・ブロック ϕ 0.5~1.0~20.0cm 荒化土中量。総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~0.5cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 15. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1~4.0cm 中量。堆土・荒化土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 16. 喰褐色土：堆土・ブロック ϕ 0.5~1~2.0cm 中量。総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5cm 荒化土少量含む。しまりあり。粘性やや弱り。
 17. 黑褐色土：堆土・荒化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~0.5cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 18. 黑褐色土：堆土・荒化土・風化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~0.5cm 少量含む。しまりあり。粘性やや弱り。
 19. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0cm 中量。堆土・荒化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~0.5cm 中量。黒色粘土層をブロックで ϕ 0.5~1.0~2.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 20. 喰褐色土：総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1~2.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 21. 喰褐色土：堆土ブロック ϕ 0.5~5cm 荒化土・総社砂層ブロック（黒） ϕ 0.5~1~1.0cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 54 W-5号溝③

W-5号溝土層説明 (E-E')

1. 黑褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット波段土。

2. 黑褐色土：總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm中量。總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット波段土。

3. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm中量。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含。灰化粘質含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

4. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm・黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含。灰化粘質含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

5. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性あり。W-6号調理段土。

6. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm中量。灰化粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

7. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm中量。總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

8. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm少量。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

9. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm中量。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5~1.0 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

10. 喜潤褐色土：堆土・堆肥化・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm・黑色粘質土ブロック ϕ 0.5~1.0 cm少含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号調理段土。

11. 黑褐色土：砂粘・灰化粘・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-6号調理段土。

12. 黑褐色土：後土ブロック ϕ 0.5~1.0 cm・灰化物中量。總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm少含む。しまりあり。粘性やや。堆土に灰化の總社砂層土の堆積（厚さ0.5 cm）する。W-6号調理段土。

13. 黑褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~1.0 cm少含。總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-6号調理段土。

14. 喜潤褐色土：砂粒少・葉枝・灰化粘・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。

15. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

16. 黑褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。A-h 0.6~0.2 cm少含。總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。堆土やや。W-5号調理段土。

17. 黑褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

18. 黑褐色土：灰化物・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm少量。後土
堆肥混含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

19. 黑褐色土：灰化物・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~0.5 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

20. 黑褐色土：灰化物・總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm・總社砂層
ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。灰化粘含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

21. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm中量。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5~0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

22. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~1.0 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

23. 喜潤褐色土：總社砂層ブロック（黄） ϕ 0.5~15.0 cm・總社砂層ブロック（白） ϕ 0.5~0.5 cm少含。黑色粘質土ブロック ϕ 0.5 cm少含む。しまりあり。粘性やや。W-5号調理段土。

Fig. 55 W-5号識別

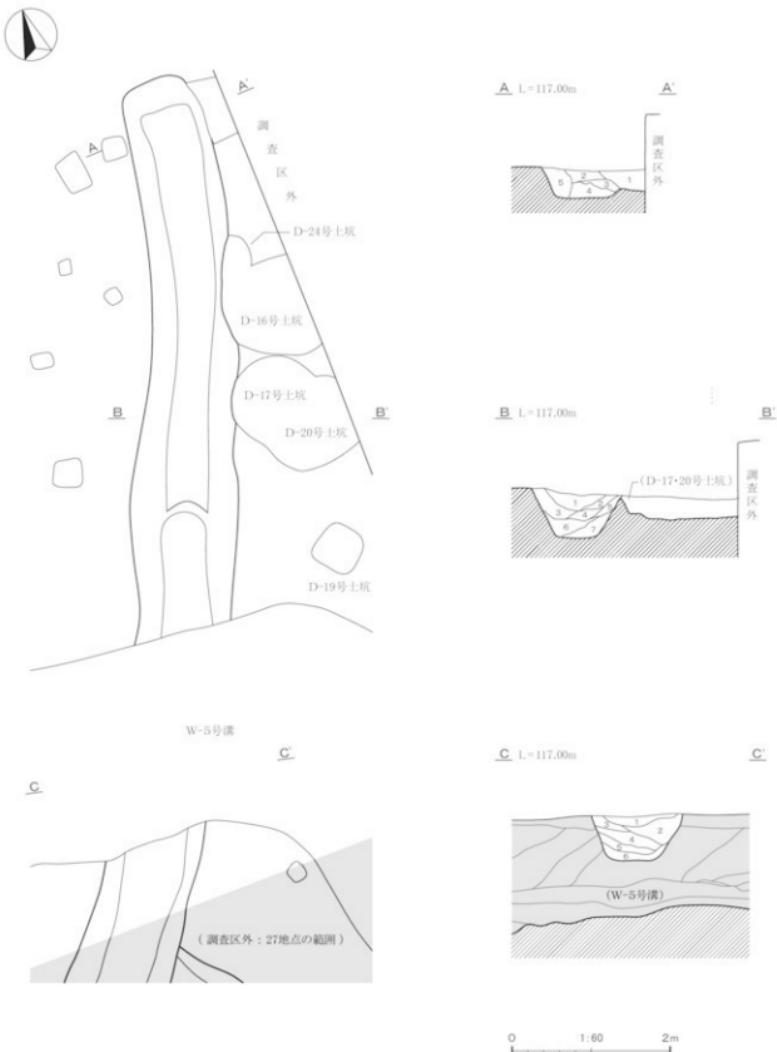


Fig. 56 W-6号溝

W-6号土坑土層説明（A-A'）

- 黒褐色土：機丸。絶社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性なし。
- 黒褐色土：小範・絶社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性なし。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性なし。

W-6号土坑土層説明（B-B'）

- 黒褐色土：小範・絶社砂層ブロック（黄）少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりあり。粘性やややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）中量、輕石少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（白）多量、鐵土粒・輕石・炭化物・絶社砂層ブロック（黄）少量含む。しまり強。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 黒褐色土：機土粒・小範・炭化物少量。絶社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性やややあり。W-6号凍埋没土。

W-6号土坑土層説明（C-C'）

- 黒褐色土：絶社砂層ブロック（白）・輕石少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 培褐色土：絶社砂層ブロック（白）・輕石中量、炭化物少量含む。しまりあり。粘性弱。W-6号凍埋没土。
- 培褐色土：輕石・砂粒中量、小範、炭化物少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 培褐色土：絶社砂層ブロック（白）中量、炭化物少量含む。しまりあり。粘性やややあり。W-6号凍埋没土。
- 培褐色土：絶社砂層ブロック（白）多量含む。しまり強。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。
- 培褐色土：機土少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-6号凍埋没土。

Fig. 57 W-6号溝（土層説明）



W-7号溝土層説明

- 黒褐色土：小範少量含む。しまりなし。粘性やややあり。
- 黒褐色土：小範中量含む。しまりなし。粘性なし。ピット埋没土。
- 黃褐色土：小範・絶社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりあり。粘性なし。ピット埋没土。
- 黒褐色土：小範多量含む。しまりあり。粘性なし。ピット埋没土。

Fig. 58 W-7号溝

24 地点

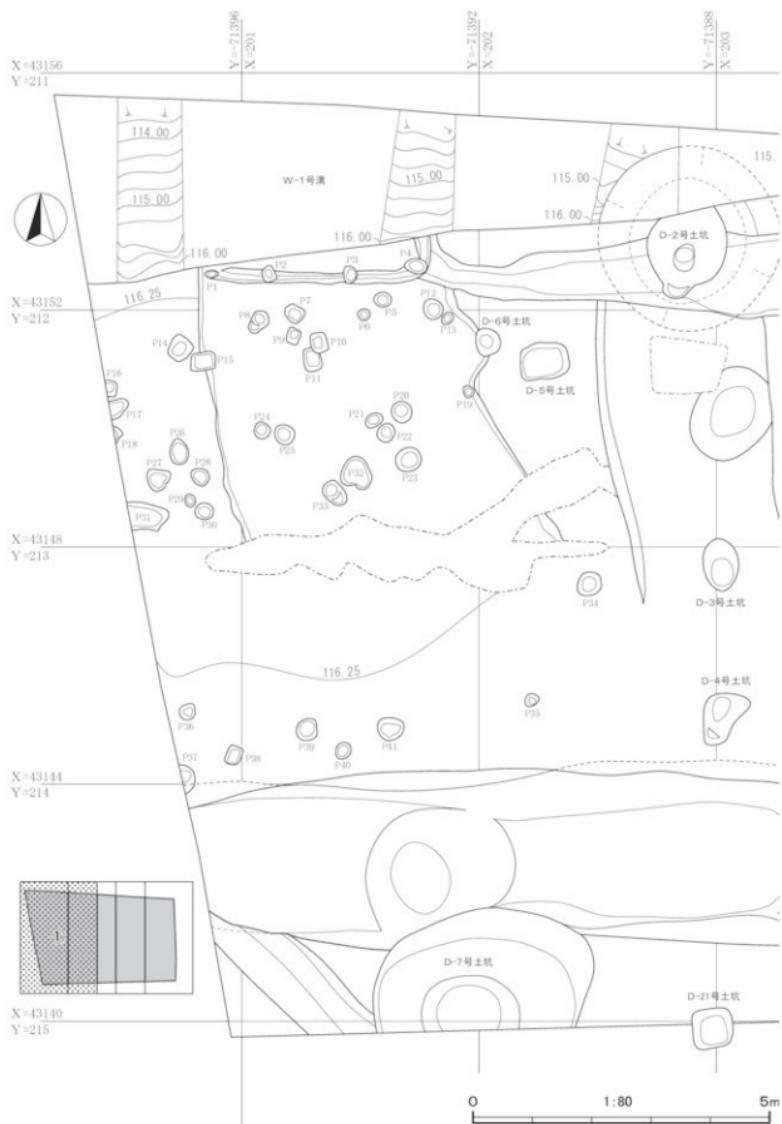


Fig. 59 24 地点ピット配置図①

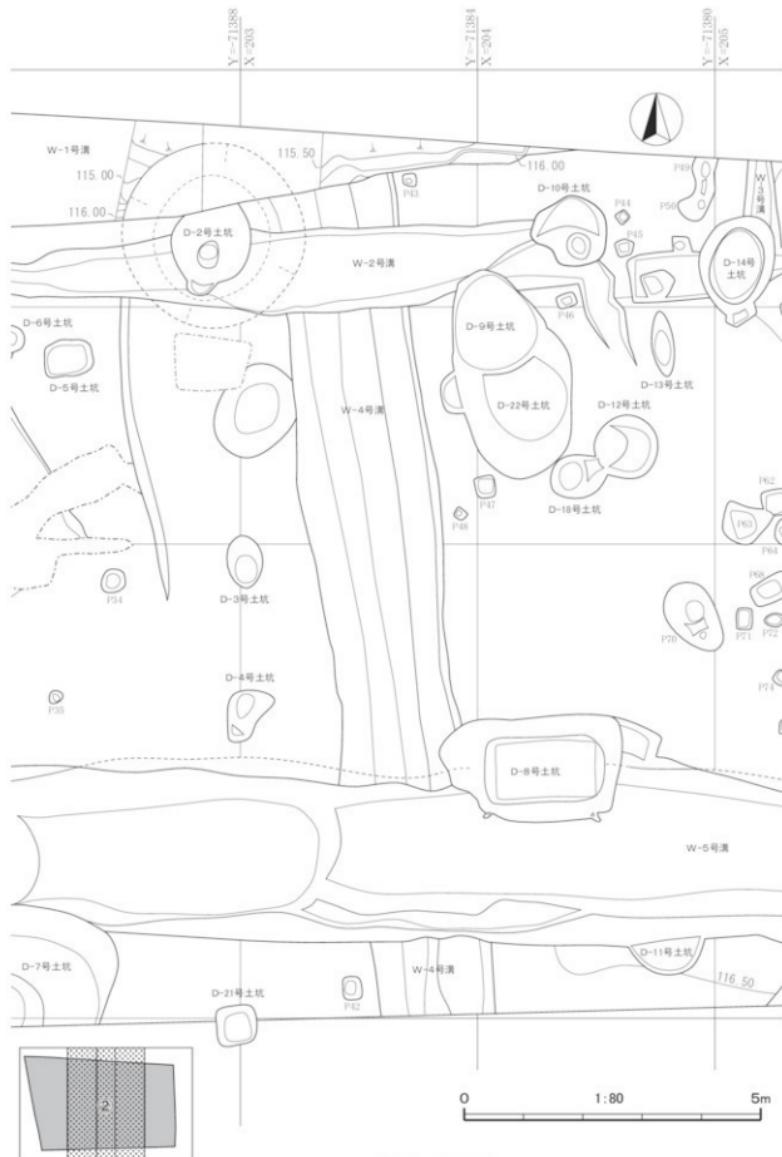


Fig. 60 24 地点ピット配置図②

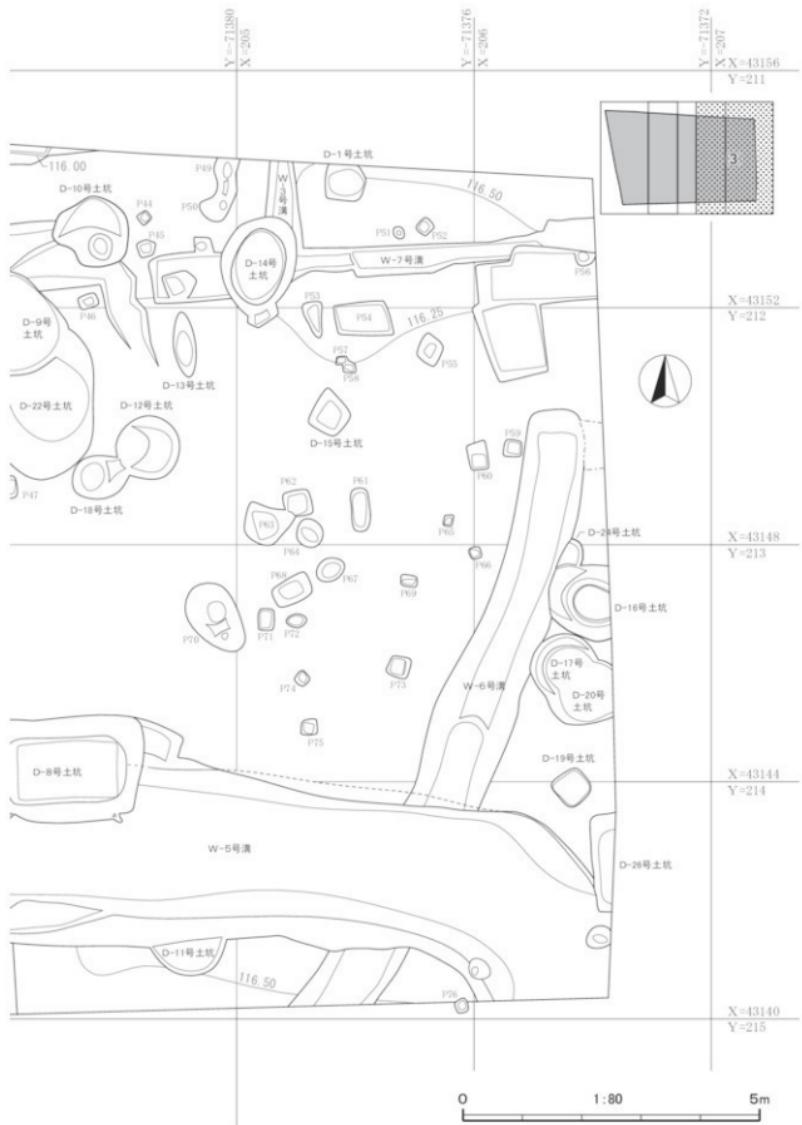
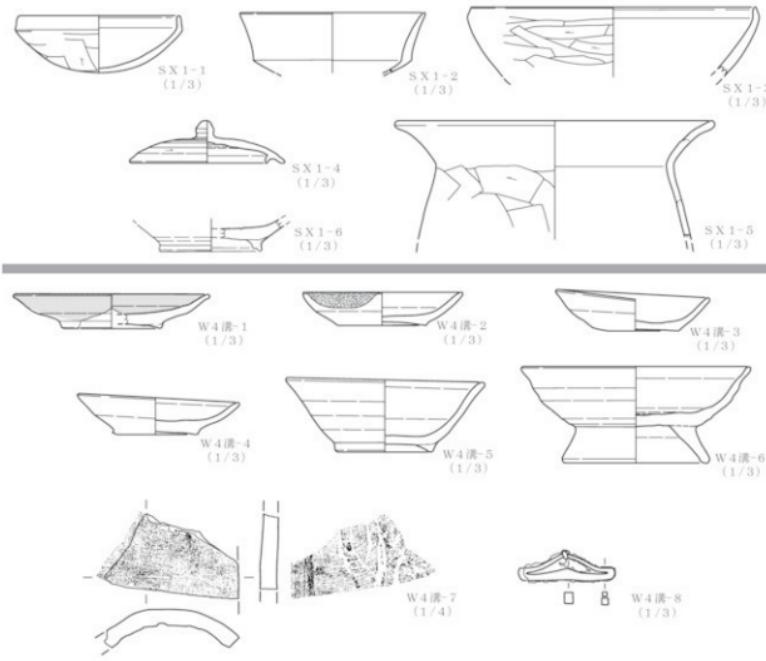


Fig. 61 24 地点ピット配図③



青磁

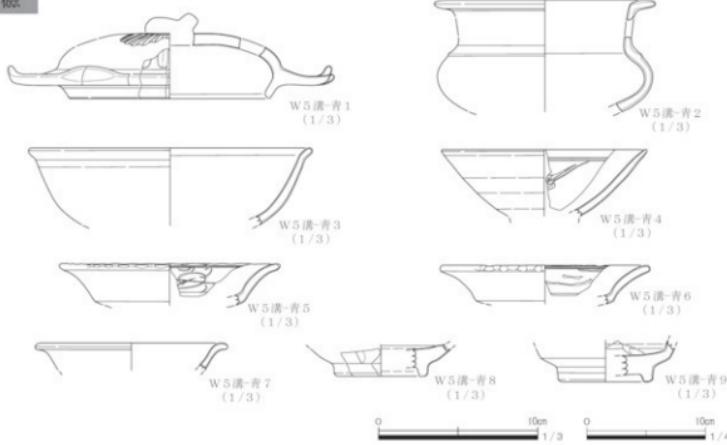
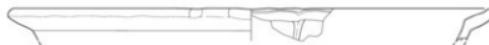
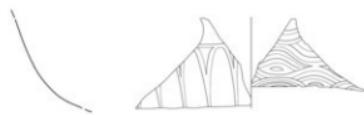
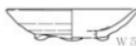


Fig. 62 24 地点出土遗物①

青磁

W5溝-青10
(1/3)W5溝-青11
(1/3)W5溝-青12
(1/3)

白磁

W5溝-白1
(1/3)W5溝-白2
(1/3)W5溝-白3
(1/3)W5溝-白4
(1/3)W5溝-白5
(1/3)W5溝-白6
(1/3)W5溝-白7
(1/3)W5溝-白8
(1/3)W5溝-白9
(1/3)W5溝-白10
(1/3)W5溝-白11
(1/3)W5溝-白12
(1/3)W5溝-白13
(1/3)W5溝-白14
(1/3)W5溝-白15
(1/3)W5溝-白16
(1/3)

染付

W5溝-染1
(1/3)W5溝-染2
(1/3)

陶器

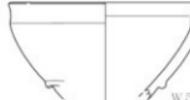
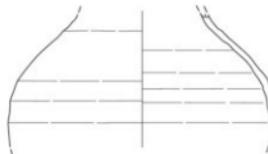
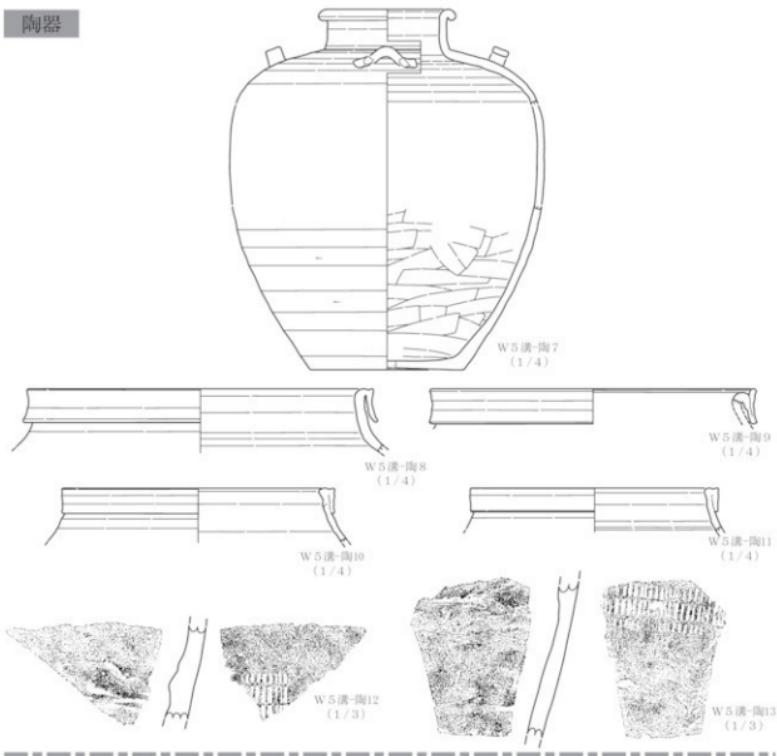
W5溝-陶3
(1/3)W5溝-陶1
(1/3)W5溝-陶2
(1/3)W5溝-陶4
(1/3)W5溝-陶5
(1/3)W5溝-陶6
(1/3)

Fig. 63 24 地点出土遺物②

陶器

24
地点



土器類

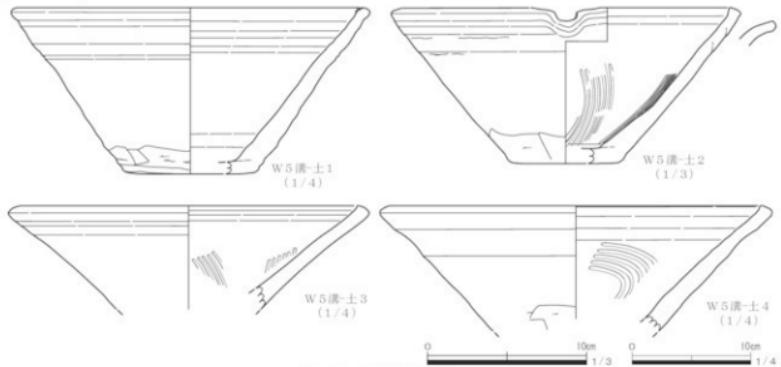


Fig. 64 24 地点出土遺物①

土器類

24
地点

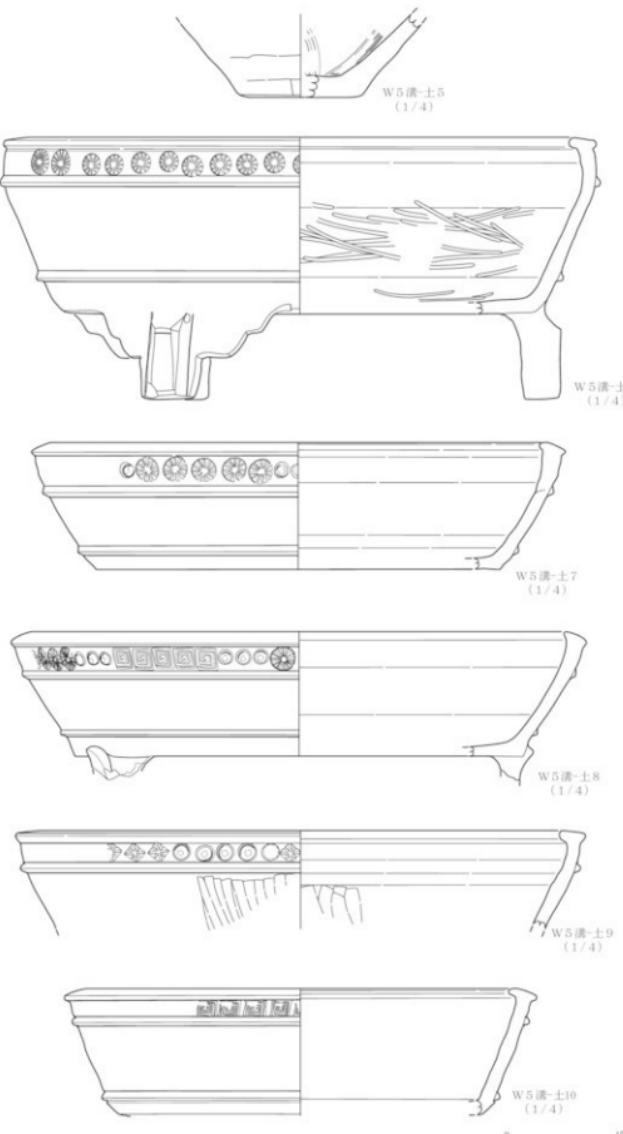


Fig. 65 24 地点出土遺物④

土器類

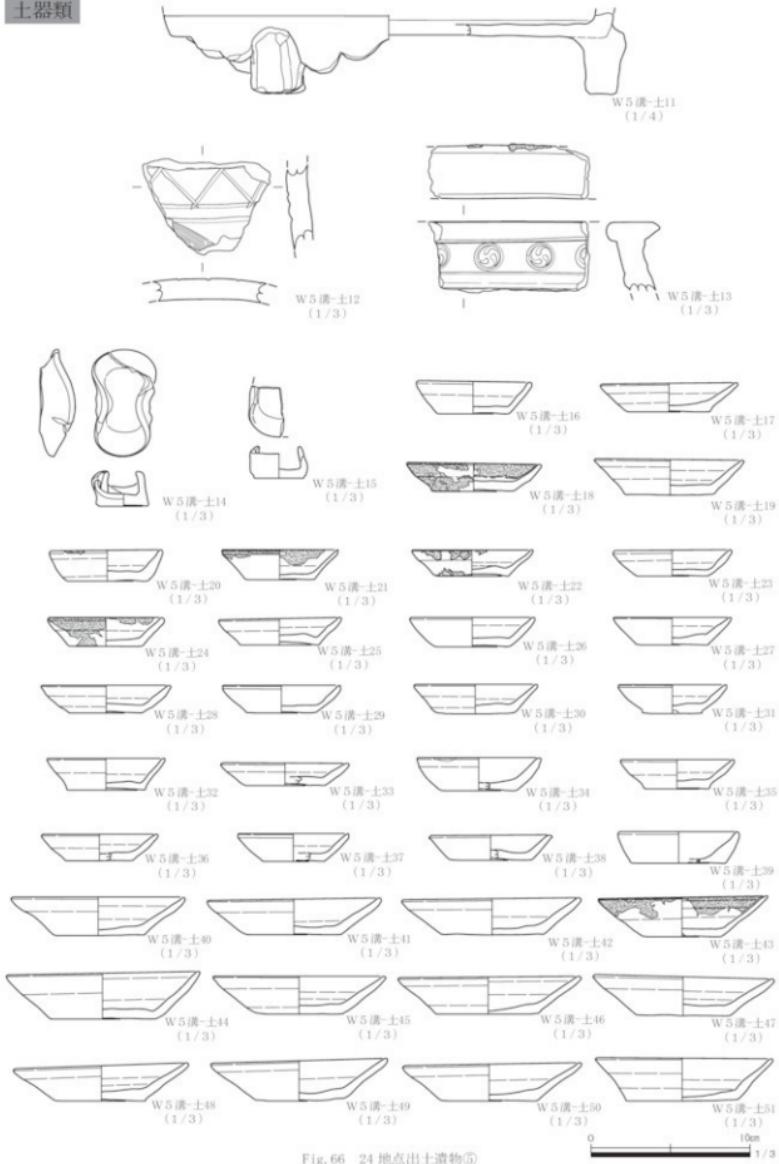


Fig. 66 24 地点出土遗物⑤

土器類

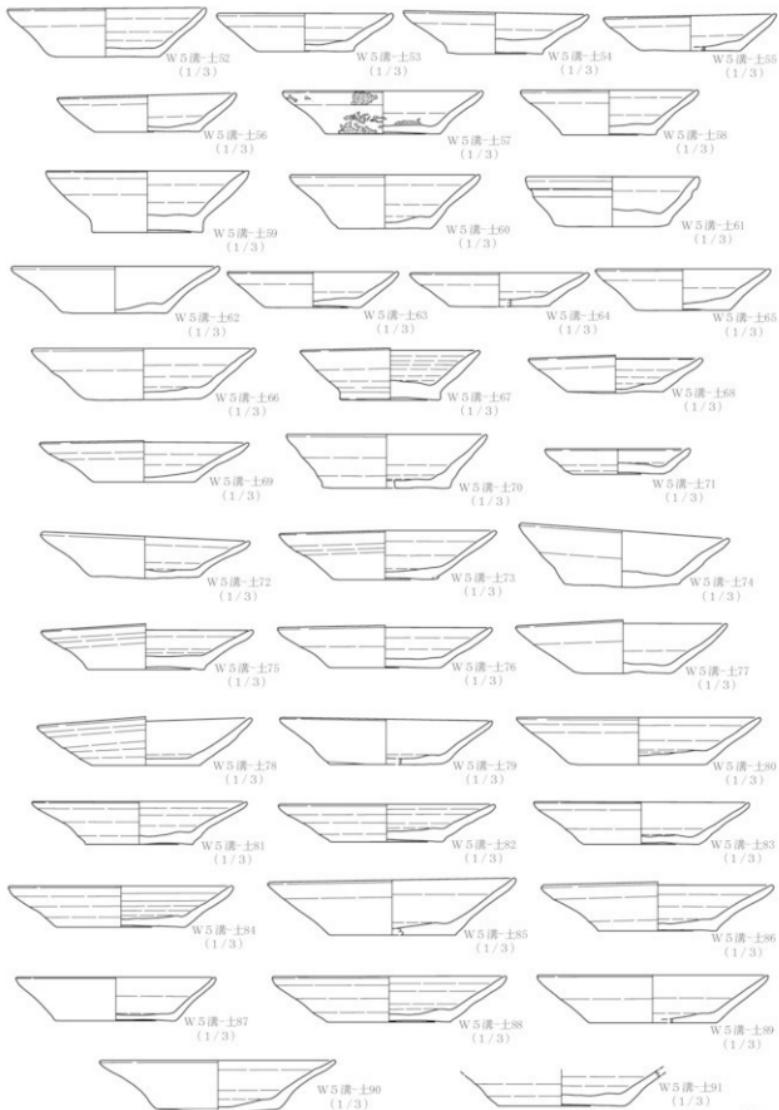


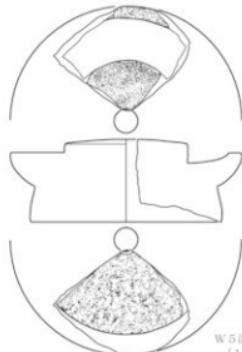
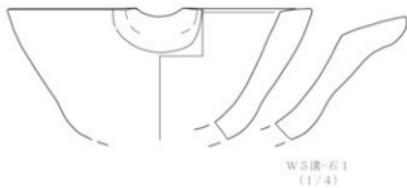
Fig. 67 24 地点出土遺物⑥



土器類



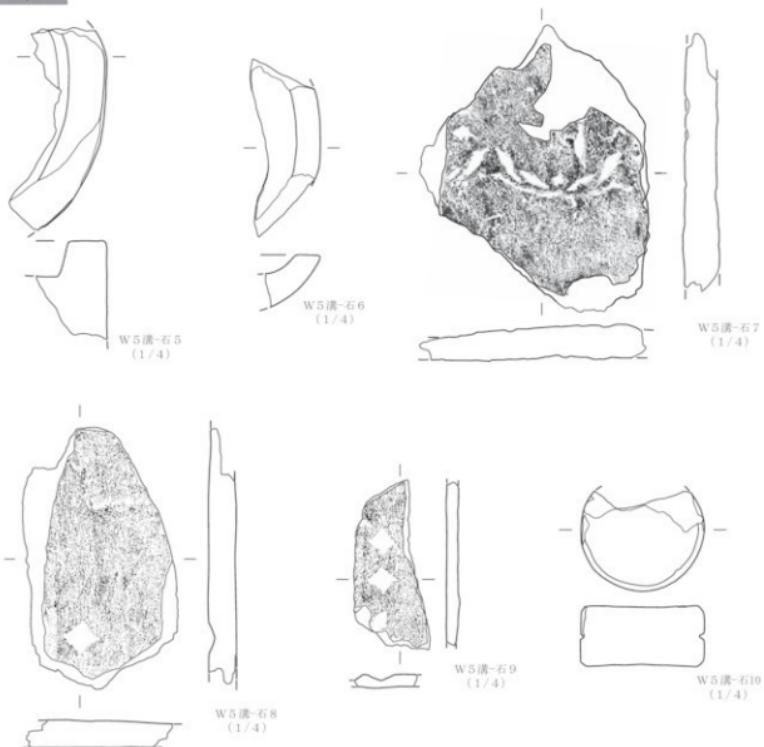
石製品



0 10cm 0 10cm

Fig. 68 24 地点出土遺物⑦

石製品



銅製品

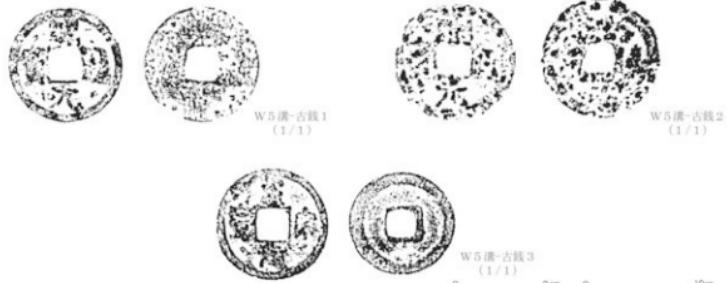


Fig. 69 24 地点出土遺物⑥

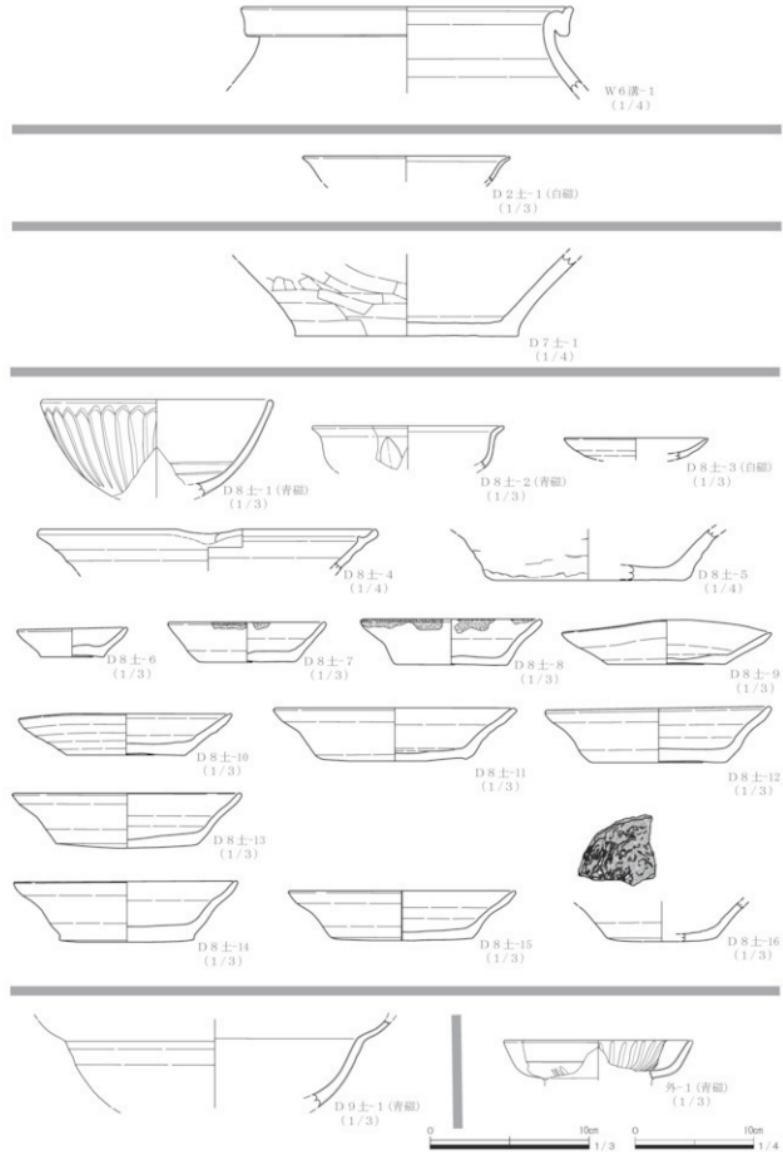


Fig. 70 24 地点出土遺物②

Tab. 15 24 地点出土遺物観察表①

S X - 1

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径(10.2) 底径 — 器高 3.7	①普通 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④1/4	外面 口縁部横擴で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
2	土師器 环	口径(11.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②橙 ③黑色粒・褐色粒 ④口縁部～体部1/5	外面 口縁部横擴で、体部削り。 内面 口縁部～体部横擴で。	
3	土師器 环	口径(17.9) 底径 — 器高 —	①普通 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～体部1/5	外面 口縁部横擴で、体部削り。 内面 口縁部～体部横擴で。	
4	須恵器 蓋	口径(9.6) 底径 — 器高 2.7	①深元 ②灰黄 ③白色粒・黑色粒 ④1/3	外面 軸轉塑形、天井部右回転削り。 内面 軸轉塑形。	
5	土師器 甕	口径(19.8) 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい橙色 ③白色粒・褐色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 口縁部横擴で、胴部削り。 内面 口縁部横擴で、胴部削り。	

W-4号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰陶陶器 皿	口径(12.2) 底径 6.6 器高 2.2	①深元 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④1/4	外面 軸轉塑形、底部右回転糸切り。 内面 軸轉塑形。 輪辺横擴げ。	
2	須恵器 环	口径 10.0 底径 5.6 器高 2.1	①酸化氣味 ②灰白～にぶい黄褐色 ③褐色粒・角閃石 ④壳形	外面 軸轉塑形、底部静止糸切り。 内面 軸轉塑形。 保付着。	
3	須恵器 环	口径 9.5 底径 5.5 器高 2.6	①酸化氣味 ②灰白～にぶい黄褐色 ③褐色粒・角閃石 ④7/8	外面 軸轉塑形、底部静止糸切り。 内面 軸轉塑形。	
4	須恵器 环	口径 10.0 底径 5.4 器高 2.6	①酸化氣味 ②灰白～にぶい黄褐色 ③褐色粒・角閃石 ④1/5	外面 軸轉塑形、底部静止糸切り。 内面 軸轉塑形。	
5	須恵器 碗	口径 12.3 底径 5.8 器高 4.7	①酸化氣味 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸轉塑形、底部右回転糸切り。 内面 軸轉塑形。	
6	須恵器 碗	口径(14.3) 底径 9.0 器高 6.1	①酸化氣味 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・石英 ④2/3	外面 軸轉塑形、底部右回転糸切り。 内面 軸轉塑形。	
7	瓦 丸瓦	厚さ 1.4	①深元 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④側端部	背面 布目压痕。 凸面 横位置撫で。 側面 撫撫で。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
8	鉄製品 火打金	残存長 5.8 幅 0.7 厚さ 0.5 重さ 10.9 g			

W-5号溝(青磁)①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 酒会豆皿	口径(12.6) 底径 — 器高 —	②緑灰 ④口縁部・天井部破片	外面 蓬弁文。	13～14世紀 良品
2	青磁 荷葉香炉	口径(12.8) 底径 — 器高 —	②緑灰 ④口縁部・胴部破片	無文、火を受けている。	13～14世紀 良品
3	青磁 端反碗	口径(17.6) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部・体部破片		D 2類
4	青磁 碗	口径(12.9) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部・体部破片	内面 花描きの梅月文。	14世紀後半 ～15世紀 良品
5	青磁 稜花皿	口径(13.6) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部・体部破片	内面 口縁部下に2条の凹線、片切形による文様。	15世紀後半
6	青磁 稜花皿	口径(13.0) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部・体部破片	内面 口縁部下に2条の凹線、片切形による文様。	15世紀後半
7	青磁 小皿	口径(11.6) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部破片		15世紀前半～ 中期

Tab. 16 24 地点出土遺物観察表②

W-5 号溝（青磁）②

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
8	青磁 碗	口径 一 底径 (5.4) 器高 一	②オリーブ灰 ④底部～高台部破片	外面 蓬弁文。	B3類
9	青磁 葵花皿	口径 一 底径 (5.6) 器高 一	②オリーブ灰 ④底部～高台部破片	内面 文様あり。	15世紀中頃～後半
10	青磁 盤	口径 (30.0) 底径 一 器高 一	②オリーブ灰 ④口縁部破片	内面 蓬弁文。	14世紀
11	青磁 盤	口径 (19.4) 底径 一 器高 一	②オリーブ灰 ④口縁部破片	無文。	14世紀
12	青磁 盤	口径 一 底径 一 器高 一	②オリーブ灰 ④胴部破片	外面 蓬弁文。 内面 青海波文。	14世紀

W-5 号溝（白磁）

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	白磁 皿	口径 (8.1) 底径 (4.0) 器高 2.0	②灰白 ④1/8	輪轉整形、抉高台。	B群
2	白磁 皿	口径 (8.3) 底径 (3.4) 器高 2.0	②灰白 ④1/4	輪轉整形。	B群
3	白磁 皿	口径 (9.6) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/4	輪轉整形。	B群
4	白磁 皿	口径 (12.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/8	輪轉整形。	B群
5	白磁 皿	口径 (10.6) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/8	輪轉整形。	B群
6	白磁 皿	口径 (10.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/8	輪轉整形。	B群
7	白磁 皿	口径 (10.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
8	白磁 皿	口径 (9.4) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/6	輪轉整形。	B群
9	白磁 皿	口径 (9.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
10	白磁 皿	口径 一 底径 3.6 器高 一	②灰白 ④体部～高台部 2/5	輪轉整形。	B群
11	白磁 罐反小环	口径 (9.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/8	輪轉整形。	B群
12	白磁 罐反小环	口径 (8.6) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
13	白磁 碗	口径 (16.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部 1/8	輪轉整形。	15世紀
14	白磁 碗	口径 (15.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形、口鉢。	15世紀中頃
15	白磁 碗	口径 (13.0) 底径 一 器高 一	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形、口鉢。	15世紀中頃
16	白磁 碗	口径 (13.0) 底径 一 器高 一	②明オリーブ灰 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	12世紀

Tab. 17 24 地点出土遺物観察表②

W-5号溝（染付）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	染付 碗	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部破片	輪埴型形。	B群
2	染付 皿	口径 — 底径 (4.6) 器高 —	体部～高台部 1/7	輪埴型形。	B群

W-5号溝（陶器）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 天日茶碗	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②素～にぶい黄褐、 袖～黒褐色 ③黑色粒 ④口縁部破片	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	中国
2	陶器 天日茶碗	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②素～にぶい黄褐、 袖～黒褐色 ③白色粒 ④口縁部破片	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	中国
3	土器 天日茶碗	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②素～暗灰黃、 袖～黒褐色 ③白色粒 ④口縁部破片	土器に漆を塗った天日茶碗。外面部下位に釉垂まりを表現した 作。	
4	陶器 鉢	口径 — 底径 (13.0) 器高 —	①普通 ②灰黃 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部 1/5	外面 輪埴型形、底部右側削り。 内面 輪埴型形。	古瀬戸
5	陶器 褐釉壺	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	①普通 ②灰褐 ③白色粒 ④頸部～胴部中位 1/4	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。 火を受けている。	中国
6	陶器 褐釉壺	口径 — 底径 — 器高 —	①普通 ②灰赤、袖～黒褐色 ③白色粒 ④胴部中位～底部 1/3	外面 輪埴型形、底部無調整。 内面 輪埴型形。	中国
7	陶器 茶壺	口径 (11.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②灰黄褐色～褐灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部 1/2	外面 輪埴型形、胴部下位～底部右側削り。鉄袖。 内面 輪埴型形、胴部下位削り。	古瀬戸
8	陶器 大甕	口径 (58.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～頸部 1/5	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	常滑
9	陶器 大甕	口径 (54.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒 ④口縁部 1/8	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	常滑
10	陶器 大甕	口径 (45.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	常滑
11	陶器 大甕	口径 (41.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②暗赤褐色 ③白色粒 ④口縁部～頸部 1/4	外面 輪埴型形。 内面 輪埴型形。	常滑
12	陶器 大甕	口径 — 底径 — 器高 —	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	外面 輪埴型形、格子状の押印。 内面 輪埴型形。	常滑
13	陶器 大甕	口径 — 底径 (10.4) 器高 —	①普通 ②暗灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	外面 輪埴型形、格子状の押印。 内面 輪埴型形。	常滑

W-5号溝（土器類）①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 擂鉢	口径 (29.2) 底径 (10.8) 器高 14.1	①普通 ②にぶい赤褐色～にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・繩 ④1/3	外面 輪埴型形、体部撲で、單位不明瞭。下位削り。底部回転 系切り。	
2	土器 擂鉢	口径 (27.6) 底径 (9.0) 器高 13.1	①普通 ②にぶい褐～黒褐色 ③白色粒・黒色粒・繩 ④1/4	外面 輪埴型形、体部撲で、單位不明瞭。下位削り。底部表面 荒れ調整不明显。	
3	土器 擂鉢	口径 (28.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/4	外面 輪埴型形、体部撲で、單位不明瞭。	
4	土器 擂鉢	口径 (31.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐灰 ③白色粒・褐色 ④口縁部～体部 1/6	外面 輪埴型形、体部撲で、單位不明瞭。	
5	土器 擂鉢	口径 — 底径 (10.4) 器高 —	①普通 ②褐灰 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部 1/3	外面 体部撲で、單位不明瞭。下位削り。底部回転系切り。 内面 体部撲で。	

Tab. 18 24 地点出土遺物観察表⑤

W-5号溝（土器類）②

番号	器種	法量(㎤)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
				外面	内部	
6	土器 火鉢	口径(46.0) 底径(40.0) 深高(22.1)	①普通 ②灰黄褐色～褐灰 ③白色粒 ④1/6	外面 輪縁整形、口縁部菊花文、体部粗い凹磨き、底部チザレ目、三脚。 内部 輪縁整形、口縁部～底部粗い凹磨き。		
7	土器 火鉢	口径(41.6) 底径(34.0) 深高 -	①普通 ②にふい黄褐色～黒褐色 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部・底部1/10	外面 輪縁整形、口縁部凹磨き、口縁部菊花文・珠文、体部粗い凹磨き、底部は撫で、脚が付くと推定される。 内部 輪縁整形。		
8	土器 火鉢	口径(45.0) 底径(37.6) 深高 -	①普通 ②にふい黄褐色～黒褐色 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部・脚部上位1/5	外面 輪縁整形、口縁部凹磨き、口縁部菊花文・雷文・珠文、体部粗い凹磨き、底部は撫で、三脚。 内部 輪縁整形。		
9	土器 火鉢	口径(44.0) 底径(36.0) 深高 -	①普通 ②灰褐色～褐灰 ③白色粒・黑色粒・褐色粒 ④口縁部・全体1/6	外面 輪縁整形、口縁部花菱文・珠文、体部凹磨き。 内部 輪縁整形、体部は撫で。		
10	土器 火鉢	口径(36.2) 底径(30.6) 深高 -	①普通 ②褐色 ③白色粒・黑色粒・褐色粒 ④口縁部・全体1/8	外面 輪縁整形、口縁部雷文、体部凹磨き。 内部 輪縁整形、体部は撫で。		
11	土器 火鉢	口径 - 底径(36.6) 深高 -	①普通 ②灰 ③白色粒・黑色粒 ④底部～脚部破片	外面 輪縁整形、底部無調整、一部撫で。 内部 輪縁整形。		
12	土器 火鉢	口径 - 底径 - 深高 -	①普通 ②灰 ③白色粒・黑色粒 ④体部破片	外面 輪縁整形、縦刻による連続三角文、刷毛による文様が一部あり。 内部 周辺荒れ調整不明瞭。		
13	土器 火鉢	口径 - 底径 - 深高 -	①普通 ②にふい黄褐色 ③白色粒・黑色粒・雲母 ④口縁部破片	外面 指彫で、口文、口縁部内側一部に煤け着。形状は角形。 内部 瓢腹で。		
14	土器 耳皿	口径(6.8) 底径(4.0) 深高(2.2)	①普通 ②灰 ③白色粒・黑色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
15	土器 耳皿	口径 - 底径 - 深高 -	①普通 ②にふい黄褐色 ③黑色粒 ④1/4	外面 輪縁整形。 内部 輪縁整形。		
16	土器 カワラケ	口径 6.9 底径 4.4 深高 2.1	①普通 ②灰 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部・脚部欠損	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
17	土器 カワラケ	口径 8.4 底径 5.2 深高 1.8	①普通 ②灰 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部・脚部欠損	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
18	土器 カワラケ	口径 8.3 底径 5.2 深高 1.8	①普通 ②にふい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部・脚部欠損	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。 煤け着。		
19	土器 カワラケ	口径 9.2 底径 5.6 深高 2.3	①普通 ②灰 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部・脚部欠損	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
20	土器 カワラケ	口径 6.9 底径 5.1 深高 2.0	①普通 ②にふい橙～褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。 煤け着。		
21	土器 カワラケ	口径 7.2 底径 4.4 深高 1.9	①普通 ②灰黄～黒 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。 煤け着。		
22	土器 カワラケ	口径 7.4 底径 4.6 深高 1.7	①普通 ②灰黄褐色～黒褐色 ③褐色粒 ④5/6	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。 煤け着。		
23	土器 カワラケ	口径 7.2 底径 4.5 深高 1.7	①普通 ②にふい黄褐色～褐灰 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
24	土器 カワラケ	口径 7.0 底径 4.6 深高 1.9	①普通 ②にふい橙～黒褐色 ③褐色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。 煤け着。		
25	土器 カワラケ	口径 7.5 底径 5.0 深高 1.7	①普通 ②灰 ③褐色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
26	土器 カワラケ	口径(7.6) 底径 4.6 深高 1.9	①普通 ②灰 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
27	土器 カワラケ	口径(7.3) 底径 4.6 深高 1.8	①普通 ②灰～にふい橙 ③白色粒・褐色粒 ④2/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		
28	土器 カワラケ	口径(7.9) 底径 4.6 深高 1.8	①普通 ②灰 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内部 輪縁整形。		

Tab. 19 24 地点出土遺物観察表⑤

W-5号溝（土器類）③

番号	器種	法量 (cm)	①地成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
				外面	里面	
29	土器 カワラケ	口径 (7.2) 底径 4.4 器高 1.8	①普通 ②灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
30	土器 カワラケ	口径 (7.6) 底径 5.1 器高 1.9	①普通 ②橙 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④3/5	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
31	土器 カワラケ	口径 (6.6) 底径 3.7 器高 1.8	①普通 ②にぶい黄褐色～にぶい赤褐色 ③褐色粒 ④2/3	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
32	土器 カワラケ	口径 (7.2) 底径 4.9 器高 2.0	①普通 ②にぶい4種 ③褐色粒 ④2/3	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
33	土器 カワラケ	口径 (7.7) 底径 5.0 器高 1.4	①普通 ②橙～にぶい橙 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 帽楕整形、底部回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
34	土器 カワラケ	口径 (7.6) 底径 4.9 器高 2.1	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形、 煤付着。		
35	土器 カワラケ	口径 (7.0) 底径 4.0 器高 1.9	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/3	外面 帽楕整形、底部回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
36	土器 カワラケ	口径 (7.1) 底径 4.2 器高 1.7	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒 ④2/5	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
37	土器 カワラケ	口径 (6.8) 底径 3.8 器高 1.8	①普通 ②橙 ③白色粒・褐色粒 ④1/3	外面 帽楕整形、底部回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
38	土器 カワラケ	口径 (7.4) 底径 5.2 器高 1.6	①普通 ②にぶい橙 ③白色粒・褐色粒 ④1/5	外面 帽楕整形、底部回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
39	土器 カワラケ	口径 (7.3) 底径 6.0 器高 2.0	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/8	外面 帽楕整形、底部回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
40	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 5.7 器高 2.5	①普通 ②橙 ③白色粒・褐色粒 ④はげ完形	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
41	土器 カワラケ	口径 10.6 底径 6.0 器高 2.3	①普通 ②にぶい黄褐色～褐灰 ③白色粒・褐色粒 ④はげ完形	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
42	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.5 器高 2.3	①普通 ②にぶい橙～橙 ③白色粒・褐色粒 ④はげ完形	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
43	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 5.0 器高 2.6	①普通 ②にぶい橙～黒 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損 ⑤はげ完形	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。 煤付着。		
44	土器 カワラケ	口径 11.9 底径 6.5 器高 3.0	①普通 ②浅黄褐色～黒 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。板状压痕。 里面 帽楕整形、底部はげで。		
45	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 5.5 器高 2.4	①普通 ②にぶい橙～褐灰 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
46	土器 カワラケ	口径 11.0 底径 6.4 器高 2.4	①普通 ②浅黄褐色～褐灰 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
47	土器 カワラケ	口径 11.0 底径 5.9 器高 2.6	①普通 ②浅黄褐色～褐灰 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
48	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 5.6 器高 2.4	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形、底部はげで。		
49	土器 カワラケ	口径 10.8 底径 5.5 器高 2.7	①普通 ②にぶい黄褐色～黒褐色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形、底部はげで。		
50	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.0 器高 2.4	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・雲母 ④3/4	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		
51	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 7.0 器高 2.7	①普通 ②にぶい橙色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 帽楕整形、底部左回転糸切り。 里面 帽楕整形。		

Tab. 20 24 地点出土遺物観察表⑥

W-5号溝（土器類）④

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴				備考
			①焼成	②色調	③胎土	④残存	
52	土器 カワラケ	口径 12.2 底径 6.8 脚高 3.1	①普通 ②浅い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
53	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 6.2 脚高 2.4	①普通 ②薄い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
54	土器 カワラケ	口径 11.4 底径 6.0 脚高 2.7	①普通 ②薄い緑～薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
55	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 6.3 脚高 2.3	①普通 ②薄い緑～薄い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
56	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.6 脚高 2.4	①普通 ②緑～薄い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部全面撫で。			
57	土器 カワラケ	口径 (12.3) 底径 7.2 脚高 2.7	①普通 ②薄い褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。 煤付着。			
58	土器 カワラケ	口径 (10.9) 底径 5.8 脚高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
59	土器 カワラケ	口径 12.5 底径 6.8 脚高 3.9	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
60	土器 カワラケ	口径 (11.7) 底径 5.8 脚高 3.4	①普通 ②緑～薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
61	土器 カワラケ	口径 (10.5) 底径 7.1 脚高 3.2	①普通 ②緑/白 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
62	土器 カワラケ	口径 (12.8) 底径 6.5 脚高 3.0	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
63	土器 カワラケ	口径 (10.5) 底径 6.0 脚高 2.3	①普通 ②薄い黄褐色～褐灰色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
64	土器 カワラケ	口径 (11.0) 底径 6.4 脚高 2.2	①普通 ②緑～黒色 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
65	土器 カワラケ	口径 (10.6) 底径 5.9 脚高 2.6	①普通 ②薄い黄褐色～浅黃褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/7	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
66	土器 カワラケ	口径 (13.8) 底径 (7.2) 脚高 3.3	①普通 ②薄い褐色 ③白色粒 ④1/3	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
67	土器 カワラケ	口径 (11.2) 底径 6.2 脚高 2.3	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形。			
68	土器 カワラケ	口径 (10.8) 底径 6.0 脚高 2.4	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
69	土器 カワラケ	口径 (13.0) 底径 6.4 脚高 2.6	①普通 ②薄い褐色 ③黑色粒・褐色粒 ④2/5	外面 輪縁整形、底部回転系切り。 内面 輪縁整形、底部全面撫で。			
70	土器 カワラケ	口径 (12.6) 底径 (8.0) 脚高 3.4	①普通 ②薄い褐色 ③白色粒・黑色粒 ④1/4	外面 輪縁整形、底部回転系切り。 内面 輪縁整形。 底部に約0.9cmの後成前穿孔。			
71	土器 カワラケ	口径 (9.0) 底径 5.8 脚高 1.6	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④1/2	外面 輪縁整形、底部回転系切り。 内面 輪縁整形。			
72	土器 カワラケ	口径 13.0 底径 6.9 脚高 2.9	①普通 ②にふい黄褐色 ③黑色粒・褐色粒 ④7/8	外面 輪縁整形、底部回転系切り、板状汪痕。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
73	土器 カワラケ	口径 13.5 底径 6.6 脚高 3.1	①普通 ②にふい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④9/10	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。			
74	土器 カワラケ	口径 13.0 底径 7.2 脚高 4.1	①普通 ②にふい黄褐色 ③黑色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部左回転系切り。 内面 輪縁整形、底部全面撫で。			

Tab. 21 24 地点出土遺物観察表⑦

W-5号溝（土器類）⑤

番号	器種	法量(cm)	(1)焼成 (2)色調 (3)胎土 (4)残存	成・整形技法の特徴	備考
75	土器 カワラケ	口径 13.2 底径 7.4 器高 2.9	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・褐色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
76	土器 カワラケ	口径 13.4 底径 7.0 器高 2.7	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
77	土器 カワラケ	口径 13.1 底径 6.0 器高 3.4	①普通 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
78	土器 カワラケ	口径 13.4 底径 6.8 器高 3.1	①普通 ②にぶい黄 ③白色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
79	土器 カワラケ	口径 13.2 底径 7.0 器高 3.0	①普通 ②にぶい黄 ③黑色粒・褐色粒 ④2/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部全面撫で。	
80	土器 カワラケ	口径 (15.3) 底径 8.7 器高 3.0	①普通 ②にぶい黄橙～褐色 ③白色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部全面撫で。	
81	土器 カワラケ	口径 (13.4) 底径 (6.8) 器高 2.7	①普通 ②にぶい黄 ③黑色粒・褐色粒 ④1/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
82	土器 カワラケ	口径 (13.5) 底径 7.2 器高 2.4	①普通 ②にぶい黄 ③褐色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
83	土器 カワラケ	口径 (13.4) 底径 7.5 器高 2.7	①普通 ②灰 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④2/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
84	土器 カワラケ	口径 (14.1) 底径 8.1 器高 2.6	①普通 ②にぶい黄 ③褐色粒 ④4/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
85	土器 カワラケ	口径 15.4 底径 8.0 器高 3.6	①普通 ②にぶい黄橙 ③黑色粒・褐色粒 ④2/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
86	土器 カワラケ	口径 (14.4) 底径 7.5 器高 3.1	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
87	土器 カワラケ	口径 (12.5) 底径 7.4 器高 2.7	①普通 ②にぶい黄 ③黑色粒 ④3/5	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形。	
88	土器 カワラケ	口径 (14.6) 底径 7.8 器高 2.9	①普通 ②にぶい黄橙 ③褐色粒・雲母 ④2/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
89	土器 カワラケ	口径 (14.5) 底径 (8.0) 器高 3.0	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/4	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
90	土器 カワラケ	口径 (14.6) 底径 7.8 器高 3.3	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
91	土器 カワラケ	口径 一 底径 8.0 器高 一	①普通 ②にぶい黄 ③黑色粒・褐色粒 ④全体下位・底部残存	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
92	土器 カワラケ	口径 (18.6) 底径 10.5 器高 3.3	①普通 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り。 内面 輪縁整形、底部撫で。	
93	土器 カワラケ	口径 (15.0) 底径 (9.0) 器高 2.9	①普通 ②褐色灰～にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 輪縁整形、底部左回転糸切り、板状痕。 内面 輪縁整形、底部撫で。	

W-5号溝（石製品）①

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 鉢	口径 (25.2) 重さ 430 g	
2	石製品 茶臼	直径 (39.0) 孔径 (4.0) 高さ 13.9 重さ 4,600g	
3	石製品 右臼	直径 (33.6) 孔径 (4.2) 重さ 4,540g 上臼破片	
4	石製品 右臼	孔径 (13.3) 高さ 3.3 重さ 3,830g 下臼破片	
5	石製品 石臼	重さ 648.8 g 上臼破片	
6	石製品 茶臼	重さ 256.8 g 下臼破片	
7	石製品 板碑	残存長 24.4 残存幅 19.4 厚さ 3.1 重さ 1,840g 蓼座部分残存。	
8	石製品 板碑	残存長 22.1 残存幅 13.1 厚さ 2.3 重さ 1,115.7g 種子の一部残存。	

Tab. 22 24 地点出土遺物観察表⑤

W-5号溝（石製品）②

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
9	石製品 板碑	残存長 14.3 厚さ 6.5 残存幅 5.1 重さ 161.6g 種子の一部残存。	
10	石製品 不明	直径 10.4 厚さ 5.1 重さ 561.1 g	

W-5号溝（銅製品）

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	銅製品 古錢	開元通寶	
2	銅製品 古錢	開元通寶	
3	銅製品 古錢	聖宋元宝	

W-6号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 大甕	口径 (55.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②に赤い赤褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	外面 軸轆整形。 内面 軸轆整形。	常滑

D-2号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	白磁 堆反皿	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	②灰白 ④口縁部～体部破片	軸轆整形。	15世紀

D-7号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 大甕	口径 — 底径 18.8 器高 —	①普通 ②明赤褐色 ③白色粒 ④胴部下位～底部 1/4	外面 踏撲で。砂底。 内面 踏撲で。	常滑

D-8号土坑①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 碗	口径 (14.4) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部～体部破片	外面 蓬弁文。 内面 体部下位に凹線 2 条。	B3類
2	青磁 蓮瓣文 折縁皿	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	②明緑灰 ④口縁部～体部破片	外面 蓬弁文。	B2類
3	白磁 皿	口径 (9.0) 底径 — 器高 —	②灰白 ④口縁部～体部 1/6	軸轆整形。火を受けている。	B群
4	陶器 桶鉢	口径 (28.2) 底径 — 器高 —	①普通 ②浅黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/5	外面 軸轆整形。 内面 軸轆整形。	古瀬戸
5	陶器 大甕	口径 — 底径 (16.5) 器高 —	①普通 ②に赤い褐色 ③白色粒・黒色粒 ④胴部下位～底部 1/3	外面 踏撲で。砂底。 内面 踏撲で。	常滑
6	土器 カワラケ	口径 6.9 底径 4.0 器高 1.9	①普通 ②に赤い褐色 ③白色粒・黒色粒 ④ 3/4	外面 軸轆整形。底部左回転系切り。 内面 軸轆整形。	
7	土器 カワラケ	口径 9.9 底径 6.2 器高 2.5	①普通 ②に赤い褐色 ③白色粒・黒色粒 ④ 3/5 埋付着。	外面 軸轆整形。底部左回転系切り。 内面 軸轆整形。	
8	土器 カワラケ	口径 (11.2) 底径 (7.0) 器高 2.9	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒色粒 ④ 2/5 埋付着。	外面 軸轆整形。底部回転系切り。 内面 軸轆整形。	
9	土器 カワラケ	口径 13.1 底径 7.4 器高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ定形	外面 軸轆整形。底部左回転系切り。 内面 軸轆整形。底部撲で。	
10	土器 カワラケ	口径 13.3 底径 7.5 器高 2.6	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒色粒 ④ 4/5	外面 軸轆整形。底部左回転系切り。板状圧痕。 内面 軸轆整形。底部全面撲で。	

Tab. 23～24 地点出土遺物観察表②

D-8号土坑②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
11	土器 カワラケ	口径 15.0 底径 9.0 器高 3.4	①普通 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面 輪埴整形、底部左回転糸切り。 内面 輪埴整形、底部側で。	
12	土器 カワラケ	口径 14.1 底径 8.5 器高 3.6	①普通 ②にぶい黄橙 ③褐色粒・纏 ④3/4	外面 輪埴整形、底部左回転糸切り。 内面 輪埴整形、底部側で。	
13	土器 カワラケ	口径 14.2 底径 9.0 器高 3.5	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 輪埴整形、底部左回転糸切り。 内面 輪埴整形、底部側で。	
14	土器 カワラケ	口径 14.0 底径 8.4 器高 3.9	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④4/5	外面 輪埴整形、底部左回転糸切り。 内面 輪埴整形、底部側で。	
15	土器 カワラケ	口径 14.1 底径 9.0 器高 3.2	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面 輪埴整形、底部左回転糸切り。 内面 輪埴整形、底部側で。	
16	土器 カワラケ	口径 — 底径 (7.0) 器高 —	①普通 ②灰褐～灰黄褐 ③白色粒 ④体部～底部 1/6	外面 輪埴整形、底部回転糸切り。 内面 輪埴整形、全面に施着物、埴塊に転用。	

D-9号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 盤	口径 — 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④体部破片	無文。	

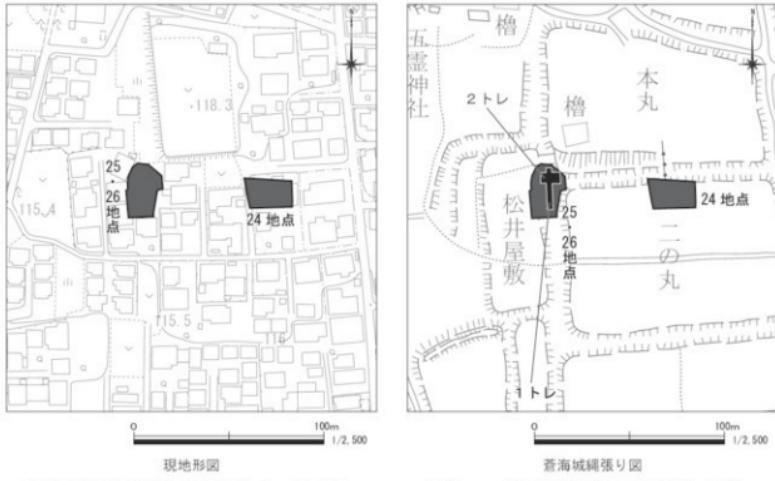
遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 皿	口径 (11.7) 底径 — 器高 —	②緑灰 ④口縁部～体部破片	輪埴整形。内面蓮瓣文。	

VII 25・26 地点

1 25・26 地点概要 (Fig. 71・72、P.L. 26)

25・26 地点の調査は、民家に囲まれて残土掘出等に制限が伴うことから、トレンチ調査で対応している。トレンチは2本設け、1号トレンチ・2号トレンチと名称を付してある。調査の進行は、南北方向に設定した1号トレンチを調査した後、同トレンチを埋め戻し、東西方向に設定した2号トレンチに着手している。なお、両トレンチの設定は、蒼海城新段階の堀を捉えることを主眼に置いたが、いずれのトレンチでも堀の立ち上がりは確認できず、堀底の検出のみに留まっている。確認された堀底は、蒼海城の縄張り図 (Fig. 71 参照) から1号トレンチが、本丸と二の丸の西側を南北に走行する堀、2号トレンチが本丸と二の丸間を東西に走行する堀と想定され、いずれの堀もW-1号溝と名称を付してある。なお、2号トレンチで確認された堀底は24地点W-1号溝からの続きと想定されるものである。堀の深さは、最深で現地表面から3.96 mを測り、A s-Y P の一次堆積層よりも深く掘り込んでいる状況が捉えられており、埋没土の下位では人為的に埋められた痕跡が1号トレンチ内で確認されている。出土遺物は埋没土の上位から板碑片、下位から漆塗りの木器碗が出土しているものの、明確な時期を決定付けるような遺物は出土していない。このため、本地点で確認された堀の時期は、明確には提示できず、24地点W-5号溝(蒼海城古段階の堀)が埋められたと想定される15世紀後半から蒼海城が魔城となつたとされる17世紀前半と幅を持たせた捉え方に留まろう。



(前橋市役所発行『前橋市現地形図 52-1・52-3』) (山崎一 1978『群馬県古城墨跡の研究 上巻』)
Fig. 71 現地形図と縄張り図における調査地点

2 トレンチ

1号トレンチ (遺構: Fig. 72, P.L. 26・27 / 遺物: Fig. 74, Tab. 24, P.L. 27)

位置: X : 186・187、Y : 209 ~ 215 グリッド。トレンチ概要: 幅 3.00 m、長さ 22.00 m のトレンチを南北方向に設定。遺構底面までの深さが 3 m 以上になったため、安全帯を 2 段設けて掘り下げを行った。このため、底面の検出範囲は、幅 0.60 m、長さ 15.00 m となっている。確認遺構: 蒼海城新段階における本丸と二の丸の西を南北方向に走行する堀底を確認し、W-1 号溝と名称を付した。縄張り図によると本堀の西側には『松井屋敷』と呼称される郭が存在するものと想定される。断面の状態: W-1 号溝の堀底まで検出し、現地表面からの深さは 3.89 m を測る。断面で確認された土層は全て W-1 号溝の埋没土と考えられる。トレンチ北側の堀底では瘤状に底面が上がる部分が見られるが詳細は不明である。出土遺物: 埋没土中位から板碑の破片、下位から漆塗りの木器楕が出土している。このほか、板状の木片が出土しているが、自然木であるか材として使用されたものかは不明である。検出遺構の時期: 15 世紀後半~17 世紀前半と想定される。

2号トレンチ (遺構: Fig. 72・73, P.L. 27)

位置: X : 186 ~ 188、Y : 210・211 グリッド。トレンチ概要: 幅 6.00 m、長さ 10.00 m のトレンチを東西方向に設定。遺構底面までの深さが 3 m 以上になったため、安全帯を 3 段設けて掘り下げを行った。このため、底面の検出範囲は、幅 0.50 m、長さ 2.00 m となっている。確認遺構: 蒼海城新段階における本丸と二の丸の間を東西方向に走行する堀底を確認し、W-1 号溝と名称を付した。なお、本溝は 24 地点 W-1 号溝と同一の堀と考えられる。断面の状態: W-1 号溝の堀底まで検出し、現地表面からの深さは 3.96 m を測る。断面で確認された土層は全て W-1 号溝の埋没土と考えられる。出土遺物: 遺物の出土は見られない。検出遺構の時期: 15 世紀後半~17 世紀前半と想定される。

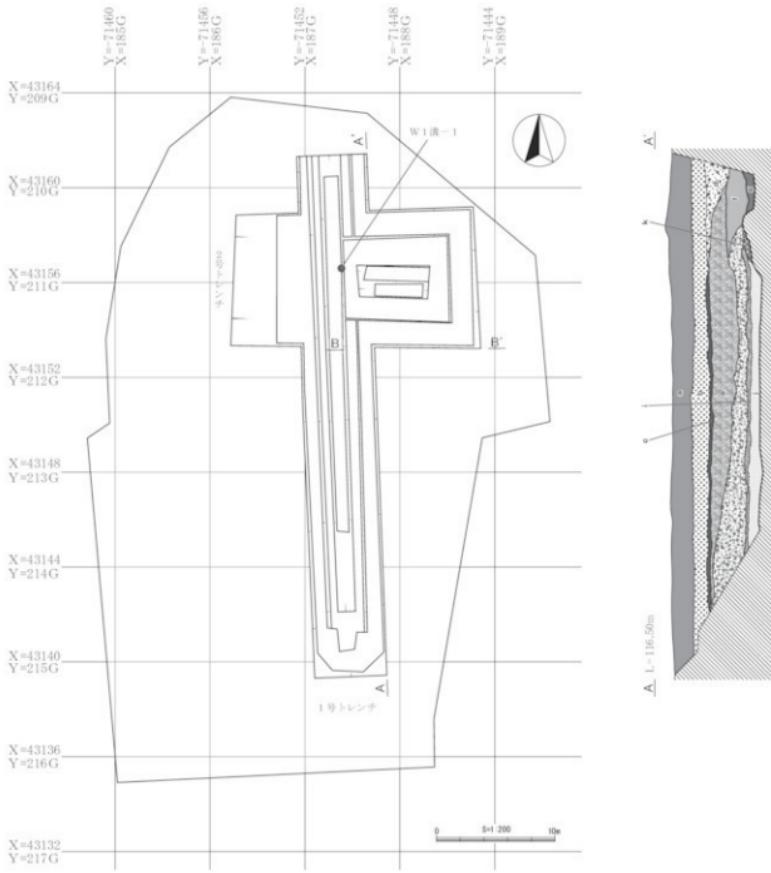
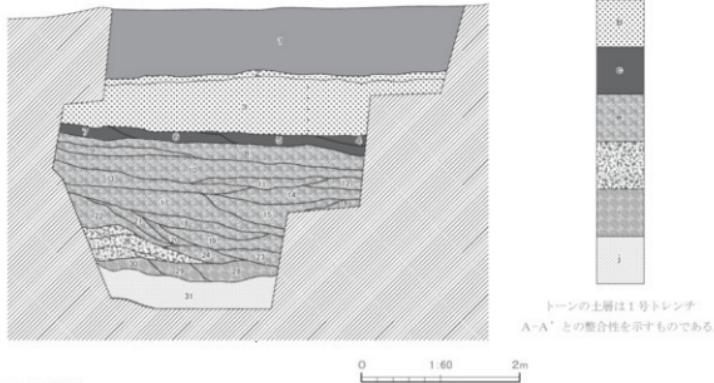


Fig. 72 25・26 地点全体図、1号トレンチ断面図

B L=116.50m

B'



2号トレンチ土層説明

1. 埋褐色土：表層。
2. 灰色土：表が緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 灰色土：緑社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm微量含む。緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・黒色粘質土ブロックφ 0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm微量含む。緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 灰色土：灰褐色・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm・黒色粘質土ブロックφ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。黒色粘質土ブロックφ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 灰色土：灰褐色・緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。緑社砂層ブロック（白）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。緑社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm微量含む。黒色粘質土ブロックφ 0.5～2.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 灰色土：緑社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm微量含む。緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm微量含む。しまりあり。粘性強。
16. 灰色土：緑社砂層ブロック（黄）φ 0.5cm・灰褐色・黒色粘質土ブロック

Fig. 73 2号トレンチ断面図

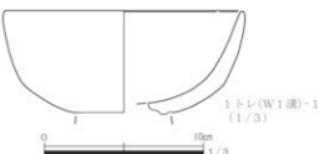


Fig. 74 25・26 地点出土遺物

Tab. 24 25・26 地点出土遺物観察表

1号トレンチ (W-1号溝)

番号	器種	法量 (cm)	残存
1	木製柵	口径 (15.0) 底径 一 高さ 一	口縁部へ体部 1/4
成・整形技法の特徴			
内・外面上に塗付。			

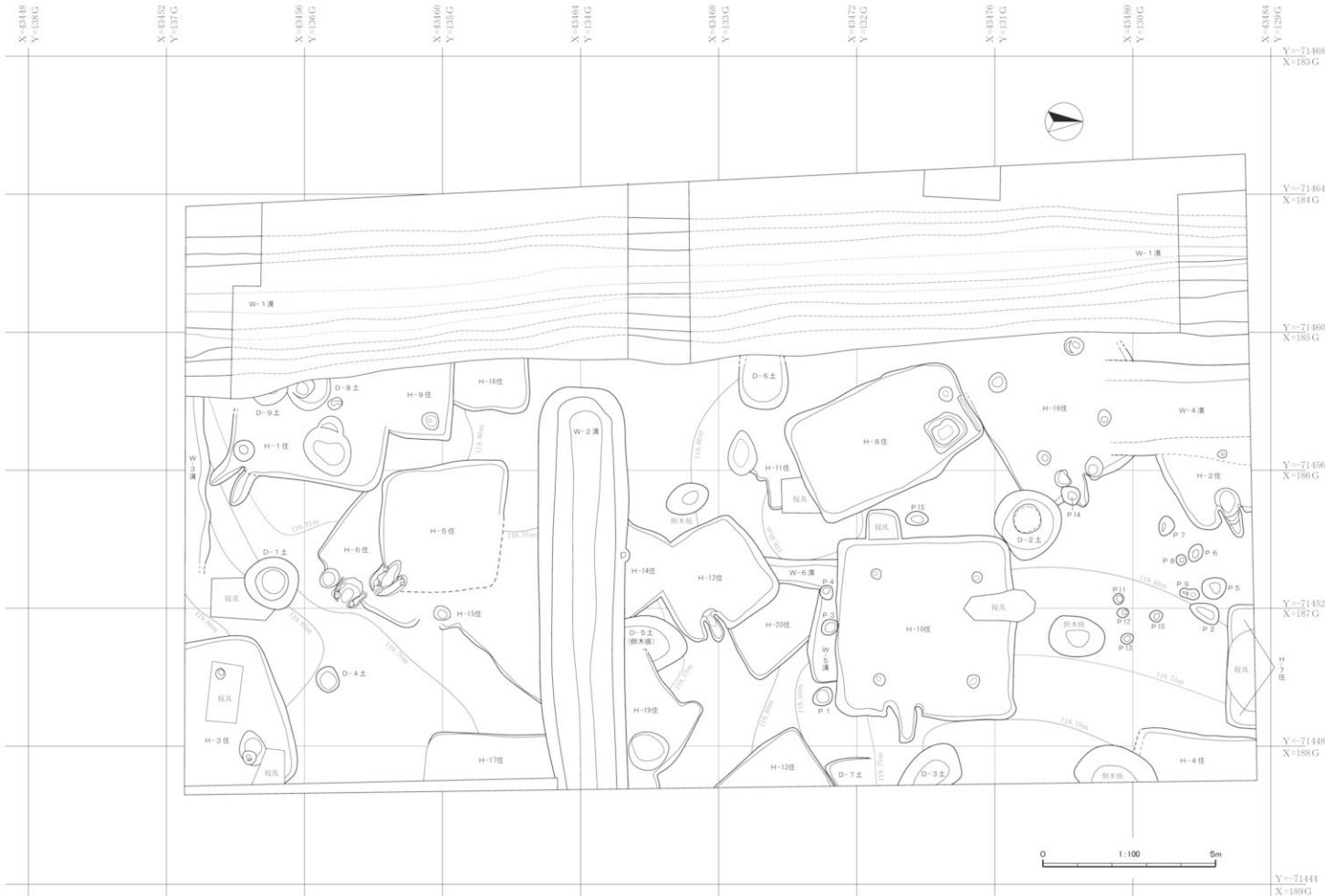


Fig. 7 23 地点全体図

褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内部・正面付近の床面上に集中しており、須恵器壺・碗、灰釉陶器碗、羽釜、土釜が出土している。また、カマドの構築材に古代の平瓦を使用している。時期：11世紀前半と想定される。

H-6号住居跡（遺構：Fig.12・13、PL. 2／遺物：Fig.34・35、Tab. 5・6、PL. 7・8）

位置：X：186・187、Y：135 グリッド。主軸方位：N-52° - W。重複：H-1・5・15号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-1・5号住居跡より古い。H-15号住居跡との新旧関係は不明である。形状：方形状を呈するものと想定される。規模：(3.75)m×3.59m。残存深度：0.28m。面積：(13.46)m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。カマド：住居跡南東壁に設置されており、全長0.89m・最大幅0.64m・燃焼部幅0.58m・主軸方位N-44° - Wを測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・焼土・炭化粒・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は芯材の縦・古代の平瓦に白色粘土を被せて構築されている。焚き口は床面よりやや深む状態にある。貯蔵穴：カマド南西脇で確認されており、0.61m×0.52m、深さ0.24mの円形状を呈する。埋没土にはA s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土が含まれる。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内部・周辺の床面上がら多量の須恵器壺・碗が出土している。また、カマドの構築材に古代の平瓦を使用している。時期：10世紀前半と想定される。

H-7号住居跡（遺構：Fig.11、PL. 3／遺物：Fig.35、Tab. 6、PL. 8）

位置：X：186・187、Y：129 グリッド。主軸方位：N-88° - W。重複：擾乱土坑と重複し、住居跡の大半は壊されている。規模：3.57m×(0.84)m。残存深度：0.37m。面積：(3.00)m²。床面の状態：住居跡中央に向けてやや床面は低くなり、多少の凸凹が見られる。全体的にややしまる。カマド：検出範囲内では確認されていないが、東壁付近の埋没土中に白色粘土の混入が認められることから、東壁に設置されている可能性が高いものと想定される。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：住居跡南西コーナー付近の床面上から須恵器小型壺と底面に孔が穿たれた土師器壺が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-8号住居跡（遺構：Fig.14・15、PL. 3／遺物：Fig.35、Tab. 6、PL. 8）

位置：X：185・186、Y：131・132 グリッド。主軸方位：N-65° - E。重複：H-11・16号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-11・16号住居跡より古い。形状：長方形を呈する。規模：5.23m×3.30m。残存深度：0.22m。面積：17.26m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。北西壁の東半では壁周溝と想定される溝が確認されている。カマド：明確な確認はなされなかつたが、北西壁南側周辺の埋没土中に焼土粒・灰・白色粘土が混入することから、同部分にカマドが設置されていた可能性が高いものと想定される。貯蔵穴：住居跡北東コーナー付近で確認されており、規模は0.76m×0.62m、深さ0.59mを測る。平面長方形、断面逆台形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土で埋没している。また、貯蔵穴の周りには幅5～18cm程のテラスが確認されており、貯蔵穴蓋の設置痕と想定される。柱穴：推定範囲内に1基のピット(P-1)が確認されている。規模は0.45m×0.41m、深さ0.51mを測り、梢円形状を呈する。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土

状態：埋没土中から土師器壺・甕、赤色顔料の塊が出土している。時期：7世紀前半と想定される。

H-9号住居跡（遺構：Fig. 16、P.L. 3／遺物：Fig. 36、Tab. 6、P.L. 8）

位置：X：185、Y：134・135 グリッド。主軸方位：N-83° - W。重複：H-1・18号住居跡、W-1号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-18号住居跡より新しく、W-1号溝より古い。H-1号住居跡との新旧関係は不明。形状：方形ないし長方形状を呈するものと推測される。規模：-m×(2.11)m。残存深度：0.18 m。面積：-m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるものの比較的平坦で、全体的にややしまる。カマド：確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に1基のピット（P-1）が確認されている。規模は0.54 m×0.50 mを測る。平面形状は梢円形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没している。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から須恵器碗が出土している。時期：10世紀後半と想定される。

H-10号住居跡（遺構：Fig. 17、P.L. 3／遺物：Fig. 36、Tab. 6・7、P.L. 9）

位置：X：186・187、Y：130～132 グリッド。主軸方位：N-88° - E。重複：W-5・6号溝と重複するが、新旧関係は不明である。規模：5.31 m×5.19 m。残存深度：0.23 m。面積：27.56 m²。床面の状態：比較的平坦で、しまる。カマド：住居跡の東壁中央のやや南寄りに設置されており、全長1.23 m・最大幅0.67 m・燃焼部幅0.41 m・主軸方位N-90°を測る。断面形状は「U」字状で、A s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は白色粘土を使用して構築されており、焚き口は床面よりやや窪む状態にある。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に4基のピットが確認されている。各ピットの規模はP-1が0.31 m×0.30 m、深さ0.40 m、P-2が0.39 m×0.36 m、深さ0.40 m、P-3が0.30 m×0.29 m、深さ0.40 m、P-4が0.35 m×0.33 m、深さ0.60 mを測る。平面形態はいずれのピットも円形状を呈し、A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。柱痕の痕跡は確認されていない。掘り方：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内部、カマド南脇の床面上に集中して土師器壺・甕、須恵器壺・甕が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-11号住居跡（遺構：Fig. 18／遺物：Fig. 36、Tab. 7、P.L. 9）

位置：X：186、Y：132 グリッド。主軸方位：N-84° - E。重複：H-8号住居跡と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡はH-8号住居跡より新しい。規模：-m×-m。残存深度：0.19 m。面積：-m²。床面の状態：掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。カマド：住居跡の東壁に付設される。カマドも掘り方のみの検出となっており、全長0.86 m・主軸方位N-90°を測る。掘り方の断面形状は「U」字状で、焼土化した煙道の壁面が良好な状態で確認されている。煙道に僅かに残る暗褐色の埋没土にはA s-C・ローム粒・焼土・炭化粒灰・白色粘土の混入が見られる。貯蔵穴：カマドの南脇で確認されており、規模は1.29 m×0.89 m深さ0.54 mを測り、梢円形状を呈する。また、貯蔵穴の壁面及び底面には、灰色の粘土が薄く貼られている状況が捉えられている。埋没土は暗褐色を主体とした土で、A s-C・ローム粒・白色粘土粒が含まれ、多量の土器が出土している。柱穴：確認されていない。掘り方：貼床は断面で僅かに残存しており、A s-C・ローム粒を含み、硬くしまる。貼床の下はA s-C・ローム粒・炭化粒・白色粘土を含む暗褐色を主体とした土により埋められている。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：貯蔵穴内から須恵器壺・甕が多量に出土している。時期：10世紀前半と想定される。

H-12号住居跡（遺構：Fig. 19・20、P.L. 4／遺物：Fig. 37、Tab. 7、P.L. 9）

位置：X：186・187、Y：132・133 グリッド。**主軸方位：**N-56° - E。**重複：**H-14・20号住居跡、W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-14・20号住居跡より新しい。W-6号溝との新旧関係は不明。**規模：**3.17 m × 3.10 m。**残存深度：**0.28 m。**面積：**9.83 m²。**床面の状態：**比較的平坦である。**カマド：**住居跡北東壁中央から南寄りに設置されており、全長 0.97 m・最大幅 0.39 m・燃焼部幅 0.20 m・主軸方位 N-60° - E を測る。断面形状は「U」字形で、A s-C・ローム粒・焼土・灰・白色粘土を含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。袖は白色粘土を使用して構築されており、焚き口は床面よりやや窪む状態にある。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマド内部より土師器甕が出土している。**時期：**8世紀代と想定される。

H-13号住居跡（遺構：Fig. 21、P.L. 3）

位置：X：187・188、Y：132 グリッド。**主軸方位：**N-44° - E。**重複：**なし。**規模：**(2.83) m × (2.00) m。**残存深度：**0.09 m。**面積：**(5.66) m²。**床面の状態：**平坦である。**カマド：**検出範囲内では確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**不明。

H-14号住居跡（遺構：Fig. 19、P.L. 4）

位置：X:186、Y:133 グリッド。**主軸方位：**N-61° - E。**重複：**H-12号住居跡、W-2号溝、D-5号土坑（倒木痕）と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-12号住居跡、W-2号溝、D-5号土坑より古い。**規模：**(1.78) m × (1.76) m。**残存深度：**0.22 m。**面積：**(3.13) m²。**床面の状態：**比較的平坦である。**カマド：**検出範囲内では確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**不明。

H-15号住居跡（遺構：Fig. 22、P.L. 4／遺物：Fig. 37、Tab. 7・8、P.L. 10）

位置：X：187、Y：134 グリッド。**主軸方位：**N-45° - W。**重複：**H-5・6号住居跡、W-2号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-5号住居跡、W-2号溝より古い。H-6号住居跡との新旧関係は不明。**規模：**(3.05) m × m。**残存深度：**0.17 m。**面積：**- m²。**床面の状態：**壁面付近の床面はやや高い。全体的には比較的平坦で、全体的にややしまる。**カマド：**住居跡南東壁に付設されているが、重複が激しいことから、左袖一部の検出に留まっている。規模は全長 0.52 m・主軸方位 N-30° - W を測る。袖の構築には白色の粘土が使用されている。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**推定範囲内において 1 基のピット (P-1) が確認されている。規模は 0.50 m × 0.42 m、深さ 0.17 m を測り、平面形状は梢円形を呈する。**掘り方：**A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色土を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマドの周辺から須恵器甕、カマドの構築材として使われたと推測される古代の丸瓦・平瓦が出土している。**時期：**10世紀前半と想定される。

H-16号住居跡（遺構：Fig. 23、P.L. 4／遺物：Fig. 37・38、Tab. 8、P.L. 10）

位置：X：185・186、Y：129～131 グリッド。**主軸方位：**N-55° - E。**重複：**H-2・8号住居跡、D-2

号土坑、W-1・4号溝、P-14と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-2・8号住居跡より新しく、D-2号土坑、W-1・4号溝、P-14よりも古い。規模：(5.41) m × 5.11 m。残存深度：0.40 m。面積：(27.65) m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。カマド：P-14により壊されているが、住居跡北東壁中央から南寄りに設置されており、全長1.24 m・最大幅0.70 m・燃焼部幅0.48 m・主軸方位N-58°-Eを測る。断面形状は「U」字状で、A-s-C・ローム粒・焼土・灰を含む暗褐色土を主体とした土により埋没しており、埋没土の下位では灰を多量に含む層が認められる。袖は白色粘土を使用して構築されている。なお、右袖部分には構築材の縫を引き抜いたと推測される不整形な小ピット(P-6)が認められる。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に6基のピットが確認されており、このうちP-1～P-4は配列から柱穴と想定される。各ピットの規模はP-1が0.31 m × 0.30 m、深さ0.40 m、P-2が0.39 m × 0.36 m、深さ0.40 m、P-3が0.30 m × 0.29 m、深さ0.40 m、P-4が0.35 m × 0.33 m、深さ0.60 m、P-5が0.59 m × 0.50 m、深さ不明、P-6が0.53 m × 0.49 m、深さ0.19 mを測る。なお、柱穴(P-1～P-4)の埋没土は暗褐色を呈し、A-s-C・ローム粒が含まれる。掘り方：A-s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A-s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面上直に散在する状態で土師器壺・甕、須恵器甕が出土している。時期：7世紀後半と想定される。

H-17号住居跡（遺構：Fig. 24、PL. 4）

位置：X：187・188、Y：134・135グリッド。主軸方位：N-89°-E。重複：W-2号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はW-2号溝より古い。規模：(3.63) m × (1.72) m。残存深度：0.28 m。面積：(27.65) m²。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。カマド：検出範囲内では確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A-s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A-s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

H-18号住居跡（遺構：Fig. 25、PL. 5／遺物：Fig. 38、Tab. 8、PL. 11）

位置：X：185、Y：134グリッド。主軸方位：N-55°-E。重複：H-9号住居跡、W-1号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から本住居跡はH-9号住居跡・W-1号溝より新しい。規模：(2.21) m × (1.59) m。残存深度：0.50 m。面積：(3.51) m²。床面の状態：比較的平坦である。カマド：H-9号住居跡に切られる部分の壁面（東壁）及び床面が焼土化していることから、同部分にカマドが付設されていたものと想定される。また、同部分の埋没土には焼土及び白色粘土が混ざる。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A-s-C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A-s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面上直に散在する状態で灰釉陶器甕・須恵器甕・羽釜、古代の丸瓦が出土している。古代の丸瓦に関しては、カマドの構築材として利用されていたものと推測される。時期：10世紀前半と想定される。

H-19号住居跡（遺構：Fig. 26、PL. 5）

位置：X：187・188、Y：133グリッド。主軸方位：N-50°-E。重複：W-2号溝、D-5号土坑（倒木痕）、擾乱土坑2基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はW-2号溝より古く、D-5号土坑より新しい。規模：(2.40) m × (1.81) m。残存深度：0.09 m。面積：(4.34) m²。床面の状態：掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。北東壁付近で1.17 m × 1.17 m、深さ34 mの土坑（D-1）が確認されている。カマド：検

出範囲内では確認されていない。貯藏穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。道構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

H-20号住居跡（遺構：P.L. 5）

位置：X：187、Y：132 グリッド。主軸方位：N-60° - E。重複：H-12号住居跡、W-5・6号溝と重複する。埋没土層の観察から本住居跡はH-12号住居跡より古い。W-5・6号溝との新旧関係は不明。規模：(2.94)m × (1.67) m。残存深度：0.07 m。面積：(4.91) m²。床面の状態：掘り方のみの検出となっているため詳細は不明。カマド：検出範囲内では確認されていない。貯藏穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。掘り方：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。道構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

3 土坑（遺構：Fig. 7、Tab. 2、P.L. 1）

23地点において土坑は9基確認されている。調査の結果、D-1・2号土坑は井戸、D-5号土坑は倒木坑であることが判明している。D-1号土坑の埋没土上位では現代遺物の混入が見られるが、下位では見られない。現代遺物は井戸が埋没することで窪地と姿を変えた段階で投棄されたものと考えられる。各土坑の計測値等はTab. 2に示してある。

Tab. 2 23地点土坑一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-1号土坑	X:186 Y:136	1.55 × 1.49	1.38以上	円形	上位に現代遺物	井戸。理没土にA s - B混入。下位には現代遺物は見られない。
D-2号土坑	X:186 Y:130	1.92 × 1.86	0.75以上	不整円形	-	井戸。理没土にA s - B混入。H-16号住居跡と重複し、本土坑が新しい。
D-3号土坑	X:188 Y:131	- × 1.22	0.45	椭円形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。
D-4号土坑	X:187 Y:135	0.72 × 0.61	0.44	椭円形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。
D-5号土坑	X:187 Y:133	(1.81) × 1.51	0.62	不整椭円形	-	倒木坑。H-14・15号住居跡、W-2号溝と重複し、本土坑はH-19号住居跡、W-2号溝より古く、H-14号住居跡より新しい。
D-6号土坑	X:185 Y:133	(1.58) × 1.41	0.26	楕丸方形	-	A s - C・ローム粒を含む暗褐色土で埋没。W-1号溝と重複し、本土坑はW-1号溝より古く。
D-7号土坑	X:188 Y:132	(1.15) × (0.81)	0.12	不整長方形	-	A s - C・ローム粒・硬土層・結化層を含む暗褐色土で埋没。
D-8号土坑	X:185 Y:135	1.29 × (0.86)	-	円形？	-	A s - B・総社砂層を含む暗褐色土で埋没。H-1号住居跡、D-9号土坑、W-1号溝と重複し、本土坑はD-9号土坑、W-1号溝より古く、H-1号住居跡より新しい。
D-9号土坑	X:185 Y:136	1.02 × (0.50)	-	椭円形？	-	A s - B・総社砂層を含む暗褐色土で埋没。H-1号住居跡、D-8号土坑、W-1号溝と重複し、本土坑はW-1号溝より古く、H-1号住居跡、D-8号土坑より新しい。

4 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 27・28、P.L. 5／遺物 Fig. 39、Tab. 8、P.L. 11）

位置：X：183～185、Y：129～136 グリッド。主軸方位：N-3° - W。重複：H-1・9・16・18号住居跡、D-6・8・9号土坑、W-3号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はいずれの遺構よりも新しい。規模：上端幅(4.87)～(5.65) m、下端幅0.22～0.53 m。断面形状：逆台形状を呈するが、西側でテラス面を有する。残存深度：2.64 m。底面の状態：多少の凹凸は見られるが比較的平坦である。流水及び帶水の痕跡は認められない。道構埋没状態：A s - B・A s - C・ローム粒・総社砂層ブロックを含む暗褐色土を主体とした土により埋没している。理没土の下位では西側からの埋没が目立つが、中位から上位にかけては東側からの埋没

が目立つ状態にある。また、総社砂層のブロックに風化現象が見られないことから、人為的な埋没と想定される。埋没土の21層では、堀西壁の立ち上がりからの連続性が窺えることから、堀の重複（作り直し）も推測される。

遺物出土状態：埋没土の下位から青磁碗・宝鏡印塔の相輪部が出土している。**時期：**青磁碗の時期から14世紀後半以降に帰属するものと想定される。**備考：**蒼海城閑連の堀と想定される。W-1号溝は蒼海城新段階における本丸西側を南北方向に走行する堀の延長線上に位置するものである（Fig. 4 参照）。

W-2号溝（遺構：Fig. 29、P.L. 5／遺物 Fig. 39、Tab. 8・9、P.L. 11）

位置：X：185～188、Y：133～134 グリッド。**主軸方位：**N：89°～E。**重複：**H-14・15・17・19号住居跡、D-5号土坑と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はいずれの遺構よりも新しい。**規模：**上端幅2.04～2.63 m、下端幅0.40～0.91 m。**断面形状：**逆台形状を呈する。残存深度：1.20 m。**底面の状態：**多少の凸凹は見られるが比較的平坦である。流水及び帶水の痕跡は認められない。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色を主体とした土により埋没している。埋没土の観察では北側からの埋没が目立ち、ロームブロックに風化現象が見られないことから、人為的な埋没と想定される。**遺物出土状態：**埋没土の中から上位で軟質陶器の内耳錫・鉢及び獸骨が出土している。**時期：**軟質陶器の時期から14世紀～15世紀以降に帰属するものと想定される。**備考：**蒼海城閑連の堀と想定される。本溝を西へ延長させると、W-1号溝とはほぼ直交する状態にある。

W-3号溝（遺構：Fig. 30／遺物 Fig. 39、Tab. 9、P.L. 11）

位置：X：185～188、Y：136 グリッド。**主軸方位：**N：88°～E。**重複：**H-1・3号住居跡、W-1号溝と重複する。出土遺物と埋没土層の観察から、本溝はW-1号溝より古く、H-1・3号住居跡より新しい。**規模：**上端幅0.53～1.24 m、下端幅0.24～0.66 m。**断面形状：**皿状を呈するものと想定される。残存深度：0.43 m。**底面の状態：**細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。**遺構埋没状態：**A s-B・A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**埋没土の中から須恵器碗が出土している。**時期：**10世紀前半に比定される須恵器碗が出土しているものの、埋没土中にA s-Bが混入することから、A s-B降低（1108年以降）と想定される。**備考：**性格不明。

W-4号溝（遺構：Fig. 31）

位置：X：185、Y：129・130 グリッド。**主軸方位：**N：0°。**重複：**H-2・16号住居跡と重複する。埋没土層の観察から、本溝はH-2・16号住居跡より新しい。**規模：**上端幅2.60～3.12 m、下端幅1.60～2.81 m。**断面形状：**皿状を呈する。残存深度：0.41 m。**底面の状態：**細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。**遺構埋没状態：**A s-B・A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**埋没土中にA s-Bが混入することから、A s-B降低（1108年以降）と想定される。**備考：**性格不明。

W-5号溝（遺構：Fig. 7）

位置：X：186・187、Y：132 グリッド。**主軸方位：**N：80°～W。**重複：**H-10・20号住居跡、W-6号溝、P-3・4と重複するが、新旧関係は不明。**規模：**上端幅0.51～0.81 m、下端幅0.41～0.69 m。**断面形状：**皿状を呈する。残存深度：0.11 m。**底面の状態：**細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**不明。**備考：**性格不明。

W-6号溝（遺構：Fig. 7）

位置：X : 186、Y : 132 グリッド。主軸方位：N : 86° ~ E。重複：H-10・12・20号住居跡、W-5号溝と重複するが、新旧関係は不明。規模：上端幅 0.70 ~ 0.87 m、下端幅 0.39 ~ 0.65 m。断面形状：皿状を呈する。残存深度：0.08 m。底面の状態：細かい起伏を有する。流水及び帶水の痕跡は認められない。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。備考：性格不明。

5 ピット（遺構：Fig. 7、Tab. 3）

23 地点においてピットは 15 基確認されている。このうちの 10 基は調査区北側に集中するが、掘立柱建物跡等の配列は窺えない。各ピットの計測値等は Tab. 3 に示してある。

Tab. 3 23 地点ピット一覧表

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-1	X : 187 Y : 132	0.61 × 0.50	0.25	楕円形	—	暗褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-2	X : 186・187 Y : 129	0.92 × 0.55	0.15	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒・白色粘土混入。
P-3	X : 187 Y : 132	0.51 × 0.43	0.15	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-4	X : 186 Y : 132	0.52 × 0.37	0.18	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-5	X : 186 Y : 129	0.71 × 0.63	0.13	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-6	X : 186 Y : 129	0.55 × 0.39	0.02	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-7	X : 186 Y : 129	0.58 × 0.45	0.35	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-8	X : 186 Y : 129	0.31 × 0.29	0.07	円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-9	X : 186 Y : 129	0.37 × 0.33	0.18	不整椭円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-10	X : 187 Y : 130	0.37 × 0.33	0.07	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-11	X : 186 Y : 130	0.31 × 0.31	0.21	円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-12	X : 186・187 Y : 130	0.34 × 0.28	0.15	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-13	X : 187 Y : 130	0.37 × 0.31	0.11	楕円形	—	黒褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-14	X : 186 Y : 130	0.55 × 0.51	0.28	楕円形	—	暗褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。
P-15	X : 186 Y : 131	0.66 × 0.41	0.34	楕円形	—	暗褐色の埋没土に A s - C・ローム粒混入。

6 遺構外出土遺物（遺物：Fig. 39、Tab. 9、P.L. 11）

遺構外出土遺物として、8 点の遺物を提示した。このうち 1 ~ 5 は 7 世紀から 8 世紀代に帰属するもので、本地点で確認された住居跡の時期に伴うものである。6 は古代の瓦であるが、H-5・6 号住居跡での類例を見ると、カマドの構築材として平安時代の住居跡に再利用されたものと推測できよう。7・8 は白磁で 7 は皿、8 は碗である。これらの遺物は W-1・2 号溝と同様に蒼海城に関連するものと想定される。

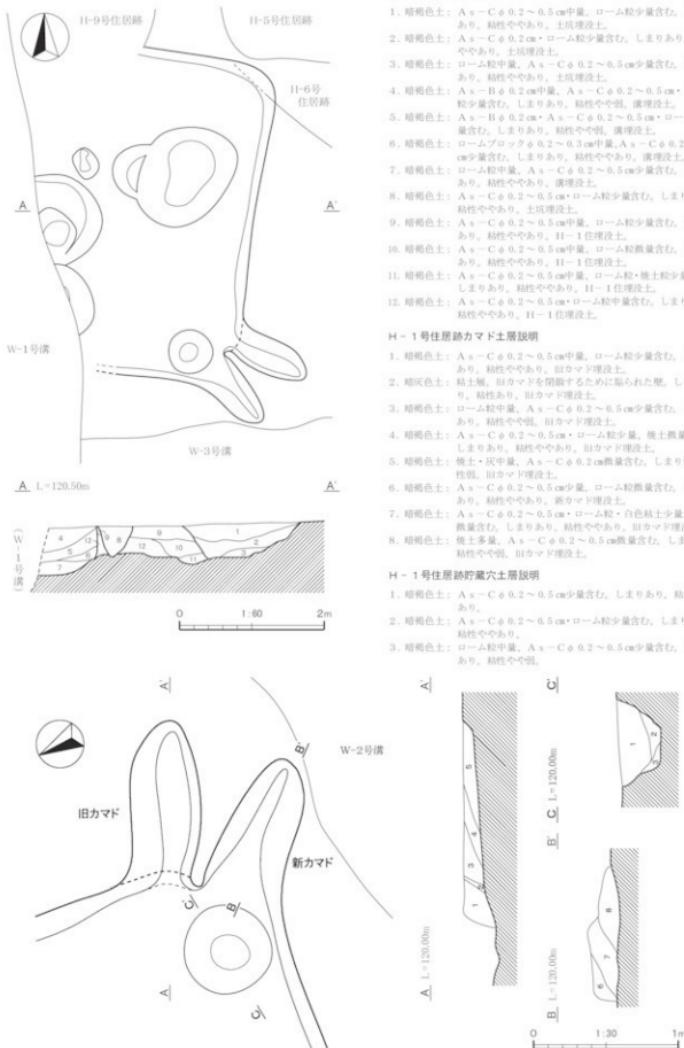
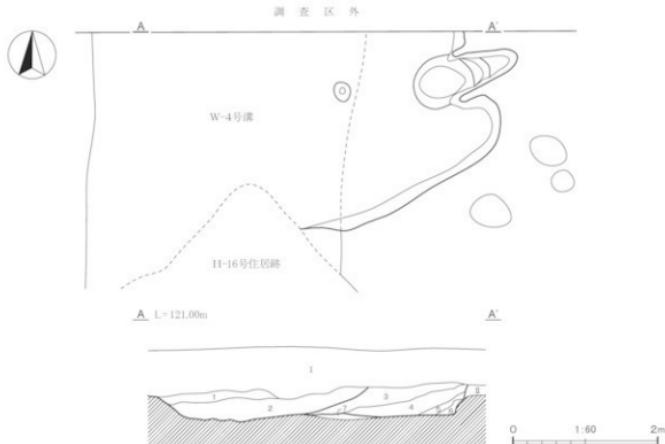


Fig. 8 H - 1号住居跡



H-2号住居跡土層説明

1. 基褐色土： $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$ 中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒・炭化粒少少量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-4処理段土。
2. 基褐色土： $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$ 。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒少少量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-4処理段土。
3. 基褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒少少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 基褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒・炭化粒少少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5. 稼褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒・堆土・炭化粒少少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
6. 稼褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
7. 稼褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ローム粒中量含む。しまり強。粘性やや弱。堅硬。

H-2号住居跡カマド土層説明

1. 基褐色土： 白色粘土 $\phi 0.5 \text{ cm}$ 中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 堆土・炭化粒少少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 基褐色土： 堆土・白色粘土 $\phi 0.5 \text{ cm}$ 中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 堆化粒少少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 基褐色土： $A_s - C \phi 0.2 \text{ cm}$ 堆土・炭化粒・白色粘土 $\phi 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黑褐色土： ローム粒中量。 $A_s - C \phi 0.2 \text{ cm}$ 堆土・炭化粒・炭少少量含む。しまり弱。粘性やや弱。
5. 黑褐色土： 炭多量。ローム粒・堆土少少量含む。しまり弱。粘性やや弱。

Fig. 9 H-2号住居跡

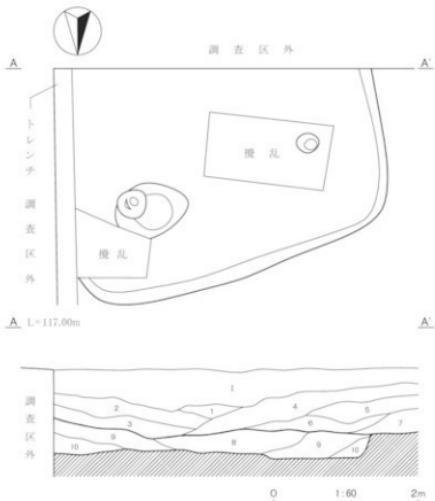


Fig. 10 H-3号住居跡

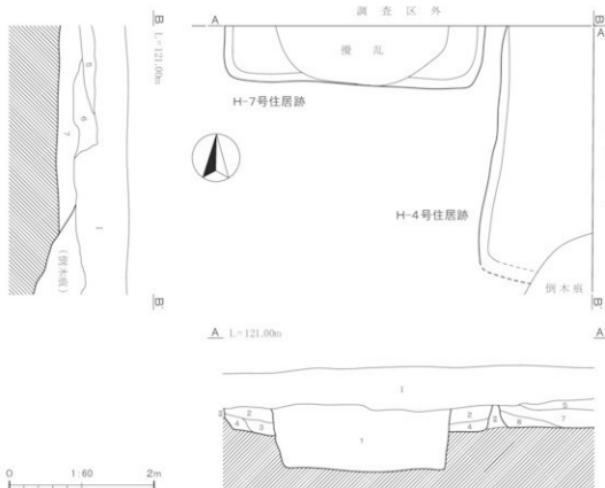
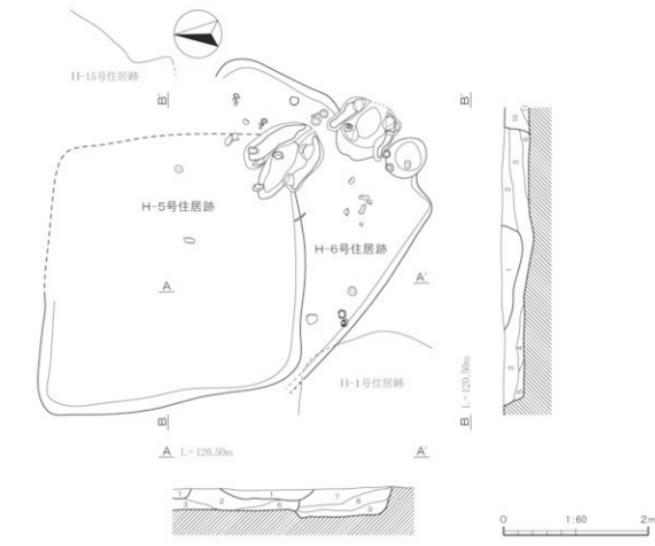


Fig. 11 H-4·7号住居跡



H-5・6号住居跡土層説明

1. 基褐色土: A s - B ϕ 0.2cm少量含む。しまりあり。粘性弱。土塊強度土。
2. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。
3. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量。強土・炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。
4. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。
5. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cmローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。
6. 基褐色土: ローム粒少量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。

7. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒・炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-6住居段土。
8. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-6住居段土。
9. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-6住居段土。
10. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-5住居段土。
11. 基褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量。炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-15住居段土。

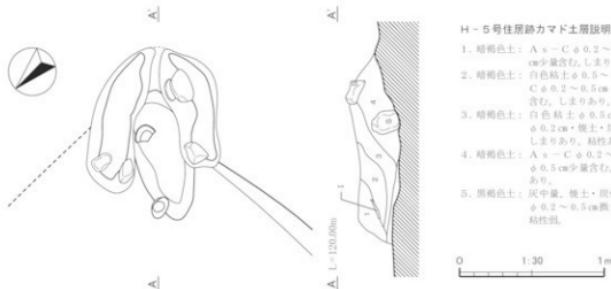


Fig. 12 H-5・6号住居跡

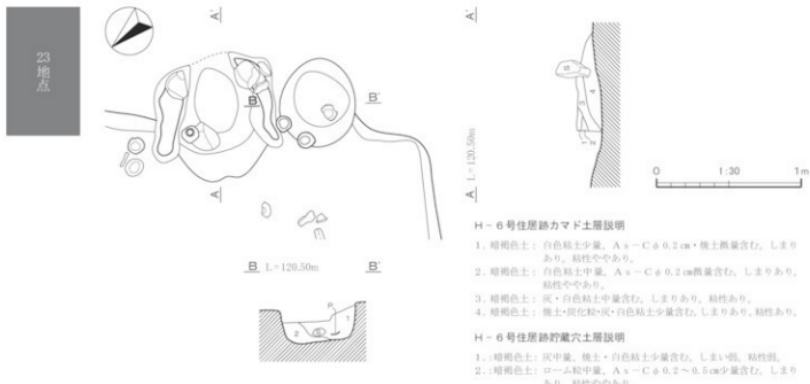


Fig. 13 H-6号住居跡カマド

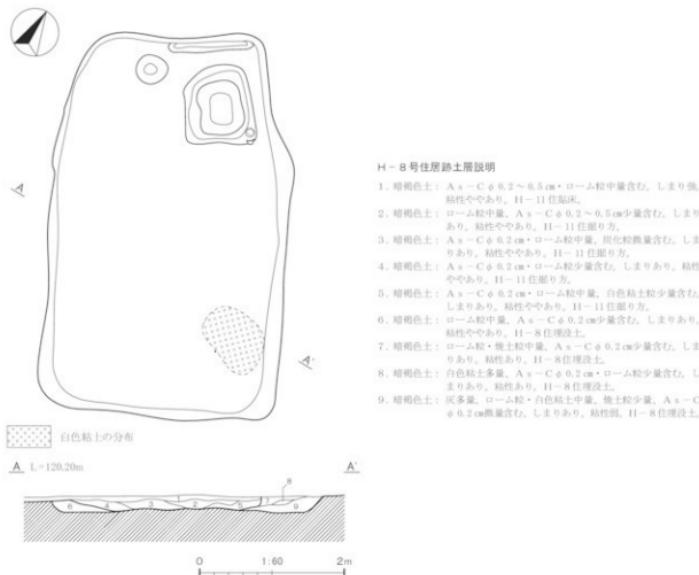


Fig. 14 H-8号住居跡

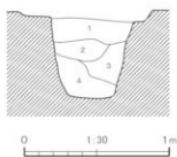
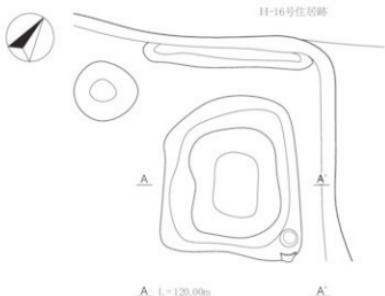
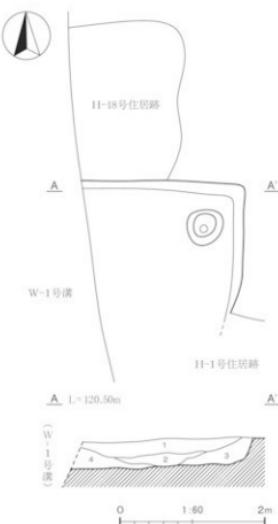


Fig. 15 H-8号住居跡の縦断面図

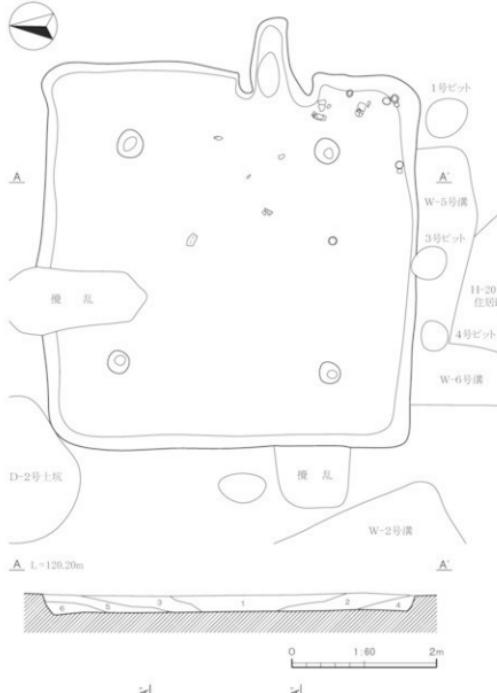
H-8号住居跡の土壌層説明

1. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量含む。しまり弱。粘性ややあり。
2. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
3. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまり弱。粘性やや弱。
4. 基礎土： ローム粒少量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm微量含む。しまり弱。粘性弱。

**H-9号住居跡の土壌層説明**

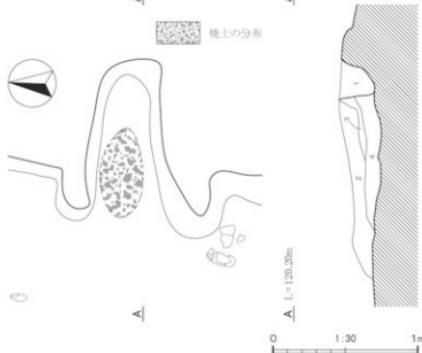
1. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 基礎土： ローム粒中量。A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 基礎土： A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒中量。炭化粒微量含む。しまりあり。粘性弱。

Fig. 16 H-9号住居跡



H-10号住居跡土層説明

1. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒・堆土・炭化粒少數含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒少數、炭化粒無量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒少數含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 精細色土: ローム粒中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm少數含む。しまりあり。粘性ややあり。



H-10号住居跡カマド土層説明

1. 精細色土: $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒・堆土・炭化粒少數含む。しまりあり。粘性ややあり。壁面。
2. 精細色土: ローム粒・白色粘土中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・堆土少數含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 精細色土: 堆土多量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・ローム粒少數含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 精細色土: 灰中量。 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$ cm・堆土・白色粘土少數含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 17 H-10号住居跡

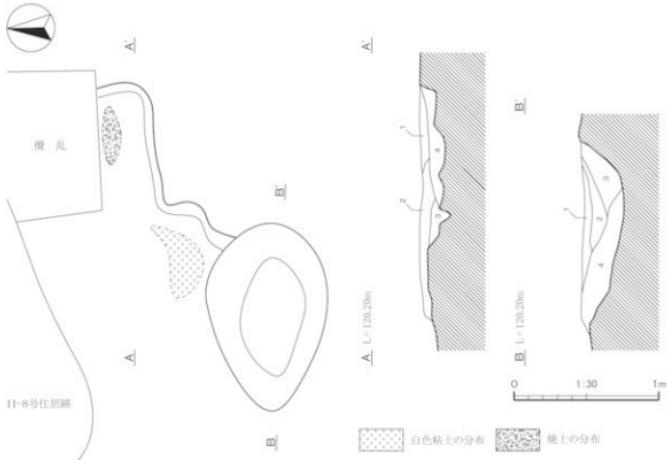


Fig. 18 H-11号住居跡

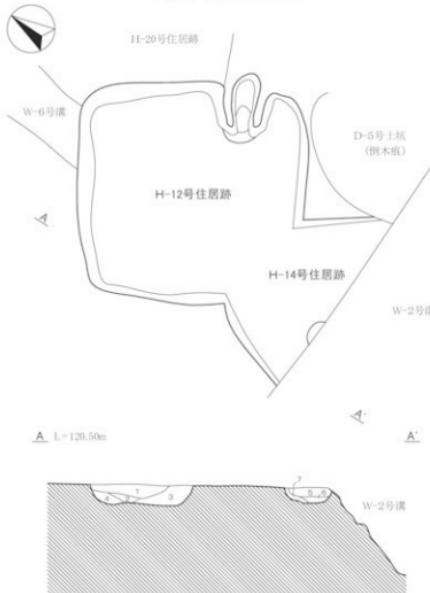


Fig. 19 H-12・14号住居跡

H-11号住居跡カド土層説明

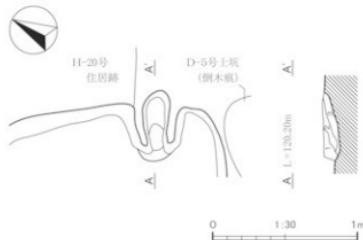
- 堆積色土：堆土・白色粘土中量・炭化物・灰少量、 $A_s - C \phi 0.1cm$ 粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土：ローム粒・堆土粒・灰中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒少少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒・堆土粒少少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土：ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-11号住居跡鉱穴土層説明

- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒中量。白色粘土粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 中量。ローム粒・白色粘土粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-12・14号住居跡土層説明

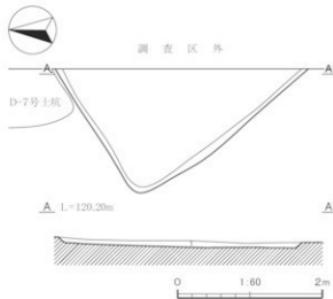
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-12住居跡土。
- 堆積色土：ローム粒多量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒少量含む。粘性ややあり。H-12住居跡土。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒少量含む。粘性ややあり。H-12住居跡土。
- 堆積色土： $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-12住居跡土。
- 堆積色土：ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-14住居跡土。
- 堆積色土：ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5cm$ 粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-14住居跡土。



H-12号住居跡カマド土層説明

- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粘・微土・灰・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 暗褐色土: 粘土多量、灰中量、A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粘・微土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

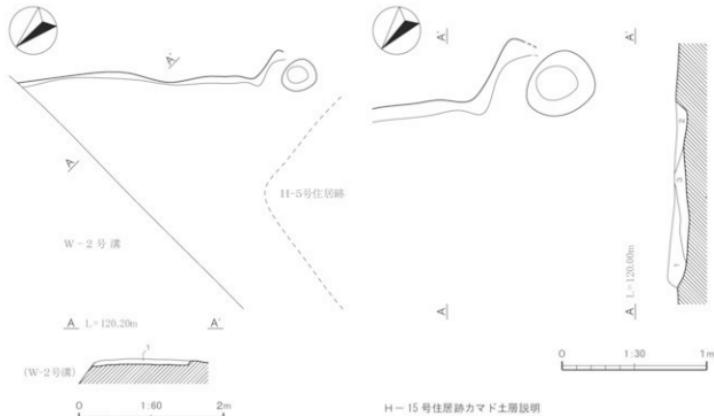
Fig. 20 H-12号住居跡カマド



H-13号住居跡土層説明

- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粘少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 21 H-13号住居跡



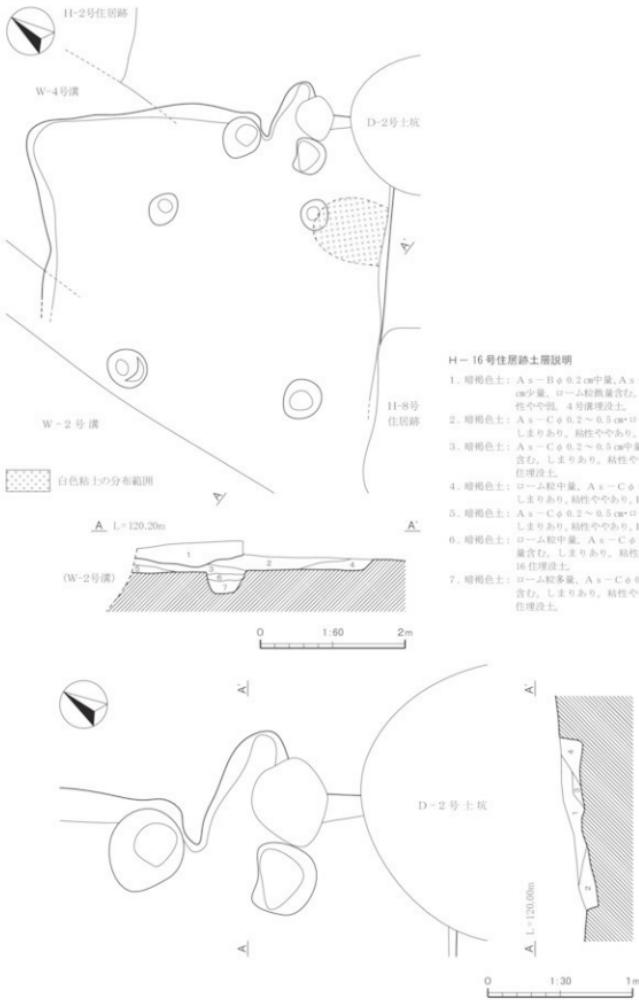
H-15号住居跡土層説明

- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粘少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-15号住居跡カマド土層説明

- 暗褐色土: 白色粘土中量、A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・微土少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・微土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 暗褐色土: A s - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・微土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 22 H-15号住居跡

**H-16号住居跡土層説明**

- 暗褐色土: A s - B φ 0.2cm中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm少量, B - 1号粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱い。4号埋没段土。
- 暗褐色土: A s - C φ 0.2 ~ 0.5cmローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。
- 暗褐色土: A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm中量, ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。
- 暗褐色土: ローム粒中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。
- 暗褐色土: A s - C φ 0.2 ~ 0.5cmローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。
- 暗褐色土: ローム粒中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。
- 暗褐色土: ローム粒多量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm中量含む。しまりあり。粘性やや弱い。H-16住居段土。

H-16号住居跡カマド土層説明

- 暗褐色土: ローム粒中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm少量, 硅土粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
- 暗褐色土: 硅土中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒少量, 硅化物微量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
- 暗褐色土: 灰多量, 硅土少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 暗褐色土: ローム粒中量, A s - C φ 0.2 ~ 0.5cm・灰少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。

Fig. 23 H-16号住居跡

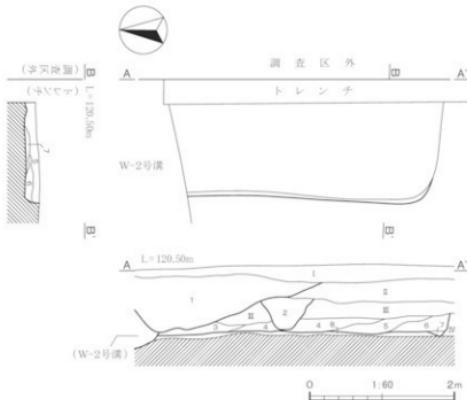
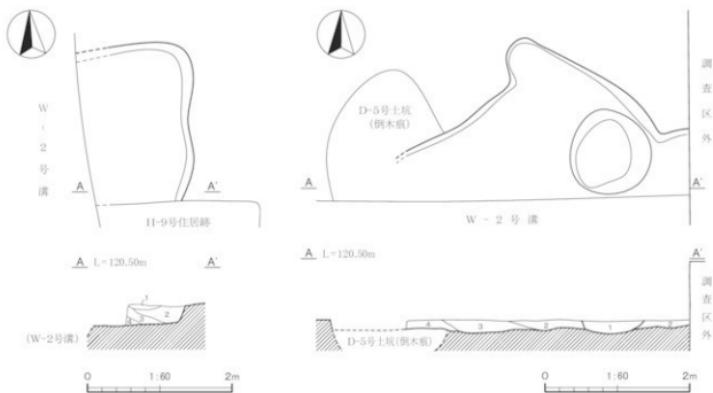


Fig. 24 H-17号住居跡



H-18号住居跡土層説明

1. 基岩土： A x - B ϕ 0.2cm中量。 A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒少量化有り。粘性やあり。柱状層。漂浮段土。
2. 基岩土： A x - U ϕ 0.2cm + A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒少量化有り。粘性やあり。柱状やや有り。
3. 基岩土： A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒・礁土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 基岩土： ローム粒・礁土・白色粘土少量含む。 A x - C ϕ 0.2cm無量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 25 H-18号住居跡

H-19号住居跡土層説明

1. 基岩土： A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm中量。ローム粒少量化有り。しまりやや強。粘性やや有り。柱状段土。
2. 基岩土： A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒中量含む。しまり強。粘性ややあり。柱状。
3. 基岩土： ローム粒中量。 A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm少量化有り。しまり強。粘性やや有り。柱状。
4. 基岩土： A x - C ϕ 0.2 ~ 0.5cm・ローム粒中量含む。しまり強。粘性ややあり。柱状。

Fig. 26 H-19号住居跡

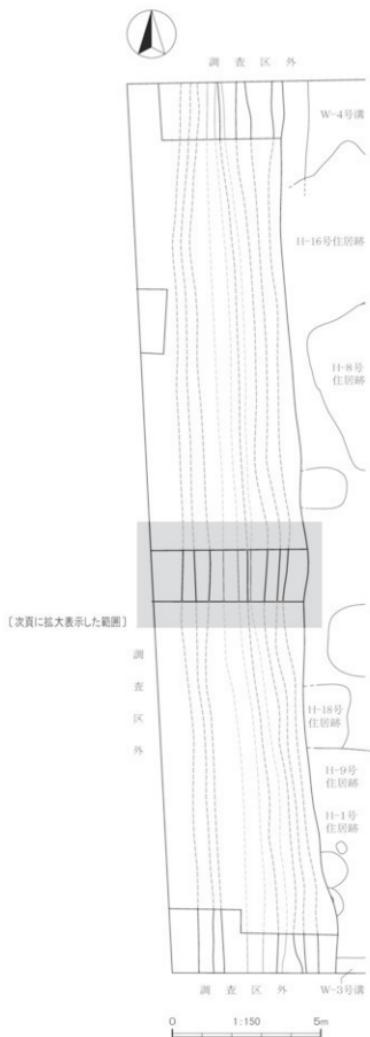
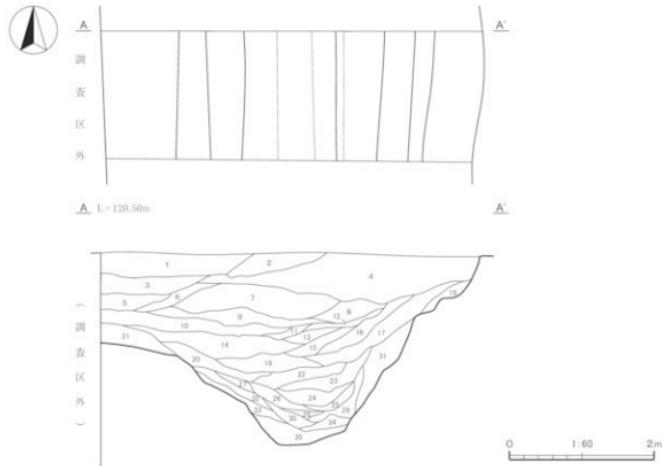


Fig. 27. W-1 号溝



W-1号溝土壤説明

1. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量含む。しまりあり、粘性ややあり。
2. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
3. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量、底に粘重質含む。しまりあり、粘性ややあり。
4. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
5. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少
量、小塊 ϕ 0.5 cm程度粘重質含む。しまりあり、粘性ややあり。
6. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒少量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5
cm粘重質含む。しまりあり、粘性ややあり。
7. 基岩土：ローム粒少量、A - B ϕ 0.2 cm中量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5
cm粘重質含む。しまりあり、粘性ややあり。
8. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒少量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム
粒少量含む。しまりやや強、粘性ややあり。
9. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量、ローム粒少量、A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm粘重質含む。しまりあり、粘性やややや。
10. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。
しまりあり、粘性やややや。
11. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 cm少量
含む。しまりあり、粘性やややや。
12. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm中量、A - C ϕ 0.2 cm少量
含む。しまりあり、粘性やややや。
13. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。
しまりあり、粘性やややや。
14. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
15. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、泥化粘重質含む。
しまりあり。粘性やややや。
16. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm A - B ϕ 0.2 cm・
A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
17. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 20.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、A - B ϕ 0.2 cm粘重質含
む。しまりあり、粘性やややや。
18. 基岩土：ローム粒多量、A - B ϕ 0.2 ~ 0.5
cm粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
19. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、A - B ϕ 0.2 cm粘重質含
む。しまりあり、粘性やややや。
20. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm粘重質含
む。しまりあり、粘性やややや。
21. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
22. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
23. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
24. 基岩土：A - B ϕ 0.2 cm・A - C ϕ 0.2 cm・
A - D ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
25. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やややや。
26. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 5.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 cm・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性
やややや。
27. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm、
A - C ϕ 0.2 cm粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
28. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 3.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
粘性やややや。
29. 基岩土：A - B ϕ 0.5 ~ 30.0 cm中量、A - C
 ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性
やややや。
30. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む・
A - B ϕ 0.5 ~ 1.0 cm、しまりあり。粘性やややや。
31. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量、
A - B ϕ 0.2 ~ 0.5 cm粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
32. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・
A - B ϕ 0.2 cm粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
33. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、A - B ϕ 0.2 cm
粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
34. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・
A - B ϕ 0.2 cm粘重質含む。しまりあり。粘性やややや。
35. 基岩土：A - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・
A - B ϕ 0.2 cm粘重質含む。しまり強。粘性強。

Fig. 28 W-1号溝 [土層説明]

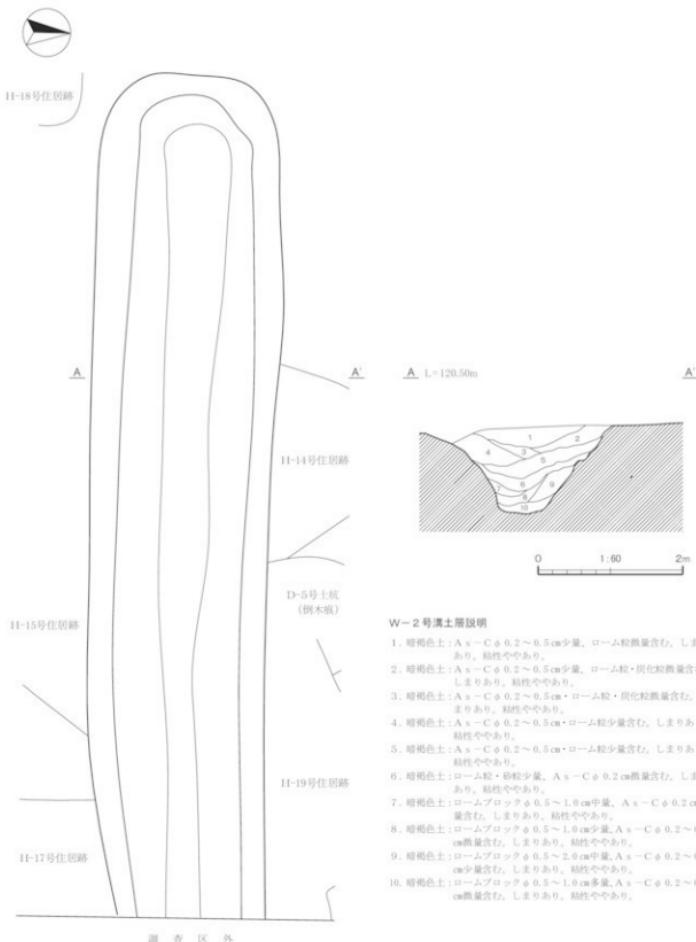


Fig. 29 W-2号溝

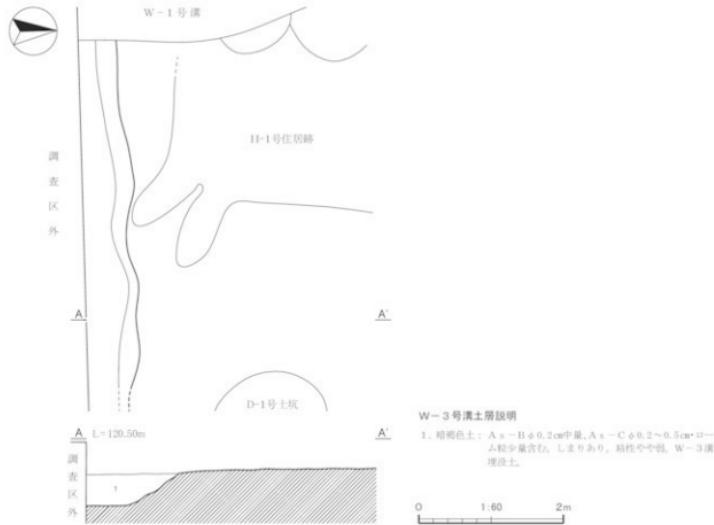


Fig. 30 W-3号溝

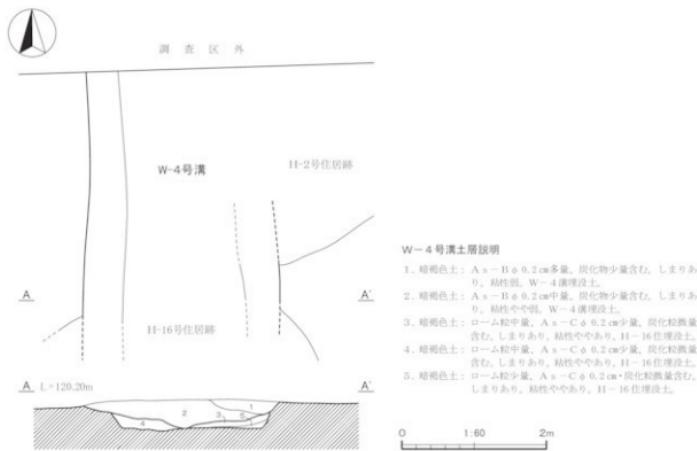


Fig. 31 W-4号溝

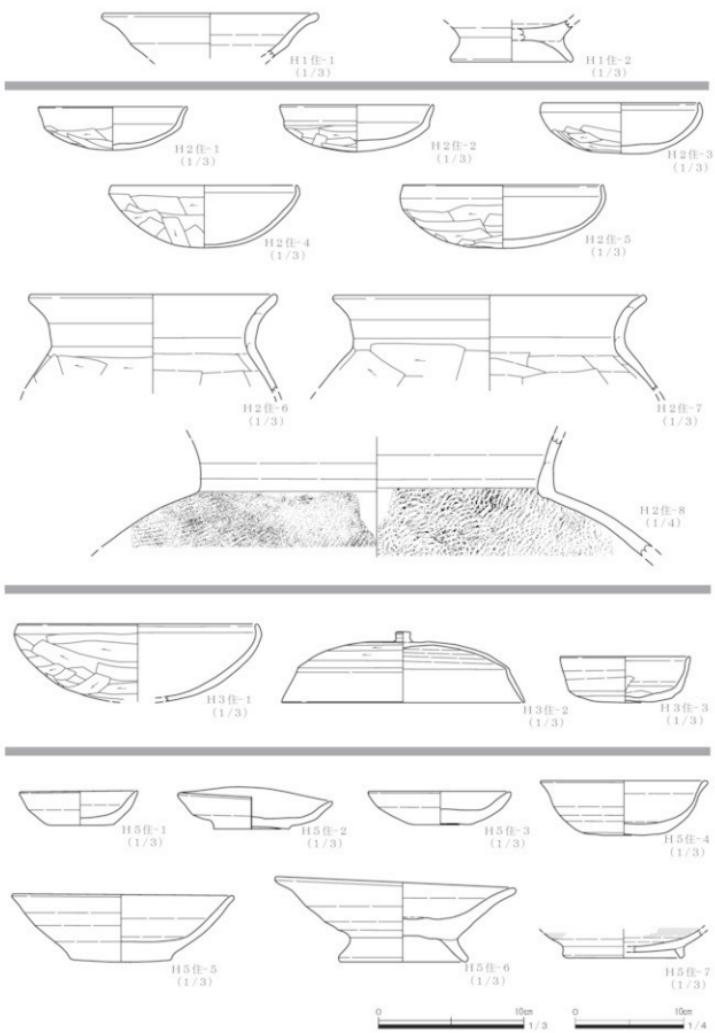


Fig. 32 23 地点出土遗物①

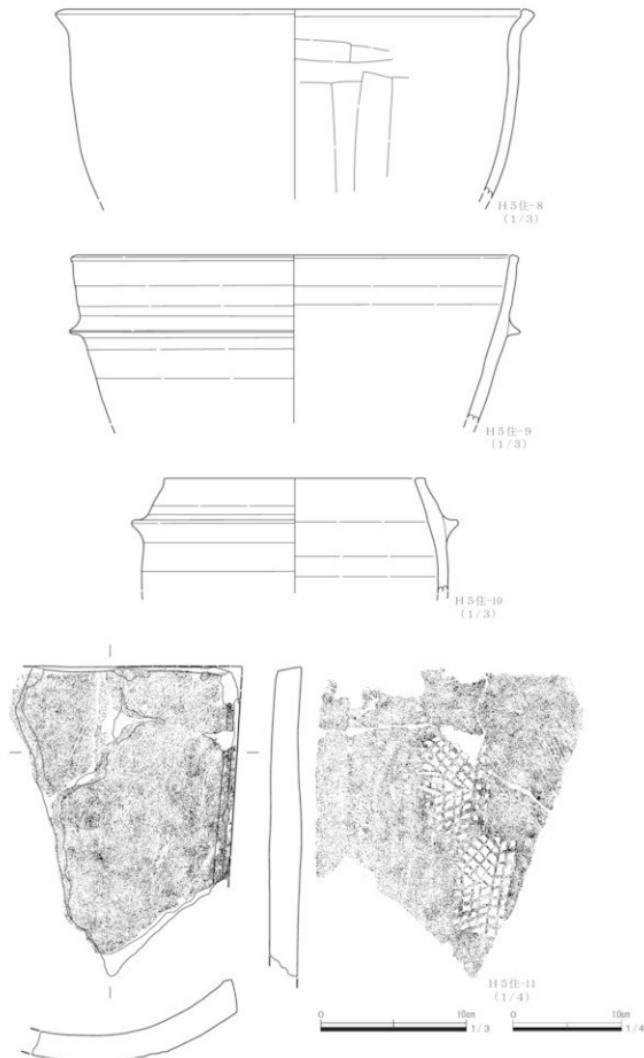


Fig. 33 23 地点出土遗物②

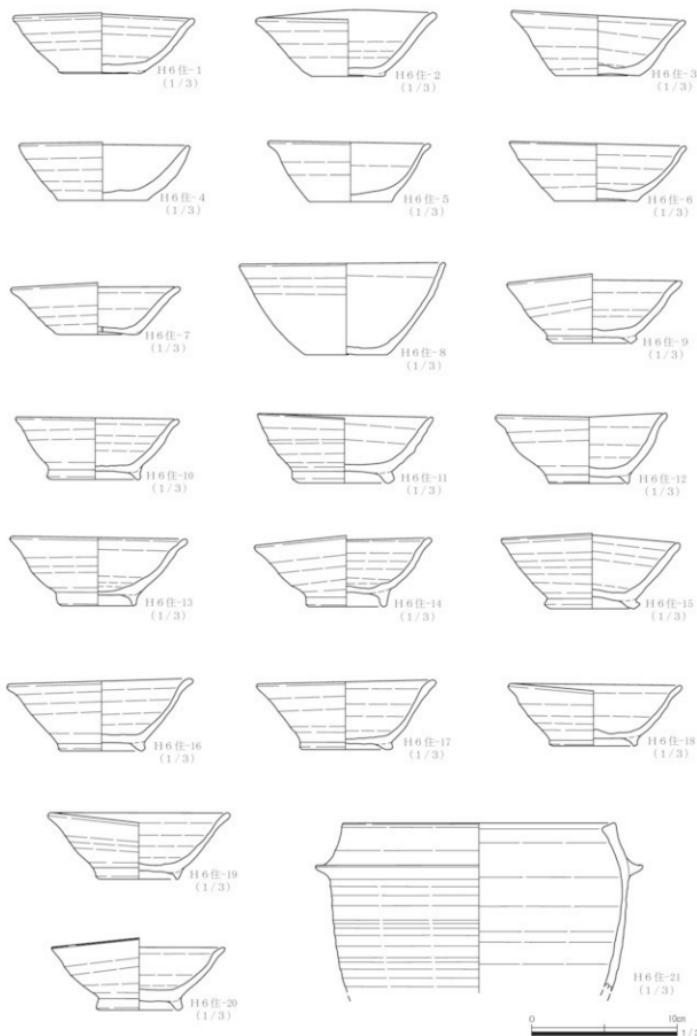


Fig. 34 23 地点出土遺物③

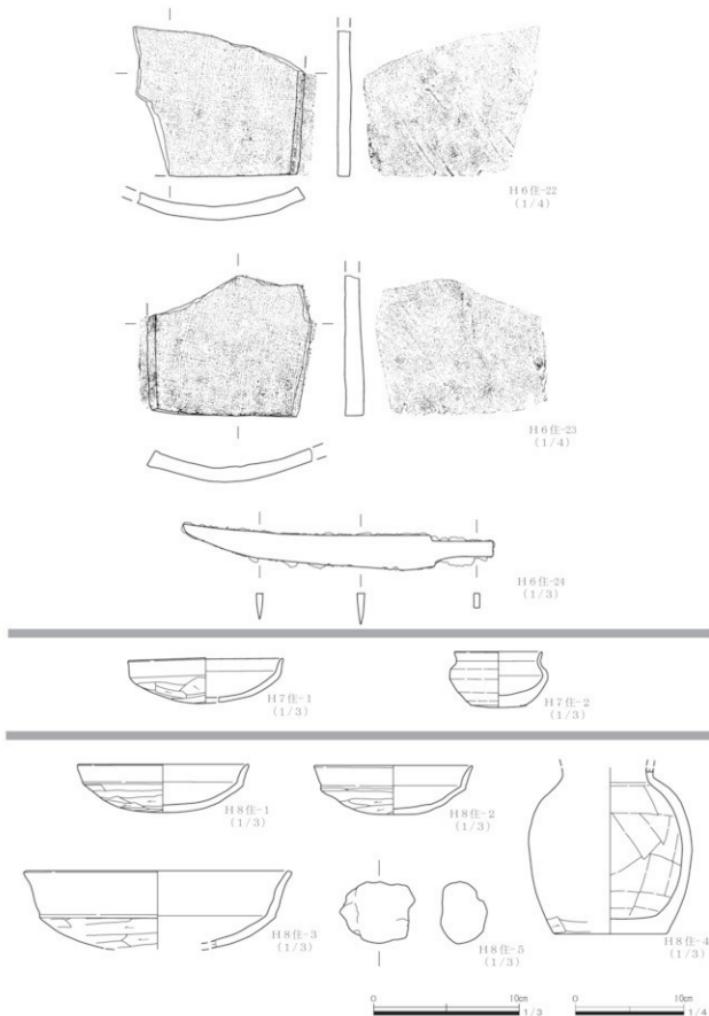


Fig. 35 23 地点出土遗物④

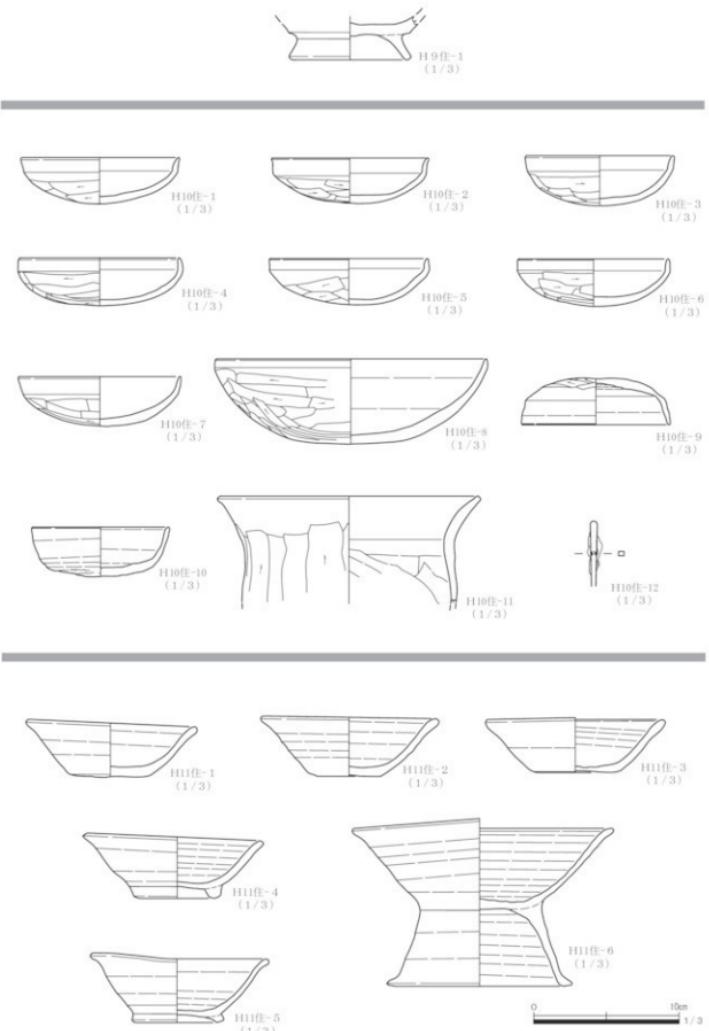


Fig. 36 23 地點出土遺物⑤

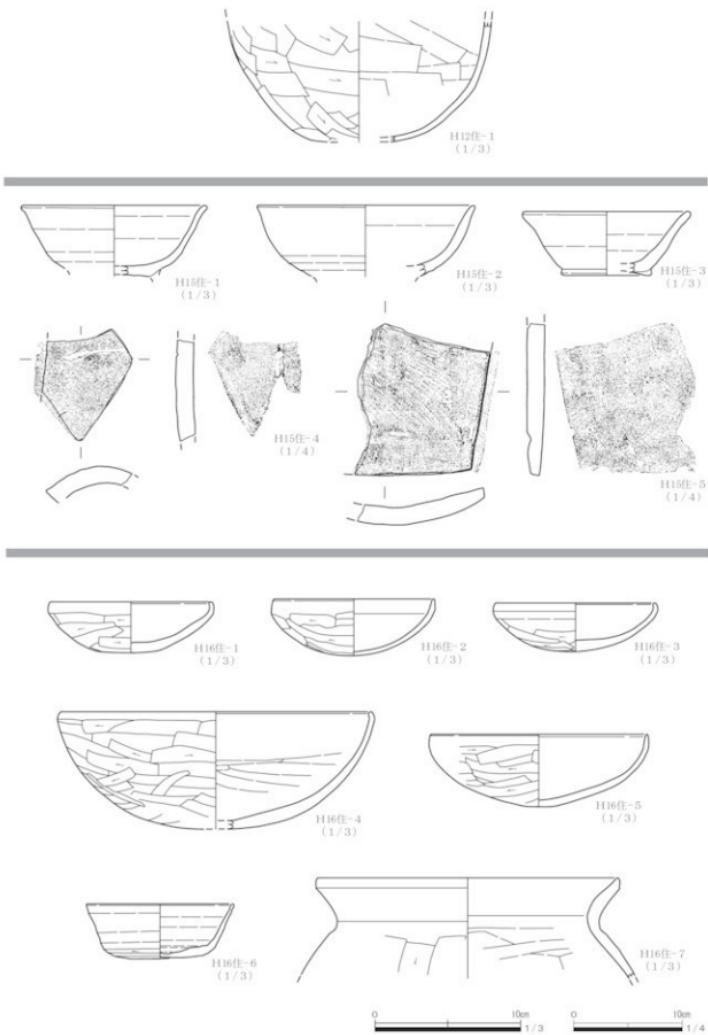


Fig. 37 23 地点出土遗物⑥

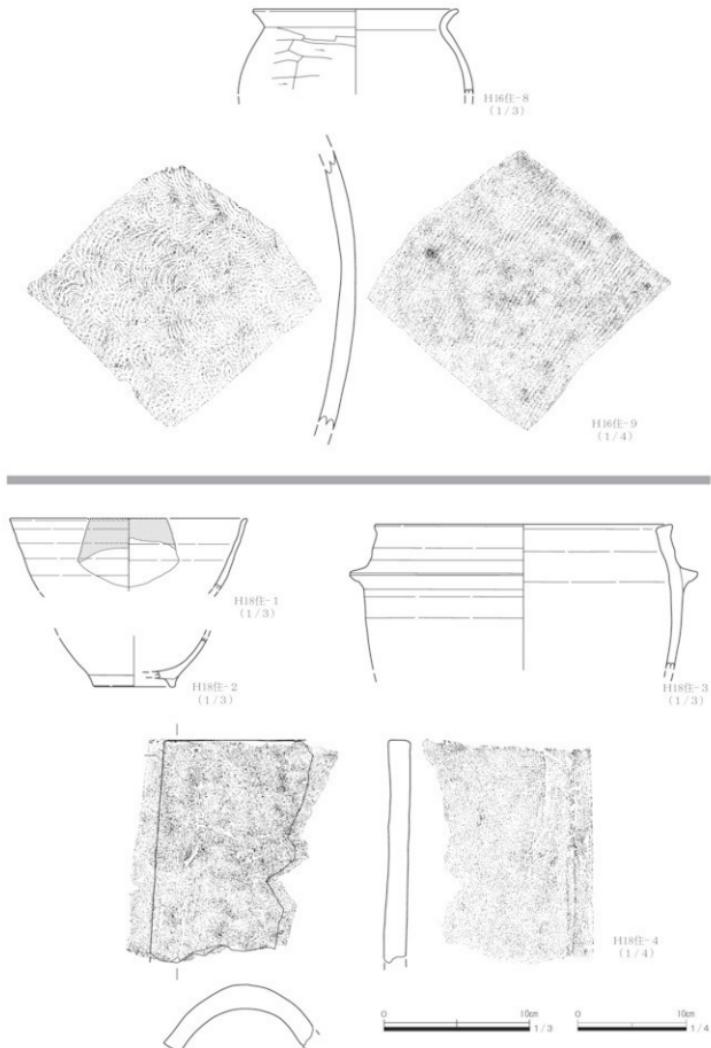


Fig. 38 23 地点出土遗物⑦

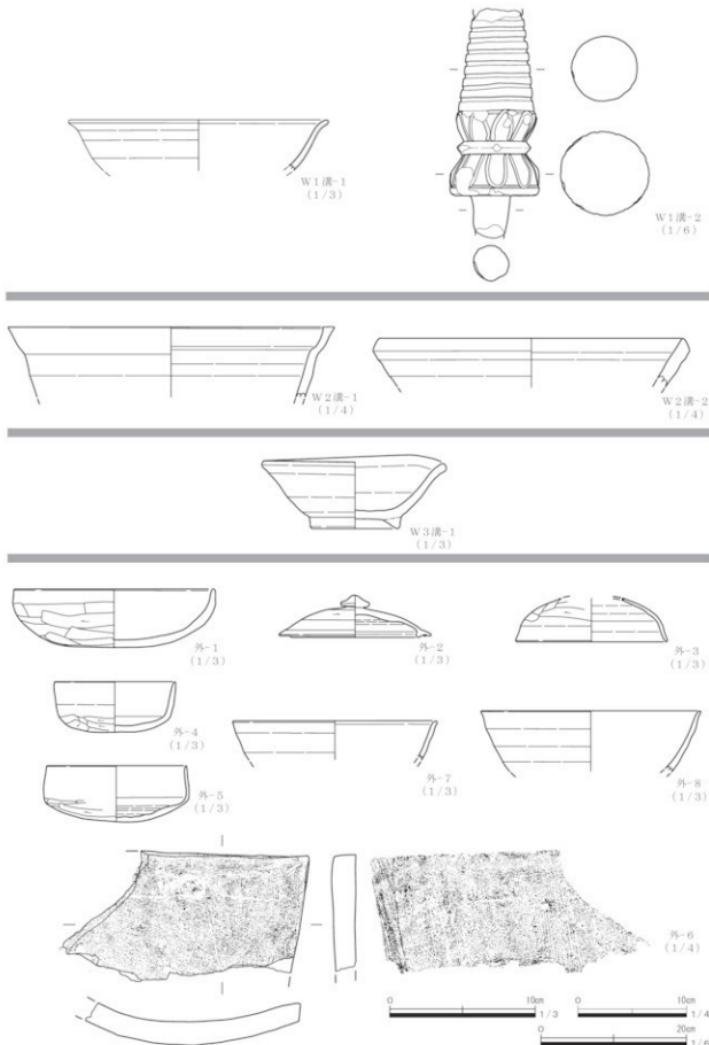


Fig. 39 23 地点出土遺物⑤

Tab. 4 23 地点出土遺物観察表①

H-1号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径(14.6) 底径 — 器高 —	①焼成 ②にごり・4級 ③白色粒・角閃石・繩 ④口縁部・全体1/6	外面 軸轆整形。 内面 軸轆整形。	
2	須恵器 碗	口径(8.2) 底径 — 器高 —	①焼成 ②にごり・4級 ③白色粒・角閃石・繩 ④全体部・高台部1/2	外面 軸轆整形、底部回転糸切り。 内面 軸轆整形。	

H-2号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 片	口径 10.2 底径 — 器高 3.0	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石・繩・雲母 ④7/8	外面 口縁部横彌で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
2	土師器 片	口径 10.5 底径 — 器高 3.2	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石 ④3/5	外面 口縁部横彌で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
3	土師器 片	口径(10.8) 底径 — 器高 3.5	①普通 ②根 ③角閃石・雲母 ④3/4	外面 口縁部横彌で、体部上位彌で、体部下位～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
4	土師器 片	口径(12.8) 底径 — 器高 4.3	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石・雲母 ④2/3	外面 口縁部横彌で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
5	土師器 片	口径(13.8) 底径 — 器高 4.4	①普通 ②根 ③角閃石・雲母 ④3/5	外面 口縁部横彌で、体部上位彌で、体部下位～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
6	土師器 裏	口径 16.8 底径 — 器高 —	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位残存	外面 口縁部横彌で、胴部上位削り。 内面 口縁部横彌で、胴部上位彌で。	
7	土師器 裏	口径 21.3 底径 — 器高 —	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位2/3	外面 口縁部横彌で、胴部上位削り。 内面 口縁部横彌で、胴部上位彌で。	
8	須恵器 裏	口径 — 底径 — 器高 —	①還元 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部下位～胴部上位1/8	外面 軸轆整形、胴部平行叩印。 内面 軸轆整形、青海波文。	

H-3号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 片	口径(16.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②にごり・4級 ③白色粒・角閃石 ④1/3	外面 口縁部横彌で、体部～底部削り。 内面 口縁部～体部横彌で、底部彌で。	
2	須恵器 蓋	口径 16.7 横幅 1.0 器高 4.9	①還元 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 軸轆整形、天井部右の回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
3	須恵器 片	口径 8.9 底径 6.8 器高 3.2	①還元 ②灰 ③白色粒・繩 ④完形	外面 軸轆整形、底部回転糸切り後彌で。 内面 軸轆整形、底部彌で。	

H-5号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 片	口径 8.1 底径 4.6 器高 2.4	①焼成 ②根 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部・一部大彌	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
2	須恵器 片	口径 10.5 底径 5.2 器高 2.9	①焼成 ②根 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部・一部大彌	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
3	須恵器 片	口径 9.7 底径 4.5 器高 2.7	①焼成灰陶・空窓～灰黄褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部・一部大彌	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
4	須恵器 片	口径(11.4) 底径 7.0 器高 3.8	①還元 ②黑褐 ③白色粒・黑色粒 ④1/3	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	
5	須恵器 片	口径 15.2 底径 7.0 器高 4.7	①焼成灰陶 ②にごり・根～黒 ③白色粒・黑色粒 ④口 縁部一部欠損	外面 軸轆整形、底部右回転糸切り。 内面 軸轆整形。	

Tab. 5 23 地点出土遺物観察表②

H-5号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
6	須恵器 碗	口径 16.5 底径 (8.6) 器高 5.9	①焼成 ②明赤褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
7	灰釉陶器 碗	口径 17.8	①薄元 ②灰白 ③白色粒	外面 軸穂整形、底部回転糸切り。 内面 軸穂整形。 輪郭は削り欠け。	
8	須恵器 土釜	口径 (31.6) 底径 一 器高 一	①焼成灰味 ②黒褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部・脚部上位 1/5	外面 口面丸れ調整不正確。 内面 口縁部～脚部段階で、 輪郭は削り欠け。	
9	須恵器 羽釜	口径 (30.6) 底径 一 器高 一	①焼成灰味 ②黒褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部・脚部上位 1/5	外面 軸穂整形、 内面 軸穂整形、脚部鋸歯で。	
10	須恵器 羽釜	口径 (18.6) 底径 一 器高 一	①焼成 ②灰褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～脚部上位 1/5	外面 軸穂整形、 内面 軸穂整形。	
11	瓦	厚さ 3.0	①薄元 ②明褐色 ③白色粒	正面 素切り面、布目压痕、鋸歯で、側端部面取り。 背面 格子目叩き、鋸歯で。側端部 鋸歯で。	

H-6号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 12.2 底径 6.0 器高 4.2 ④口縁部	①焼成灰味 ②にらい黄褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
2	須恵器 环	口径 12.1 底径 5.1 器高 4.6	①焼成灰味 ②にらい黄褐色 ③白色粒・繩 ④完形	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
3	須恵器 环	口径 11.8 底径 5.8 器高 4.5	①薄元 ②暗灰 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
4	須恵器 环	口径 11.5 底径 6.2 器高 4.0 ④口縁部	①薄元 ②灰～灰黃 ③白色粒・角閃石・繩 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部左回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
5	須恵器 环	口径 10.9 底径 5.7 器高 4.2	①焼成灰味 ②黄灰 ③白色粒・角閃石・繩 ④口縁部一部欠損	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
6	須恵器 环	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.1 ④口縁部	①焼成灰味 ②にらい黄褐色 黄褐色 ③白色粒・織色粒・雲母 ④口縁部 ④7/8	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
7	須恵器 环	口径 11.5 底径 5.8 器高 3.6 ④3/4	①焼成灰味 ②にらい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石・繩 ④3/4	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
8	須恵器 环	口径 14.0 底径 5.6 器高 6.4	①焼成灰味 ②黒褐色 ③白色粒・繩 ④5/6	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
9	須恵器 碗	口径 11.8 底径 5.3 器高 4.8 ④口縁部	①焼成灰味 ②にらい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
10	須恵器 碗	口径 11.1 底径 6.0 器高 4.3 ④完形	①焼成灰味 ②灰～灰黃 ③白色粒・角閃石・雲母・繩 ④完形	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
11	須恵器 碗	口径 12.0 底径 6.2 器高 4.8 ④口縁部	①焼成灰味 ②にらい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
12	須恵器 碗	口径 11.6 底径 5.4 器高 4.9 ④口縁部	①焼成灰味 ②灰～にらい黄褐色 ③白色粒・雲母・繩 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
13	須恵器 碗	口径 12.0 底径 4.9 器高 4.8 ④口縁部	①焼成灰味 ②燃灰～にらい 黄褐色 ③白色粒・角閃石・繩 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
14	須恵器 碗	口径 12.0 底径 5.2 器高 4.9 ④口縁部	①焼成灰味 ②にらい黄褐色～灰 ③白色粒・角閃石・雲母・繩 ④口縁部	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
15	須恵器 碗	口径 12.1 底径 5.2 器高 5.2 ④口縁部	①薄元 ②灰 ③白色粒・雲母・繩 ④9/10	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	
16	須恵器 碗	口径 12.5 底径 5.6 器高 5.0	①薄元 ②灰 ③白色粒・石英・繩 ④3/4	外面 軸穂整形、底部右回転糸切り。 内面 軸穂整形。	

Tab. 6 23 地点出土遺物観察表③

H-6号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
17	乳母器 碗	口径 12.0 底径 6.0 器高 4.8	①酸化気味 ②灰～暗灰 ③白色粒・雜 ④7/8	外面 輪縁整形、底部右回転系切り。 内面 輪縁整形。	
18	乳母器 碗	口径 11.7 底径 5.6 器高 4.3	①酸化気味 ②黄灰～暗灰 ③白色粒・石英・雜 ④3/5	外面 輪縁整形、底部右回転系切り。 内面 輪縁整形。	
19	乳母器 碗	口径 (12.3) 底径 5.3 器高 4.6	①酸化気味 ②灰～に赤い複合 ③白色粒・角閃石・雜 ④2/3	外面 輪縁整形、底部右回転系切り。 内面 輪縁整形。	
20	乳母器 碗	口径 (11.8) 底径 5.4 器高 5.0	①深元 ②黄灰～暗灰 ③白色粒・角閃石・石英・雜 ④3/5	外面 輪縁整形、底部右回転系切り。 内面 輪縁整形。	
21	乳母器 碗	口径 (18.8) 底径 ～ 器高 ～	①深元 ②灰白～暗灰黃 ③白色粒・角閃石 ④1脚部・制輪中位1/5	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	
22	灰 平瓦	厚さ 1.4	①深元 ②褐 ③白色粒 ④灰褐色端部右側	正面 布目压痕、凸面 斜縫目压痕で。側面 距離で。 後端部 距離で。	
23	灰 平瓦	厚さ 1.7	①深元 ②褐 ③白色粒 ④灰褐色端部左側	正面 布目压痕、凸面 斜縫目压痕で。側面 距離で。 後端部 距離で。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
24	鉄製品 刀子	長さ 21.4 幅部長 17.5 幅 2.15 厚さ 0.5 系部長さ 3.9 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 29.7 g			

H-7号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 10.6 底径 ～ 器高 3.2	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石・雲母 ④完形	外面 口縁部横彌で、体部上左側で、体部～底部鋸削り。底部中央に焼成前の円孔、径 1.4 cm。 内面 口縁部～底部横彌で、底部彌で。	
2	乳母器 小形壺	口径 6.0 底径 3.9 器高 3.9	①深元 ②灰白～灰 ③白色粒・黒色粒 ④4/5	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	

H-8号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 11.8 底径 ～ 器高 3.4	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④7/8	外面 口縁部横彌で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～底部横彌で、底部彌で。	
2	土師器 壺	口径 (10.8) 底径 ～ 器高 3.4	①普通 ②褐～明褐 ③白色粒・角閃石 ④1/2	外面 口縁部横彌で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～底部横彌で、底部彌で。	
3	土師器 壺	口径 (18.0) 底径 ～ 器高 ～	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④2/5	外面 口縁部横彌で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部横彌で、体部～底部鋸削り。	
4	土師器 壺	口径 ～ 底径 7.8 器高 ～	①普通 ②に赤い黄緑～明黄 ③白色粒・雲母 ④頸部～底部7/8	外面 頸部～胴部器面が荒れ調整不明確、胴部下位～底部鋸削り。 内面 頸部～底部7/8	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
5	土玉	長さ 4.2 幅 4.7 厚さ 3.0 重さ 67.6 g	赤色顔料の塊		

H-9号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	乳母器 碗	口径 ～ 底径 7.9 器高 ～	①深元 ②に赤い褐～明褐 ③角閃石・雲母 ④完形 ⑤底部下位～高台部7/8	外面 輪縁整形、底部右回転系切り。 内面 輪縁整形。	

H-10号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 片	口径 10.6 底径 ～ 器高 3.2	①普通 ②褐～明褐 ③角閃石・雲母 ④完形	外面 口縁部横彌で、体部上左側で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～底部横彌で、底部彌で。	
2	土師器 片	口径 10.8 底径 ～ 器高 3.1	①普通 ②褐 ③白色粒・雲母 ④完形	外面 口縁部横彌で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～底部横彌で、底部彌で。	

Tab. 7 23 地点出土遺物観察表④

H-10号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	土師器 环	口径 10.2 底径 一 器高 3.5	①普通 ②橙 ③白色粒 ④丸形	外面 口縁部横擴で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
4	土師器 环	口径 11.0 底径 一 器高 3.3	①普通 ②明褐色 ③角閃石 ④丸形	外面 口縁部横擴で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
5	土師器 环	口径 10.9 底径 一 器高 3.2	①普通 ②にぶい橙 ③角閃石 ④ほん形	外面 口縁部横擴で、体部上位側で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
6	土師器 环	口径 10.3 底径 一 器高 3.3	①普通 ②橙～明赤褐色 ③角閃石 ④5/6	外面 口縁部横擴で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
7	土師器 环	口径 11.2 底径 一 器高 3.4	①普通 ②橙 ③角閃石 ④7/5	外面 口縁部横擴で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
8	土師器 环	口径(18.6) 底径 一 器高 5.6	①普通 ②明赤褐色 ③白色粒・纏 ④1/4	外面 口縁部横擴で、体部～底部斜削り。 内面 口縁部～体部横擴で、底部削り。	
9	須恵器 蓋	口径 10.2 底径 一 器高 3.2	①墨元 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面 軸輪形容、天井部手持ち鉗削り。 内面 軸輪形容。	
10	須恵器 蓋	口径 9.4 底径 一 器高 3.4	①墨元 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④5/6	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
11	土師器 甕	口径(17.8) 底径 一 器高 一	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・ 石黄 ④口縁部～胴部上位 1/2	外面 口縁部横擴で、胴部斜削り。 内面 口縁部横擴で、胴部削り。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
12	鉄製品	針	残存長 4.6 幅 0.4 厚さ 0.3	重さ 3.8 g	

H-11号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 11.5 底径 5.6 器高 4.0	①墨元 ②灰黄～にぶい黄 ③白色粒・雲母 ④ほん形	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
2	須恵器 环	口径 11.5 底径 4.4 器高 4.2	①墨元 ②灰黄～にぶい黄 ③白色粒・角閃石 ④丸形	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
3	須恵器 环	口径(12.1) 底径 5.8 器高 3.8	①墨元 ②灰～灰黄 ③白色粒・雲母 ④3/5	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
4	須恵器 甕	口径 11.9 底径 5.2 器高 4.5	①墨元 ②灰～灰黄 ③白色粒・雲母 ④丸形	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
5	須恵器 甕	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.8	①酸化灰釉 ②にぶい橙～灰 ③白色粒・纏 ④4/5	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
6	須恵器 甕	口径(17.9) 底径 11.6 器高 11.6	①酸化灰釉 ②にぶい橙～灰 ③白色粒・纏 ④3/4	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	

H-12号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 一 底径 一 器高 一	①普通 ②橙 ③角閃石・纏 ④胴部上位～底部 3/5	外面 胴部～底部斜削り。 内面 胴部～底部削り。	

H-15号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径(12.6) 底径 一 器高 一	①酸化 ②にぶい黄褐色～ にぶい黄褐色 ③白色粒 ④口縁部～底部 1/2	外面 軸輪形容、底部右回転斜切り。 内面 軸輪形容。	
2	須恵器 甕	口径(15.0) 底径 一 器高 一	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒 ④口縁部～全体下位 1/4	外面 軸輪形容。 内面 軸輪形容。	

Tab. 8 23 地点出土遺物観察表⑤

H-15号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉上 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	直筒器 碗	口径(11.2) 底径(6.0) 器高 4.4	①酸化 ②にふい橙～にふい 黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④1/8	外面 軸轉型形。 内面 軸轉型形。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 1.6	①慶元 ②黄褐 ③白色粒 ④側端部	前面 布目は無。 背面 横位抜撫で、線刻あり。側面 距撫で。	
5	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①慶元 ②灰白 ③白色粒・繩 ④嵌端部右側	前面 素切り直し、布目压痕、側面高脚彫で。 背面 横位抜撫で。側面 距撫で。嵌端部 抜撫で。	

H-16号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉上 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	口径 11.1 底径 - 器高 3.5	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石 ④1/8充てん	外面 口縁部横撫で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
2	土師器 杯	口径 11.0 底径 - 器高 3.9	①普通 ②根 ③白色粒・繩	外面 口縁部横撫で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
3	土師器 杯	口径(11.0) 底径 - 器高 3.4	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石 ④2/5	外面 口縁部横撫で、体部上位撫で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
4	土師器 杯	口径 21.6 底径 - 器高 8.1	①普通 ②根 ③繩 ④2/4	外面 口縁部横撫で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で、底部撫で。	
5	土師器 杯	口径(14.9) 底径 - 器高 5.0	①普通 ②根 ③白色粒・角閃石・雲母・繩 ④2/5	外面 口縁部横撫で、体部～底部鋸削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
6	直筒器 杯	口径 10.0 底径 4.0 器高 3.8	①慶元 ②灰～黃 ③白色粒	外面 軸轉型形、底部右転割切り後右転割削り。 内面 軸轉型形。	
7	土師器 裏	口径(20.7) 底径 - 器高 -	①普通 ②にふい黄 ③白色粒・片岩・繩 ④口縁部～胴部上位1/5	外面 口縁部横撫で、胴部鋸削り。 内面 口縁部横撫で、胴部鋸削り。	
8	土師器 裏	口径(14.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②にふい赤褐 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 口縁部横撫で、胴部鋸削り。 内面 口縁部横撫で、胴部鋸削り。	
9	直筒器 裏	口径 - 底径 - 器高 -	①慶元 ②灰 ③白色粒・繩 ④胴部中央破片	外面 脱部手行叩き。 内面 青苔斑文。	

H-18号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉上 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰釉陶器 碗	口径(16.4) 底径 - 器高 -	①慶元 ②灰白 ③白色粒 ②口縁部～体部破片	外面 軸轉型形。 内面 軸轉型形。 輪は溝押け。	
2	直筒器 碗	口径 - 底径(5.6) 器高 -	①慶元 ②にふい黄 ③白色粒・雲母 ④体部～蓋台部 1/4	外面 軸轉型形。 内面 軸轉型形。	
3	直筒器 羽釜	口径(20.4) 底径 - 器高 -	①酸化 ②明褐 ③白色粒・雲母 ④口縁部～胴部上位 1/2	外面 軸轉型形。 内面 軸轉型形。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 2.2	①慶元 ②黒褐 ③白色粒・繩 ④嵌端部左側	前面 布目压痕。凸面 横位抜撫で。側面 距撫で。 嵌端部 抜撫で。	

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉上 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 碗	口径(17.7) 底径 - 器高 -	①慶元 ②オリーブ灰 ④口縁部破片	外面 軸轉型形。 内面 軸轉型形。	D1型 14世紀後半
番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴			
2	石製品	相輪部、宝珠部は欠損。残存長31.8 重さ 3600 g			

Tab. 9 23 地点出土遺物観察表⑥

W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 内耳鍋	口径(30.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②にふい赤褐、黒褐 ③白色粒、黑色粒 ④口縁部～胴部上位 1/12	外面 軸輪型形。 内面 軸輪型形。	
2	土器 鉢	口径(28.0) 底径 — 器高 —	①普通 ②灰 ③白色粒、雲母 ④口縁部～胴部上位 1/12	外面 軸輪型形。 内面 軸輪型形。	

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 鉢	口径 12.5 底径 5.9 器高 3.1	①未焼成 ②灰 ③白色粒、雲母 ④4/5	外面 軸輪型形、底部右軸削り。 内面 軸輪型形。	

遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器鉢 外	口径 13.7 底径 6.5 器高 4.0	①普通 ②灰 ③白色粒、角閃石、雲母 ④7.5%	外縁部横削で、体部～底部鋸削り。 内縁部～体部横削で、底部削り。	
2	須恵器 蓋	口径 8.8 縫み 2.0 器高 2.9	①焼元 ②灰 ③白色粒、雲母 ④3/5	外面 軸輪型形、天井部右軸削り。 内面 軸輪型形。	
3	須恵器 蓋	口径(10.3) 縫み — 器高 —	①焼元 ②灰 ③白色粒 ④口縁部～天井部 1/4	外面 軸輪型形、天井部手持ち鋸削り。 内面 軸輪型形。	
4	須恵器 杯	口径(8.3) 底径 — 器高 3.5	①焼元 ②にい黄褐 ③白色粒 ④1/2	外面 軸輪型形、底部手持ち鋸削り。 内面 軸輪型形。	
5	須恵器 杯	口径(9.6) 底径 — 器高 3.9	①焼元 ②灰白 ③白色粒、角閃石 ④2/5	外面 軸輪型形、底部手持ち鋸削り。 内面 軸輪型形。	
6	瓦 平瓦	厚さ 2.2	①焼元 ②灰 ③白色粒、角閃石 ④2/5	内面 布目状張、側面部横削で、凸面 織目状張、表面は荒 れている。側面 横削で、広張部 混削で。	
7	白磁 瓶	口径(14.6) 底径 — 器高 —	①焼元 ②灰白 ③口縁部破片	軸輪型形。	B群
8	白磁 瓶	口径(15.0) 底径 — 器高 —	①焼元 ②灰白 ③口縁部破片	軸輪型形。	B群

VI 24 地点

I 24 地点概要 (Fig. 40, P.L. 12・13)

24 地点の調査では、性格不明遺構 1 基・土坑 24 基・溝 7 条・ピット 76 基が検出されており、上野国府及び蒼海城関連と想定される遺構を主とした地点である。性格不明遺構である S X - 1 は 7 世紀代に帰属するものと考えられる遺構で、埋没土の状態等から堅穴住居跡の掘り方方が僅かに残存したものと想定されるものである。土坑は調査を進めた結果、D - 2 ・ 7 ・ 9 ・ 14 ・ 22 号土坑は井戸であることが判明している。なお、D - 7 号土坑は、『元総社蒼海遺跡群(21)』27 地点(以下、27 地点)における D - 4 号土坑と同一遺構である。D - 2 号土坑は、掘削を途中であきらめている井戸で W - 1 号溝が埋設した後に掘られている。本遺跡での井戸は、硬くしまる総社砂層が基盤層となっているためか、総社砂層部分は算盤球状に掘り込む傾向が見られる。D - 2 号土坑でも、算盤球状に掘り込むとしてみたところ、W - 1 号溝の埋没土に当たってしまったことから掘削を断念したのとを考えられよう。また、D - 2 号土坑を除く他の井戸では、埋没土上位に近世以降の陶磁器片が混入する状態が認められている。しかし、下位で該期の遺物は見られないことから、一概にも近世以降の遺構とはいえ

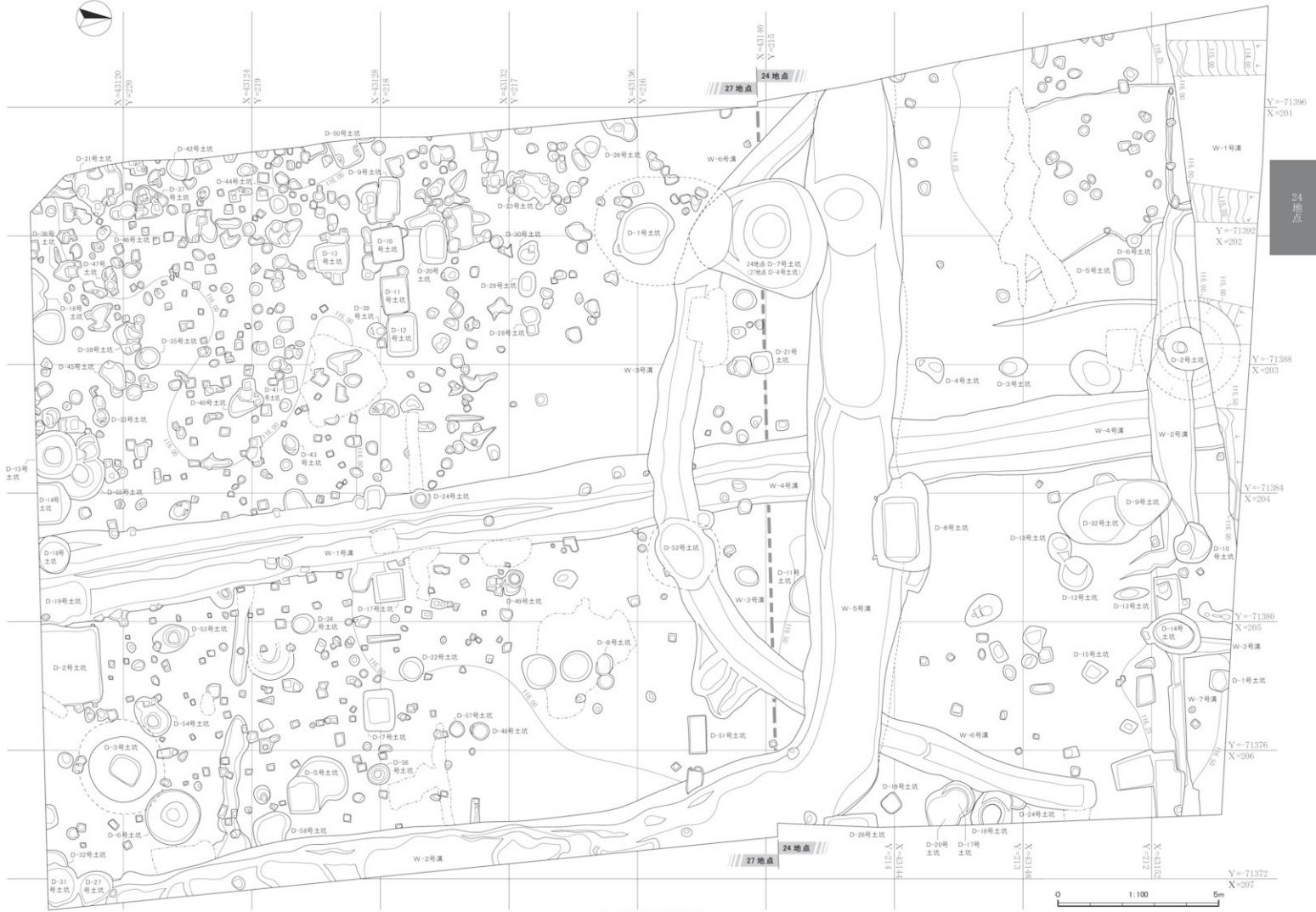


Fig. 40 24地点全图

ないものと言えよう。その他、注目すべき土坑としてD-8号土坑が挙げられる。本土坑は、W-5号溝と重複し、調査段階でW-5号溝よりも新しい遺構として捉えていたが、出土遺物と埋没土層の状況を再確認したところ、同時期に存在していた可能性があり得るものと認識を改めている。なお、D-8号土坑は平面長方形形状を呈する土坑であるが、コーナー部分に杭の打ち込み痕が確認されている。D-23・25号土坑は整理調査段階で欠番としている。溝は時期不明などを除くと、大きく平安時代・15世紀後半・15世紀後半以降の3時期に分類することができる。平安時代に帰属するものはW-4号溝で、南北方向へ直線的に走行するものである。同溝も27地点のW-1号溝と同一遺構で、長距離にわたり直線的に走行することから上野国府との関連性が指摘されるものである。15世紀後半に比定される溝はW-5号溝で同溝も27地点W-2号溝からの継続である。同溝については蒼海城古段階の堀と認識しており、埋没土中から多量のカワラケ・貿易陶磁・在地陶器・古瀬戸等が出土するとともに、炭化材・焼けた土壁の混入が見られる。溝からの炭化材・焼けた土壁の出土は、郭内の建物が火災にあったことを示すもので、焼け落ちて不要となった建物の材や家財道具を土壘とともに堀に埋めた状況が捉えられている。15世紀後半以降の溝はW-1号溝とW-6号溝（27地点W-3号溝）で、蒼海城新段階の堀と考えられる。W-1号溝は現在の地形から描かれた繩張り図（山崎 1978）と一緒に致する溝で、繩張り図では本丸と二の丸を区切る堀とされている。また、W-6号溝は弧状に走行する溝で、丸馬出の可能性を有するものである。W-1号溝との位置関係を見ると、交わることはなくW-1号溝の手前13m程で立ち上がってい。

2 性格不明遺構

SX-1（遺構：Fig. 41、P.L. 13／遺物：Fig. 62、Tab. 15、P.L. 18）

位置：X：200～202、Y：211・212グリッド。主軸方位：不明。重複：D-6号土坑・W-1・2号溝、ピット23基と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、D-6号土坑・W-1・2号溝より古い。ピットとの新旧関係は不明。形状：不整長方形形状を呈する。規模：(5.10)m × 4.78 m。残存深度：0.14 m。面積：(24.38) m²。床面の状態：細かい凸凹が顕著に見られる。また、本遺構北端では「L」字状に曲がる上端幅0.15～0.27 m、下端幅0.03～0.15 m、残存深度0.11 mを測る溝が見られ、さらに溝の中にピット（P-1～4）が等間隔に並ぶ状態が確認されている。この状況から、住居跡の重複も考えられる。遺構埋没状態：総社砂層ブロックを含む暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。また、部分的にではあるが、燒土・炭化粒の混入も見られる。遺物出土状態：埋没土中より土師器壺・甕、須恵器蓋の出土が見られる。時期：7世紀前半の遺物を主とするが、7世紀後半に比定されるものと想定される遺物も混ざる。備考：性格不明遺構としたが、堅穴住居跡の掘り方が部分的ないし重複した状態の可能性が考えられる。

3 土坑（遺構：Tab. 10・11）

24地点において土坑は26基確認されている。調査の結果、D-2・7・9・14・22号土坑は井戸であることが判明している。また、D-8号土坑など蒼海城との関連性を有する土坑も見られることから、数基については詳細な事実記載を行うこととした。それ以外の土坑に関しては、計測値等をTab. 10に示してある。

D-2号土坑（遺構：Fig. 42、Tab. 10、P.L. 14／遺物：Fig. 70、Tab. 22、P.L. 25）

位置：X：202・203、Y：211・212グリッド。重複：W-1・2・4号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本土坑は重複する全ての遺構より新しい。平面形態：円形状を呈する。規模：確認面(1.71)m × 1.35 m。最大径(3.11)m × (3.07)m。断面形態：上位円筒状、中～下位算盤球状。残存深度：2.32 m。底面の状態：

緩やかに中央へ向けて傾斜し、凸面は少ない。遺構埋没状態：焼土粒・炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。埋没土の中位よりやや下では薄い焼土層が見られる。遺物出土状態：埋没土中より白磁端反破・馬骨等が出土している。時期：W-1号溝より新しい遺構であることから、15世紀後半以降と想定される。備考：掘削を途中であきらめた井戸跡。当時、総社砂層の硬い土質を想定して、断面算盤球状を呈する井戸を掘ったところ、井戸北側の堆積土はW-1号溝の埋没土であったことから、地耐力不足と判断し、掘削を断念したものと推測される。

D-7号土坑（遺構：Fig. 43、Tab. 11、P.L. 16・17／遺物：Fig. 70、Tab. 22、P.L. 25）

位置：X：214・215、Y：201・202 グリッド。重複：W-5・6号溝・『元総社蒼海遺跡（21）』27地点D-1号土坑と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。平面形態：不整楕円形状を呈する。規模：4.30 m × 3.57 m。断面形態：ロート状を呈する。残存深度：(4.21) m。底面の状態：不明。遺構埋没状態：埋没土の上位では近世以降の遺物出土が目立つが、中位以下には総社砂層ブロックが多量に含まれる。本遺構は井戸跡であるが、この埋没状況は地下式坑の埋没状況と類似していることから、D-2号土坑で見られるような断面算盤球状の掘り込みであったことが推測される。埋没土中にに入る多量の総社砂層ブロックは、断面算盤球状のオーバーハングしている部分が崩落したものであろう。遺物出土状態：埋没土上位では、近世以降の陶磁器が多量に出土している。これは井戸が崩落して窪地と姿を変えたため、遺構の性格もこれとともに変わりゴミ捨て場として機能したものと考えられる。総社砂層を多量に含む崩落土以下からは、常滑陶器大甕や木材等の出土が見られる。時期：15世紀後半以降と想定される。備考：土坑として調査を行ったが、調査の結果井戸跡であることが判明。『元総社蒼海遺跡群（21）』27地点D-4号土坑と同一遺構。

D-8号土坑（遺構：Fig. 44、Tab. 11、P.L. 16・17／遺物：Fig. 70、Tab. 22・23、P.L. 25）

位置：X：203・204、Y：213・214 グリッド。重複：W-4・5号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から本土坑はW-4号溝より新しい。なお、現地調査の段階で、埋没土層の観察から本土坑はW-5号溝よりも新しいものと判断したが、整理調査段階で出土遺物の詳細な観察や埋没土層の再解釈を行った結果、W-5号溝と同一時期に機能していた（一連の遺構である）可能性が高いものと認識を変更するに至っている。平面形態：隅丸長方形を呈する。規模：3.07 m × 1.77 m。断面形態：箱状を呈する。残存深度：2.66 m。底面の状態：比較的の平坦。遺構埋没状態：燒土・炭化物・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。埋没土層のほとんどは南側からの流入となっており、炭化物や焼土化した土塊が混入する。遺物出土状態：埋没土中より青磁・白磁・古瀬戸鉢・常滑大甕・カワラケ・獸骨等の出土が見られる。時期：出土したカワラケから15世紀後半と想定される。備考：土坑南壁の両コーナーに直径7cmのビットが見られる。同ビットは掘り方が見られないなどの状況から杭の打ち込み痕と想定される。

D-16号土坑（遺構：Fig. 45・46、Tab. 11）

位置：X：206、Y：213 グリッド。重複：D-24号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-6号溝より古い。D-24号土坑との新旧関係は不明。平面形態：楕円形状を呈するものと推測される。規模：(0.61) m × 0.55 m。断面形態：逆台形状を呈するものと想定される。残存深度：0.53 m。底面の状態：全体的に端部が6cmほど壁周溝状に陥み、中央部は盛り上がる。壁周溝状の陥みは、桶等の設置痕か？ 遺構埋没状態：燒土粒・炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：W-6号溝構築以前。備考：性格不明。

D-17号土坑 (遺構: Fig. 45・46, Tab. 11)

位置: X : 206, Y : 213 グリッド。重複: D-20号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はD-20号土坑より新しく、W-6号溝より古い。平面形態: 楕円形状を呈するものと想定される。規模: 1.30 m × 1.12 m。断面形態: 血状を呈する。残存深度: 0.41 m。底面の状態: 少少の凸凹は見られるが、比較的なだらかな状態である。北西側に幅狭で低いテラスを有する。遺構埋没状態: 総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態: 遺物の出土は見られない。時期: W-6号溝構築以前。備考: 性格不明。

D-20号土坑 (遺構: Fig. 45・46, Tab. 11)

位置: X : 206, Y : 213 グリッド。重複: D-17号土坑と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はD-17号土坑より古い。平面形態: 円形状ないし椭円形状を呈するものと推測される。規模: <1.09> m × <1.01> m。断面形態: 不明。残存深度: 0.40 m。底面の状態: 少少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。遺構埋没状態: 炭化粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態: 遺物の出土は見られない。時期: W-6号溝構築以前。備考: 性格不明。

D-24号土坑 (遺構: Fig. 45, Tab. 11)

位置: X : 206, Y : 212・213 グリッド。重複: D-16号土坑・W-6号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-6号溝より古い。D-16号土坑との新旧関係は不明。平面形態: 円形状ないし椭円形状を呈するものと推測される。規模: <0.44> m × <0.37> m。断面形態: 逆台形状を呈する。残存深度: 0.47 m。底面の状態: 少少の凸凹は見られるが比較的平坦である。遺構埋没状態: 総社砂層ブロックを含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態: 遺物の出土は見られない。時期: W-6号溝構築以前。備考: 性格不明。

D-26号土坑 (遺構: Fig. 47, Tab. 11, PL. 16)

位置: X : 206, Y : 214 グリッド。重複: W-5号溝と重複する。埋没土層の観察から、本土坑はW-5号溝より新しい。平面形態: 方形状ないし長方形形状を呈するものと推測される。規模: 1.65 m × <0.42> m。断面形態: 逆台形状を呈するものと推測される。残存深度: <1.66> m。底面の状態: 底面までの検出ができないため不明。遺構埋没状態: 燃土粒・炭化粒・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。また、埋没土の流入は北側及び南側の両方から行われている。遺物出土状態: 遺物の出土は見られない。時期: 15世紀後半以降。備考: 性格不明。D-8号土坑と形状等は近似するものの、W-5号溝との明確な切り合い関係が確認できていることと、埋没土の流入状況に違いが見られる等から、本土坑はD-8号土坑とは異なる性格と想定される。

Tab. 10 24 地点土坑一覧表①

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-1号土坑	X : 205 Y : 211	0.67 × <0.60>	0.12	不整形方形	—	総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-2号土坑	X : 202・203 Y : 211・212	(1.71) × 1.35	2.32	椭円形	白磁壺反発 振りかけの井戸人。人為埋没。W-1・2・4号溝と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。15世紀後半以降。	—
D-3号土坑	X : 202・203 Y : 212・213	0.89 × 0.60	0.47	椭円形	—	小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-4号土坑	X : 202・203 Y : 213	0.93 × 0.61	0.42	不整形	—	研粒・小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-5号土坑	X : 202 Y : 212	0.81 × 0.61	0.11	楕丸長方形	—	小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-6号土坑	X : 201・202 Y : 212	0.47 × 0.41	0.27	椭円形	—	SX-1と重複し、本土坑はSX-1より新しい。小罐・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。

Tab. 11 24 地点土坑一覧表②

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D-7号土坑	X:201・202 Y:214・215	4.30 × 3.57	4.21以上	椭円形	近世以降陶磁器、常滑大健、木材	上位が崩落した井戸。上位人為埋没、下位自然埋没。W-5・6号溝『元総社蒼海道跡群(21)』27 地点D-1号土坑と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。15世紀後半に降、『元総社蒼海道跡群(21)』27 地点D-4号土坑と同一直線。
D-8号土坑	X:203・204 Y:213・214	3.07 × 1.77	2.66	楕丸長方形	青磁・白磁・古窯跡・常滑大健・カワラ・枕	人為埋没。W-5号溝と同時期に機能し、同遺構と一緒にあると想定。W-4号溝と重複し、本土坑はW-4号溝より新しい。15世紀後半。
D-9号土坑	X:203・204 Y:211・212	1.57 × 1.35	1.74以上	椭円形	近世以降陶磁器・青磁盤	井戸。D-22号土坑・W-2号溝と重複し、本土坑はW-2号溝より新しい。D-22号土坑との新旧関係は不明。砂層の危険性から上位の調査で終了。繩・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-10号土坑	X:204・Y:211	1.27 × 1.19	0.17	椭円形	—	W-2号溝と重複し、本土坑はW-2号溝より新しい。小繩・炭化物・総社砂層ブロックを含む褐褐色土・黒褐色土で埋没。
D-11号土坑	X:204・Y:214	1.25 × (0.52)	0.76	椭円形?	—	W-5号溝と重複し、本土坑はW-5号溝より古い。総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-12号土坑	X:204・Y:212	1.07 × 1.07	1.20	円形	—	D-18・22号土坑と重複するが、新旧関係は不明。小繩・総社砂層ブロックを含む灰白色土・黒褐色土で埋没。
D-13号土坑	X:204・Y:212	1.09 × 0.37	0.27	椭円形	—	砂粒・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-14号土坑	X:204・205 Y:211・212	1.81 × 1.25	1.88以上	椭円形	近世以降陶磁器	井戸跡と想定。W-3・7号溝と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。崩落の危険性から上位の調査で終了。
D-15号土坑	X:205・Y:212	0.73 × 0.69	0.42	不規則形	—	小繩・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-16号土坑	X:206・Y:213 (0.61) × 0.55	0.53	椭円形?	—	—	D-24号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はW-6号溝より古い。D-24号土坑との新旧関係は不明。底面端部は堅周囲状に疊り、植等の設置痕か。
D-17号土坑	X:206・Y:213	1.30 × 1.12	0.41	椭円形?	—	D-20号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はD-20号土坑より新しく、W-6号溝より古く。北西側に幅狭で低いアーチ。
D-18号土坑	X:204・Y:212	0.95 × 0.73	0.49	椭円形	—	D-12号土坑と重複するが、新旧関係は不明。小繩・総社砂層ブロックを含む黒褐色土・紺褐色土で埋没。
D-19号土坑	X:206 Y:213・214	0.58 × 0.55	0.55	椭丸長方形	—	総社砂層ブロックを含む紺褐色土で埋没。
D-20号土坑	X:206・Y:213 (1.09) × (0.01)	0.40	円形?	—	—	D-17号土坑と重複し、本土坑はD-17号土坑より古い。
D-21号土坑	X:203・203 Y:214・215	6.60 × 0.66	0.43	椭丸形	—	土塊・小繩・炭化物・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-22号土坑	X:204・Y:212	1.30 × 1.35	1.43以上	椭円形	近世以降陶磁器	井戸跡と想定。D-9・12号土坑と重複するが、新旧関係は不明。崩落の危険性から上位の調査で終了。土塊・小繩・炭化物・総社砂層ブロックを含む黒褐色土で埋没。
D-23号土坑	—	—	—	欠番	—	—
D-24号土坑	X:206 Y:212・213	(0.44) × (0.37)	0.47	円形?	—	D-16号土坑・W-6号溝と重複し、本土坑はW-6号溝より古い。D-16号土坑との新旧関係は不明。
D-25号土坑	—	—	—	欠番	—	—
D-26号土坑	X:206・Y:214	1.65 × (0.42)	1.66以上	方形?	—	W-5号溝と重複し、本土坑はW-5号溝より新しい。15世紀後半以降。

詳細記述を行っている土坑

4 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 48・49、P.L. 14）

位置：X: 200 ~ 204、Y: 211 グリッド。主軸方位：N-82° - E。重複：S X-1・D-2号土坑・W-4号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は S X-1・W-4号溝より新しく、D-2号土坑より古い。規模：上端幅 (3.25) m。本堀は蒼海城縄張り図 (Fig. 4) で示されている新段階の蒼海城本丸と二の丸間を東西方向に走行する堀と想定されるもので、縄張り図を基に計測すると上端幅は 10 m 程あるものと推測される。断面形態：堀底までの検出に至らなかつたため不明。壁面は堀底へ向けて約 40° の斜度で直線的に落ち込んでいく。残存深度：(2.71) m。底面の状態：検出が及んでいないため不明。造構埋没状態：総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロック・A s-Y P を含む暗褐色ないし灰黃褐色の土による人為埋没と想定される。総社砂層ブロックに風化現象が見られないことや、検出した表面（総社砂層）よりさらに下で見られる黒色粘質土や A s-Y P が埋没土中に混入することから土壌の土を埋め戻したものと推測される。また、検出部分東端で確認した埋没土には

総社砂層ブロックの混入が多く見られることから、掘り残しの土橋が付近に存在する可能性も指摘される。遺物出土状態：遺物の出土は見られないが、同一遺構である 25・26 地点の W-1 号溝の底から木器の椀が出土している。時期：15 世紀後半～17 世紀前半と想定される。備考：蒼海城新段階の堀と想定される。25・26 地点 W-1 号溝と同一遺構。

W-2 号溝（遺構：Fig. 50, P.L. 14）

位置：X：201～204, Y：211 グリッド。主軸方位：N-88° - E。重複：S X-1・D-2・9・10 号土坑・W-4 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は S X-1・W-4 号溝より新しく、D-2・9・10 号土坑より古い。規模：上端幅 0.43～1.42 m、下端幅 0.18～1.18 m。断面形態：西側では皿状を呈するが、東側では箱状を呈する。残存深度：0.49 m。底面の状態：比較的凸凹は少なく、検出部分の東及び西端の標高が高い。中央に向かうにつれ標高を減ずる。遺構埋没状態：小甕・総社砂層ブロックを含む暗褐色ないし黒褐色の土により埋没している。流水等の痕跡は見られない。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

W-3 号溝（遺構：Fig. 40）

位置：X：205、Y：211 グリッド。主軸方位：N-1° - W。重複：D-14 号土坑・W-7 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は D-14 号土坑より古い。W-7 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 0.40～0.58 m、下端幅 0.16～0.32 m。断面形態：皿状を呈する。残存深度：0.29 m。底面の状態：南から北へ向けて標高を減ずる。表面はやや凹回する。遺構埋没状態：総社砂層ブロック暗褐色の土により埋没している。流水等の痕跡は見られない。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

W-4 号溝（遺構：Fig. 51, P.L. 13 / 遺物：Fig. 62, Tab. 15, P.L. 18）

位置：X：203、Y：211～214 グリッド。主軸方位：N-8° - W。重複：D-2・8 号土坑・W-1・2・5 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は重複する全ての遺構より古い。規模：上端幅 2.35～1.85 m、下端幅 0.55～0.30 m。断面形態：皿状を呈し、東半に低いテラス面を有する。残存深度：0.42 m。底面の状態：凸凹はない。鉄分の沈着が見られる。遺構埋没状態：埋没土の状態から本溝は 2 時期に分類することができ、W-4 a 溝、W-4 b 溝と名称を付してあり、断面形状で見られるテラス以下を W-4 b 溝、テラス以上を W-4 a 溝としている。W-4 b 溝の下位は砂粒・小甕・鉄分を多く含む暗褐色を主体とした土により埋没している。この状況は、比較的強い水流によって埋没したことを示すものである。W-4 b 溝は総社砂層ブロック・小甕を含む黒褐色土により埋没している。遺物出土状態：W-1 b 溝からは 10 世紀～11 世紀代の須恵器环・碗・灰釉陶器皿、古代の丸瓦が出土している。W-4 a 溝からは火打ち金が出土している。時期：W-4 a 溝は 11 世紀以降、W-4 b 溝が 10～11 世紀代と想定される。備考：出土遺物の時期や長距離にわたり直線的に走行することなどから、上野国府に関連する遺構である可能性が高いものである。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-1 号溝と同一遺構。

W-5 号溝（遺構：Fig. 52～55, P.L. 14～16 / 遺物：Fig. 62～69, Tab. 15～22, P.L. 18～24）

位置：X：200～206、Y：213～214 グリッド。主軸方位：東西方向 N-89° - W、南北方向 N-64° - W。重複：D-7・8・11・26 号土坑・W-4・6 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は D-11 号土坑・W-4 号溝より新しく、D-7・26 号土坑・W-6 号溝より古い。なお、D-8 号土坑との新旧関係については、現地調査の段階で、埋没土層の観察から本溝は D-8 号土坑より古いものと判断したが、整理調査段階で出土遺物の詳細な観察や埋没土層の再解釈を行った結果、D-8 号土坑と同一時期に機能していた（一連の遺構である）

可能性が高いものと認識を改めるに至っている。規模：上端幅 2.45 ~ 3.30 m、下端幅 1.46 ~ 2.25 m。断面形態：南及び西壁は底面に向けて直線的に落ち込むが、北壁は底面に向けてオーバーハングする傾向にある。残存深度：1.80 m。底面の状態：調査区内における東西端の標高が高く、中央やや西寄りが窪む。また、掘削時の作業単位を表すものと推測される低い段差が確認されている。遺構埋没状態：最下位は総社砂層の風化による白灰色の自然埋没で、それ以上は A s - B - 燃土・小礫・炭化物・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを含む暗褐色・黒褐色・黄褐色の土による人為埋没と想定される。なお、埋没土の流入は南側から行われており、総社砂層ブロックに風化現象が見られないことから、土壌の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より貿易陶磁（青磁・白磁・染付・褐釉陶器・天目茶碗）・古瀬戸（鉢・茶壺）・常滑（大甕）・在地土器（火鉢・插鉢）・カワラケ・石製品（鉢・茶臼・石臼・板磚）・銅製品（古錢等）が出土しており、ほとんどの遺物に二次焼成痕が見られる。時期：カワラケの時期から 15 世紀後半と想定される。備考：蒼海城古段階の堀と想定される。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-2 号溝と同一遺構。

W-6 号溝（遺構：Fig. 56・57、P.L. 13・17／遺物：Fig. 70、Tab. 22、P.L. 25）

位置：X : 200・201・205・206、Y : 212 ~ 214 グリッド。主軸方位：平面形態が半円状（弧状）を呈するため不明。重複：D-7・16・17・24 号土坑・W-5 号溝と重複する。出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は D-16・17・24 号土坑より新しく、D-7 号土坑より古い。規模：上端幅 1.00 ~ 1.38 m、下端幅 0.36 ~ 0.74 m。断面形態：逆台形状を呈する。残存深度：1.15 m。底面の状態：北から南に向けて標高を窪む。掘削時の作業単位を表すものと推測される低い段差が確認されている。また、堀面には掘削時の工具痕が残存している。遺構埋没状態：基本的に総社砂層ブロックを含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。W-5 号溝と重複する部分に限り、埋没土中には燃土・炭化物・黒色粘質土ブロックが混ざる。総社砂層ブロックに風化現象が見られないことから土壌の土を埋め戻したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中より常滑大甕が出土している。時期：15 世紀後半～17 世紀前半と想定される。備考：蒼海城新段階の堀と想定され、半円形状（弧状）の平面形態や W-1 号溝との位置関係から丸馬出の可能性を有するものである。『元総社蒼海遺跡群（21）』27 地点 W-3 号溝と同一遺構。

W-7 号溝（遺構：Fig. 58）

位置：X : 204 ~ 206、Y : 211 グリッド。主軸方位：N -86° - E。重複：D-14 号土坑・W-3 号溝と重複する。埋没土層の観察から、本溝は D-14 号土坑より古い。W-3 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 0.31 ~ 0.84 m、下端幅 0.20 ~ 0.68 m。断面形態：「U」字状を呈する。残存深度：0.33 m。底面の状態：多少の段差が見られる。遺構埋没状態：小礫を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

5 ピット（遺構：Fig. 59 ~ 61、Tab. 12・13・14）

24 地点においてピットは 76 基確認されているが、掘立柱建物跡等の配列は捉えられていない。各ピットの計測値等は Tab. に示してある。

Tab. 12 24 地点ピット一覧表①

遺構名	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P-1	X : 200 Y : 211	0.24 × 0.16	0.15	稍円形	-	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。
P-2	X : 201 Y : 211	0.27 × 0.21	0.13	長方形	-	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。

Tab. 13 24 地点ピット一覧表②

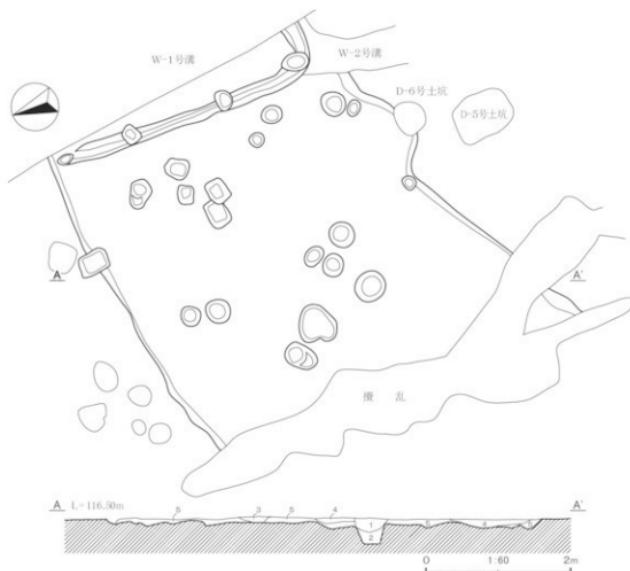
地名	グリット	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
P- 3 X : 201 Y : 213	0.30 × 0.22	0.10	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 4 X : 201 Y : 213	0.39 × 0.21	0.14	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 5 X : 201 Y : 213	0.29 × 0.25	0.53	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 6 X : 201 Y : 213	0.20 × 0.20	0.31	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 7 X : 201 Y : 213 * 212	0.32 × 0.29	0.38	楕丸長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 8 X : 201 Y : 212	0.42 × 0.32	0.33	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P- 9 X : 201 Y : 212	0.25 × 0.23	0.22	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-10 X : 201 Y : 212	0.33 × 0.28	0.21	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-11 X : 201 Y : 212	0.41 × 0.30	0.19	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-12 X : 201 Y : 212 * 212	0.36 × 0.33	0.24	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-13 X : 201 Y : 212	0.24 × 0.17	0.22	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-14 X : 200 Y : 212	0.41 × 0.39	0.42	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-15 X : 200 Y : 212	0.41 × 0.31	0.23	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-16 X : 200 Y : 212	0.27 × 0.19	—	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-17 X : 200 Y : 212	0.33 × 0.29	0.01	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-18 X : 200 Y : 212	0.21 × 0.15	—	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-19 X : 201 Y : 212	0.21 × 0.18	0.03	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-20 X : 201 Y : 212	0.39 × 0.34	0.44	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-21 X : 201 Y : 212	0.31 × 0.23	0.30	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-22 X : 201 Y : 212	0.31 × 0.28	0.12	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-23 X : 201 Y : 212	0.43 × 0.40	0.21	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-24 X : 201 Y : 212	0.27 × 0.27	0.27	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-25 X : 201 Y : 212	0.34 × 0.32	0.30	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-26 X : 200 Y : 212	0.43 × 0.31	—	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-27 X : 200 Y : 212	0.41 × 0.37	—	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-28 X : 200 Y : 212	0.23 × 0.29	0.42	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-29 X : 200 Y : 212	0.20 × 0.18	0.03	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-30 X : 200 Y : 212	0.31 × 0.27	0.29	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-31 X : 200 Y : 212	0.69 × 0.47	—	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-32 X : 201 Y : 212	0.58 × 0.51	0.01	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-33 X : 201 Y : 212	0.47 × 0.32	0.18	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・後土粒・小礫混入。	
P-34 X : 202 Y : 213	0.41 × 0.39	0.42	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・後土粒混入。	
P-35 X : 202 Y : 213	0.25 × 0.20	0.39	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-36 X : 200 Y : 213	0.27 × 0.25	0.11	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-37 X : 200 Y : 213 * 214	0.51 × 0.23	0.30	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-38 X : 200 Y : 213	0.33 × 0.25	0.19	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-39 X : 201 Y : 213	0.96 × 0.35	0.34	楕丸形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化粒混入。	
P-40 X : 201 Y : 213	0.27 × 0.25	0.24	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-41 X : 201 Y : 213	0.45 × 0.39	0.20	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-42 X : 201 Y : 214	0.39 × 0.32	0.67	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-43 X : 203 Y : 213	0.22 × 0.21	0.18	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-44 X : 204 Y : 213	0.20 × 0.19	0.14	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-45 X : 204 Y : 213	0.32 × 0.29	0.21	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-46 X : 204 Y : 213 * 212	0.33 × 0.23	0.14	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-47 X : 203 * 204 Y : 213	0.37 × 0.33	0.10	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-48 X : 203 Y : 213	0.21 × 0.19	0.13	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-49 X : 204 Y : 213	0.28 × 0.15	0.32	楕円形?	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-50 X : 204 Y : 213	0.11 × 0.69	0.44	不整形長方形?	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-51 X : 205 Y : 213	0.17 × 0.15	0.08	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-52 X : 205 Y : 213	0.29 × 0.25	0.03	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-53 X : 205 Y : 213 * 212	0.62 × 0.32	0.09	楕丸三角形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-54 X : 205 Y : 213 * 212	0.95 × 0.58	0.04	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・炭化粒混入。	
P-55 X : 205 Y : 213	0.45 × 0.39	0.12	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-56 X : 206 Y : 213	0.35 × 0.25	0.42	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-57 X : 205 Y : 212	0.17 × 0.10	0.12	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・軽石 (A - B ?) 混入。	
P-58 X : 205 Y : 212	0.16 × 0.10	0.33	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・軽石 (A - B ?) 混入。	
P-59 X : 206 Y : 212	0.30 × 0.29	0.22	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-60 X : 205 * 206 Y : 212	0.47 × 0.33	0.51	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-61 X : 205 Y : 212	0.73 × 0.31	0.26	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫・炭化粒混入。	
P-62 X : 205 Y : 212	0.47 × 0.41	0.18	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-63 X : 205 Y : 212	0.29 × 0.63	0.30	不整形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-64 X : 205 Y : 212 * 213	0.45 × 0.45	0.39	円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-65 X : 205 Y : 213	0.19 × 0.17	0.16	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-66 X : 205 * 206 Y : 213	0.19 × 0.20	0.28	方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	
P-67 X : 205 Y : 213	0.51 × 0.39	0.25	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-68 X : 205 Y : 213	0.69 × 0.43	0.40	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-69 X : 205 Y : 213	0.28 × 0.19	0.14	長方形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック混入。	
P-70 X : 204 * 205 Y : 213	1.29 × 0.81	0.61	楕円形	—	黒褐色の埋没土に総社砂層ブロック・小礫混入。	

Tab. 14 24 地点ピット一覧表③

遺物名	グリット	奥幅 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備 考
P-71 X : 205 Y : 213	0.37 × 0.28	0.18	長方形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック混入。	
P-72 X : 205 Y : 213	0.31 × 0.25	0.23	椭円形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック混入。	
P-73 X : 205 Y : 213	0.38 × 0.35	0.33	方形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック混入。	
P-74 X : 205 Y : 213	0.23 × 0.23	0.24	方形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック・小磯混入。	
P-75 X : 205 Y : 213	0.28 × 0.27	0.19	方形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック・小磯混入。	
P-76 X : 205 Y : 214	0.23 × 0.22	0.56	方形	—	黒褐色の埋没土に紺社砂層ブロック混入。	

6 遺構外出土遺物（遺物：Fig. 70, Tab. 23, P.L. 25）

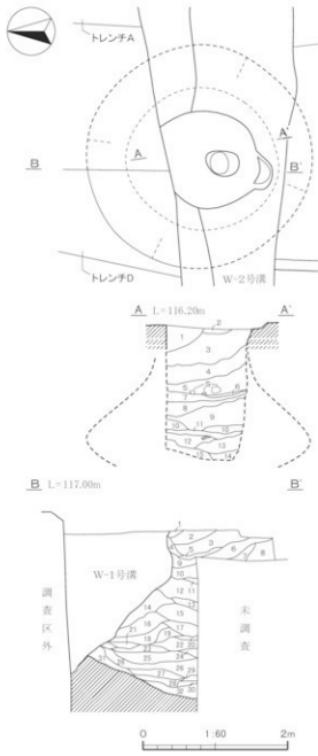
遺構外出土遺物として、1点の遺物を提示した。同遺物は青磁の皿で、内面に蓮弁文が施される舶来品である。このような舶来品の磁器はD-8号土坑・W-5号溝から多数出土しており、蒼海城を改修するにあたり投棄されたものと推測される。



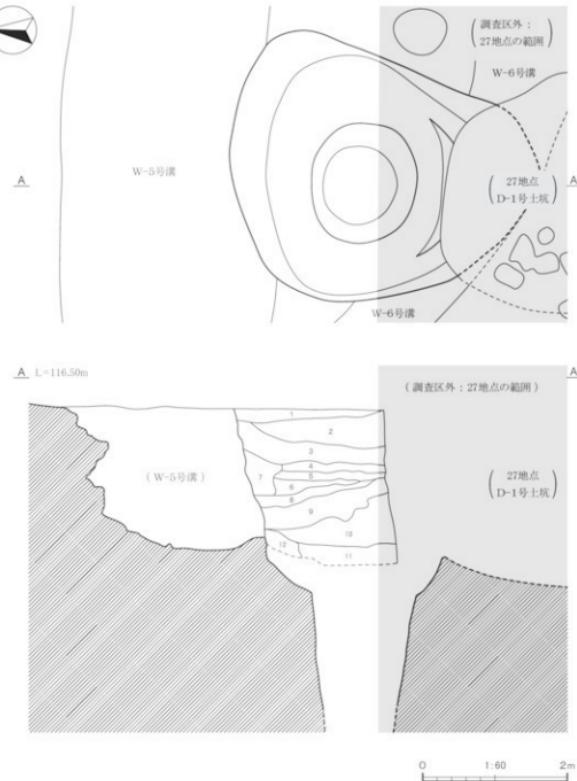
S X-1 土層説明

1. 黒褐色土：紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット埋没土。
2. 黒褐色土：小磯φ 0.5 cm・紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット埋没土。
3. 黑褐色土：紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ビット埋没土。
4. 塗褐色土：紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土：紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黑褐色土：壤土粒・砂粒・紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土：壤土粒・砂粒・紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. ごみ(廻土)：紺社砂層ブロック（黄）φ 0.5～3.0 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 41 S X-1



$EI = 40$, $D = 0.8$ kN/m²



D-7号土坑層説明

1. 黒褐色土：礁土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
2. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 3.0\text{ cm}$ ・総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 少量、黑色粘質土ブロック $\phi 0.5\text{ cm}$ 微量含む。しまりあり。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
3. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 2.0\text{ cm}$ 中量、炭化物・礁 $\phi 0.5\sim 10.0\text{ cm}$ 、総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。D-7号土坑埋没土。
4. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 多量、炭化物微量含む。しまりあり。D-7号土坑埋没土。
5. 黑褐色土：礁土粒・炭化物・総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ ・総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
6. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 10.0\text{ cm}$ 多量含む。しまりあり。粘性質。D-7号土坑埋没土。

7. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 30.0\text{ cm}$ 多量含む。しまり弱。粘性質。D-7号土坑埋没土。
8. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 中量、総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\text{ cm}$ 少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
9. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 10.0\text{ cm}$ 中量、総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\text{ cm}$ ・礁 $\phi 0.5\sim 5.0\text{ cm}$ 少量含む。しまり弱。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
10. 黑褐色土：総社砂層ブロック（黄） $\phi 0.5\sim 20.0\text{ cm}$ 多量、総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\sim 1.0\text{ cm}$ 少量含む。しまり弱。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。
11. 二疊互層：総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまり弱。粘性質。大規模な壁面の崩落。D-7号土坑埋没土。
12. 黑褐色土：総社砂層ブロック（白） $\phi 0.5\sim 3.0\text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性質であり。D-7号土坑埋没土。

Fig.43 D-7号土坑

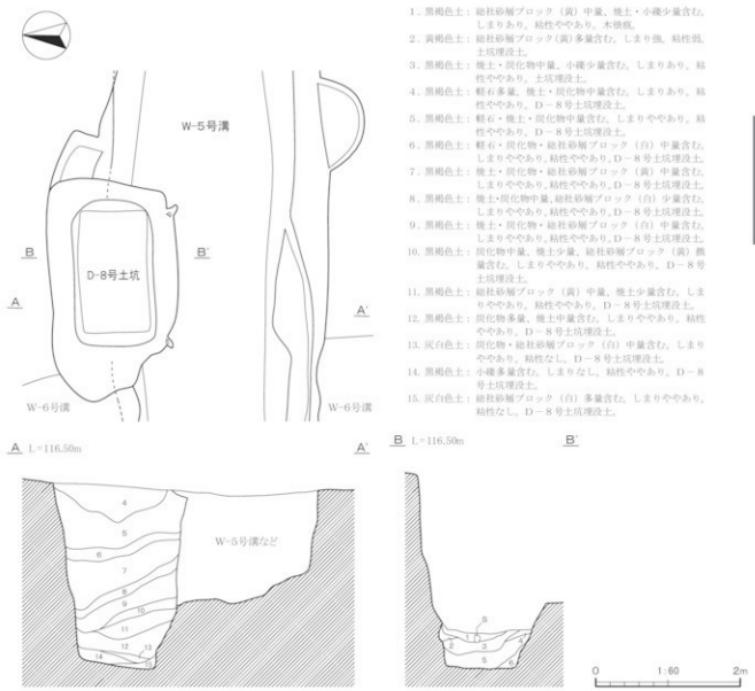


Fig. 44 D-8号土坑

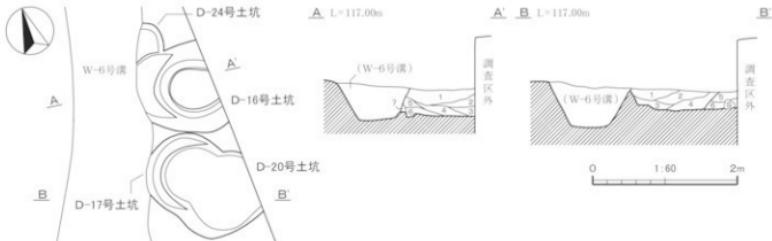


Fig. 45 D-16・17・20・24号土坑

D-16号土坑土层说明 (A-A')

- 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黒）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黒）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種砂利層ブロック（黒）少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黑）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黒）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種砂利層ブロック（黒）少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黒）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。
 - 黒褐色土：他土種・灰化土、他の未腐殖物ブロック（黑）混在含む。しまりあり。粘性ややあり。D-16号で圧理土。

D—17-20号土坑土层说明 (B—B')

- 黒褐色土：純社地層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性やや少く、D-17号上土壤浸没。
 - 黒褐色土：純社地層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-17号上土壤浸没。
 - 黒褐色土：砂粒・純社地層ブロック（黄）少量含む。しまりやや弱。粘性やや少く、D-17号上土壤浸没。
 - 黒褐色土：純社地層ブロック（黄）多量含む。しまり強。粘性やや少く、D-17号上土壤浸没。
 - 黒褐色土：炭化土・純社地層ブロック（黄）少量含む。しまりやや弱。粘性やや少く、D-20号上土壤浸没。
 - 黒褐色土：純社地層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性やや少く、D-20号上土壤浸没。

Fig. 46 D-16・17・20号土坑（土層説明）

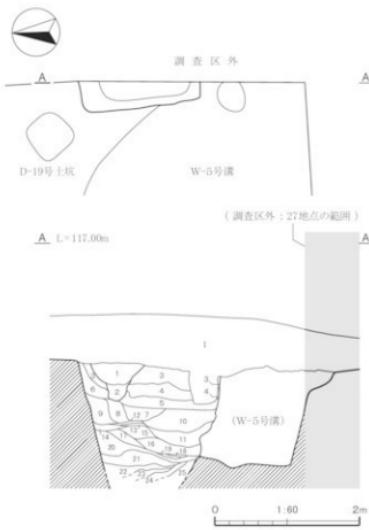


Fig. 47 D-26 号土坑

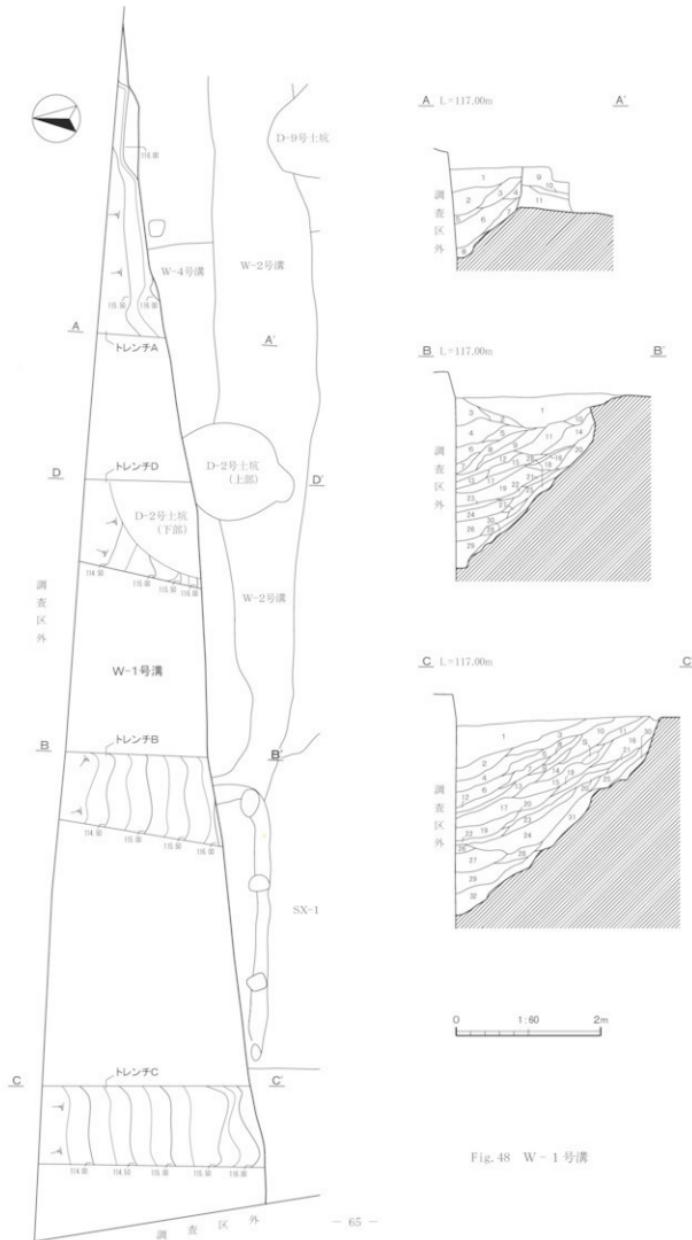


Fig. 48 W-1号溝

W-1号溝土層説明 (Aトレンチ)

1. 黄褐色毛色：純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

2. 黄褐色毛色：純紗絨毛ブロード（黄） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

3. 淡白色毛色：純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

4. 黄褐色毛色：純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

5. 淡褐色毛色：純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

6. 淡白色毛色：純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cm、黒色絨毛ワッフル ϕ 6.5cm × 0.5cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

7. 淡褐色毛色：小穢り ϕ 6.5cm × 1.0cm、純紗絨毛ブロード（白） ϕ 6.5cm × 1.0cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

8. 二にじ（淡褐色）：小穢り ϕ 6.5cm × 1.0cm、純紗絨毛ワッフル（黄） ϕ 6.5cm × 1.0cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-1 市場処理済。

9. 淡褐色毛色：白色絨毛 ϕ 0.2cm × 0.2cm、純紗絨毛ワッフル（黄） ϕ 6.5cm × 1.0cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-2 市場処理済。

10. 淡褐色毛色：白色絨毛 ϕ 0.2cm × 0.2cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-2 市場処理済。

11. 淡褐色毛色：小穢り ϕ 6.5cm × 1.0cm、純紗絨毛ワッフル（黄） ϕ 6.5cm × 1.0cmを含む。しまりあり、耐糞性、W-4 市場処理済。

W-1号溝土層説明 (B トレンチ)

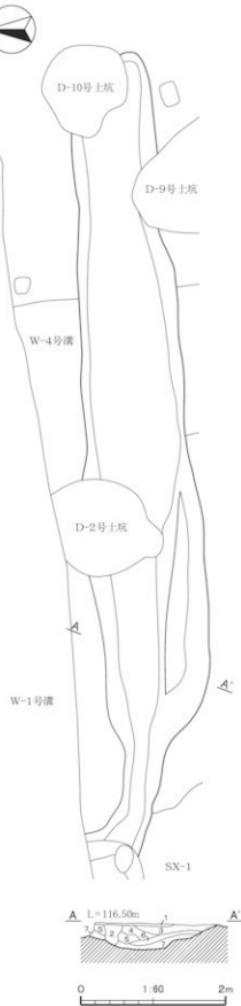


Fig. 50 W-2号溝

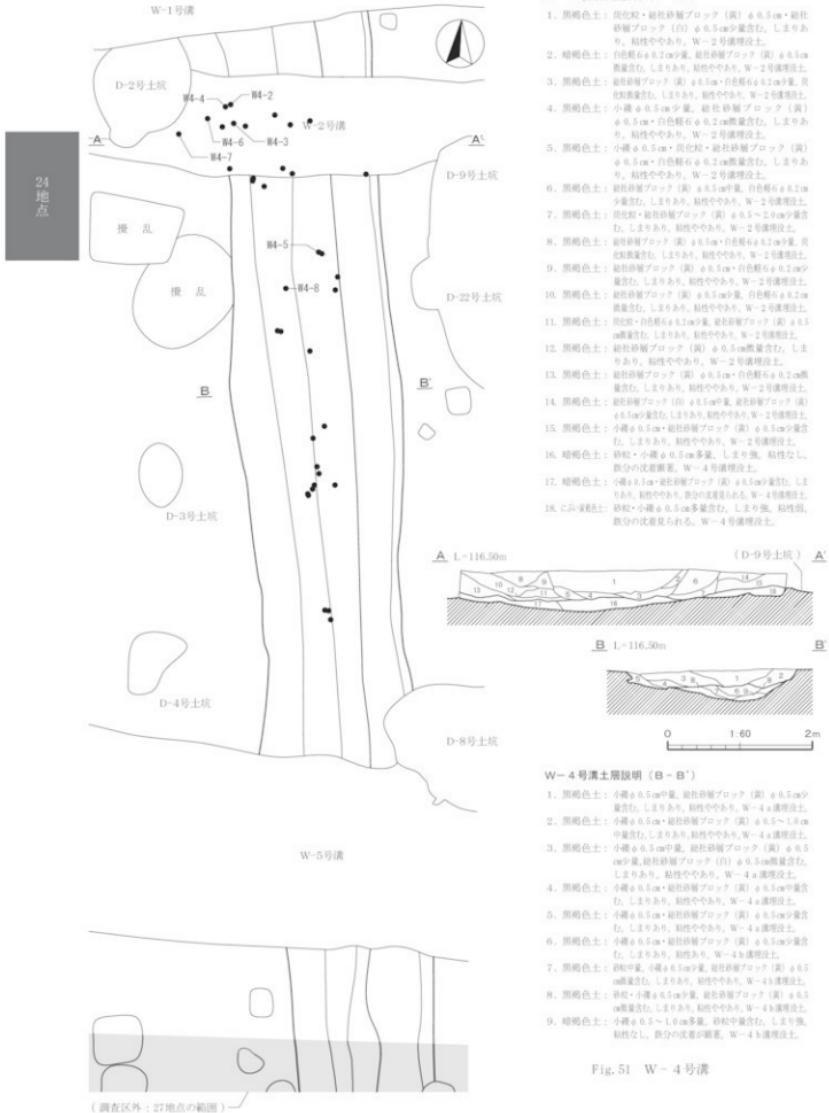


Fig. 51 W-4号溝

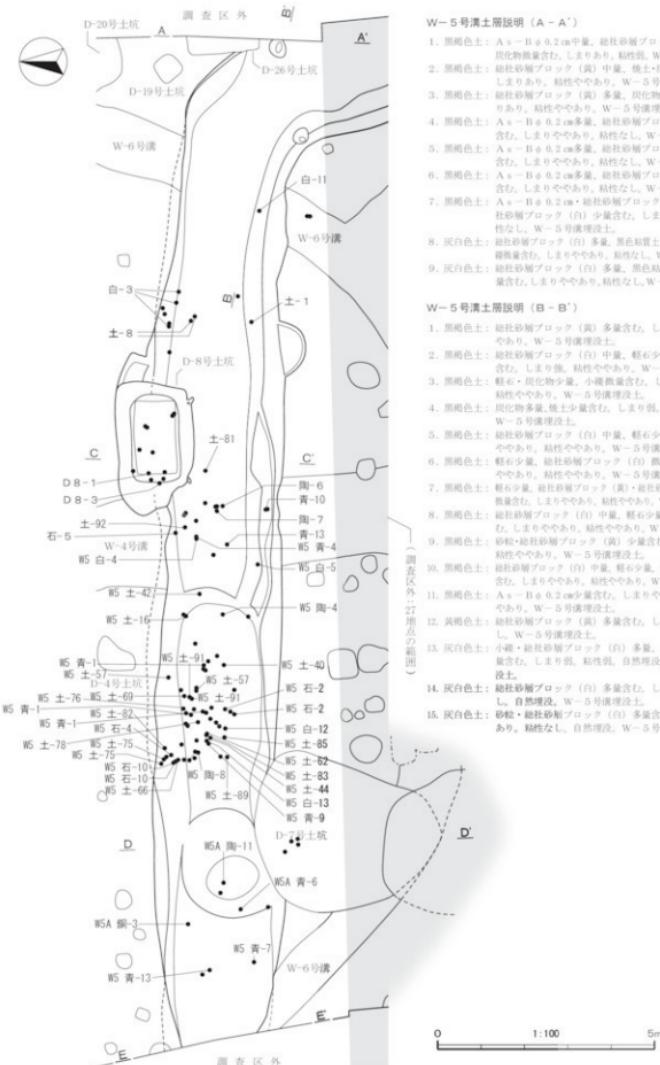


Fig. 52 W-5号溝①

W-5号溝土層説明 (A ~ A')

1. 黒褐色土: A - B 0.2 cm 中量。紺社砂層ブロック (黄) 少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性弱。W-5号溝埋没土。
2. 黒褐色土: 紺社砂層ブロック (黄) 中量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
3. 黒褐色土: 紺社砂層ブロック (黄) 多量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
4. 黑褐色土: A - B 0.2 cm 多量。紺社砂層ブロック (黄) 少量含む。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。
5. 黑褐色土: A - B 0.2 cm 多量。紺社砂層ブロック (黄) 多量含む。しまり強。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
6. 黑褐色土: A - B 0.2 cm 多量。紺社砂層ブロック (黄) 少量含む。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。
7. 黑褐色土: A - B 0.2 cm 紺社砂層ブロック (白) 少量含む。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。
8. 灰白色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量。黑色粘土質土層多量。小礫微量含む。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。
9. 灰白色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量。黑色粘土質土層多量含む。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。

W-5号溝土層説明 (B ~ B')

1. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (黄) 多量含む。しまり強。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
2. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 中量。軽く少量。炭化物微量含む。しまり強。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
3. 黑褐色土: 軽く少量。炭化物微量。小礫微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
4. 黑褐色土: 炭化物多量、焼土少量含む。しまり弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
5. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 中量。軽く少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
6. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 微量。しまりやや弱。W-5号溝埋没土。
7. 黑褐色土: 軽く少量。紺社砂層ブロック (白) 微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
8. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 中量。軽く少量。炭化物微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
9. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量。紺社砂層ブロック (黄) 多量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
10. 黑褐色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量。軽く少量。燒土・炭化物微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
11. 黑褐色土: A - B 0.2 cm 多量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-5号溝埋没土。
12. 黄褐色土: 紺社砂層ブロック (黄) 多量含む。しまり弱。粘性なし。W-5号溝埋没土。
13. 灰白色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量。砂利・炭化物少量含む。しまり弱。粘性弱。自然理段。W-5号溝埋没土。
14. 灰白色土: 紺社砂層ブロック (白) 多量含む。しまり弱。粘性なし。自然理段。W-5号溝埋没土。
15. 灰白色土: 砂利・紺社砂層ブロック (白) 多量含む。しまりやや弱。粘性なし。自然理段。W-5号溝埋没土。

W-5号溝土層説明(C-C')

1. 黒褐色土：総社砂層ブロック（黄）中量。他土・小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。木根無。
2. 黄褐色土：多量含む。しまり強。粘性弱。土成理没土。
3. 黒褐色土：他土・炭化物中量。小礫少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土成理没土。
4. 黒褐色土：鵠卵石・炭化物中量。他土少量。総社砂層ブロック（黄）微含む。しまりあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
5. 黒褐色土：鵠卵石・炭化物中量。他土・小礫少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
6. 黒褐色土：他土・小礫・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
7. 黒褐色土：他土・炭化物・総社砂層ブロック（黄）中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
8. 黒褐色土：他土・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
9. 黒褐色土：他土・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
10. 黒褐色土：他土・炭化物多量。小礫中量。総社砂層ブロック（黄）少含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
11. 黒褐色土：他土・炭化物中量。総社砂層ブロック（黄）微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
12. 黒褐色土：他土・炭化物中量。総社砂層ブロック（黄）・総社砂層ブロック（白）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
13. 増褐色土：他土・炭化物多量。総社砂層ブロック（白）中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
14. 黒褐色土：他土・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
15. 増褐色土：総社砂層ブロック（白）中量。炭化物少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
16. 増褐色土：他土・炭化物少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
17. 増褐色土：総社砂層ブロック（白）中量。他土・小礫・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
18. 黑褐色土：他土・炭化物・総社砂層ブロック（白）・総社砂層ブロック（白）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
19. 増褐色土：小礫・炭化物中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
20. 黄褐色土：小礫・総社砂層ブロック（黄）多量含む。しまりなし。粘性なし。W-5号溝理没土。
21. 増褐色土：小礫・炭化物・総社砂層ブロック（白）少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。
22. 黄白色土：総社砂層ブロック（白）多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-5号溝理没土。

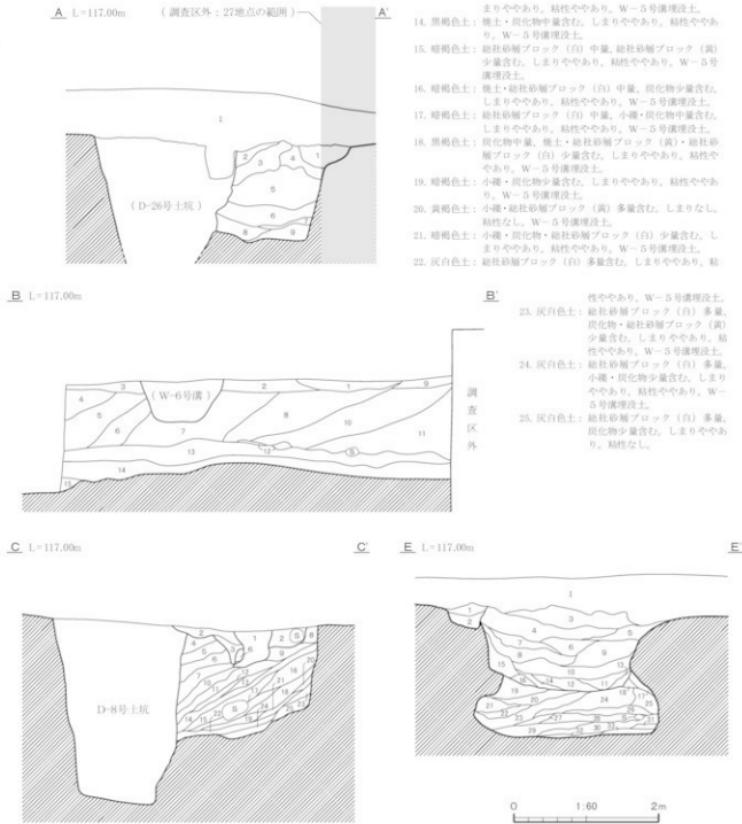
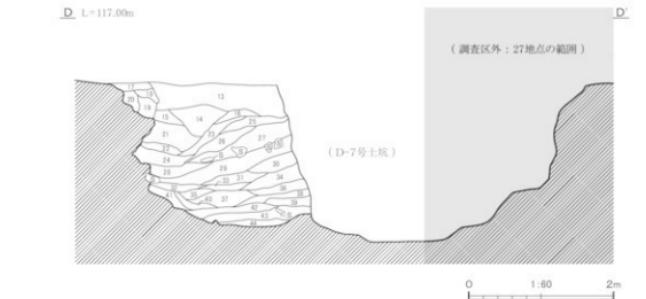


Fig. 53 W-5号溝②



W-5号溝土層説明 (D-D')

Fig. 24. W = 5 場溝②

W-5号溝土層説明 (E-E')

1. 黒褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm・地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性ややあり。ビット理土。
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性ややあり。ビット理土。

2. 黒褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性ややあり。ビット理土。

3. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 4.0 cm・地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 cm少量、黒色粘質土混含す。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

4. 喜褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm・総社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 cm少量、黒色粘質土混含す。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

5. 喜褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 cm少量、黒色粘質土混含す。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

6. 喜褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

7. 喜褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、総社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

8. 喜褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

9. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黒色粘質土ブロック φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性ややあり。W - 6 号理土。

10. 喜褐色土：
・地社砂利・地化土・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 2.0 cm・
・総社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 2.0 cm 黒色粘質土ブロック φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性やや。W - 6 号理土。

11. 黑褐色土：
・砂粒・地化土・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 cm・地社砂利
・ブロック（白） φ 0.5 cmを少量化す。しまりあり。粘性や
・や弱。W - 6 号理土。

12. 黑褐色土：
・地土上サシフク φ 0.2 ~ 1.0 cm・地化物中量、地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cmを混含す。しまりあり。粘性やや。下位に「灰白
・色地砂利層」の土壤層がある（厚さ 0.5 m ずつ）。W - 6 号理
・土。

13. 黑褐色土：
・総社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地土上サシフク φ 0.5 cm
・を混含す。しまりあり。粘性やや。W - 6 号理土。

14. 喜褐色土：
・砂粒少量、地土上・地化土・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 cm
・を混含す。しまりあり。粘性やや。

15. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 cm 黑色粘質土ブロック φ 0.5 cmを混含す
・。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

16. 黑褐色土：
・地社砂利ブロック（白） φ 0.5 cm 黑色粘質土ブロック φ 0.5 cm
・A + B φ 0.2 cm少量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 cm混
・合す。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

17. 黑褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 cm・地社砂利ブロック（白） φ 0.5 cmを混含す。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

18. 黑褐色土：
・地化物・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm少量、地土
・上サシフク φ 0.5 cm少量、地社砂利ブロック（白） φ 0.5 cm
・を混含す。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

19. 黑褐色土：
・地化物・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 cm・地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 cm 黑色粘質土ブロック φ 0.5 cmを混含す
・。しまりあり。粘性やや。地社砂利層上位の崩落土が
・入り込む W - 5 号理土。

20. 黑褐色土：
・地化物・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm・地社砂
・利ブロック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地土上サシフ
・ク φ 0.5 cm少量、地社砂利層上位の崩落土が
・入り込む W - 5 号理土。

21. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 3.0 cm・地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、黑色粘質土ブロック φ 0.5 cm・
・混含す。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

22. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 1.0 cm中量、地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 ~ 0.5 cmを混含す。しまりあり。粘性やや。W
・- 5 号理土。

23. 喜褐色土：
・地社砂利ブロック（黄） φ 0.5 ~ 15.0 cm・地社砂利ブロ
・ック（白） φ 0.5 ~ 3.0 cm多量、黑色粘質土ブロック φ 0.5 cm
・少量化す。しまりあり。粘性やや。W - 5 号理土。

Fig. 55 W-5号溝④

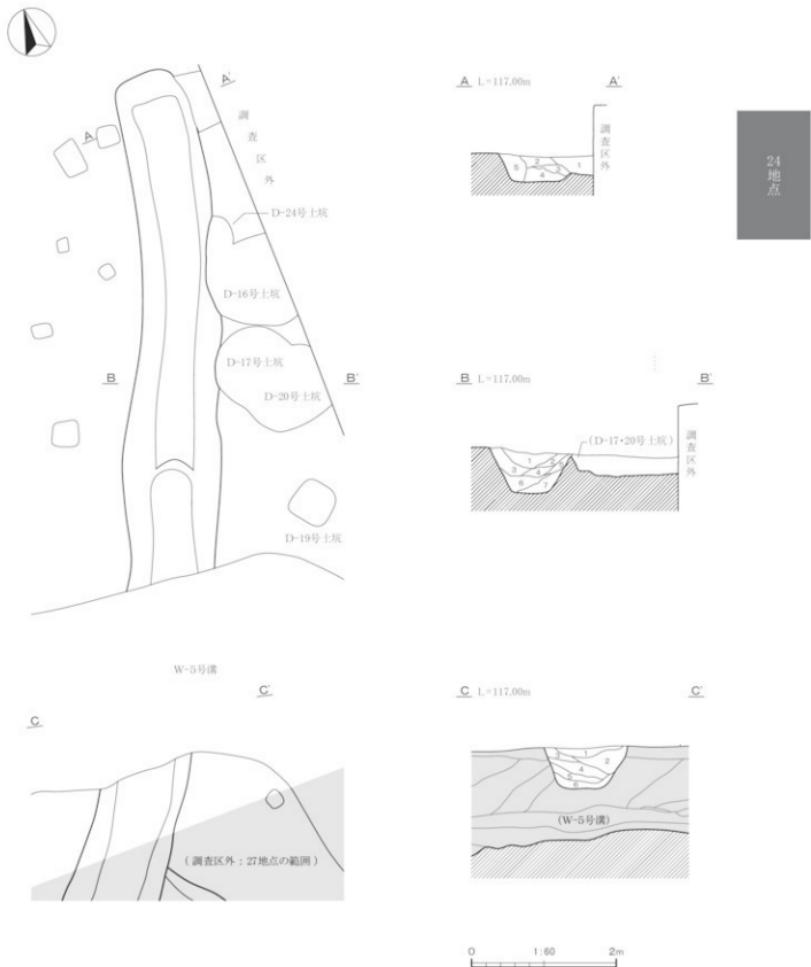


Fig. 56 W-6号溝

W-6号土坑土層説明 (A-A')

- 黒褐色土：褐色。細粒砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあり。粘性やや少なり。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）多量含む。しまりややあり。粘性やや少なり。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性なし。
- 黒褐色土：褐色。細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまりややあり。粘性なし。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまりあり。粘性なし。

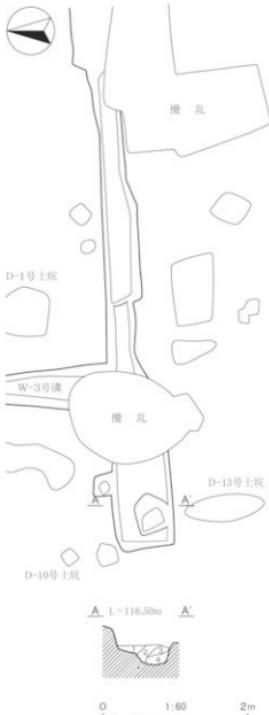
W-6号土坑土層説明 (B-B')

- 黒褐色土：褐色。細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）多量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）中量。粗石少量含む。しまりやや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（白）多量。他土粒・粗石・粗化粧・細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまり強。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）中量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（黄）少量含む。しまり少。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。

W-6号土坑土層説明 (C-C')

- 黒褐色土：細粒砂層ブロック（白）・粗石少量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 暗褐色土：細粒砂層ブロック（白）・粗石中量。粗化粧物少量含む。しまりあり。粘性弱。W-6号清埋没土。
- 暗褐色土：粗石・粗粒中量。小礫・粗化粧物少量含む。しまりやや少なり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 暗褐色土：細粒砂層ブロック（白）・中量。粗化粧物少量含む。しまりあり。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 暗褐色土：細粒砂層ブロック（白）・多量含む。しまり強。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。
- 暗褐色土：細粒砂層ブロック（白）・中量含む。しまり少。粘性やや少なり。W-6号清埋没土。

Fig. 57 W-6号溝（土層説明）



W-7号溝土層説明

- 黒褐色土：小礫少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
- 黒褐色土：小礫中量含む。しまりなし。粘性なし。ビット埋没土。
- 黒褐色土：小礫・細粒砂層ブロック（黄）多量含む。しまりあり。粘性なし。ビット埋没土。
- 黒褐色土：小礫少量含む。しまりあり。粘性なし。ビット埋没土。

Fig. 58 W-7号溝

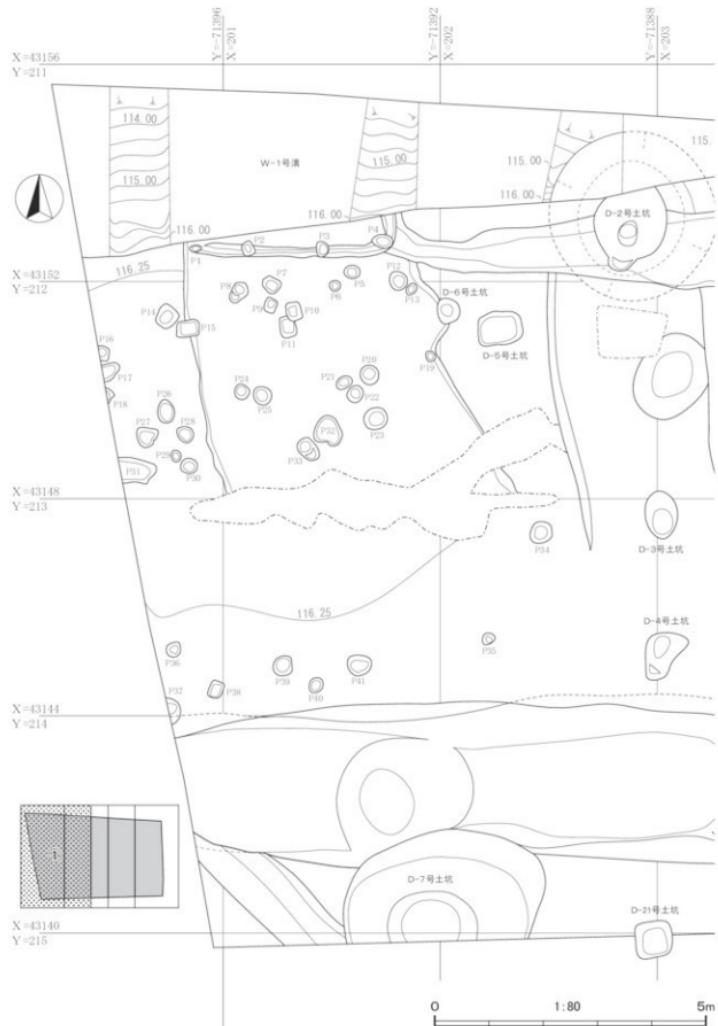


Fig. 59 24地点ピット配置図①

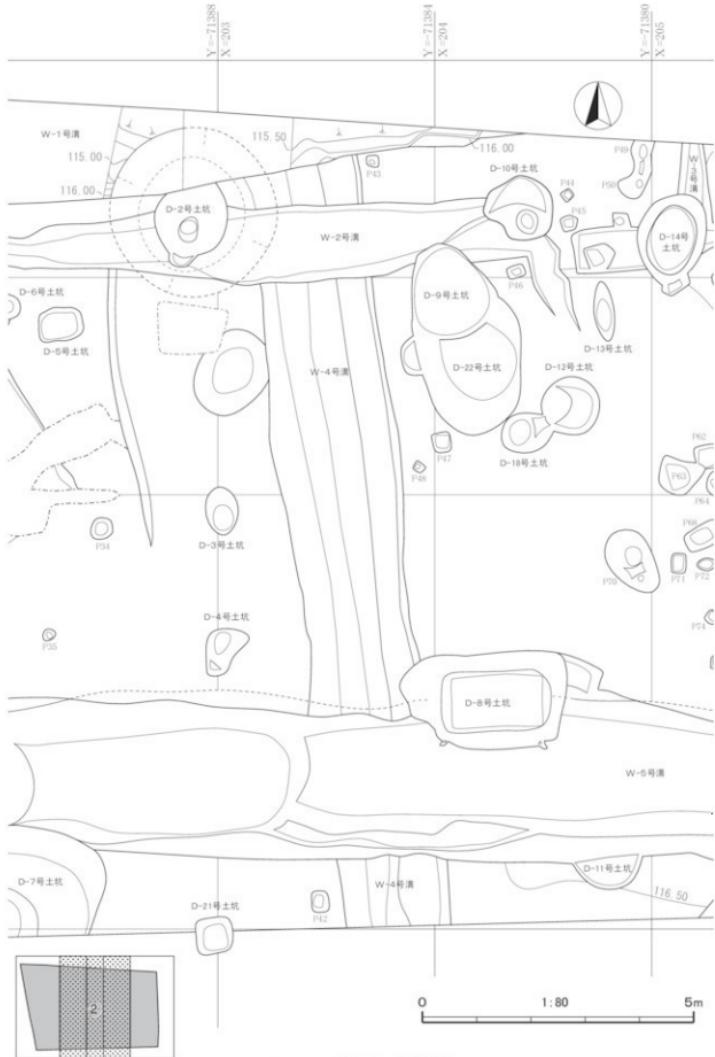


Fig. 60 24 地点ピット配置図②

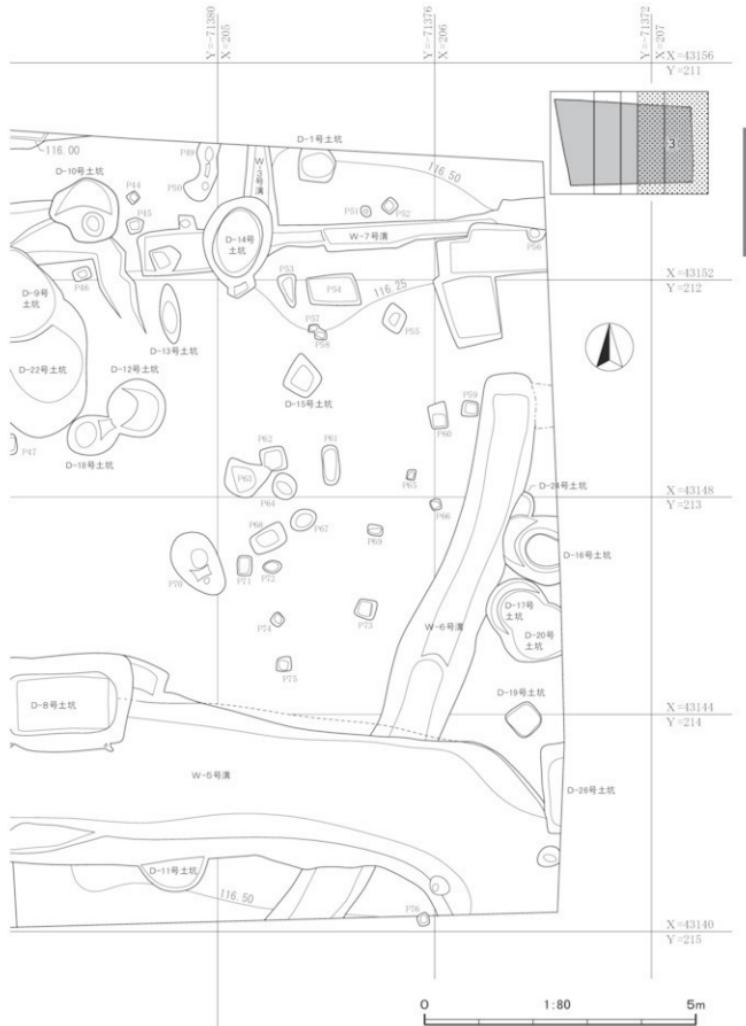


Fig. 61 24 地点ピット配置図③

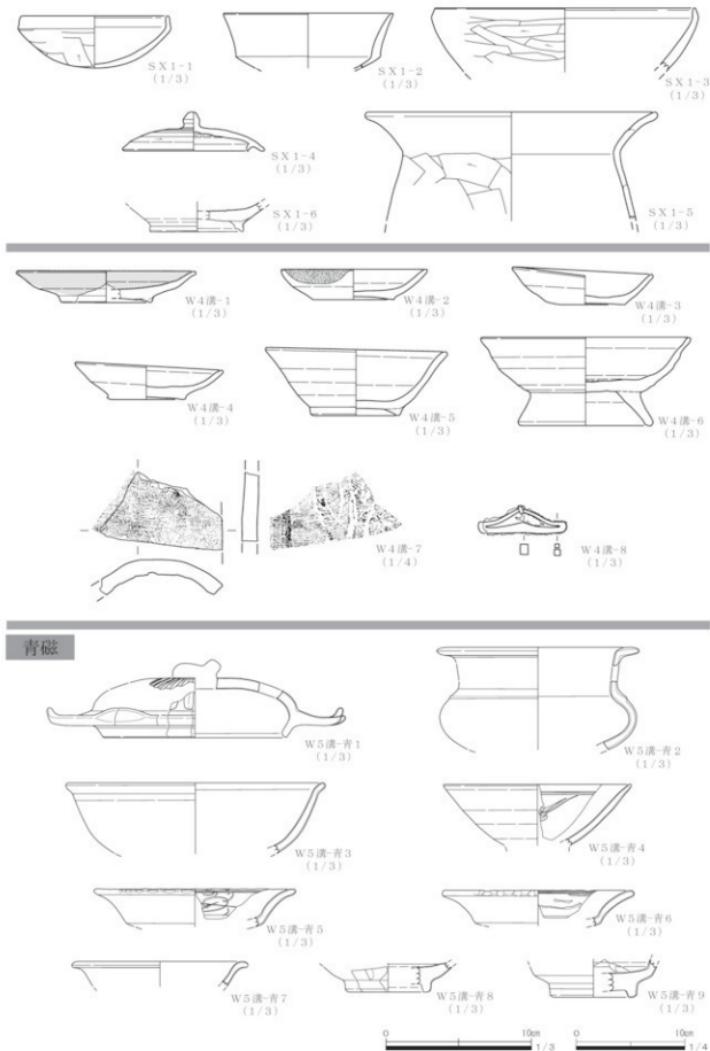


Fig. 62 24 地点出土遗物①

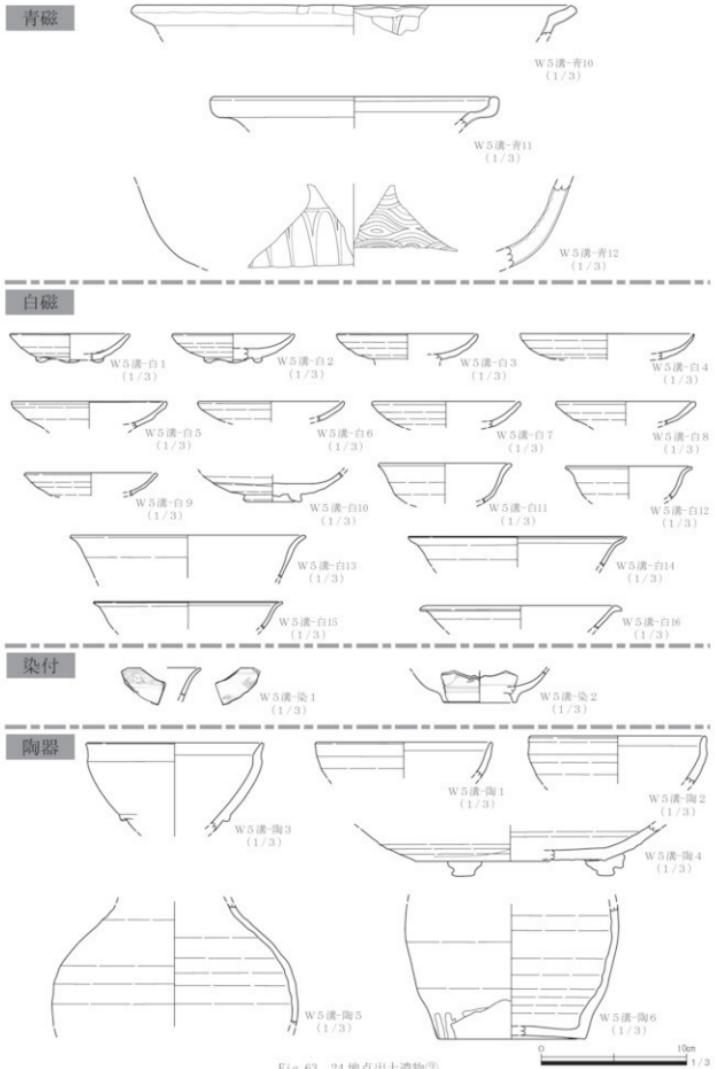
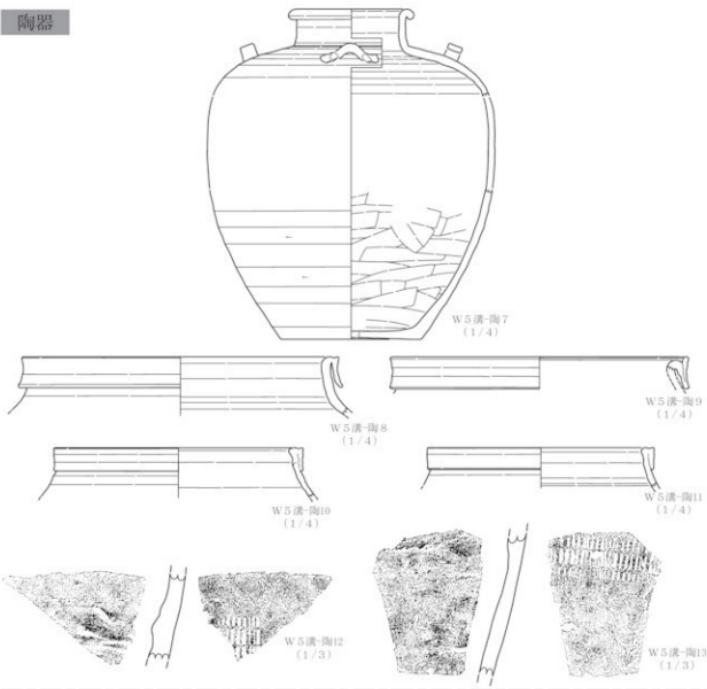


Fig. 63 24 地点出土遺物②

陶器



土器類

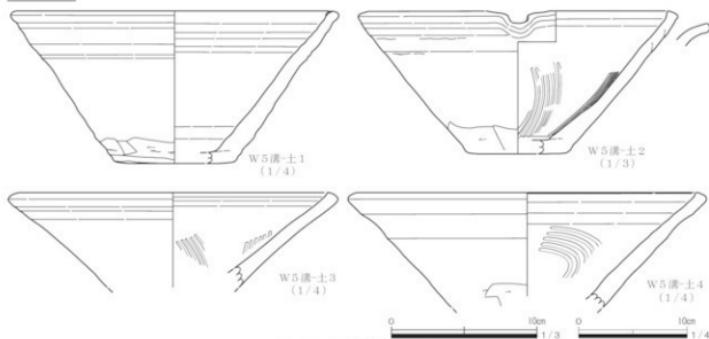


Fig. 64 24 地点出土遺物③

土器類

24
地点

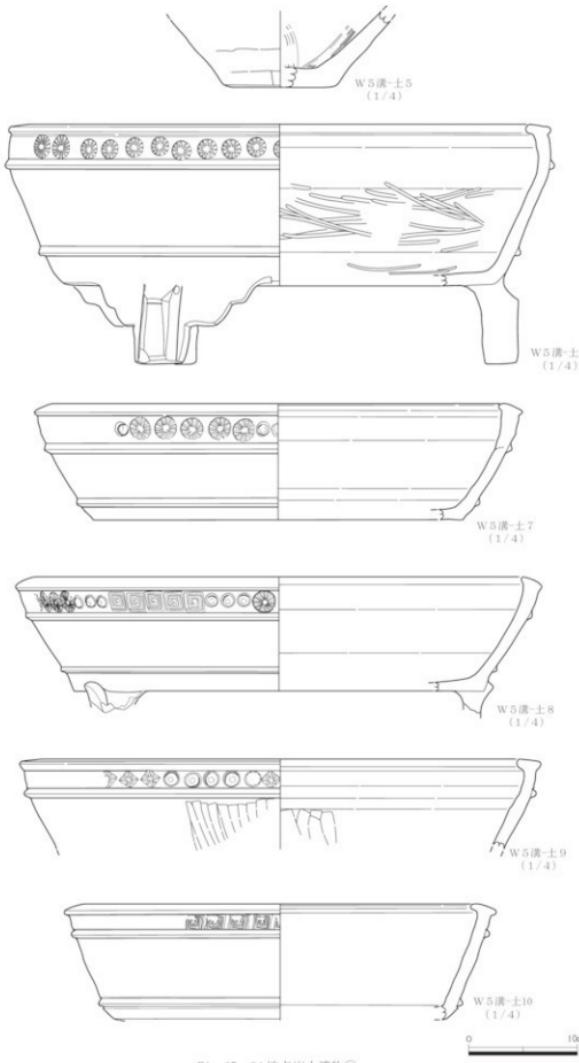


Fig. 65 24 地点出土遺物④

土器類

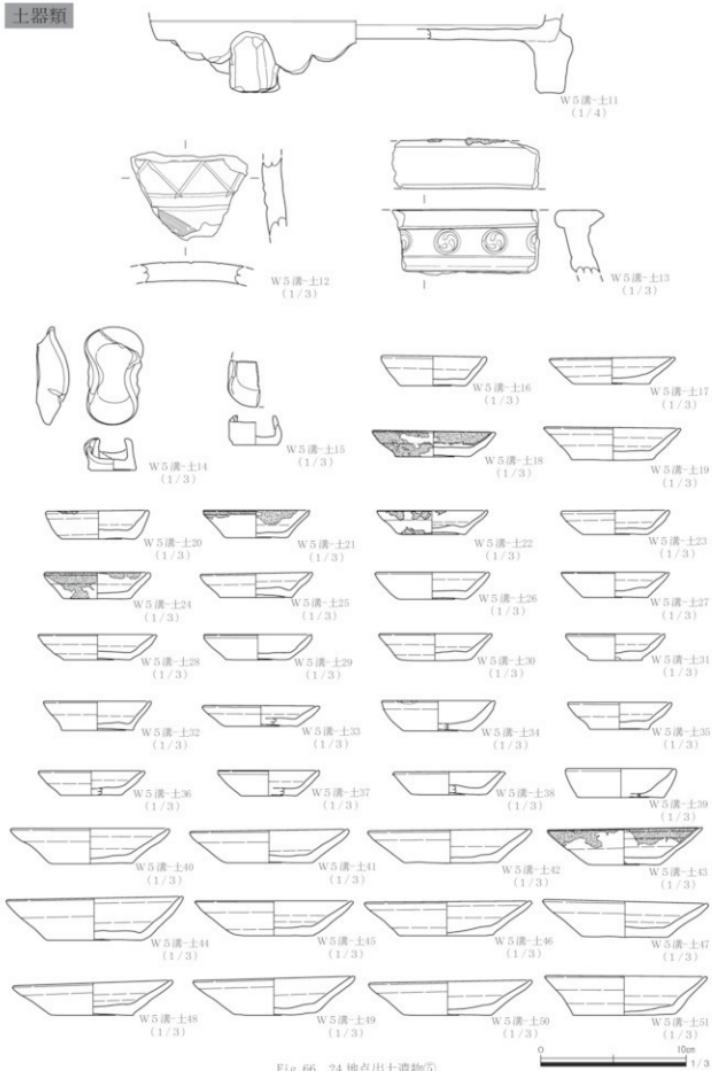


Fig. 66 24 地点出土遺物⑤

土器類

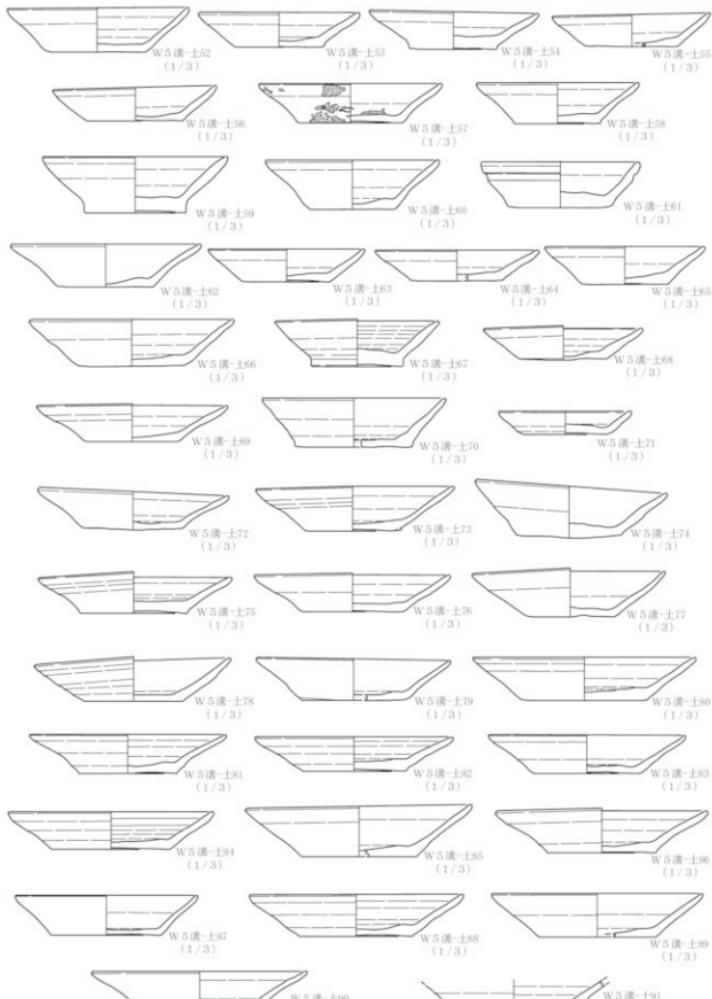
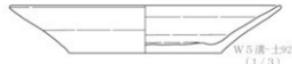


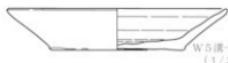
Fig. 67 24地点出土遺物⑥



土器類



W5 漢-土92
(1/3)

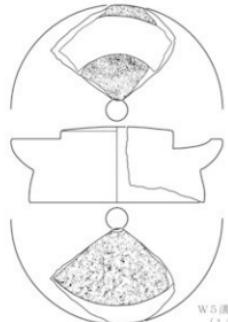


W5 漱-土90
(1/3)

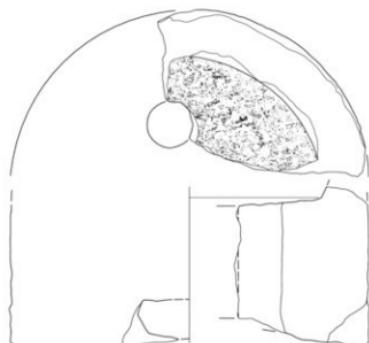
石製品



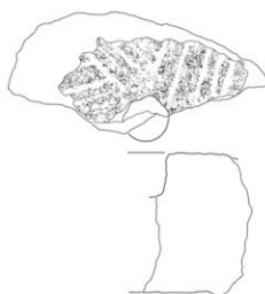
W5 漱-石1
(1/4)



W5 漱-石2
(1/4)



W5 漱-石3
(1/4)



W5 漱-石4
(1/4)

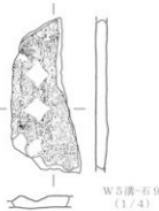
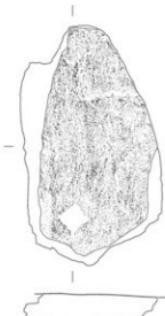
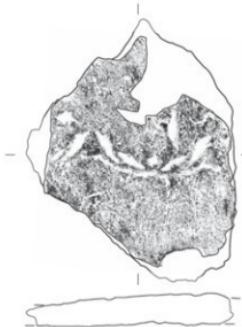
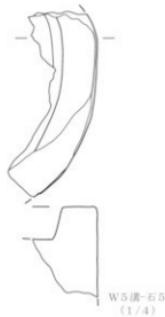
0 10cm 0 10cm

1/3

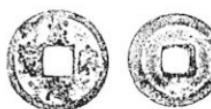
1/4

Fig. 68 24 地点出土遺物⑦

石製品



銅製品



0 2cm 0 10m

Fig. 69 24 地点出土遺物(8)

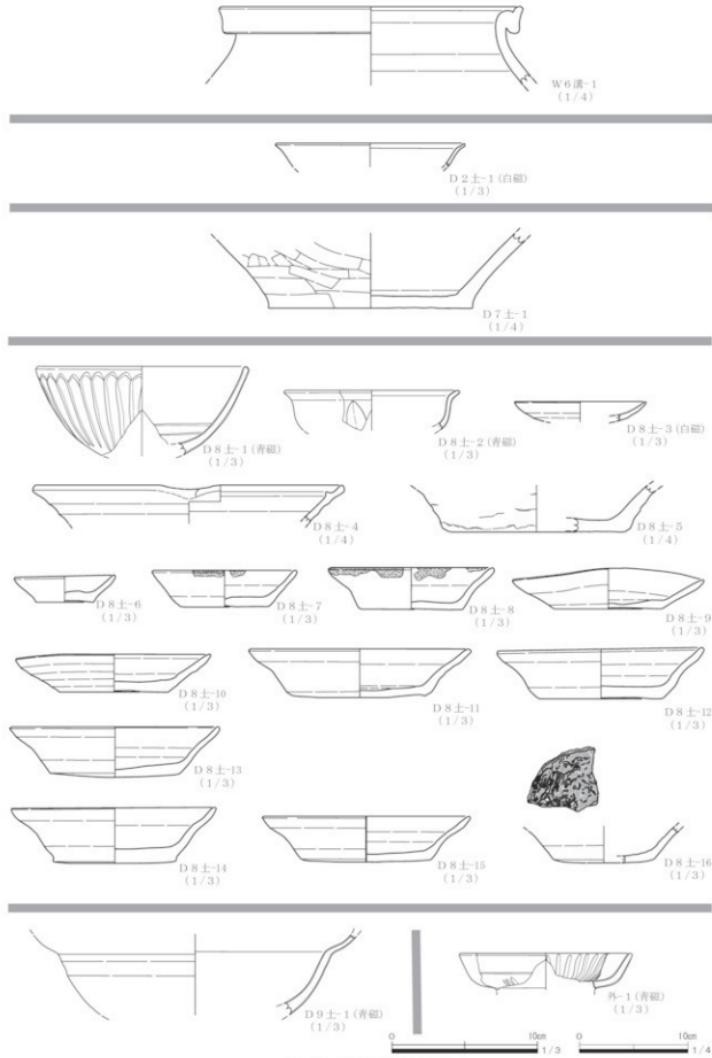


Fig. 70 24 地点出土遺物⑨

Tab. 15-24 地点出土遺物観察表①

S X - 1

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(16.2) 底径 — 器高 3.7	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石 ④1/4	外面 口縁部横彌で、体部~底部削り。 内面 口縁部~体部横彌で、底部彌で。	
2	土師器 壺	口径(11.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐 ③黑色粒・褐色粒 ④口縁部~体部1/5	外面 口縁部横彌で、体部鋸削り。 内面 口縁部~体部横彌で。	
3	土師器 壺	口径(17.9) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐 ③白色粒・角閃石 ④口縁部~体部1/5	外面 口縁部横彌で、体部鋸削り。 内面 口縁部~体部横彌で。	
4	須恵器 壺	口径(9.6) 底径 1.1 器高 2.7	①慶元 ②黄灰 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 軸柄整形、天井部右回転鋸削り。 内面 軸柄整形。	
5	土師器 壺	口径(19.8) 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒・角閃石 ④口縁部~胴部上位1/4	外面 口縁部横彌で、胴部鋸削り。 内面 口縁部横彌で、胴部彌で。	

W-4号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰釉陶器 壺	口径(12.2) 底径 6.0 器高 2.2	①慶元 ②灰白 ③黑色粒・黒色粒 ④1/4	外面 軸柄整形、底部右回転糸切り。 内面 軸柄整形。 ねじは清掃なし。	
2	須恵器 壺	口径 10.0 底径 5.6 器高 2.1	①酸化気味 ②浅黄 ③黒色粒・角閃石 ④定形 復付着。	外面 軸柄整形、底部静止糸切り。 内面 軸柄整形。	
3	須恵器 壺	口径 9.5 底径 5.5 器高 2.6	①酸化気味 ②灰白に似い黃褐色 ③褐色粒・角閃石 ④7/8	外面 軸柄整形、底部静止糸切り。 内面 軸柄整形。	
4	須恵器 壺	口径 10.0 底径 5.4 器高 2.6	①酸化気味 ②灰白に似い黄褐色 ③褐色粒・角閃石 ④4/5	外面 軸柄整形、底部静止糸切り。 内面 軸柄整形。	
5	須恵器 壺	口径 12.3 底径 5.8 器高 4.7	①酸化気味 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸柄整形、底部右回転糸切り。 内面 軸柄整形。	
6	須恵器 壺	口径(14.3) 底径 9.0 器高 6.1	①酸化気味 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・石英 ④2/3	外面 軸柄整形、底部右回転糸切り。 内面 軸柄整形。	
7	瓦 瓦	厚さ 1.4	①慶元 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④側端部	面面 布目压痕。凸面 横位横彌で、側面 鋸彌で。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
8	鉄製品 火打金	残存長 5.8 幅 0.7 厚 5.0.5 重さ 10.9 g			

W-5号溝(青磁)①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 酒会蓋壺	口径(12.6) 底径 — 器高 —	②緑灰 ④口縁部・天井部破片	外面 蓼弁文。	13~14世紀 良品
2	青磁 持櫻香炉	口径(12.8) 底径 — 器高 —	②緑灰 ④口縁部・胴部破片	無文。火を受けている。	13~14世紀 良品
3	青磁 爐反碗	口径(17.6) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部~体部破片		D2類
4	青磁 碗	口径(12.9) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部~体部破片	内面 葉描きの梅月文。	14世紀後半 ~15世紀 良品
5	青磁 綾花瓶	口径(13.6) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部~体部破片	内面 口縁部下に2条の回線。片切端による文様。	15世紀後半
6	青磁 綾花瓶	口径(13.0) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部~体部破片	内面 口縁部下に2条の回線。片切端による文様。	15世紀後半
7	青磁 小瓶	口径(11.5) 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ④口縁部破片		15世紀前半~中頃

Tab. 16 24 地点出土遺物観察表②

W-5号溝（青磁）②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
8	青磁 瓶	口径 - 底径(5.4) 器高 -	②オリーブ灰 ③底部～高台部破片	外面 蓬弁文か	B3類
9	青磁 棱花瓶	口径 - 底径(5.6) 器高 -	②オリーブ灰 ③底部～高台部破片	内面 文様あり。	15世紀中頃～後半
10	青磁 盤	口径(30.6) 底径 - 器高 -	②オリーブ灰 ④口縁部破片	内面 蓬弁文。	14世紀
11	青磁 盤	口径(19.4) 底径 - 器高 -	②オリーブ灰 ④口縁部破片	無文。	14世紀
12	青磁 盤	口径 - 底径 - 器高 -	②オリーブ灰 ④口縁部破片	外面 蓬弁文。 内面 青海波文。	14世紀

W-5号溝（白磁）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴	備考
1	白磁 皿	口径(8.1) 底径(4.0) 器高 2.0	②灰白 ④1/8	輪轉整形、块高台。	B群
2	白磁 皿	口径(8.3) 底径(3.4) 器高 2.0	②灰白 ④1/4	輪轉整形。	B群
3	白磁 皿	口径(9.6) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/4	輪轉整形。	B群
4	白磁 皿	口径(12.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/8	輪轉整形。	B群
5	白磁 皿	口径(10.6) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/8	輪轉整形。	B群
6	白磁 皿	口径(10.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/8	輪轉整形。	B群
7	白磁 皿	口径(10.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
8	白磁 皿	口径(9.4) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/6	輪轉整形。	B群
9	白磁 皿	口径(9.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
10	白磁 皿	口径 - 底径 3.6 器高 -	②灰白 ③体部～高台部2/5	輪轉整形。	B群
11	白磁 端及小杯	口径(9.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/8	輪轉整形。	B群
12	白磁 端及小杯	口径(8.6) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	B群
13	白磁 瓶	口径(16.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部1/8	輪轉整形。	15世紀
14	白磁 瓶	口径(15.6) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形、口縫。	15世紀中頃
15	白磁 瓶	口径(13.6) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形、口縫。	15世紀中頃
16	白磁 瓶	口径(13.0) 底径 - 器高 -	②灰白 ④口縁部～体部破片	輪轉整形。	12世紀

Tab. 17 24 地点出土遺物観察表③

W-5号溝(染付)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	染付 碗	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部破片	輪轉整形。	B群
2	染付 皿	口径 - 底径 (4.6) 器高 -	体部～高台部 1/7	輪轉整形。	B群

W-5号溝(陶器)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	脚器 天目茶碗	口径 (12.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②素 - にぶい 黄褐色。 ③黒色粒 ④口縁部破片	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	中国
2	脚器 天目茶碗	口径 (12.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②素 - にぶい 黄褐色。 ③黒褐色 ④口縁部破片	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	中国
3	土器 天目茶碗	口径 (12.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②素 - にぶい 黄褐色。 ③黒褐色 ④口縁部破片	土器に焼け使った天目茶碗。外面部下位に輪轉まりを表現した。 段を作っている。	中国
4	脚器 鉢	口径 - 底径 (13.0) 器高 -	①普通 ②灰黄 ③白色粒 ④体部～底部 1/5	外面 輪轉整形。底部右回転削り。 内面 輪轉整形。	古窯戸
5	脚器 丸輪壺	口径 (20.8) 底径 - 器高 -	①普通 ②灰褐 ③白色粒 ④頭部～胸部中位 1/4	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。 火を受けている。	中国
6	脚器 丸輪壺	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②灰赤、釉 - 黑褐 ③白色粒 ④胴部中位～底部 1/3	外面 輪轉整形。底部無調整。 内面 輪轉整形。	中国
7	脚器 茶壺	口径 (11.6) 底径 13.0 器高 -	①普通 ②灰黄褐色～灰褐 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤口縁部～胴部上位 1/4、胴部下位～底 部 1/2	外面 輪轉整形。胴部下位～底部右回転削り。鉄軸。 ～胴部上位 1/4、胴部下位旋擦で。	古窯戸
8	脚器 大甕	口径 (58.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②褐 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤口縁部～頭部 1/5	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	常滑
9	脚器 大甕	口径 (54.4) 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒 ④口縁部 1/8	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	常滑
10	脚器 大甕	口径 (45.6) 底径 - 器高 -	①普通 ②褐灰 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤口縁部破片	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	常滑
11	脚器 大甕	口径 (41.6) 底径 - 器高 -	①普通 ②暗赤褐色 ③白色粒 ④口縁部～頭部 1/4	外面 輪轉整形。 内面 輪轉整形。	常滑
12	脚器 大甕	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②褐灰 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤胴部破片	外面 輪轉整形。格子状の押印。 内面 輪轉整形。	常滑
13	脚器 大甕	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②暗灰黄 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤胴部破片	外面 輪轉整形。格子状の押印。 内面 輪轉整形。	常滑

W-5号溝(土器類)①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 搖拂	口径 (29.27) 底径 (16.0) 器高 14.1	①普通 ②灰褐色～灰褐色 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤ ①/3	外面 輪轉整形。体部擦で、單位不明瞭。下位旋削り、底部回転 切り。 内面 輪轉整形。体部旋擦で。	
2	土器 搖拂	口径 (27.6) 底径 (9.0) 器高 13.1	①普通 ②にぶい灰褐色～黒褐色 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤褐色粒 ⑥口縁部	外面 輪轉整形。体部擦で、單位不明瞭。下位旋削り、底部面 見れ調節不規則。 内面 輪轉整形。体部擦で、7本 1 単位の搖り目。	
3	土器 搖拂	口径 (28.4) 底径 - 器高 -	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤口縁部～体部 1/4	外面 輪轉整形。体部擦で、單位不明瞭。 内面 輪轉整形。体部擦で、4本 1 単位の搖り目。	
4	土器 搖拂	口径 (31.4) 底径 - 器高 -	①普通 ②褐灰 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤口縁部～体部 1/6	外面 輪轉整形。体部擦で、單位不明瞭。 内面 輪轉整形。体部擦で、5本 1 単位の搖り目。	
5	土器 搖拂	口径 - 底径 (16.4) 器高 -	①普通 ②褐灰 ③白色粒 ④黑色粒 ⑤体部～底部 1/3	外面 体部擦で、單位不明瞭。下位旋削り、底部回転系切り。 内面 体部擦で。	

Tab. 18 24 地点出土遺物観察表④

W-5号溝（土器類）②

番号	器種	法量(cm)	①焼成	②色調	③胎土	④残存	成・整形技術の特徴	備考
6	土器 火鉢	口径(46.0) 底径(40.0) 器高(22.1)	①普通	②灰黄褐～褐灰	③白色粒	④1/6	外面 軸楕型形、口縁部菊花文、体部粗い箇所磨き、底部チヂレ目、二脚。 内面 軸楕型形、口縁部へ底部粗い箇所磨き。	
7	土器 火鉢	口径(41.0) 底径(34.0) 器高(17.0)	①普通	②にぶい褐～灰	③黄褐色	④白色粒	外面 軸楕型形、口縁部箇所磨き、口縁部菊花文・珠文、体部粗い箇所磨き、底部鋸歯で、脚が付くと推定される。 内面 軸楕型形。	
8	土器 火鉢	口径(45.0) 底径(37.0) 器高(17.0)	①普通	②灰黄褐～黒褐	③白色粒	④黑色粒	外面 軸楕型形、口縁部箇所磨き、口縁部菊花文・雷文・珠文、体部粗い箇所磨き、底部鋸歯で、二脚。 内面 軸楕型形。	
9	土器 火鉢	口径(44.0) 底径(39.0) 器高(—)	①普通	②灰黄褐～褐灰	③白色粒	④白色粒・褐色粒	外面 軸楕型形、口縁部花菱文・珠文、体部鋸歯で。 内面 軸楕型形、体部鋸歬で。	
10	土器 火鉢	口径(36.2) 底径(30.0) 器高(—)	①普通	②灰黄褐	③白色粒	④黑色粒・褐色粒	外面 軸楕型形、口縁部雷文、体部鋸歬で。 内面 軸楕型形、体部鋸歬で。	
11	土器 火鉢	口径(36.0) 底径(36.0) 器高(—)	①普通	②灰	③白色粒	④黑色粒	外面 軸楕型形、底部無調整、一部鋸で、脚部鋸で。 内面 軸楕型形。	
12	土器 火鉢	口径(—) 底径(—) 器高(—)	①普通	②灰	③白色粒	④黑色粒	外面 軸楕型形、鋸刃による連続三角文、網目による文様が一部あり。 内面 鋸歬で、表面不規則。	
13	土器 火鉢	口径(—) 底径(—) 器高(—)	①普通	②灰黄褐	③白色粒	④黑色粒・雲母	外面 鋸歬で、巴文、口縁部内側一部に保付着。形状は角形。 内面 鋸歬で。	
14	土器 耳皿	口径(6.8) 底径(4.0) 器高(2.2)	①普通	②橙	③白色粒	④黑色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
15	土器 耳皿	口径(—) 底径(—) 器高(—)	①普通	②にぶい黄褐	③黑色粒	④1/4	外面 軸楕型形。 内面 軸楕型形。	
16	土器 カワラク	口径(6.9) 底径(4.4) 器高(2.1)	①普通	②橙	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
17	土器 カワラク	口径(8.4) 底径(5.2) 器高(1.8)	①普通	②橙	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
18	土器 カワラク	口径(8.3) 底径(5.2) 器高(1.8)	①普通	②にぶい黄褐	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。 保付着。	
19	土器 カワラク	口径(9.2) 底径(5.6) 器高(2.3)	①普通	②橙	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
20	土器 カワラク	口径(6.9) 底径(5.1) 器高(2.0)	①普通	②にぶい黄褐～橙	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。 保付着。	
21	土器 カワラク	口径(7.2) 底径(4.4) 器高(1.9)	①普通	②灰黄～黑	③白色粒	④褐色粒	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。 保付着。	
22	土器 カワラク	口径(7.4) 底径(4.6) 器高(1.7)	①普通	②灰黄褐～褐	③褐色粒	④5/6	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。 保付着。	
23	土器 カワラク	口径(7.2) 底径(4.5) 器高(1.7)	①普通	②にぶい黄褐～褐灰	③白色粒	④7/8	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
24	土器 カワラク	口径(7.0) 底径(4.6) 器高(1.9)	①普通	②にぶい褐～黒褐	③褐色粒	④4/5	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。 保付着。	
25	土器 カワラク	口径(7.5) 底径(4.9) 器高(1.7)	①普通	②橙	③褐色粒	④4/5	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
26	土器 カワラク	口径(7.6) 底径(4.6) 器高(1.9)	①普通	②にぶい褐～黒褐	③褐色粒	④3/5	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
27	土器 カワラク	口径(7.30) 底径(4.6) 器高(1.8)	①普通	②にぶい褐	③白色粒	④2/3	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	
28	土器 カワラク	口径(7.90) 底径(4.6) 器高(1.8)	①普通	②橙	③白色粒	④1/2	外面 軸楕型形、底部左回転糸切り。 内面 軸楕型形。	

Tab. 19 24 地点出土遺物観察表⑤

W-5号溝（土器類）③

番号	器種	法景(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
29	土器 カワラケ	口径(7.2) 底径 4.4 器高 1.8	①普通 ②灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
30	土器 カワラケ	口径(7.6) 底径 5.1 器高 1.9	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④褐色粒 ②/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
31	土器 カワラケ	口径(6.6) 底径 3.7 器高 1.8	①普通 ②にぶい黄褐色～にぶい赤褐色 ③褐色粒 ④褐色粒 ②/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
32	土器 カワラケ	口径(7.2) 底径 4.9 器高 2.0	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色粒 ④2/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
33	土器 カワラケ	口径(7.7) 底径 5.0 器高 1.4	①普通 ②相へない褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 軸縫整形、底部回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
34	土器 カワラケ	口径(7.6) 底径 4.9 器高 2.1	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。 保付着。	
35	土器 カワラケ	口径(7.0) 底径 4.0 器高 1.9	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/3	外面 軸縫整形、底部回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
36	土器 カワラケ	口径(7.1) 底径 4.2 器高 1.7	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒 ④2/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
37	土器 カワラケ	口径(7.6) 底径 3.8 器高 1.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/3	外面 軸縫整形、底部回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
38	土器 カワラケ	口径(7.4) 底径 5.2 器高 1.6	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/5	外面 軸縫整形、底部回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
39	土器 カワラケ	口径(7.3) 底径 6.0 器高 2.0	①普通 ②淡黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/8	外面 軸縫整形、底部回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
40	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 5.7 器高 2.5	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
41	土器 カワラケ	口径 10.6 底径 6.0 器高 2.3	①普通 ②にぶい黄褐色～灰灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
42	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.5 器高 2.3	①普通 ②にぶい褐色～灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	
43	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 5.0 器高 2.6	①普通 ②にぶい褐色～灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損 ⑤ほぼ完形	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。 保付着。	
44	土器 カワラケ	口径 11.9 底径 6.5 器高 3.0	①普通 ②淡黄褐色～褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り、板状压痕。 内面 轴縫整形、底部擦で。	
45	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 5.5 器高 2.4	①普通 ②にぶい褐色～灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	
46	土器 カワラケ	口径 11.0 底径 6.4 器高 2.4	①普通 ②淡黄褐色～灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 轴縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	
47	土器 カワラケ	口径 11.0 底径 5.9 器高 2.6	①普通 ②淡黄褐色～褐色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 轴縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	
48	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 5.6 器高 2.4	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒 ④7/8	外面 轴縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形、底部擦で。	
49	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.5 器高 2.4	①普通 ②にぶい黄褐色～黒褐色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 轴縫整形、底部右回転糸切り。 内面 轴縫整形、底部擦で。	
50	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.0 器高 2.4	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④3/4	外面 轴縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	
51	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 7.0 器高 2.7	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒 ④6/7	外面 轴縫整形、底部左回転糸切り。 内面 轴縫整形。	

Tab. 20 24 地点出土遺物観察表⑥

W-5号溝（土器類）④

番号	器種	法量 (cm)	①削成	②色調	③胎土	④焼存	成・整形技法の特徴	備考
52	土器 カワラケ	口径 12.2 底径 6.8 器高 3.1	①普通 ②浅い黄褐色 ③白色 ④3/4	外面 輪縁型形。 内面 輪縁型形。				
53	土器 カワラケ	口径 10.7 底径 6.2 器高 2.4	①普通 ②薄い橙～薄い褐色 ③白色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
54	土器 カワラケ	口径 11.4 底径 6.9 器高 2.7	①普通 ②薄い橙～薄い褐色 ③白色 ④3/4	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
55	土器 カワラケ	口径 10.5 底径 6.3 器高 2.3	①普通 ②薄い橙～薄い褐色 ③白色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
56	土器 カワラケ	口径 10.9 底径 6.6 器高 2.4	①普通 ②薄い橙～薄い褐色 ③白色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部全面撫で。				
57	土器 カワラケ	口径 (12.3) 底径 7.2 器高 2.7	①普通 ②薄い褐色 ③白色 ④2/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。 復元着。				
58	土器 カワラケ	口径 (10.9) 底径 5.8 器高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色 ④1/2	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
59	土器 カワラケ	口径 12.5 底径 6.8 器高 3.9	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④2/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
60	土器 カワラケ	口径 (11.7) 底径 5.8 器高 3.4	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
61	土器 カワラケ	口径 (10.5) 底径 7.1 器高 3.2	①普通 ②薄い褐色 ③白色 ④1/2	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
62	土器 カワラケ	口径 (12.8) 底径 6.5 器高 3.0	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④1/2	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
63	土器 カワラケ	口径 (10.5) 底径 6.0 器高 2.3	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④1/2	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
64	土器 カワラケ	口径 (11.0) 底径 6.4 器高 2.2	①普通 ②薄～黒色 ③白色 ④1/2	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
65	土器 カワラケ	口径 (10.6) 底径 5.9 器高 2.6	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④1/7	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
66	土器 カワラケ	口径 (13.0) 底径 (7.2) 器高 3.3	①普通 ②薄い褐色 ③黑色 ④1/3	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
67	土器 カワラケ	口径 (11.2) 底径 6.2 器高 2.3	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
68	土器 カワラケ	口径 (10.8) 底径 6.0 器高 2.4	①普通 ②薄い黄褐色 ③黑色 ④3/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
69	土器 カワラケ	口径 (13.0) 底径 6.4 器高 2.6	①普通 ②薄い褐色 ③黑色 ④2/5	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
70	土器 カワラケ	口径 (12.6) 底径 (8.0) 器高 3.4	①普通 ②薄い褐色 ③白色 ④1/4	外面 輪縁型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。 底部に径約 0.9 cm の焼成前穿孔。				
71	土器 カワラケ	口径 (9.0) 底径 6.9 器高 1.6	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④1/2	外面 輪縊型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形。				
72	土器 カワラケ	口径 13.0 底径 6.9 器高 3.9	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④7/8	外面 輪縊型形、底部左回転糸切り、板状圧痕。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
73	土器 カワラケ	口径 13.5 底径 6.6 器高 3.1	①普通 ②薄い黄褐色 ③白色 ④9/10	外面 輪縊型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部撫で。				
74	土器 カワラケ	口径 13.0 底径 7.2 器高 4.1	①普通 ②薄い黄褐色 ③黑色 ④3/4	外面 輪縊型形、底部左回転糸切り。 内面 輪縊型形、底部全面撫で。				

Tab. 21 24 地点出土遺物観察表⑦

W-5号溝（土器類）⑤

番号	器種	法景(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
75	土器 カワラケ	口径 13.2 底径 7.4 器高 2.9	①普通 ②にふい黄橙 ③白色粒・褐色粒 ④4/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
76	土器 カワラケ	口径 13.4 底径 7.0 器高 2.7	①普通 ②にふい黄橙 ③白色粒 ④4/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
77	土器 カワラケ	口径 13.1 底径 6.9 器高 3.1	①普通 ②根 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
78	土器 カワラケ	口径 13.4 底径 6.8 器高 3.1	①普通 ②にふい根 ③白色粒 ④3/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
79	土器 カワラケ	口径 13.2 底径 7.0 器高 3.0	①普通 ②にふい根 ③黒色粒・褐色粒 ④2/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部全面攤で。	
80	土器 カワラケ	口径(15.3) 底径 8.7 器高 3.0	①普通 ②にふい黄橙～褐灰 ③白色粒 ④1/2	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部全面攤で。	
81	土器 カワラケ	口径(15.4) 底径(6.8) 器高 2.7	①普通 ②にふい根 ③黒色粒・褐色粒 ④1/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
82	土器 カワラケ	口径(13.5) 底径 7.2 器高 2.4	①普通 ②にふい根 ③褐色粒 ④3/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
83	土器 カワラケ	口径(13.4) 底径 7.3 器高 2.7	①普通 ②根 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④2/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
84	土器 カワラケ	口径(14.1) 底径 8.1 器高 2.6	①普通 ②にふい根 ③褐色粒 ④4/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
85	土器 カワラケ	口径 15.4 底径 8.0 器高 3.6	①普通 ②にふい黄橙 ③褐色粒 ④2/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
86	土器 カワラケ	口径(14.4) 底径 7.5 器高 3.1	①普通 ②にふい黄橙 ③白色粒 ④3/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
87	土器 カワラケ	口径(12.5) 底径 7.4 器高 2.7	①普通 ②にふい根 ③黒色粒 ④3/5	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形。	
88	土器 カワラケ	口径(14.6) 底径 7.8 器高 2.9	①普通 ②にふい黄橙 ③褐色粒・雲母 ④2/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
89	土器 カワラケ	口径(14.5) 底径(8.0) 器高 3.0	①普通 ②にふい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/4	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
90	土器 カワラケ	口径(14.6) 底径 7.8 器高 3.3	①普通 ②にふい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/2	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
91	土器 カワラケ	口径 一 底径 8.0 器高 一	①普通 ②にふい根 ③黒色粒・褐色粒 ④底部下部～底部残存	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
92	土器 カワラケ	口径(18.6) 底径 10.5 器高 3.3	①普通 ②にふい根 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④1/2	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り。 内面 軸縫整形、底部攤で。	
93	土器 カワラケ	口径(18.0) 底径(9.0) 器高 2.9	①普通 ②褐色灰～にふい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 軸縫整形、底部左回転糸切り、板状瓦張。 内面 軸縫整形、底部攤で。	

W-5号溝（石製品）①

番号	器種	法景(cm)	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	石製品	一 鉢	口径(25.2) 重さ 429 g	
2	石製品	茶臼	直径(36.0) 孔径(4.0) 高さ 13.9 重さ 4,600g	
3	石製品	石臼	直径(36.0) 孔径(4.2) 重さ 4,540g 上臼破片	
4	石製品	石臼	孔径(4.2) 高さ 13.3 重さ 3,830g 下臼破片	
5	石製品	石臼	重さ 648.8 g 上臼破片	
6	石製品	茶臼	重さ 256.8 g 下臼破片	
7	石製品	板磚	残存長 24.4 残存幅 19.4 厚さ 3.1 重さ 1,840g 遷座部分残存。	
8	石製品	板磚	残存長 22.1 残存幅 13.1 厚さ 2.3 重さ 1,115.7g 種子の一部残存。	

Tab. 22-24 地点出土遺物観察表⑤

W-5号溝（石製品）②

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
9	石製品	板牌 残存長14.3 残存幅6.5 厚さ1.0 重さ161.6g 槌子の一部残存。	
10	石製品	不明 直径10.4 厚さ5.1 重さ561.1g	

W-5号溝（銅製品）

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	銅製品	古錢 開元通寶	
2	銅製品	古錢 開元通寶	
3	銅製品	古錢 聖宋通寶	

W-6号溝

番号	器種	法量(cm) ①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	陶器 大甕	口径(55.0) 底径— 器高—	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	外側 軸輪整形。 内側 軸輪整形。	常滑

D-2号土坑

番号	器種	法量(cm) ①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	白磁 罐反皿	口径(13.0) 底径— 器高—	②灰白 ④口縁部～体部破片	軸輪整形。	15世紀

D-7号土坑

番号	器種	法量(cm) ①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	陶器 大甕	口径— 底径18.8 器高—	①普通 ②赤褐色 ③胴部下段～底部1/4	外側 跳撫で、砂底。 内側 跳撫で。	常滑

D-8号土坑①

番号	器種	法量(cm) ①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	青磁 瓶	口径(14.4) 底径— 器高—	②オリーブ灰 ③口縁部～体部破片	外側 蓬矢文。 内側 体部半径に回転2条。	B3類
2	青磁 蓮や文 折縁瓶	口径(12.0) 底径— 器高—	②明灰灰 ④口縁部～体部破片	外側 蓬矢文。	B2類
3	白磁 瓶	口径(9.0) 底径— 器高—	②灰白 ④口縁部～体部1/6	軸輪整形。火を受けている。	B群
4	陶器 搖鉢	口径(28.2) 底径— 器高—	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部1/5	外側 軸輪整形。 内側 軸輪整形。	古窯A
5	陶器 大甕	口径— 底径(16.5) 器高—	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・黒色粒 ④胴部下段～底部1/3	外側 跳撫で、砂底。 内側 跳撫で。	常滑
6	土器 カワラケ	口径 6.9 底径 4.0 器高 1.9	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/4	外側 軸輪整形。底部左回転糸切り。 内側 軸輪整形。	
7	土器 カワラケ	口径 9.9 底径 6.2 器高 2.5	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④3/5	外側 軸輪整形。底部左回転糸切り。 内側 軸輪整形。煤付着。	
8	土器 カワラケ	口径(11.2) 底径(7.0) 器高 2.9	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④2/5	外側 軸輪整形。底部回転糸切り。 内側 軸輪整形。煤付着。	
9	土器 カワラケ	口径 13.1 底径 7.4 器高 2.8	①普通 ②褐色 ③白色粒・黑色粒 ④ぼけ形	外側 軸輪整形。底部回転糸切り。 内側 軸輪整形。底部横擦で。	
10	土器 カワラケ	口径 13.3 底径 7.5 器高 2.6	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・黑色粒 ④4/5	外側 軸輪整形。底部回転糸切り。板状圧痕。 内側 軸輪整形。底部全面擦で。	

Tab. 23・24 地点出土遺物観察表⑨

D-8号土坑(2)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
11	土器 カワラケ	口径 15.0 底径 9.0 器高 3.4	①普通 ②に赤い根 ③白色粒・黒色粒 ④はげ光沢	外面 軸輪整形、底部左回転糸切り。 内面 軸輪整形、底部撫で。	
12	土器 カワラケ	口径 14.1 底径 8.5 器高 3.9	①普通 ②に赤い黄根 ③褐色粒・纏 ④3/4	外面 軸輪整形、底部左回転糸切り。 内面 軸輪整形、底部撫で。	
13	土器 カワラケ	口径 14.2 底径 9.0 器高 3.5	①普通 ②に赤い黄根 ③白色粒・黒色粒 ④3/4	外面 軸輪整形、底部左回転糸切り。 内面 軸輪整形、底部撫で。	
14	土器 カワラケ	口径 14.0 底径 8.4 器高 3.9	①普通 ②に赤い黄根 ③白色粒・黒色粒 ④4/5	外面 軸輪整形、底部左回転糸切り。 内面 軸輪整形、底部撫で。	
15	土器 カワラケ	口径 14.1 底径 9.0 器高 3.2 ④2/3	①普通 ②に赤い黄根 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④2/3	外面 軸輪整形、底部左回転糸切り。 内面 軸輪整形、底部撫で。	
16	土器 カワラケ	口径 — 底径 (7.0) 器高 —	①普通 ②褐色～灰黃根 ③白色粒 ④体部～底部 1/6	外面 軸輪整形、底部回転糸切り。 内面 軸輪整形、全面に融着物、埋場に転用。	

D-9号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 盤	口径 — 底径 — 器高 —	②オリーブ灰 ③体部破片	無文。	

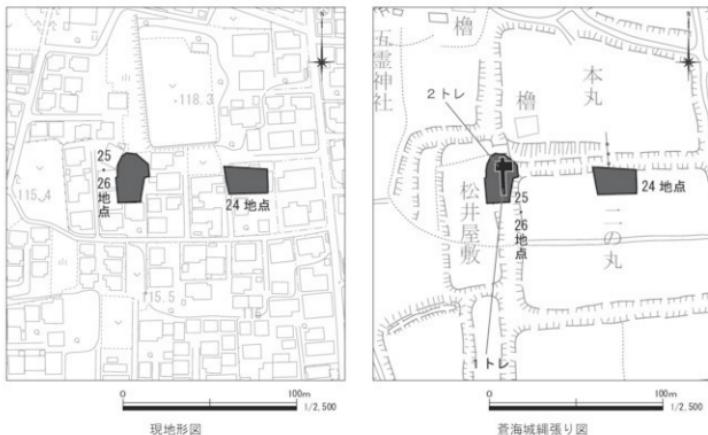
遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 皿	口径 (11.7) 底径 — 器高 —	②紺灰 ③口縁部～体部破片	軸輪整形、内面落書き。	

VII 25・26 地点

1 25・26 地点概要 (Fig. 71・72, P.L. 26)

25・26 地点の調査は、民家に囲まれ残土出し等に制限が伴うことから、トレント調査で対応している。トレントは2本設け、1号トレント・2号トレントと名称を付してある。調査の進行は、南北方向に設定した1号トレントを調査した後、同トレントを埋め戻し、東西方向に設定した2号トレントに着手している。なお、両トレントの設定は、蒼海城新段階の堀を捉えることを主眼に置いたが、いずれのトレントでも堀の立ち上がりは確認できず、堀底の検出のみに留まっている。確認された堀底は、蒼海城の縫張り図 (Fig. 71 参照) から1号トレントが、木丸と二の丸の西側を南北に走行する堀、2号トレントが木丸と二の丸間を東西に走行する堀と想定され、いずれの堀もW-1号溝と名称を付してある。なお、2号トレントで確認された堀底は24地点W-1号溝からの続きと想定されるものである。堀の深さは、最深で現地表面から3.96 mを測り、A-s-Y Pの一次堆積層よりも深く掘り込んでいる状況が捉えられており、埋没土の下位では人為的に埋められた痕跡が1号トレント内で確認されている。出土遺物は埋没土の上位から板磚片、下位から漆塗りの木器碗が出土しているものの、明確な時期を決定付けるような遺物は出土していない。このため、本地点で確認された堀の時期は、明確には提示できず²⁴、24地点W-5号溝（蒼海城古段階の堀）が埋められたと想定される15世紀後半から蒼海城が廃城となつたとされる17世紀前半と幅を持たせた捉え方に留まろう。



(前橋市役所発行『前橋市現形図 52- 1・52- 3』) (山崎 一 1978『群馬県古城跡の研究 上巻』)

Fig. 71 現地形図と縄張り図における調査地点

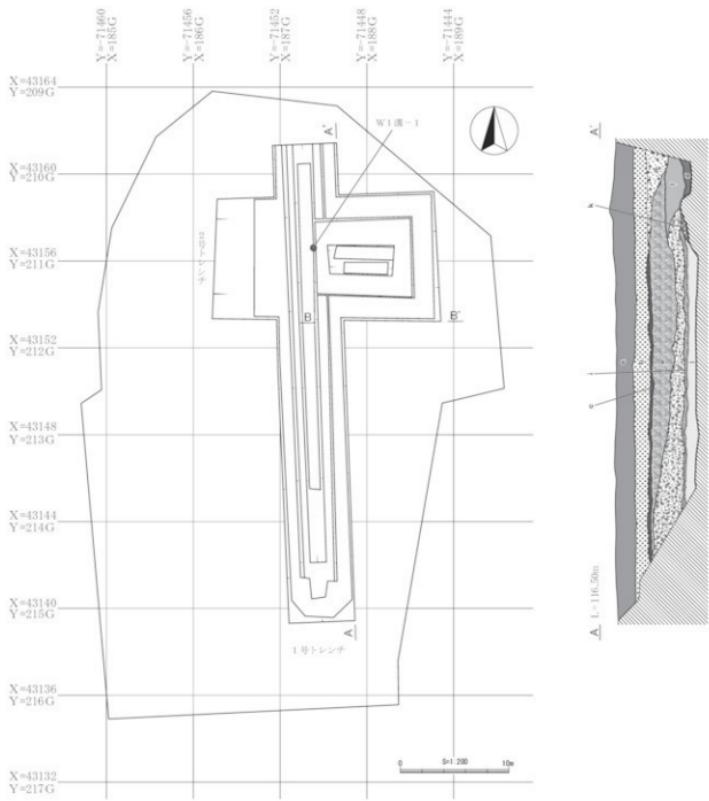
2 トレンチ

1号トレンチ (遺構: Fig. 72, P.L. 26・27 / 遺物: Fig. 74, Tab. 24, P.L. 27)

位置: X : 186・187、Y : 209 ~ 215 グリッド。トレンチ概要: 幅 3.00 m、長さ 22.00 m のトレンチを南北方向に設定。遺構底面までの深さが 3 m 以上になったため、安全帯を 2 段設けて掘り下げを行った。このため、底面の検出範囲は、幅 0.60 m、長さ 15.00 m となっている。確認遺構: 蒼海城新段階における本丸と二の丸の西を南北方向に走行する堀底を確認し、W-1 号溝と名称を付した。縄張り図によると本堀の西側には『松井屋敷』と呼称される郭が存在するものと想定される。断面の状態: W-1 号溝の堀底まで検出し、現地表面からの深さは 3.88 m を測る。断面で確認された土層は全て W-1 号溝の埋没土と考えられる。トレンチ北側の堀底では瘤状に底面が上がる部分が見られるが詳細は不明である。出土遺物: 埋没土中から板碑の破片、下位から塗装りの木器柄が出土している。このほか、板状の木片が出土しているが、自然木であるか材として使用されたものかは不明である。検出遺構の時期: 15 世紀後半 ~ 17 世紀前半と想定される。

2号トレンチ (遺構: Fig. 72・73, P.L. 27)

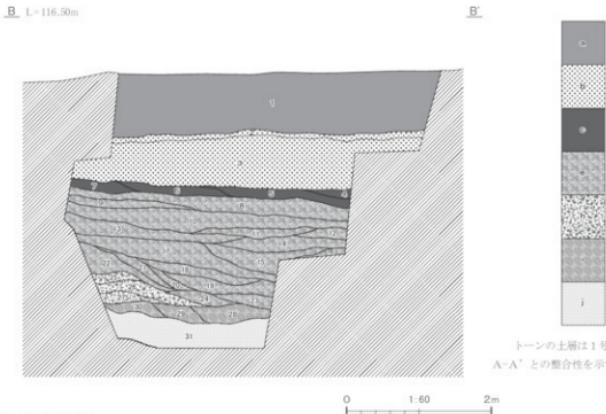
位置: X : 186 ~ 188、Y : 210・211 グリッド。トレンチ概要: 幅 6.00 m、長さ 10.00 m のトレンチを東西方向に設定。遺構底面までの深さが 3 m 以上になったため、安全帯を 3 段設けて掘り下げを行った。このため、底面の検出範囲は、幅 0.50 m、長さ 2.00 m となっている。確認遺構: 蒼海城新段階における本丸と二の丸の間を東西方向に走行する堀底を確認し、W-1 号溝と名称を付した。なお、本溝は 24 地点 W-1 号溝と同一の堀と考えられる。断面の状態: W-1 号溝の堀底まで検出し、現地表面からの深さは 3.96 m を測る。断面で確認された土層は全て W-1 号溝の埋没土と考えられる。出土遺物: 遺物の出土は見られない。検出遺構の時期: 15 世紀後半 ~ 17 世紀前半と想定される。



1号トレンチ土層説明

- a. 基礎土：真土層。中位より上は近年埋められた土。しまりあり。粘性ややあり。
- b. 灰色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- c. 灰色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- d. 灰色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～2.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～2.0cm中量。炭化根微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- e. 灰色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～1.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- f. 基礎土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～100.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～2.0cm中量。黑色粘土質ブロック φ 0.5～2.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- g. 青灰土土：A x - Y P φ 0.2 cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。ノロ状の土。
- h. 雜褐色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～30.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～30.0cm・黒色粘土質ブロック φ 0.5～6.0 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為的埋没。
- i. 雜褐色土：総社砂層ブロック（黄）φ 0.5～3.0cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～3.0cm・黒色粘土質ブロック φ 0.5～3.0 cm少量含む。しまりあり。粘性やや。ノロ状の土。
- j. 青灰土土：A x - Y P φ 0.2 cm・総社砂層ブロック（白）φ 0.5～1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性やや。ノロ状の土。
- k. 暗褐色土：A x - Y P φ 0.2 cm中量。総社砂層ブロック（白）φ 0.5～2.0 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

Fig. 72 25・26 地点全体図、1号トレンチ断面図



2号トレンチ土層説明

1. 布拘色土：土層。
2. 灰色土：粉分・粘土鉱物ブロック（黒）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 灰色土：粘土鉱物ブロック（黒）φ 0.5cm・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
4. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5～1.0cm・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5～1.0cm多量。黑色粘土質ブロック（黒）φ 0.5cm～1.0cm多量。粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
6. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5～1.0cm多量。黑色粘土質ブロック（黒）φ 0.5cm黑色粘土質ブロックφ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
7. 灰色土：粘土鉱物ブロック（黒）φ 0.5cm・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
8. 灰色土：褐色化・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5～1.0cm少量。粘土鉱物ブロック（黒）φ 0.5cm・黑色粘土質ブロックφ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
9. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量。しまりあり。粘性やぐら。
10. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
11. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm黑色粘土質ブロック（黒）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
12. 灰色土：褐色化・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
13. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
14. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm・粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm～1.0cm中量。黑色粘土質ブロックφ 0.5～2.0cm少量含む。しまりあり。粘性やぐら。
15. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
16. 灰色土：粘土鉱物ブロック（白）φ 0.5cm・褐色化・黑色粘土質ブロック

トーンの上層は 1号トレンチ
A-A' との整合性を示すものである。

Fig. 73 2号トレンチ断面図

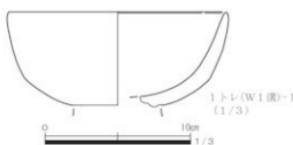


Fig. 74 25-26地点出土遺物

Tab. 24 25・26地点出土遺物観察表

1号トレンチ (W-1号溝)

番号	種類	法量 (cm)	残存
1	木製品 柄	口径(15.0) 底径 一 器高 一	口縁部・体部1/4
成・整形技法の特徴			
内・外面に微削付。			

内・外面に微削付。

写 真 図 版

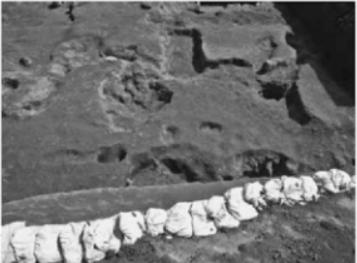


遺跡遠景（南西から）

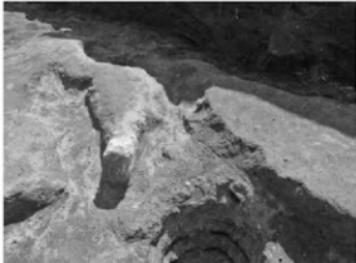


遺跡全景（上が西）

P L. 2



H-1号住居跡全景（西から）



H-1号住居跡新・旧カマド全景（北西から）



H-2号住居跡全景（南西から）



H-2号住居跡カマド全景（南西から）



H-3号住居跡全景（西から）



H-5・6号住居跡全景（西から）



H-5号住居跡カマド全景（北西から）



H-6号住居跡カマド全景（北西から）



H-7号住居跡全景（南から）



H-7号住居跡遺物出土状態近景（西から）



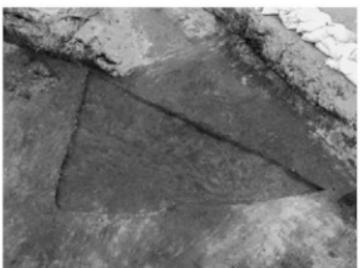
H-8号住居跡全景（南東から）



H-8号住居跡遺物出土状態近景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-13号住居跡全景（南西から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡カマド全景（西から）

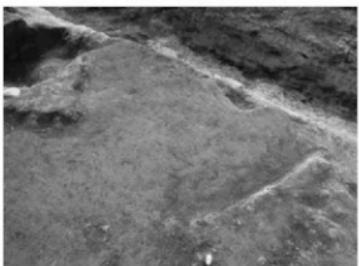
P L. 4



H-12号住居跡全景（南西から）



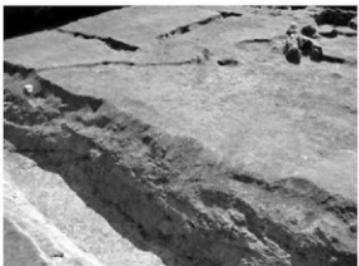
H-12号住居跡カマド全景（南西から）



H-14号住居跡全景（北西から）



H-17号住居跡全景（西から）



H-15号住居跡全景（北西から）



H-15号住居跡カマド全景（北西から）



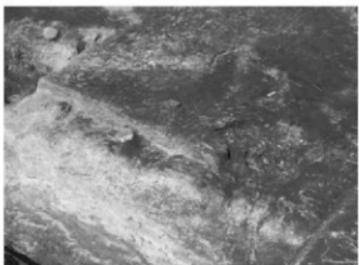
H-16号住居跡全景（南西から）



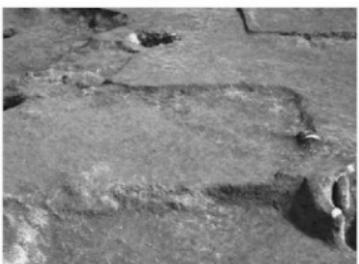
H-16号住居跡カマド全景（南西から）



H-18号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（南東から）



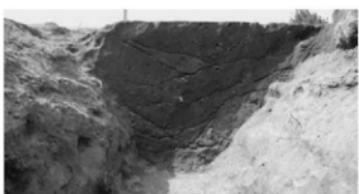
H-20号住居跡全景（南西から）



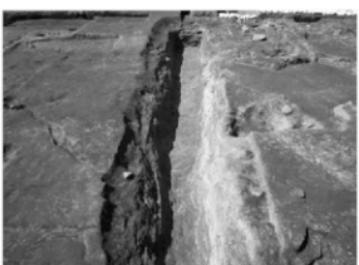
W-1号溝土層断面（南西から）



W-1号溝遺物出土状態（南西から）



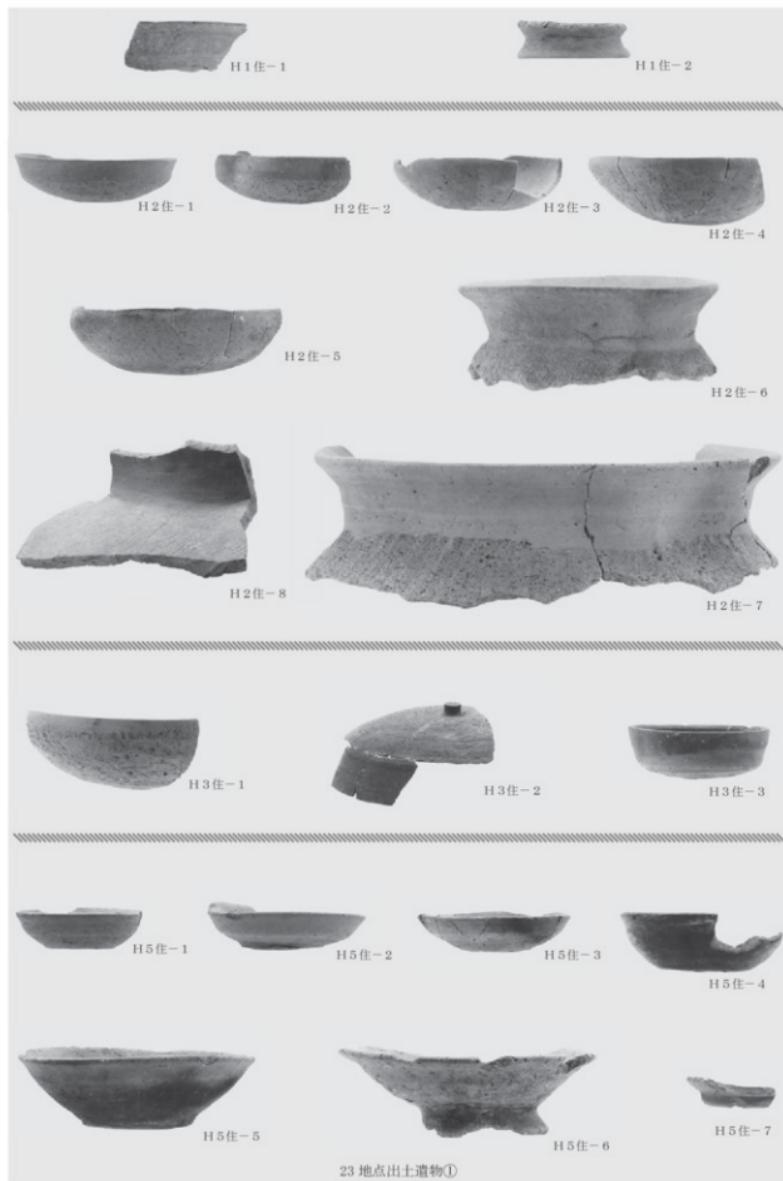
W-2号溝土層断面（東から）



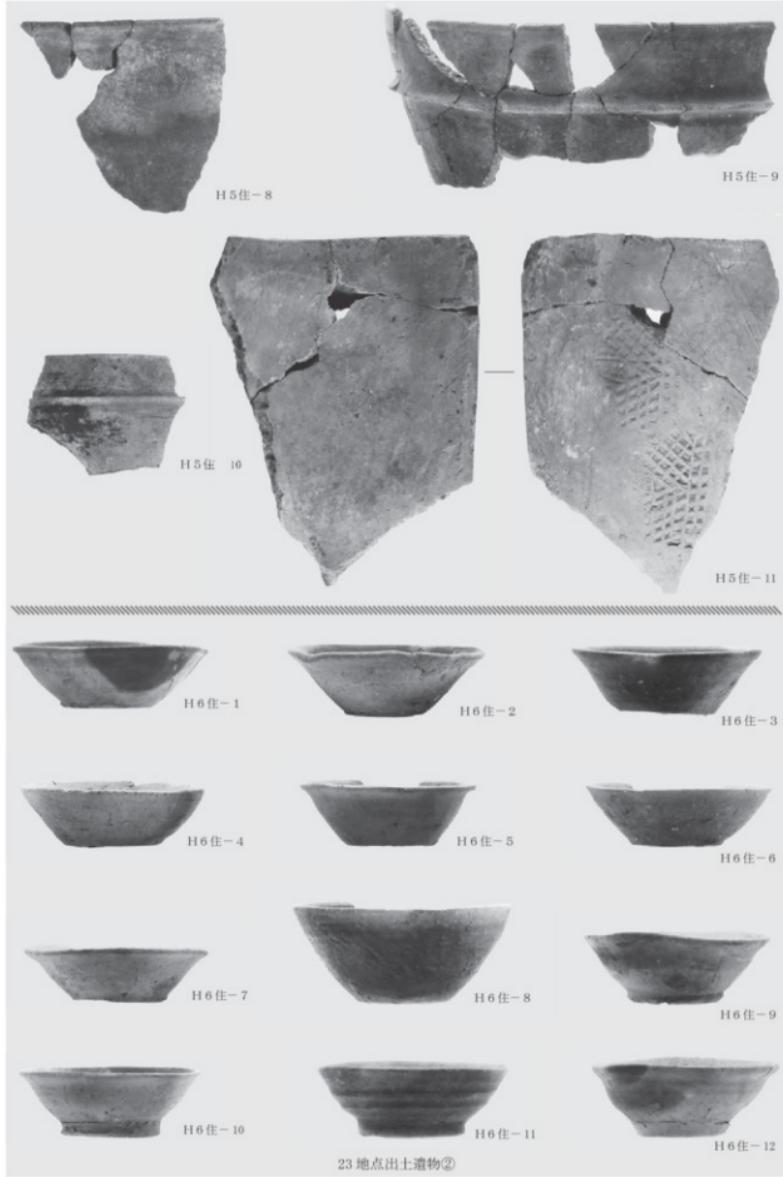
W-2号溝全景（東から）

W-2号溝
検出状態
(西から)

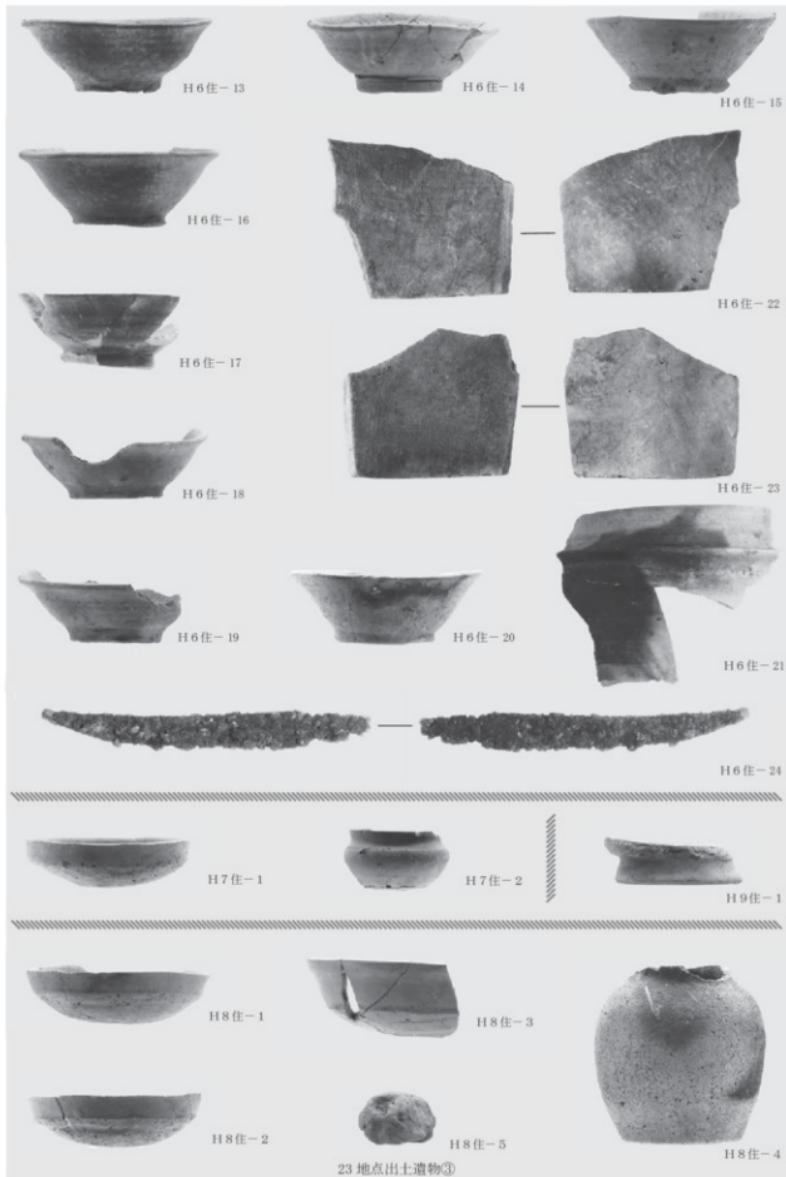
P L. 6

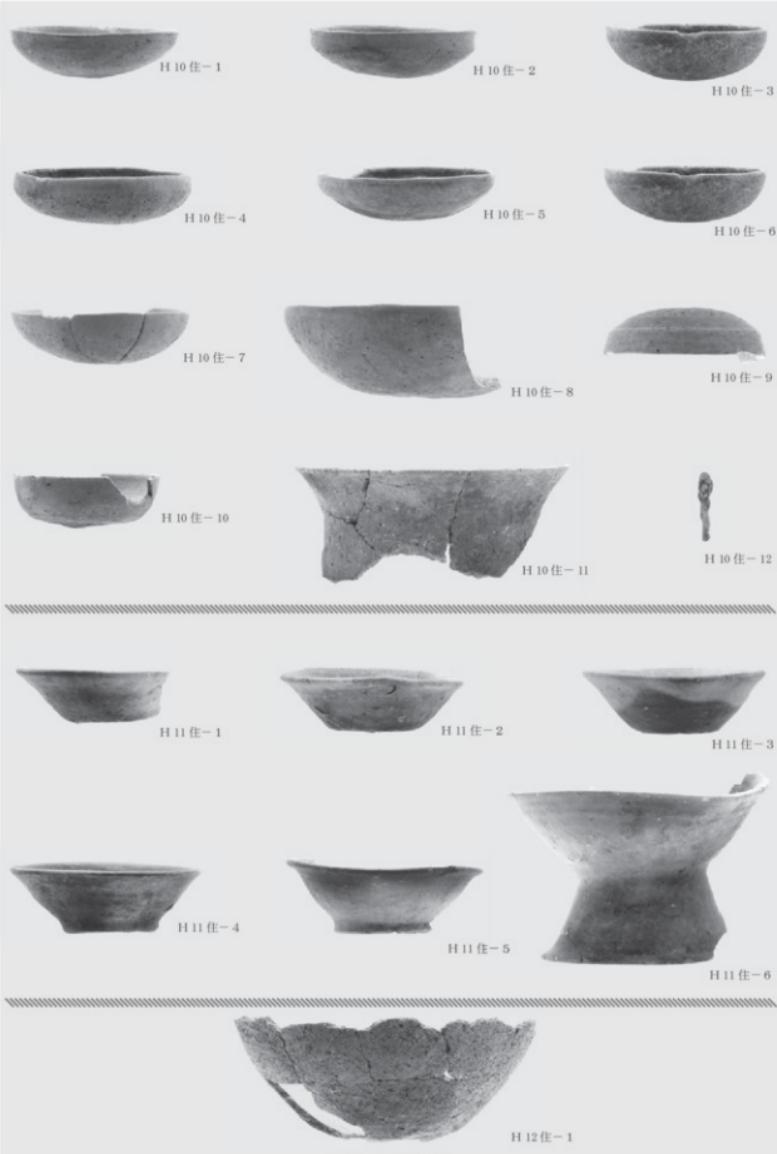


23 地点出土遗物①



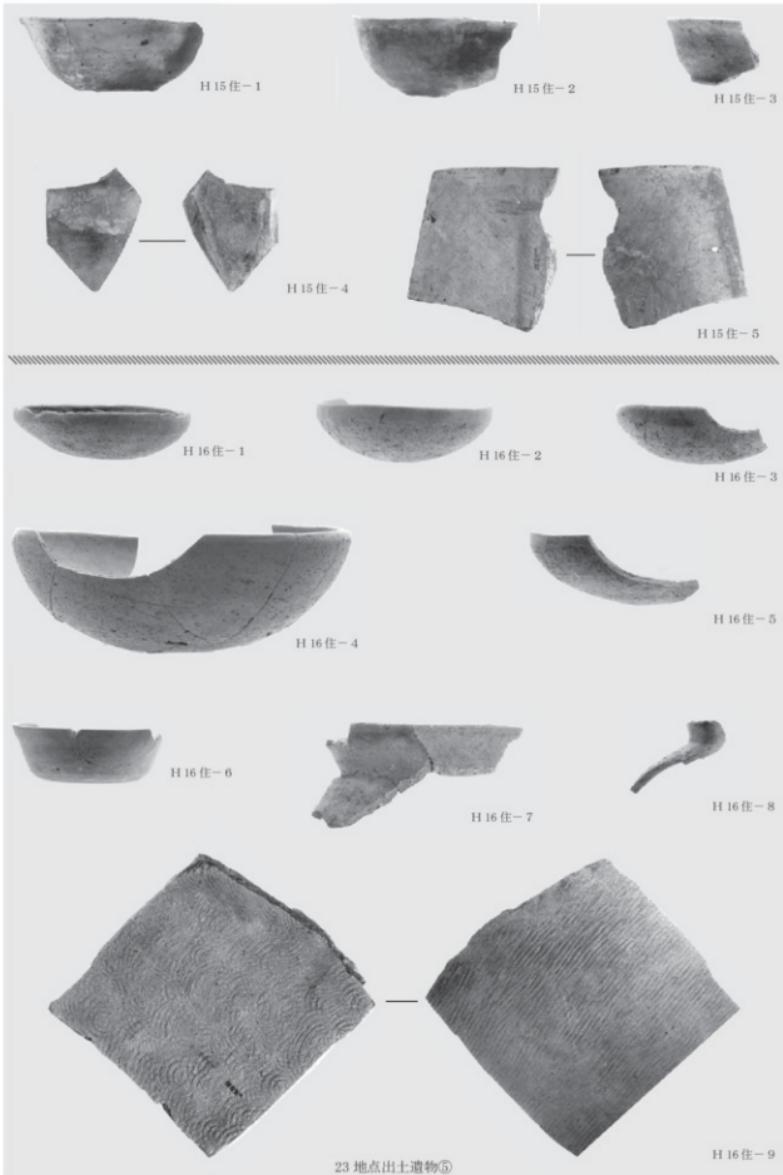
P L. 8

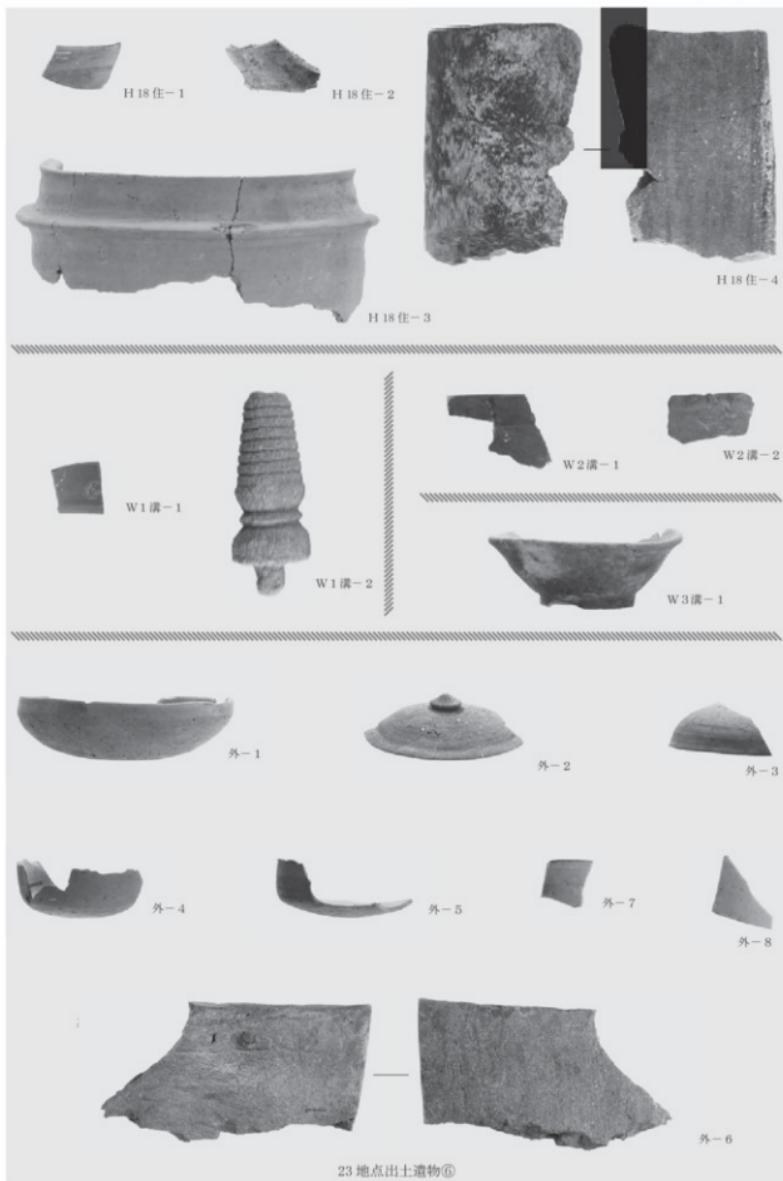




23 地点出土遗物④

P L. 10







遺跡遠景（南西から）



遺跡全景（上が北）



遺跡全景 (南東から)



S X - 1 号性格不明遺構全景 (南東から)



S X - 1 号性格不明遺構縁石陶器出土状態近景 (東から)



W - 4・6 号溝全景 (南から)



W - 4 号溝遺物出土状態 (西から)



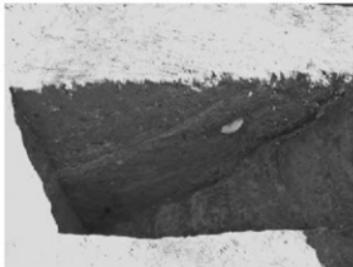
W-1・2号溝土層断面（東から）



W-1号溝・D-2号土坑土層断面（西西北から）



W-1号溝土層断面（西から）



W-1号溝土層断面（西から）



W-5号溝全貌（東から）



W-5号溝全景 (東から)



W-5号溝検出状態 (東から)



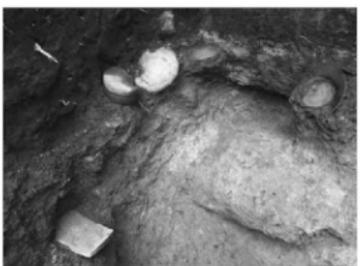
W-5号溝遺物出土状態 (南東から)



W-5号溝遺物出土状態 (南東から)



W-5号溝遺物出土状態 (南東から)



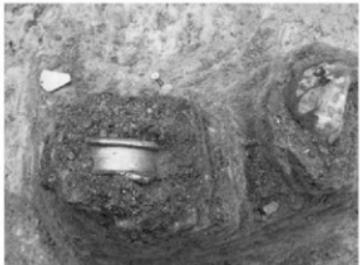
W-5号溝遺物出土状態 (南東から)



W-5号溝遺物出土状態 (南東から)



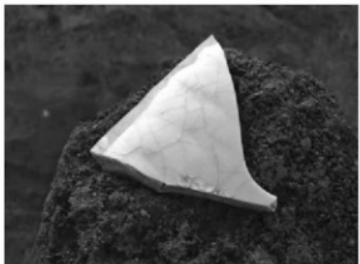
W-5号溝土壁片 (焼土化) 出土状態近景 (東から)



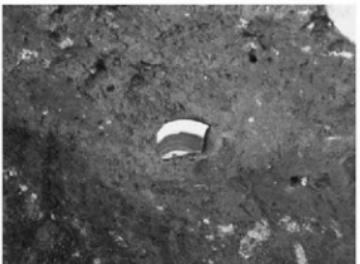
W-5号溝古漸戸茶壺出土状態近景（東から）



W-5号溝白磁出土状態近景（北から）



W-5号溝青磁出土状態近景（北から）



W-5号溝白磁出土状態近景（南から）



W-5号溝描鉢出土状態近景（北西から）



W-5号溝・D-7号土坑上層断面（西から）



W-5号溝・D-8号土坑土層断面（南西から）



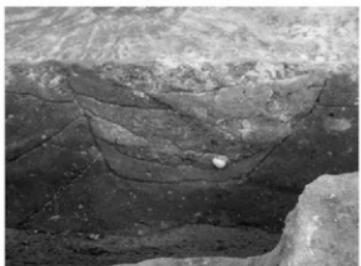
W-5号溝・D-26号土坑土層断面（南西から）



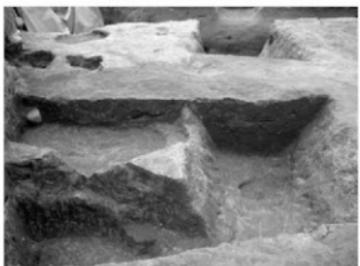
W-6号溝全景 (南から)



W-6号溝工具痕確認状態 (西から)



W-6号溝土層断面 (南から)



W-6号溝土層断面 (北から)



D-7号土坑全景 (南西から)



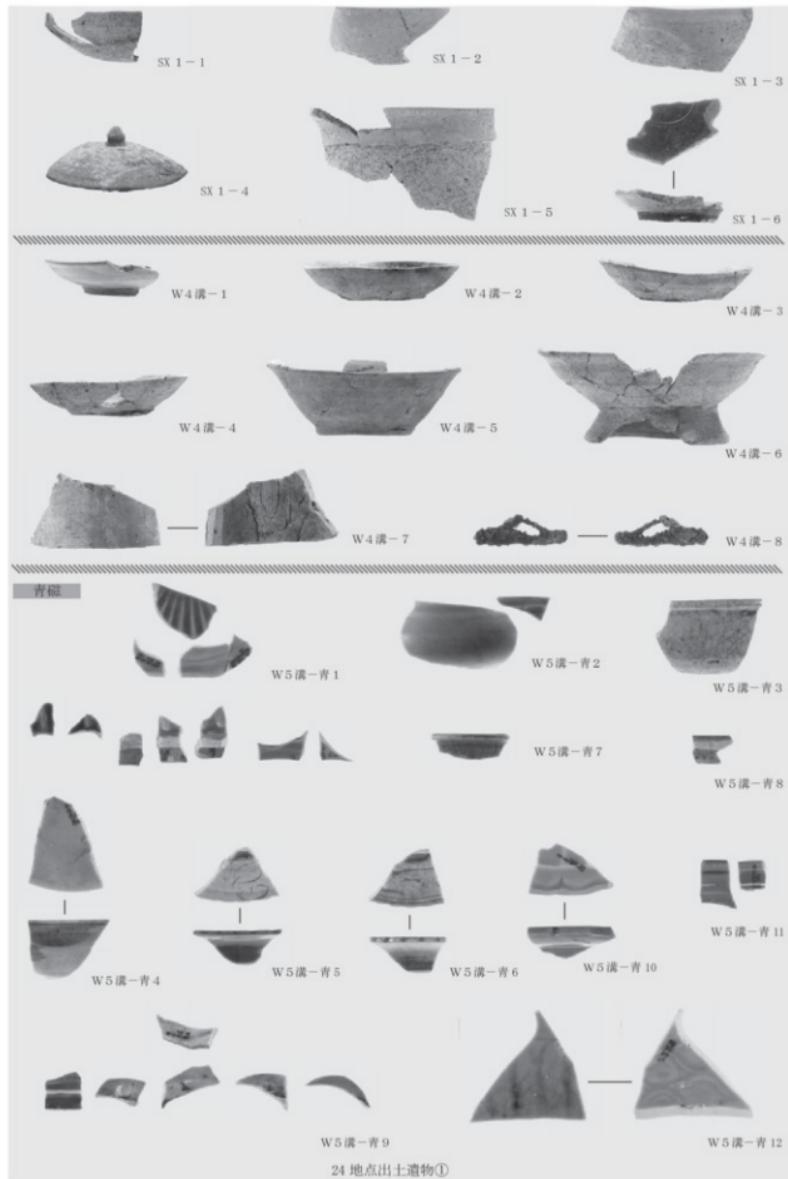
D-8号土坑全景 (東から)



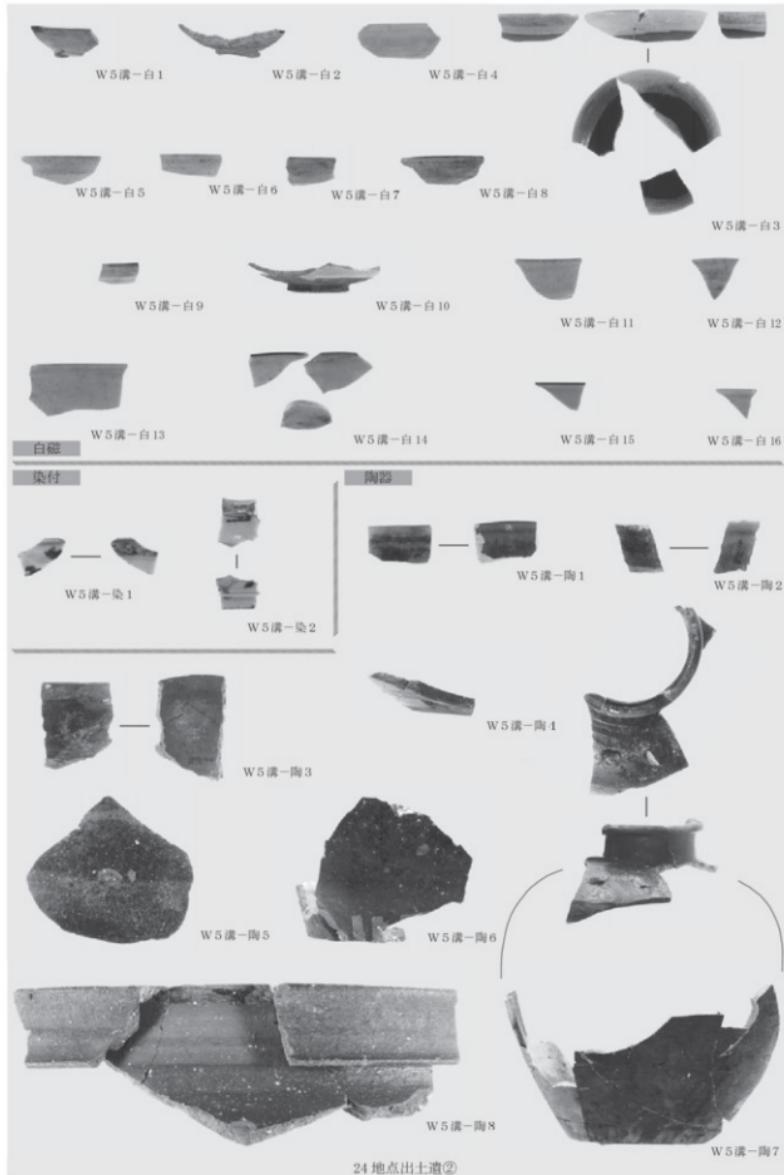
D-8号土坑全景 (北から)



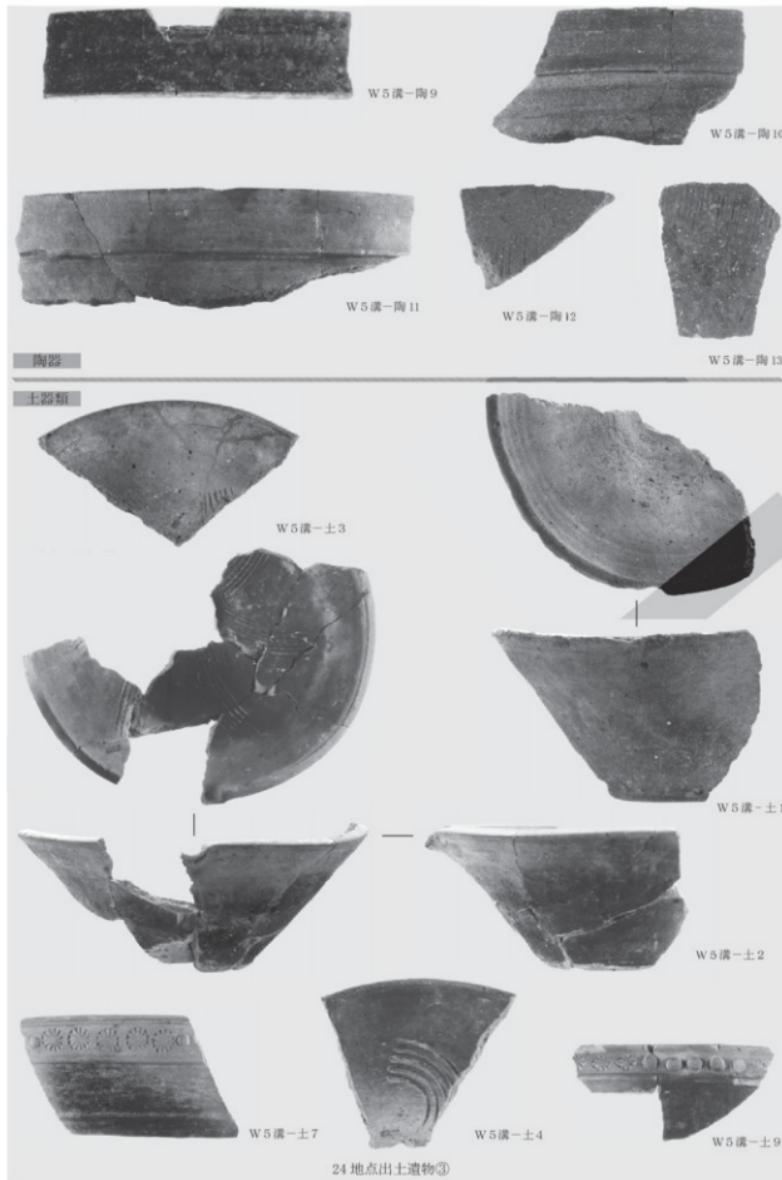
D-8号土坑下位土層断面 (東から)



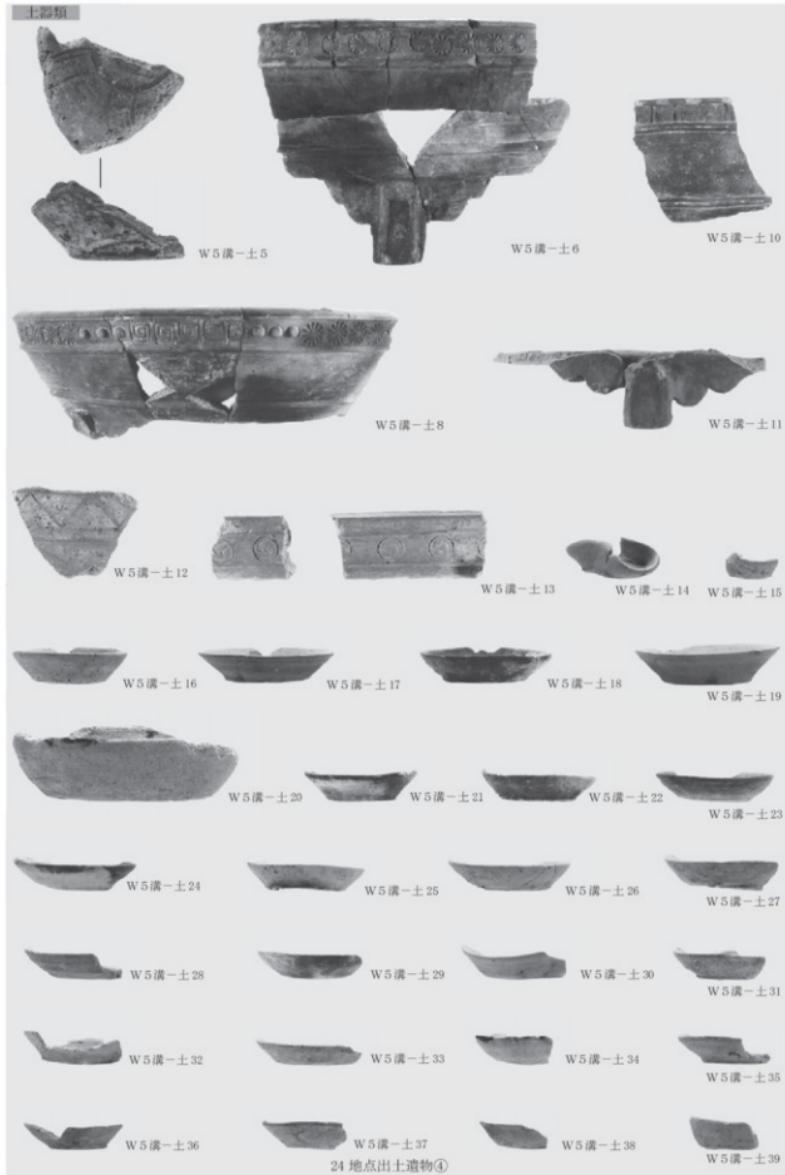
24 地点出土遗物①



24 地点出土遺②

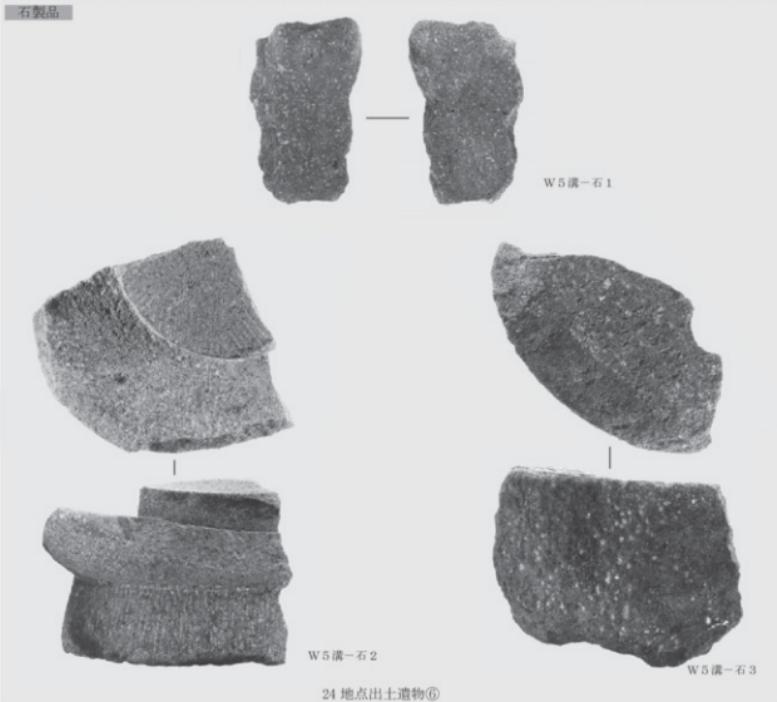
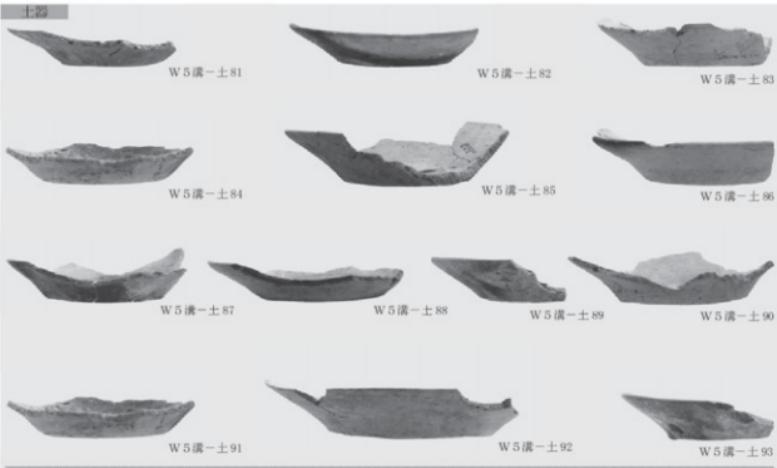


24 地点出土遗物③

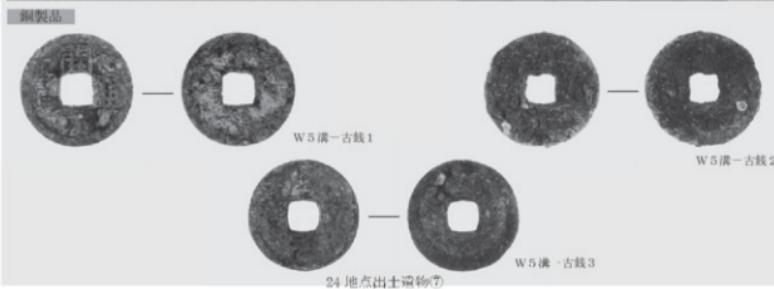


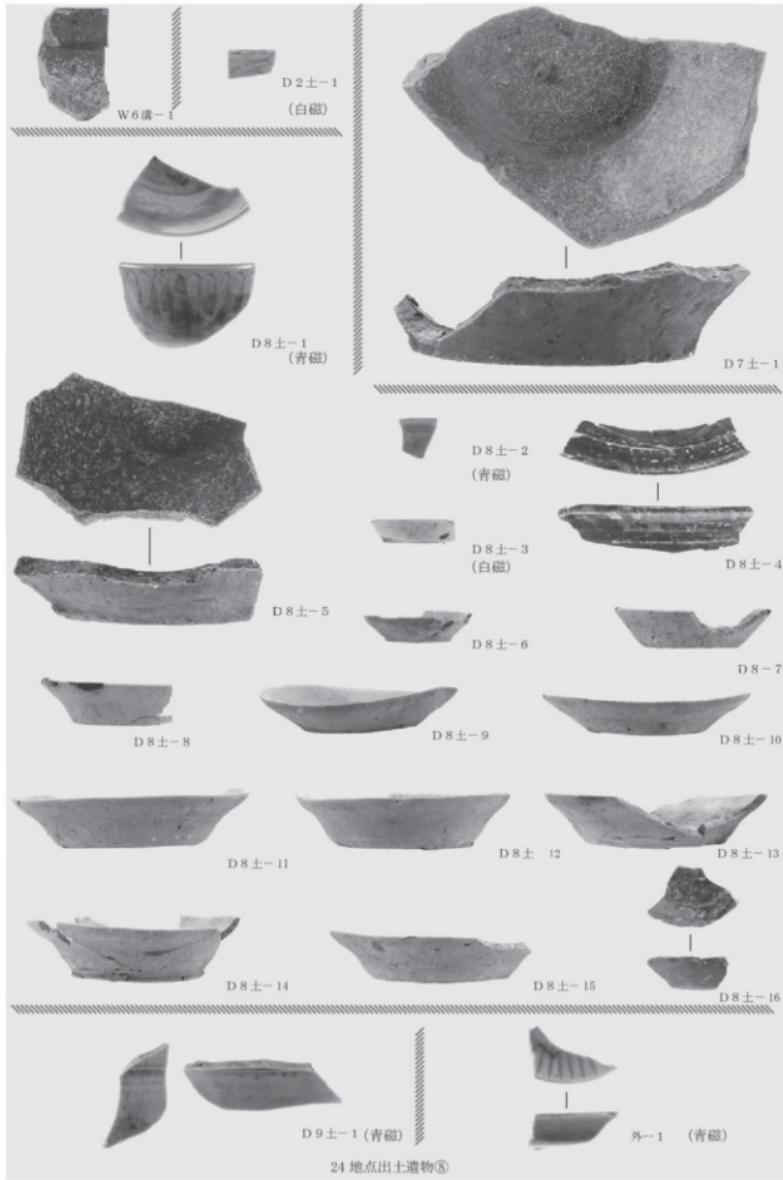


24 地点出土遺物⑤



24 地点出土遺物⑥







1号トレンチ（W-1号溝）全景（南から）



1号トレンチ（W-1号溝）土層断面（南西から）



1号トレンチ遺物（木器）出土状態（南から）



1号トレンチ遺物（木器）出土状態近景（南から）



1号トレンチ遺物（木材）出土状態（南から）



1号トレンチ遺物（木材）出土状態近景（南から）



1号トレンチ（W-1号溝）全景（南から）



2号トレンチ（W-1号溝）全景（西から）



2号トレンチ（W-1号溝）土層断面（北から）



2号トレンチ（W-1号溝）土層断面（北西から）



調査風景（北から）

W1-1
1号トレンチ（W-1号溝）出土遺物

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン 23
書名	元総社蒼海遺跡群 (23)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	山下歳信・和久拓照・日沖剛史
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒 371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2 Tel 027-231-9531
発行年月日	西暦 2009 年 3 月 12 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(日本測地系)				
元総社蒼海 遺跡群 (23)	群馬県前橋市元総 社町 1833 番 1 号、 1922 番ほか 4 筆	10201	20 A 130-23	36° 23'	139° 02'	2008.11.04 ~ 2009.01.20	1,313	前橋都市計画元 総社蒼海地区区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (23)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	20 軒	土師器 蒼海域の改修
	上野国府閨連遺構	奈良	性格不明遺構	1 基	須恵器 前後の堀を確認
	蒼海城跡	平安	土坑 35		灰釉陶器
		中世	(内、井戸 7 基、倒木 1 基) 溝	瓦 14 条	瓦 鐵製品
			ピット	101 基	銅製品 陶磁器 カワラケ

元総社蒼海遺跡群（23）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成21年3月6日印刷

平成21年3月12日発行

編 集／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

発 行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目 10- 2

Tel 027-231-9531

印 刷／朝日印刷工業株式会社
